

和知支所耐震改修工事

図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称	図番	図面名称
	建築図		構造図		電気設備図		機械設備図
A01	表紙・図面リスト	S01	既存建物耐震改修工事仕様書(1)	E01	電気設備工事特記仕様書 No. 1	M01	機械設備工事特記仕様書 No. 1
A02	建築改修工事特記仕様書 1	S02	既存建物耐震改修工事仕様書(2)	E02	電気設備工事特記仕様書 No. 2	M02	機械設備工事特記仕様書 No. 2
A03	建築改修工事特記仕様書 2	S03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	E03	照明・コンセント設備 1階平面図<改修>	M03	衛生器具リスト
A04	建築改修工事特記仕様書 3	S04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	E04	照明・コンセント設備 1階平面図<撤去>	M04	改修後平面詳細図
A05	建築改修工事特記仕様書 4	S05	鉄骨工作標準図(1)	E05	照明・コンセント設備 2階平面図<改修>	M05	改修前平面詳細図
A06	建築改修工事特記仕様書 5	S06	鉄骨工作標準図(2)	E06	照明・コンセント設備 2階平面図<撤去>	M06	空調2階天井伏図
A07	建築改修工事特記仕様書 6	S07	伏図(1)	E07	防災設備 2階平面図<改修>		
A08	建築改修工事特記仕様書 7	S08	伏図(2)	E08	防災設備 2階平面図<撤去>		
A09	建築改修工事特記仕様書 8	S09	軸組図(1)	E09	構内情報通信網設備(アナログ) 屋上階平面図<撤去>		
A10	建築改修工事特記仕様書 9	S10	軸組図(2)	E10	構内情報通信網設備(アナログ) 立面図<撤去>		
A11	工事区分表	S11	軸組図(3)	E11	構内情報通信網設備(アナログ) 系統図<撤去>		
A12	附近見取図・配置図	S12	軸組図(4)	E12	構内情報通信網設備(デジタル) 2階平面図<改修・撤去>		
A13	改修前後 B1・1階平面図	S13	軸組図(5)	E13	構内情報通信網設備(デジタル) 屋上階平面図<改修・撤去>		
A14	改修前後 中2階・2階平面図	S14	耐震補強詳細図	E14	構内情報通信網設備(デジタル) 屋上階立面図<改修・撤去>		
A15	改修前後 屋根伏図			E15	雷保護設備 配置図<改修・撤去>		
A16	改修前後 立面図			E16	雷保護設備 立面図<改修・撤去>		
A17	改修前後 断面図			E17	構内情報通信網設備(デジタル)・雷保護設備 ステップ図(1)<改修・撤去>		
A18	矩計図 1			E18	構内情報通信網設備(デジタル)・雷保護設備 ステップ図(2)<改修・撤去>		
A19	矩計図 2						
A20	矩計図 3						
A21	平面詳細図・展開図 1						
A22	平面詳細図・展開図 2						
A23	平面詳細図・展開図 3						
A24	平面詳細図・展開図 4						
A25	1階天井伏図						
A26	2階天井伏図						
A27	現況2階天井鉄骨下地図(参考図)						
A28	部分詳細図						
A29	仮設計画図 1(参考図)						
A30	仮設計画図 2(参考図)						
A31	仮設計画図 3(参考図)						
A32	概略工程表(参考図)						

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																				
(2) 土・鉄筋・コンクリート工事 (9) 混和材料 (6.3.1) (10) 構造体強度補正值 (6.3.2) (11) コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5) 12 軽量コンクリート (6.10.1) 13 寒中コンクリート (14) 暑中コンクリート (6.12.2) (15) コンクリート車への過積載防止対策等	⑦セメントの類別 (6.3.1) ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA ○高炉セメントのB種 (適用箇所 _____) ○シリカセメント ○フライアッシュセメントのB種 (施工箇所 _____) ⑧骨材 (6.3.1) 粗骨材 ※砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○再生骨材H 細骨材 ※砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○高炉スラグ ○電気炉酸化スラグ ○鋼スラグ ○フェロニッケルスラグ ○再生骨材H アルカリシリカ反応性による区分 ※A (無害) ○ _____ ⑨混和剤 (6.3.1) 混和剤 ※AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A 6204) 防錆剤 ※鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) 混和材 ※フライアッシュ (JIS A 6201) I種、II種若しくはIV種 ○コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○コンクリート用シリカフェューム (JIS A 6207) ○コンクリート用膨張材 (JIS A 6202) ○ 3N/mm ² (表6.3.2) ※気温による構造体強度補正值 (S) <table border="1"> <tr> <th>予想平均気温 (°C)</th> <th>補正值 (S)</th> <th colspan="3">期 間 (打 設 日)</th> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>早強</td> <td></td> <td>南部地域</td> <td>中部地域</td> <td>北部地域</td> </tr> <tr> <td>8以上</td> <td>5以上</td> <td>3</td> <td>3/6 ~ 6/30</td> <td>3/11 ~ 7/20</td> <td>3/11 ~ 7/10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>N/mm²</td> <td>9/11 ~ 11/15</td> <td>9/1 ~ 11/5</td> <td>9/1 ~ 10/31</td> </tr> <tr> <td>0以上</td> <td>0以上</td> <td>6</td> <td>11/16 ~ 3/5</td> <td>11/ 6 ~ 3/10</td> <td>11/ 1 ~ 3/10</td> </tr> <tr> <td>8未満</td> <td>5未満</td> <td>N/mm²</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 南部地域 (京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町含む) (11) コンクリートの試験 (6.9.2) ~ (6.9.5) ※フレッシュコンクリートの試験 ○省略する 12 軽量コンクリート (6.10.1) 常時土又は水に直接接する部分の使用 ○可 ○不可 種別 ○1種 ※2種 施工箇所 _____ 気乾単位容積質量 _____ t/m ³ 13 寒中コンクリート ※予想平均気温が表6.3.2に示す予想平均気温未満の場合には標仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。 (14) 暑中コンクリート (6.12.2) ※暑中における構造体強度補正值 (S) <table border="1"> <tr> <th>地 域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間 (打設日)</th> <th>補 正 値</th> </tr> <tr> <td>北 部 地 域</td> <td>7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日</td> <td rowspan="2">※ 6 N/mm² ○ 3 N/mm²</td> </tr> <tr> <td>中 部 地 域</td> <td>7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日</td> </tr> <tr> <td>南 部 地 域</td> <td>7 月 1 日 ~ 9 月 1 0 日</td> <td></td> </tr> </table> (15) コンクリート車への過積載防止対策等 受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサー車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。	予想平均気温 (°C)	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)			普通	早強		南部地域	中部地域	北部地域	8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10			N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31	0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10	8未満	5未満	N/mm ²				地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値	北 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日	※ 6 N/mm ² ○ 3 N/mm ²	中 部 地 域	7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日	南 部 地 域	7 月 1 日 ~ 9 月 1 0 日		3 防水改修工事 (2) 改質アスファルトシート防水 (3.4.2) ~ (3.4.4)	3 防水改修工事 (4) 塗膜防水 (3.6.2) ~ (3.6.3) 5 漏水試験 (6) 保証書 7 施工標識 8 シーリング (3.7.2) ~ (3.7.8)	9 とい(雨水) (3.8.2) (3.8.3)	3 防水改修工事 10 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (3.9.3) 4 外壁改修工事 1 施工数量調査 (1.5.2) 2 ひび割れ部改修 (4.1.4) (4.2.2)	(表3.9.1) 考 <table border="1"> <tr> <th>種 類</th> <th>板厚(mm)</th> <th>表面 処 理</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td>○250形</td> <td>1.6</td> <td>○A-1種(無着色)</td> <td rowspan="5">隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。</td> </tr> <tr> <td>○300形</td> <td>1.8</td> <td>○A-2種(着色)</td> </tr> <tr> <td>○350形</td> <td>2.0</td> <td>○B-1種(無着色)</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○B-2種(着色)</td> </tr> <tr> <td>○曲げ材</td> <td>※2.0</td> <td></td> </tr> </table> 既存笠木等の撤去 ○行う (範囲 ○図示 ○) ○行わない 下地補修の工法 ※図示 ○ 板材折曲げ形の笠木取付方法 ※図示 ○ 建築基準法に基づき定まる風圧力・積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法等 ※図示による ○ _____	種 類	板厚(mm)	表面 処 理	備 考	○250形	1.6	○A-1種(無着色)	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。	○300形	1.8	○A-2種(着色)	○350形	2.0	○B-1種(無着色)	○		○B-2種(着色)	○曲げ材	※2.0		調査範囲 ○外壁改修範囲 ○図示の範囲 調査内容 ひび割れの幅及び長さ等を壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を確認する。 モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。 コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また既存塗膜と新規塗材との適合性を確認する。 既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ○図示 ○ 調査報告書の部数 ○2部 ○ ※施工に先立ち、建築士上診断技術者 (BELCA) による外壁劣化状況調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○コンクリート打直し仕上げ ○樹脂注入方法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧球*樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○手動式球*樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○機械式球*樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> エポキシ樹脂 ○低粘土形 ○中粘土形 コア抜き検査 ○行う ○行わない 抜き取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜き取り部の補修方法 ○図示 ○ ○Uカットシール材充填方法 ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○行う ○行わない ○可とう性エポキシ樹脂 ○シール工法 ○パテ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂 ○モルタル塗り仕上げ ○樹脂注入方法 <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式低圧球*樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○手動式球*樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td>○機械式球*樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250</td> <td>○130</td> </tr> </table> エポキシ樹脂 ○低粘土形 ○中粘土形 コア抜き検査 ○行う ○行わない 抜き取り個数 ※長さ500mごと及びその端数につき1個 ○ 抜き取り部の補修方法 ○図示 ○ ○Uカットシール材充填方法 ○シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○行う ○行わない ○可とう性エポキシ樹脂 ○シール工法 ○パテ状エポキシ樹脂 ○可とう性エポキシ樹脂	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧球*樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○手動式球*樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○機械式球*樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧球*樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130	○手動式球*樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40	○機械式球*樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70		0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																										
	予想平均気温 (°C)	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)																																																																																																																																																																																								
	普通	早強		南部地域	中部地域	北部地域																																																																																																																																																																																					
	8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/30	3/11 ~ 7/20	3/11 ~ 7/10																																																																																																																																																																																					
			N/mm ²	9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	9/1 ~ 10/31																																																																																																																																																																																					
	0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	11/ 1 ~ 3/10																																																																																																																																																																																					
	8未満	5未満	N/mm ²																																																																																																																																																																																								
	地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値																																																																																																																																																																																								
	北 部 地 域	7 月 1 1 日 ~ 8 月 3 1 日	※ 6 N/mm ² ○ 3 N/mm ²																																																																																																																																																																																								
	中 部 地 域	7 月 2 1 日 ~ 8 月 3 1 日																																																																																																																																																																																									
	南 部 地 域	7 月 1 日 ~ 9 月 1 0 日																																																																																																																																																																																									
	種 類	板厚(mm)	表面 処 理	備 考																																																																																																																																																																																							
	○250形	1.6	○A-1種(無着色)	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製所造の仕様による。																																																																																																																																																																																							
	○300形	1.8	○A-2種(着色)																																																																																																																																																																																								
○350形	2.0	○B-1種(無着色)																																																																																																																																																																																									
○		○B-2種(着色)																																																																																																																																																																																									
○曲げ材	※2.0																																																																																																																																																																																										
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																								
※自動式低圧球*樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																																																																																																																																								
○手動式球*樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																																																																																																																																								
○機械式球*樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																																																																																																																																								
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																																																																																																																																								
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																								
※自動式低圧球*樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	○130																																																																																																																																																																																								
○手動式球*樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100	○40																																																																																																																																																																																								
○機械式球*樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200	○70																																																																																																																																																																																								
	0.5以上1.0未満	○150~250	○130																																																																																																																																																																																								
3 防水改修工事	1 アスファルト防水 (3.3.2) ~ (3.3.5) ○保護防水工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○P1B 工法</td> <td>○B-1 ※B-2 ○B-3</td> <td>表3.3.3</td> </tr> <tr> <td>○P1BI 工法</td> <td>○BI-1 ※BI-2</td> <td>表3.3.4</td> </tr> <tr> <td>○T1BI 工法</td> <td>○BI-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P2AI 工法</td> <td>○AI-1 ※AI-2 ○AI-3</td> <td>表3.3.5</td> </tr> <tr> <td>○P2A 工法</td> <td>○A-1 ※A-2 ○A-3</td> <td>表3.3.6</td> </tr> </table> ○露出防水工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>○M4C 工法</td> <td>○C-1 ※C-2 ○C-3 ○C-4</td> <td>表3.3.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○M3D 工法</td> <td>○D-1 ※D-2</td> <td>表3.3.8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P0D 工法</td> <td>○D-3 ○D-4</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>○P0DI 工法</td> <td>○DI-1 ※DI-2</td> <td>表3.3.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○M3DI 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○M4DI 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○屋内防水工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○P1E 工法</td> <td>○E-1 ※E-2</td> <td>表3.3.10</td> </tr> <tr> <td>○P2E 工法</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 別	防水層	施 工 箇 所	○P1B 工法	○B-1 ※B-2 ○B-3	表3.3.3	○P1BI 工法	○BI-1 ※BI-2	表3.3.4	○T1BI 工法	○BI-3		○P2AI 工法	○AI-1 ※AI-2 ○AI-3	表3.3.5	○P2A 工法	○A-1 ※A-2 ○A-3	表3.3.6	種 別	防水層	施 工 箇 所	仕上塗料 種類 使用量	○M4C 工法	○C-1 ※C-2 ○C-3 ○C-4	表3.3.7		○M3D 工法	○D-1 ※D-2	表3.3.8		○P0D 工法	○D-3 ○D-4			種 別	防水層	施 工 箇 所	仕上塗料 種類 使用量	○P0DI 工法	○DI-1 ※DI-2	表3.3.9		○M3DI 工法				○M4DI 工法				種 別	防水層	施 工 箇 所	○P1E 工法	○E-1 ※E-2	表3.3.10	○P2E 工法			3 合成高分子系樹脂シート防水 (3.5.2) ~ (3.5.4)	断熱材 (保護防水断熱工法) 厚さ ○ mm 材質 ※JIS A 9521による押出法*リソフォーム断熱材3種b(スラグ付)又はJIS A 9511によるA種押出法*リソフォーム保温材の保温板3種b(スラグあり) (ただし、特定フロンを含まないものとする。) ○ _____ 断熱材 (露出防水断熱工法) 厚さ ○ mm 材質 ※JIS A 9521による硬質ウレタン断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ウレタン保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○ _____ ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示による ○ _____ 絶縁用シート ※ポリエチレンフィルム厚0.15 (保護防水工法) ○ ※フラットヤーンクロス (70g/m程度) (保護防水断熱工法) ○ 押え金物 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0 ○ 立上がり部の保護 ○乾式保護材 ○普通れんが ○化粧れんが ○ _____ 保護層 平場のコンクリート厚さ ○ mm ○こて仕上げ mm ○床タイル張り等仕上げ mm 脱気装置 ○設ける 材 種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 伸縮調整目地 ※成形伸縮目地材 ○ 成形緩衝材 ※R-フィング 類製造所の指定品 ○ 屋上排水溝 ※図示による ●露出防水密着工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>●M4 A S 工法</td> <td>○AS-T1 ○AS-T2 ●AS-J2</td> <td>表3.4.1 屋根3、4</td> <td></td> </tr> </table> ○露出防水絶縁工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>○M3 A S 工法</td> <td>○AS-T3 ○AS-T4</td> <td>表3.4.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P0 A S 工法</td> <td>○AS-J1 ○AS-J3</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>○M3 A S I 工法</td> <td>○AS1-T1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○M4 A S I 工法</td> <td>○AS1-J1</td> <td>表3.4.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P0 A S I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ ○ mm 材質 ※JIS A 9521による硬質ウレタン断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ウレタン保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○ _____ 仕上げ塗料 ●か- ○シム'- 脱気装置 (絶縁工法) ※設ける 材種 (SUS) 設置数量 (1箇所/ 80 m ²) 防湿層 (露出防水絶縁断熱工法) ○設ける ●設けない ●防水メーカーの仕様による ○P0S 工法 ○S(I)-F1 ○S4S 工法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○P0SI 工法 ○S(I)-F2 ○S(I)-M1 ○S4SI 工法 ○S(I)-M2 ○S(I)-M3 ○S3S 工法 ○S(I)-F1 ○S3SI 工法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○S(I)-F2 ○M4S 工法 ○S(I)-M1 ○S(I)-M2 ○M4SI 工法 ○S(I)-M3 ○SC-1 平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ○ mm ○断熱材 (断熱工法) 厚さ mm 材質 ○JIS A 9521 (建築用断熱材) による硬質ウレタン断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○JIS A 9521 (建築用断熱材) による押出法*リソフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b ○JIS A 9511 (発泡*スチック保温材) によるA種硬質ウレタン保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○JIS A 9511 (発泡*スチック保温材) によるA種押出法*リソフォーム保温材の保温板 ○JIS A 9521 (建築用断熱材) による*リソフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの又はJIS A 9511 (発泡*スチック保温材) によるA種*リソフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの ○ _____	種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量	●M4 A S 工法	○AS-T1 ○AS-T2 ●AS-J2	表3.4.1 屋根3、4		種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量	○M3 A S 工法	○AS-T3 ○AS-T4	表3.4.2		○P0 A S 工法	○AS-J1 ○AS-J3			種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量	○M3 A S I 工法	○AS1-T1			○M4 A S I 工法	○AS1-J1	表3.4.3		○P0 A S I 工法				断熱材 (露出防水断熱工法) 厚さ ○ mm 材質 ※JIS A 9521による硬質ウレタン断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ウレタン保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○ _____ 脱気装置 ○設ける 材 種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) 伸縮調整目地 ※成形伸縮目地材 ○ 成形緩衝材 ※R-フィング 類製造所の指定品 ○ 屋上排水溝 ※図示による ●露出防水密着工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>●M4 A S 工法</td> <td>○AS-T1 ○AS-T2 ●AS-J2</td> <td>表3.4.1 屋根3、4</td> <td></td> </tr> </table> ○露出防水絶縁工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>○M3 A S 工法</td> <td>○AS-T3 ○AS-T4</td> <td>表3.4.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P0 A S 工法</td> <td>○AS-J1 ○AS-J3</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ○露出防水絶縁断熱工法 <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施工箇所</th> <th>仕上塗料 種類 使用量</th> </tr> <tr> <td>○M3 A S I 工法</td> <td>○AS1-T1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○M4 A S I 工法</td> <td>○AS1-J1</td> <td>表3.4.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P0 A S I 工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 断熱材 (露出防水絶縁断熱工法) 厚さ ○ mm 材質 ※JIS A 9521による硬質ウレタン断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの又はJIS A 9511によるA種硬質ウレタン保温材の保温板2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○ _____ 仕上げ塗料 ●か- ○シム'- 脱気装置 (絶縁工法) ※設ける 材種 (SUS) 設置数量 (1箇所/ 80 m ²) 防湿層 (露出防水絶縁断熱工法) ○設ける ●設けない ●防水メーカーの仕様による ○P0S 工法 ○S(I)-F1 ○S4S 工法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○P0SI 工法 ○S(I)-F2 ○S(I)-M1 ○S4SI 工法 ○S(I)-M2 ○S(I)-M3 ○S3S 工法 ○S(I)-F1 ○S3SI 工法 PC部材入隅増強 (※有り ○無し) ○S(I)-F2 ○M4S 工法 ○S(I)-M1 ○S(I)-M2 ○M4SI 工法 ○S(I)-M3 ○SC-1 平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ ○ mm ○断熱材 (断熱工法) 厚さ mm 材質 ○JIS A 9521 (建築用断熱材) による硬質ウレタン断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○JIS A 9521 (建築用断熱材) による押出法*リソフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b ○JIS A 9511 (発泡*スチック保温材) によるA種硬質ウレタン保温材の保温板2種1号又は2号で透湿係数を除く規格に適合するもの ○JIS A 9511 (発泡*スチック保温材) によるA種押出法*リソフォーム保温材の保温板 ○JIS A 9521 (建築用断熱材) による*リソフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの又はJIS A 9511 (発泡*スチック保温材) によるA種*リソフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの ○ _____	種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量	●M4 A S 工法	○AS-T1 ○AS-T2 ●AS-J2	表3.4.1 屋根3、4		種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量	○M3 A S 工法	○AS-T3 ○AS-T4	表3.4.2		○P0 A S 工法	○AS-J1 ○AS-J3			種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量	○M3 A S I 工法	○AS1-T1			○M4 A S I 工法	○AS1-J1	表3.4.3		○P0 A S I 工法				防水下地がPコンクリート部材下地及びALC部材下地で種別S-C1の場合の処理 目地処理 ※図示による ○ _____ 入隅部の増張り (S-F1、S1-F1、S-C1の場合) ※図示による ○ _____ 絶縁用シート ※発泡ポリエチレンシート ○ _____ 仕上げ塗料 ○か- ○シム'- 脱気装置 ○設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) ※建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。 固定金具の材質及び寸法形状 ※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板 ○ _____ <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○P0X 工法</td> <td>※X-1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●L4X 工法</td> <td>※X-2</td> <td>表3.6.1 parapet、耐震補強架台</td> </tr> </table> 脱気装置 (X-1) ○設ける 材種 () 設置数量 (1箇所/ m ²) <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>防水層</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○P1Y 工法</td> <td>※Y-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○P2Y 工法</td> <td>○</td> <td>表3.6.2</td> </tr> </table> 保護層 ○設ける ○設けない ※水張り試験を行う (○屋内 ○屋外) ※受注者、防水施工業者、防水材料メーカーの連名による保証書を提出すること。 (保証年限は工事目的物引渡しより10年間以上とする。) 工事完了後に監督職員の指示する位置へ取り付ける。 材質 ※真鍮製エッチング仕上 150×100 ○ _____ 設置数量 () 箇所 シーリング材の種類 ※改修標仕表3.7.11による シーリング改修工法及び施工箇所 <table border="1"> <tr> <th>改 修 工 法 の 種 別</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○シーリング充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○拡幅シーリング再充填工法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ブリッジ工法</td> <td></td> </tr> </table> 目地寸法 コンクリートの打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※幅20mm以上、深さ10mm以上 ○ _____ ガラス回りの目地 ※幅5mm以上、深さ5mm以上 ○ _____ その他の目地 ※幅10mm以上、深さ10mm以上 ○ _____ シーリングの試験 ※簡易接着性試験 (部位 _____) ○引張接着性試験 (部位 _____) ※外とい (外気に接するとい) <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td>ルーフドレン等 ※鋳鉄製 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軒どい ※硬質塩化ビニル製 (角形) ○ (前高) 巾120mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>(カラー) 巾150mm</td> </tr> <tr> <td>たてとい ※硬質塩化ビニル管 (VP) ○ (カラー) 径 75mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷どい ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>とい受け金物 ※垂鉛めっき鋼板 ○</td> <td></td> </tr> </table> ○内とい (VP管は使用しない) <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td>たてとい及び横走り管 ※SGP ○</td> <td>径 75mm</td> </tr> <tr> <td>とい受け金物 ※垂鉛めっき鋼板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>防露巻き ※改修標仕表3.8.4による</td> <td>※F☆☆☆☆</td> </tr> </table> ※掃除口を設ける (開放性のある自転車置き場のといを除く) ○養生鉄管を設ける (径 _____ 厚さ _____ 長さ _____) ○既存といの撤去及び養生 () ○鋼管製といの防露巻き (※表3.8.5 ○ _____) ○たてとい受金物 ()	種 別	防水層	施 工 箇 所	○P0X 工法	※X-1		●L4X 工法	※X-2	表3.6.1 parapet、耐震補強架台	種 別	防水層	施 工 箇 所	○P1Y 工法	※Y-2		○P2Y 工法	○	表3.6.2	改 修 工 法 の 種 別	施 工 箇 所	○シーリング充填工法		○シーリング再充填工法		○拡幅シーリング再充填工法		○ブリッジ工法		材 質	そ の 他	ルーフドレン等 ※鋳鉄製 ○		軒どい ※硬質塩化ビニル製 (角形) ○ (前高) 巾120mm			(カラー) 巾150mm	たてとい ※硬質塩化ビニル管 (VP) ○ (カラー) 径 75mm		谷どい ○		とい受け金物 ※垂鉛めっき鋼板 ○		材 質	そ の 他	たてとい及び横走り管 ※SGP ○	径 75mm	とい受け金物 ※垂鉛めっき鋼板		防露巻き ※改修標仕表3.8.4による	※F☆☆☆☆	和知支所耐震改修工事 図 番 No. A03 070 枚の内 建築改修工事特記仕様書 2
種 別	防水層	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																									
○P1B 工法	○B-1 ※B-2 ○B-3	表3.3.3																																																																																																																																																																																									
○P1BI 工法	○BI-1 ※BI-2	表3.3.4																																																																																																																																																																																									
○T1BI 工法	○BI-3																																																																																																																																																																																										
○P2AI 工法	○AI-1 ※AI-2 ○AI-3	表3.3.5																																																																																																																																																																																									
○P2A 工法	○A-1 ※A-2 ○A-3	表3.3.6																																																																																																																																																																																									
種 別	防水層	施 工 箇 所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
○M4C 工法	○C-1 ※C-2 ○C-3 ○C-4	表3.3.7																																																																																																																																																																																									
○M3D 工法	○D-1 ※D-2	表3.3.8																																																																																																																																																																																									
○P0D 工法	○D-3 ○D-4																																																																																																																																																																																										
種 別	防水層	施 工 箇 所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
○P0DI 工法	○DI-1 ※DI-2	表3.3.9																																																																																																																																																																																									
○M3DI 工法																																																																																																																																																																																											
○M4DI 工法																																																																																																																																																																																											
種 別	防水層	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																									
○P1E 工法	○E-1 ※E-2	表3.3.10																																																																																																																																																																																									
○P2E 工法																																																																																																																																																																																											
種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
●M4 A S 工法	○AS-T1 ○AS-T2 ●AS-J2	表3.4.1 屋根3、4																																																																																																																																																																																									
種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
○M3 A S 工法	○AS-T3 ○AS-T4	表3.4.2																																																																																																																																																																																									
○P0 A S 工法	○AS-J1 ○AS-J3																																																																																																																																																																																										
種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
○M3 A S I 工法	○AS1-T1																																																																																																																																																																																										
○M4 A S I 工法	○AS1-J1	表3.4.3																																																																																																																																																																																									
○P0 A S I 工法																																																																																																																																																																																											
種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
●M4 A S 工法	○AS-T1 ○AS-T2 ●AS-J2	表3.4.1 屋根3、4																																																																																																																																																																																									
種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
○M3 A S 工法	○AS-T3 ○AS-T4	表3.4.2																																																																																																																																																																																									
○P0 A S 工法	○AS-J1 ○AS-J3																																																																																																																																																																																										
種 別	防水層	施工箇所	仕上塗料 種類 使用量																																																																																																																																																																																								
○M3 A S I 工法	○AS1-T1																																																																																																																																																																																										
○M4 A S I 工法	○AS1-J1	表3.4.3																																																																																																																																																																																									
○P0 A S I 工法																																																																																																																																																																																											
種 別	防水層	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																									
○P0X 工法	※X-1																																																																																																																																																																																										
●L4X 工法	※X-2	表3.6.1 parapet、耐震補強架台																																																																																																																																																																																									
種 別	防水層	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																									
○P1Y 工法	※Y-2																																																																																																																																																																																										
○P2Y 工法	○	表3.6.2																																																																																																																																																																																									
改 修 工 法 の 種 別	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																										
○シーリング充填工法																																																																																																																																																																																											
○シーリング再充填工法																																																																																																																																																																																											
○拡幅シーリング再充填工法																																																																																																																																																																																											
○ブリッジ工法																																																																																																																																																																																											
材 質	そ の 他																																																																																																																																																																																										
ルーフドレン等 ※鋳鉄製 ○																																																																																																																																																																																											
軒どい ※硬質塩化ビニル製 (角形) ○ (前高) 巾120mm																																																																																																																																																																																											
	(カラー) 巾150mm																																																																																																																																																																																										
たてとい ※硬質塩化ビニル管 (VP) ○ (カラー) 径 75mm																																																																																																																																																																																											
谷どい ○																																																																																																																																																																																											
とい受け金物 ※垂鉛めっき鋼板 ○																																																																																																																																																																																											
材 質	そ の 他																																																																																																																																																																																										
たてとい及び横走り管 ※SGP ○	径 75mm																																																																																																																																																																																										
とい受け金物 ※垂鉛めっき鋼板																																																																																																																																																																																											
防露巻き ※改修標仕表3.8.4による	※F☆☆☆☆																																																																																																																																																																																										

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
4	<p>○ タイル張り仕上げ</p> <p>○ 樹脂注入方法</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入口間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※ 自動式低圧¹⁾樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300 ○</td> <td>○130</td> </tr> <tr> <td>○ 手動式²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>○50~100 ○</td> <td>○40</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 機械式³⁾樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>○100~200 ○</td> <td>○70</td> </tr> <tr> <td>0.5以上1.0未満</td> <td>○150~250 ○</td> <td>○130</td> </tr> </table> <p>エポキシ樹脂 ○ 低粘土形 ○ 中粘土形 コア抜き検査 ○ 行う ○ 行わない 抜き部数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1箇所 ○ 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ Uカットシール材充填方法</p> <p>○ シーリング材</p> <p>充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ○ ポリマーセメントモルタルの充填 ○ 行う ○ 行わない ○ 可とう性エポキシ樹脂</p> <p>タイル除去後の補修</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 変成シリコン樹脂</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル張替え工法</td> <td>○ ウレタン樹脂</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </table> <p>○ コンクリート打直し仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> </table> <p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> </table> <p>○ モルタル張替え工法 ※ 改修仕様表4.4.1による</p> <p>仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ○</p> <p>○ タイル張り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル部分張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル張替え工法</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ タイル張り下地等の下地モルタルの接着剤試験 ○ 行う ○ 行わない 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り</p> <p>タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良横上げ張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤による陶磁器質タイル張り</p> <p>シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○</p>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※ 自動式低圧 ¹⁾ 樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300 ○	○130	○ 手動式 ²⁾ 樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100 ○	○40	○ 機械式 ³⁾ 樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200 ○	○70	0.5以上1.0未満	○150~250 ○	○130	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル		○ 変成シリコン樹脂	○ タイル張替え工法	○ ウレタン樹脂			工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル		○ ポリマーセメントモルタル	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル		○ ポリマーセメントモルタル	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)	○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		4	<p>4 浮き部改修工法 (4.4.10) ~ (4.4.15)</p> <p>○ モルタル塗り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>フカビン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ フカビン¹⁾部分²⁾樹脂注入工法</td> <td>※16 ○</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※25</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※50</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾部分²⁾樹脂注入工法</td> <td>※9 ○</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※25</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※50</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm ○ ○ 充填工法 ○ エポキシ樹脂モルタル ○ ポリマーセメントモルタル ○ モルタル塗替え工法 既製目地材 ○ 使用する (形状 _____) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ○</p> <p>○ タイル張り仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>1箇所浮き代の面積 (㎡)</th> <th>フカビン (本/m)</th> <th>注入口 (箇所/m)</th> <th>充填量 (箇所/ml)</th> <th>注入量 (箇所/ml)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ フカビン¹⁾部分²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.25 未満</td> <td>※16 ○</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.25 以上</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※25</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>以下</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.25 以上</td> <td>※13 ○</td> <td>※12 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※50</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>1.0を 超える</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾部分²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.25 未満</td> <td>※9 ○</td> <td>○</td> <td>※25</td> <td>○</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.25 以上</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※25</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>以下</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾全面²⁾樹脂注入工法</td> <td>0.25 以上</td> <td>※9 ○</td> <td>※9 ○</td> <td rowspan="2">○</td> <td>※50</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>1.0を 超える</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 注入口付フカビン¹⁾部分²⁾樹脂注入工法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>※25</td> <td>※25</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの ○ 注入口付アンカーピン ※ ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm ○</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>1箇所浮き代の面積 (㎡)</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル部分張替え工法</td> <td>0.25 未満</td> <td>※ ポリマーセメントモルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル張替え工法</td> <td rowspan="2">0.25 以上</td> <td>○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ タイル張替え工法</td> <td rowspan="2">0.25 以上</td> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)</td> <td></td> </tr> </table> <p>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地 位置 ○ 改修標準仕様書4.5.1による ○ タイル張り下地等の下地モルタルの接着剤試験 ○ 行う ○ 行わない 抜き部の補修方法 ○ 図示 ○</p> <p>○ セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り</p> <p>タイル張りの工法 外装タイル ○ 密着張り ○ 改良圧着張り ○ 改良横上げ張り 外装ユニットタイル ○ マスク張り ○ モザイクタイル張り</p> <p>○ 有機系接着剤による陶磁器質タイル張り</p> <p>シーリング材の種類 打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ ポリウレタン系 ○ 伸縮調整目地その他の目地 ※ 変性シリコン系 ○</p>	工 法	フカビン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○ フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	※16 ○	○	※25	○		○	○	○	○	○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※13 ○	※12 ○	○	※25		○	○	○	○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※13 ○	※12 ○	○	※50		○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	※9 ○	○	※25	○		○	○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○	○	※25		○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○	○	※50		○	○	○	工 法	1箇所浮き代の面積 (㎡)	フカビン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所	○ フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 未満	※16 ○	○	※25	○		○	○	○	○	○	○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※13 ○	※12 ○	○	※25		以下	○	○	○	○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※13 ○	※12 ○	○	※50		1.0を 超える	○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 未満	※9 ○	○	※25	○		○	○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※9 ○	※9 ○	○	※25		以下	○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※9 ○	※9 ○	○	※50		1.0を 超える	○	○	○	○ 注入口付フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法				※25	※25					○	○	工 法	1箇所浮き代の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所	○ タイル部分張替え工法	0.25 未満	※ ポリマーセメントモルタル		○	○	○ タイル張替え工法	0.25 以上	○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)	○ タイル張替え工法	0.25 以上	○ ポリマーセメントモルタル		○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)			○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)		4	<p>5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)</p> <p>6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)</p> <p>7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5)</p> <p>8 フカビン¹⁾注入工法 (4.2.2)</p> <p>9 注入口付フカビン¹⁾注入工法 (4.2.2)</p> <p>10 モルタル塗替え工法 (4.2.2)</p> <p>11 タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法 (4.2.2) (4.5.8)</p> <p>12 窓下人研面台の補修</p> <p>13 仕上塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)</p> <p>薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 可とう形外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 可とう形外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)</td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 凹凸状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材S</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材C</td> <td>○ 吹放し ○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(○ 上塗材)</td> <td>○ ひき起し ○ かき落とし</td> <td></td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材Si</td> <td>○ 吹放し ○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)</td> <td>○ ひき起し</td> <td>○ ローラー</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー	○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー	○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて	○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー	○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー		○ 凹凸状	吹付け	○ 外装薄塗材S	○ 砂壁状	吹付け				種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて	(○ 上塗材)	○ ひき起し ○ かき落とし					○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて	○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)	○ ひき起し	○ ローラー				4	<p>外壁改修工事</p> <p>4 外壁改修工事</p> <p>5 外壁改修工事</p> <p>14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4)</p> <p>15 マスチック塗材塗り (4.7.2)</p> <p>16 部分改修工法 (4.6.6)</p> <p>1 性能</p> <p>2 施工数量調査 (1.5.2)</p> <p>3 改修工法 (5.1.3)</p> <p>4 防火戸 (5.1.4)</p> <p>5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)</p> <p>6 防犯建物部品 (5.1.7)</p> <p>既存塗膜の除去方法 ※ 試験施工実施 ○ サンダー工法 ○ 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 ○ 30Mpa ○ _____) ○ 塗膜はく離工法 (製造所: _____) ○ 水洗い工法 (○ デリタブラ ○ 高圧ポンプ10~15pa)</p> <p>既存塗膜の除去範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ○ 既存壁面の (_____ %) ○ 別図に示す範囲</p> <p>下地処理 下地調整材 ※ セメント系下地調整材 (JIS A 6916) ○ ポリマーセメントモルタル ○ 防水形仕上塗材主材 (JIS A 6910 (複層仕上塗材))</p> <p>種類 ○ A種 ※ B種 (表4.6.7) 仕上塗り 種類 _____ 適用箇所 _____</p> <p>仕上げ塗材の種類 ○ 薄付け仕上塗材 ○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材 ○ 防水形複層仕上塗材 ○ マスチック塗材 施工箇所 ○ 別図に示す範囲 ○</p> <p>※ 「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※ 行う (○ 建具金物 ○ ガラス ○ ガラス止め材 ○ _____) ※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○ 行わない</p> <p>既存建具を新規建具に改修する場合 ※ かぶせ工法 (○ カバー工法 ○ 持出し工法 ○ ノンシール工法) ○ 撤去工法 (○ はつり工法 ○ 引き抜き工法)</p> <p>新規建具を設置する場合 新規建具を設ける壁の開口方法 ※ 図示による ○ _____ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※ 図示による ○ _____</p> <p>※ 図示による ○ _____</p> <p>建具見本の製作 ○ 行う (建具番号 _____) 特殊な建具の仮組 ○ 行う (建具番号 _____) ○ ブランドボックス等の再使用 (_____)</p> <p>開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ ドア 適用箇所 (_____) ・ サッシ 適用箇所 (_____) ・ シャッター 適用箇所 (_____)</p>
	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
※ 自動式低圧 ¹⁾ 樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300 ○	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 手動式 ²⁾ 樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	○50~100 ○	○40																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 機械式 ³⁾ 樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	○100~200 ○	○70																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	0.5以上1.0未満	○150~250 ○	○130																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ 変成シリコン樹脂																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
○ タイル張替え工法	○ ウレタン樹脂																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ タイル部分張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
○ タイル張替え工法	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
工 法	フカビン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	※16 ○	○	※25	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※13 ○	※12 ○	○	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※13 ○	※12 ○	○	※50																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	※9 ○	○	※25	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○	○	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	※9 ○	※9 ○	○	※50																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
工 法	1箇所浮き代の面積 (㎡)	フカビン (本/m)	注入口 (箇所/m)	充填量 (箇所/ml)	注入量 (箇所/ml)	施工箇所																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
○ フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 未満	※16 ○	○	※25	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	○	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※13 ○	※12 ○	○	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	以下	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※13 ○	※12 ○	○	※50																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	1.0を 超える	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 未満	※9 ○	○	※25	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	○	○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※9 ○	※9 ○	○	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	以下	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 全面 ²⁾ 樹脂注入工法	0.25 以上	※9 ○	※9 ○	○	※50																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	1.0を 超える	○	○		○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
○ 注入口付フカビン ¹⁾ 部分 ²⁾ 樹脂注入工法				※25	※25																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
				○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
工 法	1箇所浮き代の面積 (㎡)	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ タイル部分張替え工法	0.25 未満	※ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ タイル張替え工法	0.25 以上	○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ タイル張替え工法	0.25 以上	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		○ 一液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		○ 汎用樹脂系接着剤 (JIS A 5557による)																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 凹凸状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 外装薄塗材S	○ 砂壁状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(○ 上塗材)	○ ひき起し ○ かき落とし																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)	○ ひき起し	○ ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
3 欠損部改修 (4.1.4) (4.2.2)	<p>○ コンクリート打直し仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>工 法</th> <th>材 料</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 充填工法</td> <td>※ エポキシ樹脂モルタル</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ポリマーセメントモルタル</td> </tr> </table>	工 法	材 料	施 工 箇 所	○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル		○ ポリマーセメントモルタル	<p>(4.5.9) ~ (4.5.15)</p>	<p>5 目地改修工法 (4.1.4) (4.5.16)</p> <p>6 樹脂注入工法 (4.2.2) (4.3.4)</p> <p>7 Uカットシール材充填工法 (4.3.5)</p> <p>8 フカビン¹⁾注入工法 (4.2.2)</p> <p>9 注入口付フカビン¹⁾注入工法 (4.2.2)</p> <p>10 モルタル塗替え工法 (4.2.2)</p> <p>11 タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法 (4.2.2) (4.5.8)</p> <p>12 窓下人研面台の補修</p> <p>13 仕上塗材 (4.1.5) (4.2.2) (4.6.5)</p> <p>薄付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 可とう形外装薄塗材Si</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 可とう形外装薄塗材E</td> <td>○ 砂壁状 ○ ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ ひき起し ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)</td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 凹凸状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装薄塗材S</td> <td>○ 砂壁状</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>厚付け仕上塗材 (JIS A 6909) (表4.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 類 (呼び名)</th> <th>仕 上 げ</th> <th>工 法</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材C</td> <td>○ 吹放し ○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(○ 上塗材)</td> <td>○ ひき起し ○ かき落とし</td> <td></td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材Si</td> <td>○ 吹放し ○ 凸部処理</td> <td>吹付け</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>○ 平たん状 ○ 凹凸状</td> <td>こて</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)</td> <td>○ ひき起し</td> <td>○ ローラー</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー	○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー	○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて	○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け		○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー	○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー		○ 凹凸状	吹付け	○ 外装薄塗材S	○ 砂壁状	吹付け				種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考	○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて	(○ 上塗材)	○ ひき起し ○ かき落とし					○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け		○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて	○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)	○ ひき起し	○ ローラー				<p>4 外壁改修工事</p> <p>5 外壁改修工事</p> <p>14 既存塗膜等の除去及び下地処理 (4.6.3) (4.6.4)</p> <p>15 マスチック塗材塗り (4.7.2)</p> <p>16 部分改修工法 (4.6.6)</p> <p>1 性能</p> <p>2 施工数量調査 (1.5.2)</p> <p>3 改修工法 (5.1.3)</p> <p>4 防火戸 (5.1.4)</p> <p>5 見本の製作等 (5.1.5) (5.1.6)</p> <p>6 防犯建物部品 (5.1.7)</p> <p>既存塗膜の除去方法 ※ 試験施工実施 ○ サンダー工法 ○ 高圧水洗工法 (試験施工実施) (加圧力 ○ 30Mpa ○ _____) ○ 塗膜はく離工法 (製造所: _____) ○ 水洗い工法 (○ デリタブラ ○ 高圧ポンプ10~15pa)</p> <p>既存塗膜の除去範囲 ※ 既存仕上げ面全体 ○ 既存壁面の (_____ %) ○ 別図に示す範囲</p> <p>下地処理 下地調整材 ※ セメント系下地調整材 (JIS A 6916) ○ ポリマーセメントモルタル ○ 防水形仕上塗材主材 (JIS A 6910 (複層仕上塗材))</p> <p>種類 ○ A種 ※ B種 (表4.6.7) 仕上塗り 種類 _____ 適用箇所 _____</p> <p>仕上げ塗材の種類 ○ 薄付け仕上塗材 ○ 厚付け仕上塗材又は複層仕上塗材 ○ 防水形複層仕上塗材 ○ マスチック塗材 施工箇所 ○ 別図に示す範囲 ○</p> <p>※ 「第1章 一般共通事項 4 風圧力及び積雪に対する性能」を満足させること。 ※ 行う (○ 建具金物 ○ ガラス ○ ガラス止め材 ○ _____) ※ 施工に先立ち、施工数量調査報告書を監督職員に提出し承諾を得ること。 ○ 行わない</p> <p>既存建具を新規建具に改修する場合 ※ かぶせ工法 (○ カバー工法 ○ 持出し工法 ○ ノンシール工法) ○ 撤去工法 (○ はつり工法 ○ 引き抜き工法)</p> <p>新規建具を設置する場合 新規建具を設ける壁の開口方法 ※ 図示による ○ _____ 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※ 図示による ○ _____</p> <p>※ 図示による ○ _____</p> <p>建具見本の製作 ○ 行う (建具番号 _____) 特殊な建具の仮組 ○ 行う (建具番号 _____) ○ ブランドボックス等の再使用 (_____)</p> <p>開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」を適用する箇所 ・ ドア 適用箇所 (_____) ・ サッシ 適用箇所 (_____) ・ シャッター 適用箇所 (_____)</p>																																																																																																																																																																																																																																		
工 法	材 料	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 充填工法	※ エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	○ ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 可とう形外装薄塗材Si	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 可とう形外装薄塗材E	○ 砂壁状 ○ ゆず肌状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ ひき起し ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 防水形外装薄塗材E (○ 増塗材)	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 凹凸状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 外装薄塗材S	○ 砂壁状	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
種 類 (呼び名)	仕 上 げ	工 法	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
○ 外装厚塗材C	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
(○ 上塗材)	○ ひき起し ○ かき落とし																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
○ 外装厚塗材Si	○ 吹放し ○ 凸部処理	吹付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	○ 平たん状 ○ 凹凸状	こて																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
○ 外装厚塗材E (○ 上塗材)	○ ひき起し	○ ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項	章 項 目	特 記 事 項																																																																																																																																			
5 7 アルミニウム製 建具 (5.2.2) ～(5.2.5)	<p>外部に面するアルミニウム製建具の性能等級 (表5.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>性能等級</td> <td>※ A種</td> <td>○ B種</td> <td>○ C種</td> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※ S-4 ○</td> <td>※ S-5 ○</td> <td>※ S-6 ○</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※ A-3</td> <td>○</td> <td>※ A-4 ○</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※ W-4 ○</td> <td>○</td> <td>※ W-5 ○</td> </tr> <tr> <td>枠見込み(mm)</td> <td>※ 70</td> <td>○ 100</td> <td>※ 100 ○</td> </tr> </table> <p>表面処理 (表5.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>色</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ B-1種</td> <td>○ 標準 ○ 特注 ※ 図示による</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ B-2種</td> <td>○ 標準 ○ 特注 ※ 図示による</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○ 標準 ○ 特注</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級) ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級) 結露水の処理方法 ※ 図示による ○ 水切り、ぜん板等 ※ 図示による ○ ※ 出入口のつづりにステンレスを使用する場合は図示による。</p>	性能等級	※ A種	○ B種	○ C種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-3	○	※ A-4 ○	水密性	※ W-4 ○	○	※ W-5 ○	枠見込み(mm)	※ 70	○ 100	※ 100 ○	種 別	色	施 工 箇 所	○ B-1種	○ 標準 ○ 特注 ※ 図示による	○	○ B-2種	○ 標準 ○ 特注 ※ 図示による	○	○	○ 標準 ○ 特注		○	○ 標準 ○ 特注		○	○ 標準 ○ 特注		5 13 建具用金物 (5.7.2) ～(5.7.4)	<p>マスターキーの製作 ※ 作成する (グループ、各グループ 個) ○ 作成しない</p> <p>開き戸 (表5.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>金 物 の 種 類</th> <th>見 え 掛 り 部 の 材 質</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td>○ シリンダー箱錠</td> <td>○ 握り玉: ステンレス ○ レバーハンドル: 7%ニッケル合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)</td> <td>○ 取付位置 () 実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○</td> </tr> <tr> <td>○ 本締り錠</td> <td>シリンダー: ステンレス</td> <td>実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○</td> </tr> <tr> <td>○ 空錠</td> <td>○ 握り玉: ステンレス ○ レバーハンドル: 7%ニッケル合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>○ グレモン錠</td> <td>レバーハンドル: 亜鉛合金、(○ ステンレス)</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>ケースハンドル錠</td> <td>ステンレス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>点検口錠</td> <td>亜鉛合金程度、(○ ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丁番</td> <td>ステンレス、(○ 黄銅)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ピボットヒンジ</td> <td>カバー部: ステンレス、(○ 亜鉛合金)</td> <td>亜鉛合金は本製建具用のみ</td> </tr> <tr> <td>点検口軸吊りヒンジ</td> <td>建具製作所の仕様による</td> <td>○ 自閉装置付き</td> </tr> <tr> <td>○ フロアヒンジ</td> <td>カバー部: ステンレス、(本体は鋼)</td> <td>ドアクローザー</td> </tr> <tr> <td>○ ヒンジクローザー(丁番型)</td> <td>鋼(焼付け塗装)</td> <td>○ 遅延閉り機能付き</td> </tr> <tr> <td>○ ヒンジクローザー(ピボット型)</td> <td>カバー部: ステンレス、(本体は鋼)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ドアクローザー</td> <td>本体: 7%ニッケル合金 7-4部: 鋼(焼付け塗装)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>閉鎖順位調整器</td> <td>ステンレス、(○ 鋼)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 押棒・押板</td> <td>(○ ステンレス、○ 黄銅、○ 合成樹脂)</td> <td>○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>上げ落し (フランク落し)</td> <td>亜鉛合金程度、(○ ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ アースカバー</td> <td>鋼(加めつき)、(○ ステンレス)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 戸当り</td> <td>亜鉛合金程度、(○ ステンレス、○ 黄銅)</td> <td>○ おおりに止め付き</td> </tr> </table> <p>引き戸 (表5.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>金 物 の 種 類</th> <th>見 え 掛 り 部 の 材 質</th> <th>そ の 他</th> </tr> <tr> <td>引戸用錠</td> <td></td> <td>木製建具の場合: シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 ()</td> </tr> <tr> <td>○ クレセント</td> <td>建具製作所の仕様による。</td> <td>木製建具の場合: ステンレス (○ 黄銅)</td> </tr> <tr> <td>引手類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>戸車 (上吊りの場合を除く)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レール</td> <td>ステンレス、(○ 7%ニッケル合金 ○ 黄銅)</td> <td>黄銅は木製建具用のみ</td> </tr> </table>	金 物 の 種 類	見 え 掛 り 部 の 材 質	そ の 他	○ シリンダー箱錠	○ 握り玉: ステンレス ○ レバーハンドル: 7%ニッケル合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)	○ 取付位置 () 実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○	○ 本締り錠	シリンダー: ステンレス	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○	○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス ○ レバーハンドル: 7%ニッケル合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)	○ 取付位置 ()	○ グレモン錠	レバーハンドル: 亜鉛合金、(○ ステンレス)	○ 取付位置 ()	ケースハンドル錠	ステンレス		点検口錠	亜鉛合金程度、(○ ステンレス)		丁番	ステンレス、(○ 黄銅)		○ ピボットヒンジ	カバー部: ステンレス、(○ 亜鉛合金)	亜鉛合金は本製建具用のみ	点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き	○ フロアヒンジ	カバー部: ステンレス、(本体は鋼)	ドアクローザー	○ ヒンジクローザー(丁番型)	鋼(焼付け塗装)	○ 遅延閉り機能付き	○ ヒンジクローザー(ピボット型)	カバー部: ステンレス、(本体は鋼)		○ ドアクローザー	本体: 7%ニッケル合金 7-4部: 鋼(焼付け塗装)		閉鎖順位調整器	ステンレス、(○ 鋼)		○ 押棒・押板	(○ ステンレス、○ 黄銅、○ 合成樹脂)	○ 取付位置 ()	上げ落し (フランク落し)	亜鉛合金程度、(○ ステンレス)		○ アースカバー	鋼(加めつき)、(○ ステンレス)		○ 戸当り	亜鉛合金程度、(○ ステンレス、○ 黄銅)	○ おおりに止め付き	金 物 の 種 類	見 え 掛 り 部 の 材 質	そ の 他	引戸用錠		木製建具の場合: シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 ()	○ クレセント	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合: ステンレス (○ 黄銅)	引手類			戸車 (上吊りの場合を除く)			レール	ステンレス、(○ 7%ニッケル合金 ○ 黄銅)	黄銅は木製建具用のみ	5 16 重量シャッター (5.10.2) ～(5.10.4)	<p>種 類 ○ 管理用シャッター (シャッターケース○設ける) 耐風圧強度 () ○ 外壁用防火シャッター(シャッターケース※設ける) 耐風圧強度 () ○ 屋内用防火シャッター(シャッターケース※設ける) ○ 屋内用防煙シャッター(シャッターケース※設ける)</p> <p>開閉方式 ※ 上部電動式 (手動併用) ○ 上部手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。)</p> <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>めっきの付着量</th> <th>形 状</th> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3302</td> <td>○ Z12又はF12を満足するもの ○</td> <td>○ インターロッキング形</td> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3312</td> <td>○ Z12又はF12を満足するもの ○</td> <td>○ オーバーラッピング形</td> </tr> </table> <p>開閉方式 ○ 上部電動式 (手動併用) ※ 手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。)</p> <p>耐風圧強度</p> <p>スラット</p> <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>めっきの付着量</th> <th>形 状</th> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3312</td> <td>○ Z06又はF06を満足するもの ○</td> <td>○ インターロッキング形</td> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3322</td> <td>○ AZ90を満足するもの ○</td> <td>○ オーバーラッピング形</td> </tr> </table>	材 質	めっきの付着量	形 状	○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ インターロッキング形	○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形	材 質	めっきの付着量	形 状	○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロッキング形	○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形	5 22 木製建具 (16.7.2) ※公共建築工事標準仕様書(H25版)による。	<p>建具材の含水率の種別 ○ A種 ※ B種 ○ C種 代用樹種の適用 ※ 可 ○ 不可 フラッシュ戸 表面材の合板の種類適用及び品質等 ○ 表面板の厚さ ※ 図示による ○ かまち戸 かまち及び鏡板の樹種 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 36mm ○ ふすま 上張りの種類 ※ 図示による ○ 見込み寸法 ※ 19.5mm ○ 戸ふすま 見込み寸法 ※ 30mm ○ 紙張り障子 見込み寸法 ※ 30mm ○ 接着剤のホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ ○</p>
	性能等級	※ A種	○ B種	○ C種																																																																																																																																						
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																																																																																																																							
気密性	※ A-3	○	※ A-4 ○																																																																																																																																							
水密性	※ W-4 ○	○	※ W-5 ○																																																																																																																																							
枠見込み(mm)	※ 70	○ 100	※ 100 ○																																																																																																																																							
種 別	色	施 工 箇 所																																																																																																																																								
○ B-1種	○ 標準 ○ 特注 ※ 図示による	○																																																																																																																																								
○ B-2種	○ 標準 ○ 特注 ※ 図示による	○																																																																																																																																								
○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																																																									
○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																																																									
○	○ 標準 ○ 特注																																																																																																																																									
金 物 の 種 類	見 え 掛 り 部 の 材 質	そ の 他																																																																																																																																								
○ シリンダー箱錠	○ 握り玉: ステンレス ○ レバーハンドル: 7%ニッケル合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)	○ 取付位置 () 実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○																																																																																																																																								
○ 本締り錠	シリンダー: ステンレス	実用性能項目 ※グレード3以上 (鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具) ○ 耐じん性能のグレード ○																																																																																																																																								
○ 空錠	○ 握り玉: ステンレス ○ レバーハンドル: 7%ニッケル合金 (○ ステンレス、○ 黄銅)	○ 取付位置 ()																																																																																																																																								
○ グレモン錠	レバーハンドル: 亜鉛合金、(○ ステンレス)	○ 取付位置 ()																																																																																																																																								
ケースハンドル錠	ステンレス																																																																																																																																									
点検口錠	亜鉛合金程度、(○ ステンレス)																																																																																																																																									
丁番	ステンレス、(○ 黄銅)																																																																																																																																									
○ ピボットヒンジ	カバー部: ステンレス、(○ 亜鉛合金)	亜鉛合金は本製建具用のみ																																																																																																																																								
点検口軸吊りヒンジ	建具製作所の仕様による	○ 自閉装置付き																																																																																																																																								
○ フロアヒンジ	カバー部: ステンレス、(本体は鋼)	ドアクローザー																																																																																																																																								
○ ヒンジクローザー(丁番型)	鋼(焼付け塗装)	○ 遅延閉り機能付き																																																																																																																																								
○ ヒンジクローザー(ピボット型)	カバー部: ステンレス、(本体は鋼)																																																																																																																																									
○ ドアクローザー	本体: 7%ニッケル合金 7-4部: 鋼(焼付け塗装)																																																																																																																																									
閉鎖順位調整器	ステンレス、(○ 鋼)																																																																																																																																									
○ 押棒・押板	(○ ステンレス、○ 黄銅、○ 合成樹脂)	○ 取付位置 ()																																																																																																																																								
上げ落し (フランク落し)	亜鉛合金程度、(○ ステンレス)																																																																																																																																									
○ アースカバー	鋼(加めつき)、(○ ステンレス)																																																																																																																																									
○ 戸当り	亜鉛合金程度、(○ ステンレス、○ 黄銅)	○ おおりに止め付き																																																																																																																																								
金 物 の 種 類	見 え 掛 り 部 の 材 質	そ の 他																																																																																																																																								
引戸用錠		木製建具の場合: シリンダー等はステンレス ○ 取付位置 ()																																																																																																																																								
○ クレセント	建具製作所の仕様による。	木製建具の場合: ステンレス (○ 黄銅)																																																																																																																																								
引手類																																																																																																																																										
戸車 (上吊りの場合を除く)																																																																																																																																										
レール	ステンレス、(○ 7%ニッケル合金 ○ 黄銅)	黄銅は木製建具用のみ																																																																																																																																								
材 質	めっきの付着量	形 状																																																																																																																																								
○ JIS G 3302	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ インターロッキング形																																																																																																																																								
○ JIS G 3312	○ Z12又はF12を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形																																																																																																																																								
材 質	めっきの付着量	形 状																																																																																																																																								
○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロッキング形																																																																																																																																								
○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形																																																																																																																																								
5 8 網戸 (5.2.3)	<p>防虫網 網の種類 ※ 合成樹脂製 ○ ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ ステンレス製 (SUS316) 形式 ※ 外部可動式 ○ 固定式 線径、網目 ※ 0.25mm以上、16～18メッシュ ○</p>	5 17 軽量シャッター (5.11.2) ～(5.11.4)	<p>開閉方式 ○ 上部電動式 (手動併用) ※ 手動式 (電動式シャッターには保護装置を設ける。)</p> <p>耐風圧強度</p> <p>スラット</p> <table border="1"> <tr> <th>材 質</th> <th>めっきの付着量</th> <th>形 状</th> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3312</td> <td>○ Z06又はF06を満足するもの ○</td> <td>○ インターロッキング形</td> </tr> <tr> <td>○ JIS G 3322</td> <td>○ AZ90を満足するもの ○</td> <td>○ オーバーラッピング形</td> </tr> </table>	材 質	めっきの付着量	形 状	○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロッキング形	○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形	5 23 ポリカーボネイト 樹脂板	<p>種類 _____ 厚さ _____ mm</p>																																																																																																																												
材 質	めっきの付着量	形 状																																																																																																																																								
○ JIS G 3312	○ Z06又はF06を満足するもの ○	○ インターロッキング形																																																																																																																																								
○ JIS G 3322	○ AZ90を満足するもの ○	○ オーバーラッピング形																																																																																																																																								
5 9 樹脂製建具 (5.3.2) ～(5.3.4)	<p>外部に面する樹脂製建具の性能等級 (表5.3.1)</p> <table border="1"> <tr> <td>性能等級</td> <td>○ A種</td> <td>○ B種</td> <td>○ C種</td> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>※ S-4 ○</td> <td>※ S-5 ○</td> <td>※ S-6 ○</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td>※ A-4</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>※ W-4 ○</td> <td></td> <td>※ W-5 ○</td> </tr> <tr> <td>枠見込み(mm)</td> <td>※ 図示</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-4 ○ H-5 ○)</p> <p>ガラス ※ 複層ガラス ○ 単板ガラス ○ 三重ガラス ○ 表面色 ○ 標準色 ○ 特注色</p>	性能等級	○ A種	○ B種	○ C種	耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○	気密性	※ A-4	○		水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○	枠見込み(mm)	※ 図示	○		5 18 オーバーヘッド ドア (5.12.2) ～(5.12.4)	<p>セクション材 ※ スチールタイプ ○ アルミニウムタイプ ○ ファイバーグラスタイプ</p> <p>耐風圧性能</p> <p>開閉方式 ※ バランス式 ○ チェーン式 ○ 電動式 (電動式には保護装置を設ける。)</p> <p>収納形式 ※ スタンダード形 ○ ローヘッド形 ○ ハイリフト形 ○ パーチカル形</p> <p>ガイドレール等 ※ 溶融亜鉛めっき鋼板 ○ ステンレス鋼板</p>	6 ①揮発性有機化合物 対策 (6.5.2)～(6.5.4) (6.8.2)(6.9.3) (6.10.2)(6.11.2) (6.11.4)(6.11.5) (6.13.2)(6.14.2) (6.16.4)	<p>ビニル床シート・タイル、ゴム床タイル、カーペット、フローリング、ボード類、断熱材の接着に使用する接着剤のホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ 塗料、フローリング材、ボード類、壁紙、断熱材のホルムアルデヒド放放量 ※ F☆☆☆☆ ○</p>																																																																																																																	
性能等級	○ A種	○ B種	○ C種																																																																																																																																							
耐風圧性	※ S-4 ○	※ S-5 ○	※ S-6 ○																																																																																																																																							
気密性	※ A-4	○																																																																																																																																								
水密性	※ W-4 ○		※ W-5 ○																																																																																																																																							
枠見込み(mm)	※ 図示	○																																																																																																																																								
5 10 鋼製建具 (5.4.2) ～(5.4.4)	<p>外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1) ○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級) ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級) JISただし書き建具の寸法許容差 (これ以外は改修標準による) ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 鋼板 ○ 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3302による) めっきの付着量 ※ Z12又はF12を満足するもの ○ ○ 溶融亜鉛-5%7%ニッケル合金めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3317による) めっきの付着量 ※ Y08を満足するもの ○ 鋼板類の厚さ ※ 表5.4.2 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ _____ mm</p>	5 19 ガラス (5.13.2) ～(5.13.4)	<p>材料</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>種類等</th> <th>種 別</th> <th>種類等</th> </tr> <tr> <td>○ フロアガラス</td> <td></td> <td>○ 強化ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 型板ガラス</td> <td></td> <td>○ 熱線吸収ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 網入板ガラス</td> <td></td> <td>○ 複層ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 線入板ガラス</td> <td></td> <td>○ 熱線反射ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 合わせガラス</td> <td></td> <td>○ 倍強度ガラス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>ガラス溝の大きさ (表5.13.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>面クリアランス</th> <th>エッジクリアランス</th> <th>掛り代</th> </tr> <tr> <td>○ アルミニウム建具</td> <td>※ 表5.13.1</td> <td>※ 表5.13.1</td> <td>※ 表5.13.1</td> </tr> <tr> <td>○ 鋼製建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ ステンレス建具</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>熱線反射ガラスの映像調整 ○ 行わない ○ 行う ()</p>	種 別	種類等	種 別	種類等	○ フロアガラス		○ 強化ガラス		○ 型板ガラス		○ 熱線吸収ガラス		○ 網入板ガラス		○ 複層ガラス		○ 線入板ガラス		○ 熱線反射ガラス		○ 合わせガラス		○ 倍強度ガラス		○		○		種 別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代	○ アルミニウム建具	※ 表5.13.1	※ 表5.13.1	※ 表5.13.1	○ 鋼製建具	○	○	○	○ ステンレス建具	○	○	○	○	○	○	○	6 ②他の部分との 取り合い等 (6.1.3)	<p>既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ● 図示による ○ 範囲 () 仕上げ ()</p> <p>天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※ 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う。 ○ 図示による ○ 範囲 () 仕上げ ()</p> <p>天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修 ※ 既存のまま ○ 図示による ○ 範囲 () 仕上げ ()</p>																																																																																					
種 別	種類等	種 別	種類等																																																																																																																																							
○ フロアガラス		○ 強化ガラス																																																																																																																																								
○ 型板ガラス		○ 熱線吸収ガラス																																																																																																																																								
○ 網入板ガラス		○ 複層ガラス																																																																																																																																								
○ 線入板ガラス		○ 熱線反射ガラス																																																																																																																																								
○ 合わせガラス		○ 倍強度ガラス																																																																																																																																								
○		○																																																																																																																																								
種 別	面クリアランス	エッジクリアランス	掛り代																																																																																																																																							
○ アルミニウム建具	※ 表5.13.1	※ 表5.13.1	※ 表5.13.1																																																																																																																																							
○ 鋼製建具	○	○	○																																																																																																																																							
○ ステンレス建具	○	○	○																																																																																																																																							
○	○	○	○																																																																																																																																							
5 11 鋼製軽量建具 (5.5.2) ～(5.5.4)	<p>簡易気密型ドアセットの気密性 ※ 適用する (A-3) ○ 適用しない ○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級) ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級) 鋼板 ※ 表面処理亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板 鋼板類の厚さ ※ 表5.5.1 (片開き、親子開き及び両開き戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合は除く) ○ _____ mm 召合せ、縦小口包み板の材質 ※ 鋼板 ○</p>	5 20 ガラス留め材 (5.13.2)	<p>建具の種類</p> <table border="1"> <tr> <th>建 具 の 種 類</th> <th>材 質</th> </tr> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※ シーリング材 (SR-1) ○ ガasket ○ グレージングチャンネル</td> </tr> <tr> <td>鋼製・軽量鋼製・ステンレス製</td> <td>※ シーリング材 (SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 ※ パテ (木製用)</td> </tr> </table> <p>※ 防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能認定品とする。 ※ 防音仕様、断熱仕様及び耐震仕様については図示による。</p>	建 具 の 種 類	材 質	アルミニウム製	※ シーリング材 (SR-1) ○ ガasket ○ グレージングチャンネル	鋼製・軽量鋼製・ステンレス製	※ シーリング材 (SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 ※ パテ (木製用)	6 ③既存床の撤去等 (6.2.2)	<table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>工 法</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ ビニル床シート等</td> <td>○ 下地材の除去</td> <td>※ 図示による ○</td> </tr> <tr> <td>○ 合成樹脂塗床材</td> <td>○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法</td> <td>※ 図示による ○</td> </tr> <tr> <td>○ フローリング張り床材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>● 床タイル</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 床組</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種 別	工 法	施 工 箇 所	○ ビニル床シート等	○ 下地材の除去	※ 図示による ○	○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○	○ フローリング張り床材			● 床タイル			○ 床組																																																																																																															
建 具 の 種 類	材 質																																																																																																																																									
アルミニウム製	※ シーリング材 (SR-1) ○ ガasket ○ グレージングチャンネル																																																																																																																																									
鋼製・軽量鋼製・ステンレス製	※ シーリング材 (SR-1) ○ パテ ※ 1種 ○ 2種 木製 ※ パテ (木製用)																																																																																																																																									
種 別	工 法	施 工 箇 所																																																																																																																																								
○ ビニル床シート等	○ 下地材の除去	※ 図示による ○																																																																																																																																								
○ 合成樹脂塗床材	○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法	※ 図示による ○																																																																																																																																								
○ フローリング張り床材																																																																																																																																										
● 床タイル																																																																																																																																										
○ 床組																																																																																																																																										
5 12 ステンレス製建具 (5.6.2) ～(5.6.5)	<p>外部に面する建具の耐風圧性 ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (表5.2.1) 簡易気密扉の気密性、水密性 ※ 適用する ○ 適用しない (表5.4.1) ○ 防音ドアセット、防音サッシとする場合 (遮音性の等級 ○ T-1 ○ T-2 ○ T-3) ○ 断熱ドアセット、断熱サッシとする場合 (断熱性の等級 ○ H-2 ○ H-3) ○ 耐震ドアセットとする場合 (面内変形追従性の等級 ○ D-1 ○ D-2)</p> <p>ステンレス鋼板 (屋外) ※ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ステンレス鋼板 (屋内) ※ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ SUS443 JISただし書き建具の寸法許容差 ※ 製造所標準製作規定寸法許容差による 表面仕上げ ※ HL ○ 鏡面 曲げ加工 ※ 普通曲げ ○ 角出し曲げ</p>	5 21 ガラスブロック (5.13.5)	<p>寸法 (mm) 厚さ (mm) 色 調 パターン 防火認定</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">x</td> <td>○</td> <td>○ クリア</td> <td>○ 灰()</td> <td></td> <td rowspan="2">※ なし ○ あり</td> </tr> <tr> <td>○ 図示</td> <td>○ 乳白</td> <td>○ 熱線反射</td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 品質規格はJIS A5212 による ※ 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を品質計画により定めること。</p> <p>○ 壁用金属枠及び補強材 _____ ○ 骨 材 ※ SUS304 _____ 寸法・形状 ※ 径5.5mmのはしご形状複筋及び単筋 ○ ○ 化粧目地モルタルの色 _____ ○ 金属製化粧カバー 材質 ※ SUS304 ○ 寸法・形状 ※ 図示による ○ ○ 伸縮調整目地の位置 _____</p>	x	○	○ クリア	○ 灰()		※ なし ○ あり	○ 図示	○ 乳白	○ 熱線反射		6 4 既存壁の撤去等 (6.3.2)	<p>間仕切壁撤去に伴う構造体の補修 ※ 改修標準4.4.9によるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の補修 ○ 行う ○ 行わない) ○</p> <p>改修後の床の清掃範囲 ● 改修床全面 ○ 改修部分のみ ○ 図示による</p>																																																																																																																											
x	○	○ クリア	○ 灰()			※ なし ○ あり																																																																																																																																				
	○ 図示	○ 乳白	○ 熱線反射																																																																																																																																							

章	項	目	特	記	事	項	
6	内装改修工事	5 木下地等 (6.5.1) ~ (6.5.9)	表面仕上げの程度	○ A種	○ B種	○ C種	
		含水率	下地材	※ A種(15%以下)	○ B種(20%以下)		
		造作材	※ A種(15%以下)	○ B種(18%以下)			
		以下に規定されているものは、その規定による。 「製材の日本農林規格」による製材					
		○ 下地用針葉樹製材					
		使用箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率
		○ 1級 ※2級					
		○ 造作用針葉樹製材					
		使用箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率
		○無節 ○上小節 ○小節 ○並					
○ 広葉樹製材							
使用箇所	樹種	寸法	等級	形状	含水率		
○特等 ※1等 ○2等 ※10%以下 ○							
「製材の日本農林規格」以外の製材 (表12.2.2)							
使用箇所	樹種	寸法	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	
※A種 ○B種							
使用木材のうち杉、ひのきについては京都府内産木材とする。 ○ 工事完成までに、京都府内産木材証明書及びウッドマレージ002計算書を提出すること。 証明書及び計算書の発行に係る手続きについては次の機関による。 京都府地球温暖化防止活動推進センター TEL：075-211-8895 URL：http://www.kcfoa.or.jp/wood/index.php 注)証明書は製材所、流通業者の全てが取扱い事業者でなければ発行されない。 詳細は上記URLを参照すること。 ○ 工事完成までに、京都府内産木材の産地証明書を提出すること。							
代用樹種 ※可(表6.5.4) (上記府内産木材の他、特記されているものは不可) ○ 不可							
「集成材の日本農林規格」による造作用集成材							
○ 造作用集成材							
使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質				
※1等 ○2等							
○ 化粧ばり造作用集成材							
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質		
※1等 ○2等							
○ 化粧ばり構造用集成材							
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚			
「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材							
○ 造作用集成材							
使用箇所	樹種	寸法	見付材面の品質	含水率			
※15%以下 ○							
○ 化粧ばり造作用集成材							
使用箇所	化粧樹種名	芯材樹種名	寸法	化粧板厚	見付材面の品質	含水率	
※15%以下 ○							
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材							
○ 造作用単板積層材							
使用箇所	厚さ	表面の品質			防虫処理		
○表面化粧加工なし ○適用する ○1等 ○2等 ○3等 ○適用しない ○表面化粧加工あり ○天然木化粧加工 ○塗装加工							
「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材							
○ 造作用単板積層材							
使用箇所	厚さ	表面の品質	含水率	防虫処理			
○表面化粧加工なし ※14%以下 ○適用する ○表面化粧加工あり ○適用しない ○天然木化粧加工 ○塗装加工							

章	項	目	特	記	事	項	
6	内装改修工事	床張り用合板等	普通合板				
		使用箇所	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質	その他処理
		※押入れ、物入れ	※5.5mm		※1類	広葉樹	○防虫処理
			○		○2類	※2等以上	○難燃処理
						○	○防炎処理
						針葉樹	
						※C-D以上	
						○	
		構造用合板					
		使用箇所	等級	厚さ	樹種名	接着程度	板面の品質
※畳床下地材、フローリング張り下地材	※2級以上	※12mm		※1類	※C-D以上	○防虫処理	
				○特類	○		
パーティクルボード							
使用箇所	厚さ	各種区分					
	※15mm	※13Pタイプ又は13Mタイプ ○					
構造用パネル							
使用箇所	等級	厚さ					
防蟻・防蟻処理 ※行う (○ 薬剤の加圧注入 ○ 薬剤の塗布) ○ 行わない							
防虫処理 ※行う (範囲：ラワン材等 ※「製材の日本農林規格」による保存処理 K1) ○ 行わない							
野縁等の種類 屋内 ○19型 ○25型 (表6.6.1) 下地 (6.6.2) 屋外 ○19型 ※25型 ~ (6.6.4)							
野縁受け・吊りボルト・インサートの間隔 900mm 周辺部の端からの寸法 150mm 野縁の間隔 360mm はずれ留め補強 ※有り ○無し 既存の埋込みインサートの使用 ※再利用しない ○再利用する あと施工アンカーの引抜き試験 ○行う (箇所以上、 N/箇所) ● 行わない							
開口補強 吊りボルト間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示による ○ 天井のふところの補強 (1.5m以上3m以下) ※行う (3mを超える) ※行う (図示による) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 ○行う ○行わない 屋外の軒天井、ピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強 ○行う ○行わない							
スタッド、ランナー等の種類 (表6.7.1) ※表6.7.1におけるスタッドの高さによる区分に応じた種類 ○ スタッドの高さが15mを超える場合 ※図示による ○							
○ ビニル床シート							
区分	種類	記号	厚さ(mm)	色柄	工法	施工箇所	
発泡層無	○単層ビニル床シート	T S					
	※複層ビニル床シート	F S	○ 2.5 ※ 2.0	※無地	※熱溶接	※仕上表による	
発泡層有	○発泡複層ビニル床シート	H S	○	○マーブル			
	○クッションフロア	K S					
● ビニル床タイル							
区分	種類	記号	厚さ(mm)	品質・規格			
接着形	●コバダジションビニル床タイル	K T					
	○単層ビニル床タイル	T T	○ 2.5				
置敷形	○複層ビニル床タイル	F T	※ 2.0				
	○置敷きビニル床タイル	F O A	○				
置敷形	○薄型置敷きビニル床タイル	F O B					

章	項	目	特	記	事	項	
9	カーペット敷き (6.9.3) ~ (6.9.4)	○ 帯電防止シート又はタイル	種類	性能	厚さ (mm)		
		○ 帯電防止シート	※ 体積抵抗値 1.0×10 ⁹ Ω以下				
		○ 帯電防止床タイル	○				
		○ 視覚障害者用床タイル					
		種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)			
		○ 塩化ビニル系	※ 300mm角				
		○ レジンコンクリート系	○ 150mm角				
		○ 磁器又はセラミックタイル	○				
		○ 耐動荷重性床シート					
		種類	厚さ (mm)	備考			
○	○						
○	○						
○ 防滑性床シート又は床タイル							
種類	性能	厚さ (mm)					
○	○						
○	○						
○ ビニル幅木							
種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)					
○ 軟質	○ 硬質	※ 60 ○ 75 ○ 100 ○	※ 1.5 ○ 2.0				
○ ゴム床タイル張り							
色柄	厚さ (mm)	寸法 (mm)	品質・規格				
○							
○ 織じゅうたん							
種類	織り方	パイル形状	帯電性	施工箇所			
○ A種			○ 適用				
○ B種							
○ C種							
○ タフテッドカーペット							
パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	施工箇所			
		※ グリッパ工法 ○ 全面接着工法	○ 適用				
○ ニードルパンチカーペット							
厚さ (mm)	帯電性	施工箇所					
○	○ 適用						
○ タイルカーペット							
種別	パイル形状	寸法(mm)	総厚さ(mm)	施工箇所			
※ 1種	※ ループパイル	※ 500×500	※ 6.5				
タイルカーペットの敷き方 平場部分 ※ 市松敷き ○ 階段部分 ※ 模様敷き ○							
下敷き材 ※ JIS L 3204 (反毛フェルト) の第2種2号 呼び厚さ8mm ○							
見切り、押さえ金物 材質、形状等 ※ 図示による ○							
10 合成樹脂塗床 (6.10.2) (6.10.3)							
厚膜型塗床材							
○ 弾性ウレタン樹脂系塗床材							
※ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ ○ つや消し仕上げ							
塗厚 (mm) ○							
○ エポキシ樹脂系塗床材							
※ 薄膜流し展べ仕上げ ○ 厚膜流し展べ仕上げ (○ 平滑 ○ 防滑)							
○ 樹脂モルタル仕上げ (○ 平滑 ○ 防滑)							
薄膜型塗床材							
○ エポキシ樹脂系塗床材							
11 フローリング張り (表6.11.1) ~ (表6.11.6) (6.11.2) ~ (6.11.6)							
単層フローリング							
種類	別	樹種	厚さ(mm)	下張り	工法	備考	
○ フローリング	※ なら	○ 8	※ あり	釘留め工法			
ボード 1等	○	○ 12	○ なし	○ 根太張り工法			
		○ 15	○	○ 直張り工法			
		○		○ 接着工法			
○ フローリング	※ なら	○ 8			○ 防水処理足金物付		
ブロック 1等	○	○ 15	○	○ 接着工法			
○ モザイク	○	○		○ 接着工法			
パーケット 1等							

章	項	目	特	記	事	項	
6	内装改修工事	12 畳敷き (6.12.2)	種別	○ A種	○ B種	○ C種	○ D種
		⑬ せっこうボード、その他ボード及び合板張り (6.13.2) (6.13.3)					
		種別 ※表6.13.1による JIS規格品とする (表6.13.1)					
		種類	規格	厚さ (mm)	備考		
		● せっこうボード (GB-R)	※ 12.5 (不燃)	● 9.5 (準不燃)			
		● 化粧せっこうボード (GB-D)	○ 杉板模様	○ 12.5 (不燃)			
			● トラバーチン模様 (軽敷下地は専用のものとする)				
		○ 不燃積層せっこうボード (GB-NC)	○ トラバーチン模様	※ 9.5 (不燃)			
			○ 模様なし				
		● シーディングせっこうボード (GB-S)	○ 15 (不燃)	● 12.5 (準不燃)	※ 9.5 (準不燃)		
○ 強化せっこうボード (GB-F)	○ 21 (不燃)	○ 15 (不燃)	○ 12.5 (不燃)				
○ ロックウール吸音ボード (RW-B)	※ 25	○					
○ グラスウール吸音ボード (GW-B)	※ 25	○					
○ 吸音あなあきせっこうボード (GB-P)	○ 9.5 (準不燃)						
● ロックウール化粧吸音板 (DR)	内部用	フラット	○ 12 (不燃)	※ 9 (不燃)			
		立体模様	○ 15 (不燃)	※ 12 (不燃)			
	軒天用	フラット	○ 12 (不燃)	※ 9 (不燃)			
		立体模様	○ 15 (不燃)	※ 12 (不燃)			
● けい酸カルシウム板 (0.8FK)	タイプ2 (無石綿)	○ 8.0	● 6.0	○			
○ メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903 による	※ 1.2					
○ 難燃木毛セメント板	○ 30	○ 25	○ 20	○ 15			
○ 断熱木毛セメント板	○ 30	○ 25	○ 20	○ 15			
○ 普通合板	厚さ	接着の程度	表板樹種				
	板面の品質	防虫処理○行う					
○ 天然木化粧合板	厚さ	接着の程度					
	化粧板樹種	○ なら	○ しおじ	防虫処理○行う			
○ 特殊加工化粧合板	厚さ	接着の程度	化粧加工の方法				
	表面性能	○ F	○ FW	○ W	○ WS	防虫処理○行う	
○ その地下張り用合板							
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材							
※ アクリル系シーリング ○ ウレタン系シーリング ○ ジョイントコンパウンド							
合板類の張付け (表6.13.3)							
○ A種 ※ B種							
せっこうボードの目地処理 (表6.13.5)							
○ 継目処理 ● 突付け ● 目透かし							
14 壁紙張り (6.14.2) (6.14.3)							
防火性能・種類・規格・施工箇所 ※ 図示による ○ 下表による							
施行箇所	防火性能	品質・規格					
下地調整 モルタル及びプラスター面 ○ RA種 ※ RB種 (表7.2.4)							
コンクリート面 ○ RA種 ※ RB種 (表7.2.5)							
せっこうボード面 ○ RA種 ※ RB種 (表7.2.7)							
15 天井廻り縁							
⑯ モルタル塗り (6.15.2) ~ (6.15.6)							
既製目地材 ○ 適用する (形状 _____)							
床塗り 目地の設置 ※ 有り (※ 押目地 ○ _____) ○ 無し							

章 項目	特 記 事 項					章 項目	特 記 事 項					章 項目	特 記 事 項					章 項目	特 記 事 項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	<p>①7) タイル張り (6.16.2) ~ (6.16.4)</p> <p>伸縮調整目地等 床面 ※縦・横とも4m以内ごと ○ 壁面 ※図示による ○</p> <p>施工後の確認及試験 ※ 全面打診による確認を行う 浮きの確認 ※ 全面打診による確認を行う 接着力の試験 ※ 接着力試験機による引張接着強度の測定を行う ○ 行わない</p> <p>タイルの種類</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所・形状・ タイルの種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>生地</th> <th>釉薬</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐滑り性</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>工法 その他</th> </tr> <tr> <td>タイル</td> <td>50×50</td> <td>●磁器 ○陶器 ○せっ器</td> <td>●無釉 ○施釉 ●無し</td> <td>○有り ○無し</td> <td></td> <td>○有り ●無し</td> <td>※標準 ○特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td>巾木タイル</td> <td>100×100</td> <td>○磁器 ○陶器 ○せっ器</td> <td>○無釉 ●施釉 ●無し</td> <td>○有り ○無し</td> <td></td> <td>●有り ○無し</td> <td>※標準 ○特注</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○磁器 ○陶器 ○せっ器</td> <td>○無釉 ○施釉 ○無し</td> <td>○有り ○無し</td> <td></td> <td>○有り ○無し</td> <td>※標準 ○特注</td> <td></td> </tr> </table> <p>タイルの試験張り ● 行わない ○ 行う タイルの見本焼き ● 行わない ○ 行う</p> <p>18 セルフレベリング 材塗り (6.17.2)</p> <p>※種類及び品質は表6.17.11による ○ せっこう系 ○ セメント系 厚さ (mm) ○ 10 ○ 15 ○</p>						施工箇所・形状・ タイルの種類	寸法(mm)	生地	釉薬	耐凍害性		耐滑り性	役物	色	工法 その他	タイル		50×50	●磁器 ○陶器 ○せっ器	●無釉 ○施釉 ●無し	○有り ○無し		○有り ●無し	※標準 ○特注		巾木タイル	100×100	○磁器 ○陶器 ○せっ器	○無釉 ●施釉 ●無し	○有り ○無し		●有り ○無し	※標準 ○特注				○磁器 ○陶器 ○せっ器	○無釉 ○施釉 ○無し	○有り ○無し		○有り ○無し	※標準 ○特注		<p>④ 塗装工程 (7.4.2) ~ (7.15.2)</p> <p>工程の種類 (表7.4.1)~(表7.14.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>記号</th> <th>名称</th> <th colspan="3">種 別</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">SOP</td> <td rowspan="3">合成樹脂調合 ペイント塗り</td> <td>木部</td> <td>新規外部</td> <td>※A種 ○B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新規内部</td> <td>※A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>塗替え</td> <td>○A種 ※B種 (外部の場合) 工程2, 工程4は行わない) ○C種</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">CL</td> <td rowspan="3">珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき面</td> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ○B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>塗替え</td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>その他塗替え ・新規</td> <td></td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td>CL</td> <td>珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>○A種 ※B種</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">FE</td> <td rowspan="2">珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>木部</td> <td></td> <td>表7.6.1</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面及び 亜鉛めっき鋼面</td> <td></td> <td>表7.6.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">NAD</td> <td rowspan="2">珪酸樹脂系 非水分散型塗料塗り</td> <td></td> <td></td> <td>○A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">DP</td> <td rowspan="3">耐候性塗料塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ●B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ○B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td>コンクリート面及び 押出成形セメント板面</td> <td></td> <td>○A-1種 ○B-1種 ○C-1種 ○A-2種 ○B-2種 ○C-2種</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">EP-G</td> <td rowspan="3">つや有合成樹脂 エポキシペイント塗り</td> <td>コンクリート面、 モルタル面、 セラミック面、 その他ボード面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>しみ止め ○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※しみ止めシーラー (B種及びC種の場合)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">EP</td> <td rowspan="2">合成樹脂 エポキシペイント塗り</td> <td>木部</td> <td>新規</td> <td>※A種 ○B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>塗替え</td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>亜鉛めっき鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">EP-T</td> <td rowspan="2">合成樹脂 エポキシペイント塗り</td> <td>コンクリート面、 モルタル面、 セラミック面、 その他ボード面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>しみ止め ○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">EP-T</td> <td rowspan="2">合成樹脂 エポキシペイント塗り</td> <td>木部</td> <td>新規</td> <td>※A種 ○B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td></td> <td>塗替え</td> <td>○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">UC</td> <td rowspan="2">珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">LE</td> <td rowspan="2">珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">OS</td> <td rowspan="2">珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>表7.14.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">WP</td> <td rowspan="2">珪酸樹脂タイル塗り</td> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>○A種 ※B種</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					記号	名称	種 別			SOP	合成樹脂調合 ペイント塗り	木部	新規外部	※A種 ○B種 ○C種		新規内部	※A種 ※B種 ○C種		塗替え	○A種 ※B種 (外部の場合) 工程2, 工程4は行わない) ○C種	CL	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種 ○C種	亜鉛めっき面	鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種		塗替え	○A種 ※B種 ○C種			その他塗替え ・新規		○A種 ※B種 ○C種	CL	珪酸樹脂タイル塗り	○A種 ※B種			FE	珪酸樹脂タイル塗り	木部		表7.6.1	鉄鋼面及び 亜鉛めっき鋼面		表7.6.2	NAD	珪酸樹脂系 非水分散型塗料塗り			○A種 ※B種				DP	耐候性塗料塗り	鉄鋼面		○A種 ●B種 ○C種	亜鉛めっき鋼面		○A種 ○B種 ○C種	コンクリート面及び 押出成形セメント板面		○A-1種 ○B-1種 ○C-1種 ○A-2種 ○B-2種 ○C-2種	EP-G	つや有合成樹脂 エポキシペイント塗り	コンクリート面、 モルタル面、 セラミック面、 その他ボード面		○A種 ※B種 ○C種			しみ止め ○			※しみ止めシーラー (B種及びC種の場合)	EP	合成樹脂 エポキシペイント塗り	木部	新規	※A種 ○B種 ○C種		塗替え	○A種 ※B種 ○C種			鉄鋼面		○A種 ※B種 ○C種			亜鉛めっき鋼面		○A種 ※B種 ○C種	EP-T	合成樹脂 エポキシペイント塗り	コンクリート面、 モルタル面、 セラミック面、 その他ボード面		○A種 ※B種 ○C種			しみ止め ○	EP-T	合成樹脂 エポキシペイント塗り	木部	新規	※A種 ○B種 ○C種		塗替え	○A種 ※B種 ○C種	UC	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種				LE	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種				OS	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		表7.14.1				WP	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種				<p>① 塗装材料 (7.1.3)</p> <p>塗料のホルムアルデヒド等の放散量 ※F☆☆☆☆ ○</p> <p>(表7.2.1)~(表7.2.7)</p> <table border="1"> <tr> <th>素地</th> <th>種 別</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">木部</td> <td>○RA種 ※RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td>○RA種 ※RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">亜鉛めっき鋼面</td> <td>○RA種 ※RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">モルタル及び プラスター面</td> <td>○RA種 ※RB種</td> <td>ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない</td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリート面及び ALCパネル面</td> <td>○RA種 ※RB種</td> <td>ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない</td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">コンクリート面及び 押出成形セメント面</td> <td>○RA種 ○RB種</td> <td>ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない</td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">せっこうボード及び その他ボード面</td> <td>○RA種 ※RB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○RC種</td> <td></td> </tr> </table> <p>② 下地調整 (7.2.2) ~ (7.2.7)</p> <p>③ 錆止め塗料塗り (7.3.2) (7.3.3)</p> <p>錆止め塗料の種類 (表7.3.1)~(表7.3.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>塗面</th> <th>種別</th> <th>屋外</th> <th>屋内</th> <th>規格名称</th> <th>塗料種類</th> <th>塗装工程種別</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td rowspan="2">A種</td> <td rowspan="2">※</td> <td rowspan="2">※</td> <td rowspan="2">鉛・カドミウム及び亜鉛</td> <td rowspan="2">1種</td> <td>新規鉄鋼面</td> <td>見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見え隠れ部分 ○A種 ※B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td>EP-G塗</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">亜鉛めっき鋼面</td> <td rowspan="2">B種</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">水系及び亜鉛</td> <td rowspan="2">2種</td> <td>塗替え</td> <td>○A種 ○B種 ※C種</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ○B種 ○C種 塗替え</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td rowspan="2">A種</td> <td rowspan="2">※</td> <td rowspan="2">※</td> <td rowspan="2">一液反応性エポキシ樹脂及び亜鉛</td> <td rowspan="2">-</td> <td>鋼製建具</td> <td>○A種 ○B種 ○C種</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ○B種 ○C種 塗替え</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td rowspan="2">B種</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">変性エポキシ樹脂プライマー</td> <td rowspan="2">-</td> <td>鋼製建具</td> <td>※A種 ○B種 ○C種 塗替え</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具</td> <td>○A種 ○B種 ※C種</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">鉄鋼面</td> <td rowspan="2">C種</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">○</td> <td rowspan="2">水系及び亜鉛</td> <td rowspan="2">-</td> <td>鋼製建具</td> <td>○A種 ○B種 ※C種</td> </tr> <tr> <td>鋼製建具</td> <td>EP-G塗</td> </tr> </table>					素地	種 別	備 考	木部	○RA種 ※RB種		○RC種		鉄鋼面	○RA種 ※RB種		○RC種		亜鉛めっき鋼面	○RA種 ※RB種		○RC種		モルタル及び プラスター面	○RA種 ※RB種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない	○RC種		コンクリート面及び ALCパネル面	○RA種 ※RB種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない	○RC種		コンクリート面及び 押出成形セメント面	○RA種 ○RB種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない	○RC種		せっこうボード及び その他ボード面	○RA種 ※RB種		○RC種		塗面	種別	屋外	屋内	規格名称	塗料種類	塗装工程種別	備考	鉄鋼面	A種	※	※	鉛・カドミウム及び亜鉛	1種	新規鉄鋼面	見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見え隠れ部分 ○A種 ※B種 ○C種	EP-G塗		亜鉛めっき鋼面	B種	-	○	水系及び亜鉛	2種	塗替え	○A種 ○B種 ※C種	鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種 塗替え	鉄鋼面	A種	※	※	一液反応性エポキシ樹脂及び亜鉛	-	鋼製建具	○A種 ○B種 ○C種	鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種 塗替え	鉄鋼面	B種	○	○	変性エポキシ樹脂プライマー	-	鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種 塗替え	鋼製建具	○A種 ○B種 ※C種	鉄鋼面	C種	-	○	水系及び亜鉛	-	鋼製建具	○A種 ○B種 ※C種	鋼製建具	EP-G塗	<p>① 鉄筋の種類 (8.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>径 (mm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">異形鉄筋</td> <td>※SD295A</td> <td>D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※SD345</td> <td>D19以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※SD295AはF_c : 21以上の場合、壁筋及びスラブ筋に適用する</p> <p>② 溶接金網 (8.2.2)</p> <p>網目の形状、寸法 鉄線の径 (mm)</p> <table border="1"> <tr> <th>部 位</th> <th>接 合 方 法</th> <th>径 (mm)</th> <th>重ね継手の長さ</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">○</td> <td>○ 重ね継手</td> <td>※ガス圧接継手</td> <td>D19以上</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式継手</td> <td>○ 溶接継手</td> <td>8.3.4(α)による</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">○</td> <td>※ 重ね継手</td> <td>○ ガス圧接継手</td> <td>D16以下</td> </tr> <tr> <td>○ 機械式継手</td> <td>○ 溶接継手</td> <td>○ 別図表による</td> </tr> </table> <p>○ 機械式継手 種類 ○ 工法 ○</p> <p>品質確認方法、修正方法等 ○</p> <p>○ 溶接継手 種類 工法</p> <p>品質確認方法、修正方法等</p> <p>○ 鉄筋継手位置 ※ 構造図による ○ 表8.3.3による</p> <p>○ 柱に取付る梁の引張り鉄筋の定着長さ ※ 構造図による ○ 表8.3.4による</p> <p>③ 柱の帯筋 (8.3.4)</p> <p>○ H型 ※ W-I型 ○ W-II型 ○ 図示</p> <p>④ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (8.3.5)</p> <p>○ 軽量コンクリートで土に接する部分の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 ○ 塩害の受けるおそれのある部分等、耐久上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所等</th> <th>最小かぶり厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>機械式継手及び溶接継手のあき ○</p> <p>※ 構造特記による</p> <p>⑤ 壁の配筋及び補強 (8.3.7)</p> <p>⑥ 圧接完了後の試験 (8.3.8)</p> <p>試験方法 ※ 超音波探傷試験 ○ 引張試験</p>					種類	記号	径 (mm)	備 考	異形鉄筋	※SD295A	D16以下		※SD345	D19以上		○			部 位	接 合 方 法	径 (mm)	重ね継手の長さ	○	○ 重ね継手	※ガス圧接継手	D19以上	○ 機械式継手	○ 溶接継手	8.3.4(α)による	○	※ 重ね継手	○ ガス圧接継手	D16以下	○ 機械式継手	○ 溶接継手	○ 別図表による	施工箇所等	最小かぶり厚さ (mm)			<p>① コンクリートの強度 (8.1.3) (8.1.4) (8.9.2)</p> <p>コンクリートの類別 ※ I類 ○ II類</p> <p>● 普通コンクリート</p> <table border="1"> <tr> <th>打設部位</th> <th>F_c (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">構造体</td> <td>基礎</td> <td>※ 21 ○</td> <td>● 24 根巻きコンクリート</td> </tr> <tr> <td>上部</td> <td>※ 21 ○</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 軽量コンクリート</p> <table border="1"> <tr> <th>打設部位</th> <th>F_c (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>備 考</th> </tr> <tr> <td></td> <td>※ 21 ○</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 構造体コンクリートの発注強度は以下のとおりとする。 [F_c + 構造体強度補正值(S)] N/mm² (横径6.14.11によるもの及び土間コンクリートは構造体強度補正は行わない)</p> <p>② 普通コンクリートの材料 (8.2.5)</p> <p>※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントのB種 (施工箇所 _____) ○ シリカセメント ○ フライアッシュセメントのB種 (施工箇所 _____)</p> <p>骨材</p> <p>粗骨材 ※ 砂利 (JIS A5308)、砕石 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 再生骨材H ○ 高炉スラグ ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フェロニッケルスラグ ○ 再生骨材H</p> <p>細骨材 ※ 砂 (JIS A5308)、砕砂 (JIS A5005) ○ 高炉スラグ ○ 電気炉酸化スラグ ○ 鋼スラグ ○ フェロニッケルスラグ ○ 再生骨材H</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 ※ A (無害) ○</p> <p>混和材料 ○ 混和剤 ※ AE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤のI種 (JIS A6204) 防錆剤 ※ 鉄筋コンクリート用防錆剤 (JIS A 6025) ○ 混和材 ※ フライアッシュ (JIS A6201) I種、II種若しくはIV種 ○ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ○ コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) ○ コンクリート用膨脹材 (JIS A 6202)</p> <p>※ 気温による構造体強度補正值 (S) (表8.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">予想平均気温 (°C)</th> <th rowspan="2">補正值 (S)</th> <th colspan="3">期 間 (打 設 日)</th> </tr> <tr> <th>南部地域</th> <th>中部地域</th> <th>北部地域</th> </tr> <tr> <td>普通</td> <td>早強</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8以上</td> <td>5以上</td> <td>3</td> <td>3/6 ~ 6/31</td> <td>3/11 ~ 7/20</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9/11 ~ 11/15</td> <td>9/1 ~ 11/5</td> </tr> <tr> <td>0以上</td> <td>0以上</td> <td>6</td> <td>11/16 ~ 3/5</td> <td>11/ 6 ~ 3/10</td> </tr> <tr> <td>8未満</td> <td>5未満</td> <td>N/mm²</td> <td></td> <td>11/ 1 ~ 3/10</td> </tr> </table> <p>南部地域 (京都市(一部を除く)、旧八木町、旧園部町以南の市町村) 北部地域 (宮津市、旧加悦町以北の市町) 中部地域 (上記以外の市町、旧美山町及び旧京北町を含む)</p> <p>モルタル圧縮強度 _____ フロー値 _____</p> <p>合板の規格 ※ 「合板の日本規格」の「コンクリート用合板の規格」による合板 ○ 合板の材質 ※ 広葉樹合板、針葉樹合板又はこれらの複合合板 ○ 厚さ (mm) ※ 12 ○</p> <p>打放し仕上げのせき板</p> <p>※ 合板せき板を用いる場合 (表8.1.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>板 面 の 品 質</th> <th>施 工 箇 所</th> </tr> <tr> <td>○ A種</td> <td>※8.2.7(b)(1) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>● B種</td> <td>※8.2.7(b)(2) ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td>※8.2.7(b)(2) ○</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ 合板せき板を用いない場合 せき板の種類 _____</p> <p>スリーブの材質 (表8.2.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用箇所</th> <th>材 種 (規 格 そ の 他)</th> </tr> <tr> <td>水密を要する地中部分等</td> <td>※ つば付き鋼管 (JIS G3452の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)</td> </tr> <tr> <td>水密を要しない地中部分等</td> <td>※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741のVU)</td> </tr> <tr> <td>上記以外の円形スリーブ</td> <td>※ 溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上) ○</td> </tr> </table> <p>外部に面する打放し仕上げの打増し厚さ ※ 図示による ○ 20mm シアコネクターとセパレーターの兼用 ○ 可 ○ 不可</p> <p>※ フレッシュコンクリートの試験 ○ 省略する</p> <p>③ 構造体強度補正值 (8.2.5)</p> <p>④ 型枠 (せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)</p> <p>⑤ 型枠 (せき板) (8.1.4) (8.2.7) (8.7.8)</p> <p>⑥ コンクリートの試験 (8.8.2) ~ (8.8.5)</p> <p>7 軽量コンクリート (8.9.1)</p> <p>常時土又は水に直接接する部分の使用 ○ 可 ○ 不可 種別 ○ 1種 ○ 2種 施工箇所 _____ 気乾単位容積質量 _____ t/m³</p>					打設部位	F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	備 考	構造体	基礎	※ 21 ○	● 24 根巻きコンクリート	上部	※ 21 ○		打設部位	F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	備 考		※ 21 ○			予想平均気温 (°C)	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)			南部地域	中部地域	北部地域	普通	早強				8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/31	3/11 ~ 7/20				9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5	0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10	8未満	5未満	N/mm ²		11/ 1 ~ 3/10	種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所	○ A種	※8.2.7(b)(1) ○		● B種	※8.2.7(b)(2) ○		○ C種	※8.2.7(b)(2) ○		適用箇所	材 種 (規 格 そ の 他)	水密を要する地中部分等	※ つば付き鋼管 (JIS G3452の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)	水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741のVU)	上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上) ○	<p>⑧ 暑中コンクリート (8.10.2)</p> <p>※ 暑中における構造強度補正值 (S)</p> <table border="1"> <tr> <th>地 域</th> <th>日平均気温が25度を超える期間 (打設日)</th> <th>補 正 値</th> </tr> <tr> <td>北 部 地 域</td> <td>7月11日~8月31日</td> <td rowspan="3">※ 6 N/mm² ○ 3 N/mm²</td> </tr> <tr> <td>中 部 地 域</td> <td>7月21日~8月31日</td> </tr> <tr> <td>南 部 地 域</td> <td>7月1日~9月10日</td> </tr> </table> <p>9 寒中コンクリート</p> <p>※ 予想平均気温が表8.2.4に示す予想平均気温未満の場合には横仕第6章第11節 (寒中コンクリート) による。</p> <p>10 無筋コンクリート (8.11.1) (8.11.2)</p> <p>設計基準強度 ※ 18N/mm² ○ スラブ ※ 15cm又は18cm ○ セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ○ 高炉セメントB種 ○ フライアッシュセメントB種 適用箇所 ※ 標準仕様書6.14.1(e)による箇所 ○ 図示による ()</p> <p>① コンクリート車の過積載防止対策等</p> <p>受注者は、出荷伝票等を整理・保管し、監督職員の請求があった場合は、遅滞なく提出するとともに、検査時に提示しなければならない。また、ミキサ車1台毎の積載量が把握できる集計表を検査時に提出しなければならない。</p> <p>① あと施工アンカー (8.2.4) (8.12.2)</p> <p>● 金属系アンカー</p> <table border="1"> <tr> <td>引張耐力</td> <td>9.5kN</td> <td>せん断耐力</td> <td>28.0kN</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>M14</td> <td>埋込み長さ</td> <td>l=65mm</td> </tr> <tr> <td>セット方式</td> <td>※ 本体打込み式改良型</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>接合筋</td> <td>種類 SD295A</td> <td>長さ</td> <td>l=450mm</td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>D13</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>● 接着系アンカー</p> <table border="1"> <tr> <td>引張耐力</td> <td>57.6, 71.2kN</td> <td>せん断耐力</td> <td>37.4, 46.2kN</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>※ カプセル型回転・打撃式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカー筋</td> <td>※ 改修仕様表8.2.10の異形棒鋼</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>径</td> <td>M20, 22</td> <td>埋込み長さ</td> <td>l=260, 290mm</td> </tr> <tr> <td>新設壁内への定着長さ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>埋め込み配管等の調査</p> <p>範囲 ※ あと施工アンカー施工部分全て ○ 図示による 方法 ※ 鉄筋探知機(金属探知機)により調査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ○ 図示による</p> <p>性能確認試験 ※ 行わない ● 行う 施工確認試験 ※ 行う (引張試験機による引張試験 確認強度 38.4, 47.5kN) ● 行わない (金属系アンカー)</p> <p>② あと施工アンカーの試験 (8.2.4) (8.12.5)</p> <p>① 鉄骨の製作工場 (8.1.5)</p> <p>● 監督職員の承諾する工場 ※ 建築基準法第77条の5第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター又は(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵骨工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(○S ○H ○M ●R ○J) グレード」として、国土交通大臣から認定を受けた工場もしくは同等以上の能力のある工場</p> <p>② 施工管理技術者 (8.1.5)</p> <p>※ 適用する ○ 適用しない</p> <p>③ 鋼材の種類 (8.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>規格等</th> </tr> <tr> <td>SS400</td> <td>補強鋼材全般 (屋根下弦補強のsb1を除く)</td> <td>JIS G 3101</td> </tr> <tr> <td>SM400A</td> <td></td> <td>JIS G 3106</td> </tr> <tr> <td>SN400A</td> <td></td> <td>JIS G 3136</td> </tr> <tr> <td>SSC400</td> <td>屋根下弦補強のsb1</td> <td>JIS G 3350</td> </tr> </table> <p>※ 図示による</p> <p>④ 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)</p> <p>ボルトの種類 ● トルシア高力ボルト (建築基準法の認定品) ○ JIS高力ボルト (JIS B 1186) ボルト径 ● M16 すべり係数試験 ※ 行わない ○ 行う 試験方法等 ○ 図示による</p> <p>⑤ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (8.2.9) (8.20.4)</p> <p>セットの種類 ● 1種 (F8T) ボルト径 ● M20 摩擦面の処理 ● プラスト処理 (表面粗度5.0µmRz以上) ○ プラスト処理以外の特別な処理方法 ○ リン酸塩処理 ○ 図示による () ○ すべり耐力等の確認方法 ○ 試験方法等 ○ 図示による ○ _____</p>					地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値	北 部 地 域	7月11日~8月31日	※ 6 N/mm ² ○ 3 N/mm ²	中 部 地 域	7月21日~8月31日	南 部 地 域	7月1日~9月10日	引張耐力	9.5kN	せん断耐力	28.0kN	径	M14	埋込み長さ	l=65mm	セット方式	※ 本体打込み式改良型			接合筋	種類 SD295A	長さ	l=450mm	径	D13			引張耐力	57.6, 71.2kN	せん断耐力	37.4, 46.2kN	種類	※ カプセル型回転・打撃式			アンカー筋	※ 改修仕様表8.2.10の異形棒鋼			径	M20, 22	埋込み長さ	l=260, 290mm	新設壁内への定着長さ				種類の記号	使用箇所	規格等	SS400	補強鋼材全般 (屋根下弦補強のsb1を除く)	JIS G 3101	SM400A		JIS G 3106	SN400A	
施工箇所・形状・ タイルの種類	寸法(mm)	生地	釉薬	耐凍害性	耐滑り性	役物	色	工法 その他																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
タイル	50×50	●磁器 ○陶器 ○せっ器	●無釉 ○施釉 ●無し	○有り ○無し		○有り ●無し	※標準 ○特注																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
巾木タイル	100×100	○磁器 ○陶器 ○せっ器	○無釉 ●施釉 ●無し	○有り ○無し		●有り ○無し	※標準 ○特注																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		○磁器 ○陶器 ○せっ器	○無釉 ○施釉 ○無し	○有り ○無し		○有り ○無し	※標準 ○特注																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
記号	名称	種 別																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
SOP	合成樹脂調合 ペイント塗り	木部	新規外部	※A種 ○B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			新規内部	※A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			塗替え	○A種 ※B種 (外部の場合) 工程2, 工程4は行わない) ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
CL	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		亜鉛めっき面	鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			塗替え	○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		その他塗替え ・新規		○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
CL	珪酸樹脂タイル塗り	○A種 ※B種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
FE	珪酸樹脂タイル塗り	木部		表7.6.1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		鉄鋼面及び 亜鉛めっき鋼面		表7.6.2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
NAD	珪酸樹脂系 非水分散型塗料塗り			○A種 ※B種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
DP	耐候性塗料塗り	鉄鋼面		○A種 ●B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		亜鉛めっき鋼面		○A種 ○B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		コンクリート面及び 押出成形セメント板面		○A-1種 ○B-1種 ○C-1種 ○A-2種 ○B-2種 ○C-2種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
EP-G	つや有合成樹脂 エポキシペイント塗り	コンクリート面、 モルタル面、 セラミック面、 その他ボード面		○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				しみ止め ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				※しみ止めシーラー (B種及びC種の場合)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
EP	合成樹脂 エポキシペイント塗り	木部	新規	※A種 ○B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			塗替え	○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		鉄鋼面		○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		亜鉛めっき鋼面		○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
EP-T	合成樹脂 エポキシペイント塗り	コンクリート面、 モルタル面、 セラミック面、 その他ボード面		○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
				しみ止め ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
EP-T	合成樹脂 エポキシペイント塗り	木部	新規	※A種 ○B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			塗替え	○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
UC	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
LE	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
OS	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		表7.14.1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
WP	珪酸樹脂タイル塗り	鉄鋼面		○A種 ※B種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
素地	種 別	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
木部	○RA種 ※RB種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
鉄鋼面	○RA種 ※RB種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
亜鉛めっき鋼面	○RA種 ※RB種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
モルタル及び プラスター面	○RA種 ※RB種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
コンクリート面及び ALCパネル面	○RA種 ※RB種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
コンクリート面及び 押出成形セメント面	○RA種 ○RB種	ひび割れ部の補修 ○適用する ○適用しない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
せっこうボード及び その他ボード面	○RA種 ※RB種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	○RC種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
塗面	種別	屋外	屋内	規格名称	塗料種類	塗装工程種別	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
鉄鋼面	A種	※	※	鉛・カドミウム及び亜鉛	1種	新規鉄鋼面	見え掛り部分 ※A種 ○B種 ○C種 見え隠れ部分 ○A種 ※B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
						EP-G塗																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
亜鉛めっき鋼面	B種	-	○	水系及び亜鉛	2種	塗替え	○A種 ○B種 ※C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
						鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種 塗替え																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
鉄鋼面	A種	※	※	一液反応性エポキシ樹脂及び亜鉛	-	鋼製建具	○A種 ○B種 ○C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
						鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種 塗替え																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
鉄鋼面	B種	○	○	変性エポキシ樹脂プライマー	-	鋼製建具	※A種 ○B種 ○C種 塗替え																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
						鋼製建具	○A種 ○B種 ※C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
鉄鋼面	C種	-	○	水系及び亜鉛	-	鋼製建具	○A種 ○B種 ※C種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
						鋼製建具	EP-G塗																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
種類	記号	径 (mm)	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
異形鉄筋	※SD295A	D16以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	※SD345	D19以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
部 位	接 合 方 法	径 (mm)	重ね継手の長さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
○	○ 重ね継手	※ガス圧接継手	D19以上																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	○ 機械式継手	○ 溶接継手	8.3.4(α)による																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
○	※ 重ね継手	○ ガス圧接継手	D16以下																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	○ 機械式継手	○ 溶接継手	○ 別図表による																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
施工箇所等	最小かぶり厚さ (mm)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
打設部位	F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
構造体	基礎	※ 21 ○	● 24 根巻きコンクリート																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	上部	※ 21 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
打設部位	F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	※ 21 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
予想平均気温 (°C)	補正值 (S)	期 間 (打 設 日)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
		南部地域	中部地域	北部地域																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
普通	早強																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
8以上	5以上	3	3/6 ~ 6/31	3/11 ~ 7/20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
			9/11 ~ 11/15	9/1 ~ 11/5																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0以上	0以上	6	11/16 ~ 3/5	11/ 6 ~ 3/10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
8未満	5未満	N/mm ²		11/ 1 ~ 3/10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
種 別	板 面 の 品 質	施 工 箇 所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
○ A種	※8.2.7(b)(1) ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
● B種	※8.2.7(b)(2) ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ C種	※8.2.7(b)(2) ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
適用箇所	材 種 (規 格 そ の 他)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
水密を要する地中部分等	※ つば付き鋼管 (JIS G3452の黒管に厚さ6mm以上、つば幅50mm以上の鋼板を溶接したもの)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
水密を要しない地中部分等	※ 硬質ポリ塩化ビニル管 (JIS K6741のVU)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
上記以外の円形スリーブ	※ 溶融亜鉛めっき鋼板 (径200mm以下は厚0.4mm以上、径200mmを超え350mm以下は厚0.6mm以上) ○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
地 域	日平均気温が25度を超える期間 (打設日)	補 正 値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
北 部 地 域	7月11日~8月31日	※ 6 N/mm ² ○ 3 N/mm ²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
中 部 地 域	7月21日~8月31日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
南 部 地 域	7月1日~9月10日																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
引張耐力	9.5kN	せん断耐力	28.0kN																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
径	M14	埋込み長さ	l=65mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
セット方式	※ 本体打込み式改良型																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
接合筋	種類 SD295A	長さ	l=450mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
径	D13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
引張耐力	57.6, 71.2kN	せん断耐力	37.4, 46.2kN																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
種類	※ カプセル型回転・打撃式																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
アンカー筋	※ 改修仕様表8.2.10の異形棒鋼																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
径	M20, 22	埋込み長さ	l=260, 290mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
新設壁内への定着長さ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
種類の記号	使用箇所	規格等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
SS400	補強鋼材全般 (屋根下弦補強のsb1を除く)	JIS G 3101																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
SM400A		JIS G 3106																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
SN400A		JIS G 3136																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
SSC400	屋根下弦補強のsb1	JIS G 3350																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
<p>株式会社 みやこ設備設計</p> <p>一級建築士事務所 (京都府知事登録 (28A) 第02768号) 管理建築士 安井久晃 (一級建築士登録 第306115号)</p> <p>Ver. H30.04</p>															<p>京丹波町</p> <p>設計番号 _____ 設計年度 _____ 令和 元年 9月</p>					<p>工 事 名 和 知 支 所 耐 震 改 修 工 事</p> <p>図 名 建 築 改 修 工 事 特 記 仕 様 書 6</p> <p>図 番 No. A07 / 070 枚の内</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

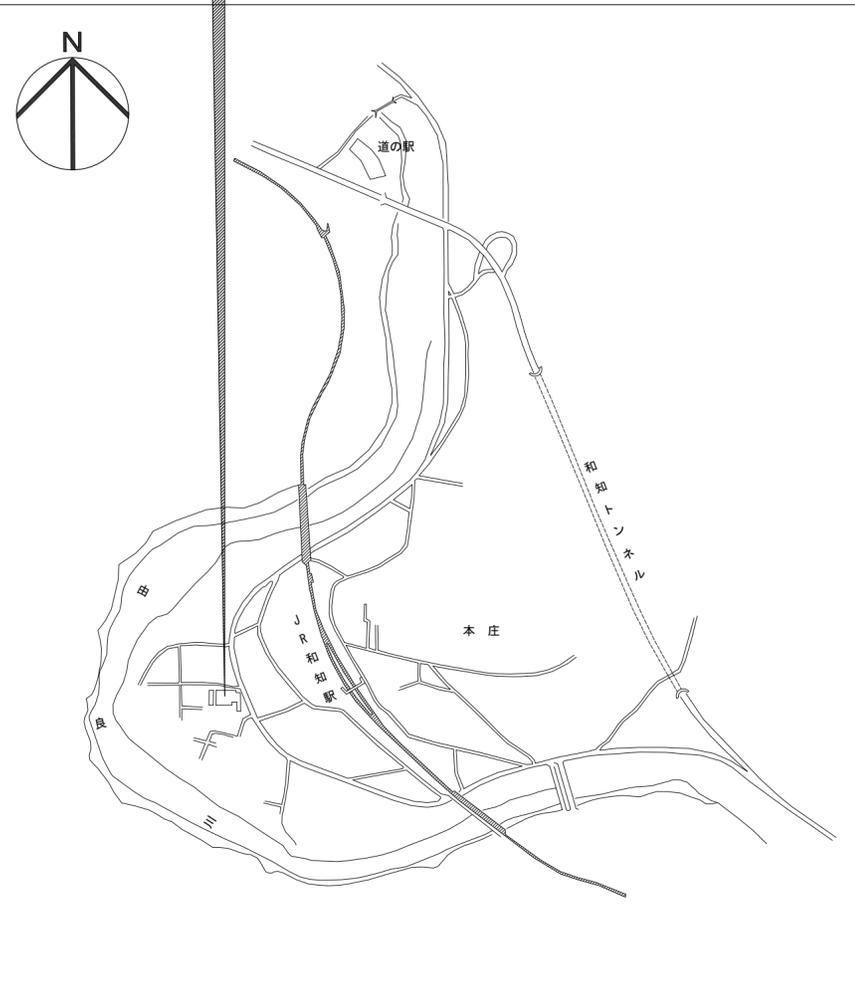
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																											
8-4 耐震補強工事(鉄骨工事)	6 溶接材料 (8.2.10)	溶接材料 ※ 改修標準仕様書8.2.10(a)(b)による ○ 図示による ○	8-5 耐震補強工事(グラウト)	①グラウト材 (8.2.11)	グラウト材 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル ○ 無収縮モルタルの調合 ※ 製造所で調合されたプレミックスタイプ ○ 現場調合形 無収縮グラウト材の品質 圧縮強度 (N/mm ²) ※ 30以上 ○ ※ 一般部コンクリートと同等以上の強度(鉄筋コンクリート壁増設工事の壁部) コンステンシーJ140-1値(秒) ※ 6~10 ○ 乾燥収縮 (10 ⁻⁴) ※ 0 ○ ※ グラウト材の品質管理は次による 圧縮強度試験 ※ 行う ○ 行わない コンステンシー試験 ※ 行う ○ 行わない	8-7 耐震補強工事(鉄骨ブレース設置工事)	1 補強工法	○ 内側補強工法 ○ 枠付き鉄骨K型ブレース ○ 枠付き鉄骨X型ブレース ○ 枠付き鉄骨類状付ブレース ○ 枠付き鉄骨マンサード型ブレース ○ 枠付き開口鉄板パネル ○ 枠付き無開口鉄板パネル 製造所及び専門業者 () ○ 外側補強工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース直付け工法 ○ 枠付き鉄骨ブレース架構増設工法 製造所及び専門業者 ()	8-8 耐震補強工事(柱補強工事)	6 連続繊維補強工法 (8.2.12)(8.24.4)	工法 ※ (一財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 ○ 材料 ※ 炭素繊維 ○ アラミド繊維 ○ ガラス繊維 性能 引張強度 N/mm ² ヤング係数 N/mm ² 製造所 製品名 柱及び梁の隅角部の面取りの大きさ ※ 炭素繊維シート ※ 20mm以上 ○ アラミド繊維シート ※ 10mm以上 ○ 仕上げモルタルの除去 ※ 構造躯体まで除去する ○ モルタル除去は行わない ひび割れ部改修 ○ 行う (○ 樹脂注入工法 ○ Uカット材充填工法) (○ シール工法 ○) ○ 行わない 炭素繊維の目付量 ※ 図示による ○ 炭素繊維シートの巻数 ※ 図示による ○ 引張り試験 ※ 行う 判定基準 () ○ 行わない 付着試験 ※ 行う 判定基準 () ○ 行わない																											
	7 工作図 (8.13.2)	高力材、普通材及び7ノード材の縁端距離、材間隔、ゲージ等 ※ 図示による (図に無い場合は鉄骨設計基準による)		②柱底等の均しモルタル(8.2.11)	無収縮モルタル材 ●使用する ○使用しない		2 既存部分の撤去 (8.22.2)	既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。		7 仕上げ (8.23.7)(8.24.5)	7 仕上げ (8.23.7)(8.24.5)	※ 図示による ○																										
	⑧版組 (8.13.10)	●実施する 部位 (鉄骨補強全般) ○ 実施しない		1 補強工法	○ 新設耐震壁 ○ 増打ち耐震壁 ○ 開口部閉鎖壁 ○ 新設柱壁 製造所及び専門業者 ()		3 既存部分の処理 (8.22.3)	目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。		8-9 耐震補強工事(耐震スリット)	1 耐震スリット新設工事 (8.25.2)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>方向</th> <th>タイプ</th> <th>耐火性能</th> <th>防水性能</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 垂直方向</td> <td>※ 完全(全貫通型)スリット</td> <td>○ 耐火型</td> <td>○ 有り</td> </tr> <tr> <td>○ 水平方向</td> <td>○ せん断型部分スリット</td> <td>○ 非耐火型</td> <td>○ 無し</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 品質・規格 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。	方向	タイプ	耐火性能	防水性能	○ 垂直方向	※ 完全(全貫通型)スリット	○ 耐火型	○ 有り	○ 水平方向	○ せん断型部分スリット	○ 非耐火型	○ 無し		○												
	方向	タイプ		耐火性能	防水性能																																	
	○ 垂直方向	※ 完全(全貫通型)スリット		○ 耐火型	○ 有り																																	
	○ 水平方向	○ せん断型部分スリット		○ 非耐火型	○ 無し																																	
		○																																				
	⑨溶接作業における技能資格者 (8.15.3)	溶接作業者の技量付加試験 ※ 行わない ○ 行う 試験の要領 ○ 図示による ○		2 既存部分の撤去 (8.21.2)	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示による ○ 本工事に支障となる最小限の範囲を撤去し既存構造体を露出させる。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ※ 図示による ○ 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示による ○		4 既存部分の処理 (8.22.3)	目荒しの程度 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。			既存鉄筋の処理 ○ はつり出し ○ 切断 ○ 存置(部分スリット) スリットの幅及び深さ ○ 図示による ○ スリットの充填材 耐火材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○ 遮音材の使用 ○ 使用する ○ 使用しない 適用箇所及び仕様 ○ 図示による ○	既存部分の撤去の補修 ※ 図示による ○																										
	⑩溶接接合 (8.15.4)(8.15.7)(8.15.10)	開先の形状 ○ 図示による ● 構造関係共通図(鉄骨設計標準図)による ○ エンドタブの切断 ○ 有 ○ 無 適用箇所 ※ 図示による ○		3 既存部分の処理 (8.21.3)	目荒しの程度 既存柱・梁 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による 壁(増打ち壁増設の場合) ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の10~15%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による		5 仕上げ (8.22.9)	※ 図示による ○			2 既存部分の処理 (8.26.6)	既存部分の撤去 (8.26.5)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。																									
	11 溶接部の試験 (8.15.11)	○ 浸透探傷試験(JIS Z 2343-1) ○ 磁粉探傷試験(JIS Z 2320-1) ※ 超音波探傷試験 工場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○ 検査水準 ※ 第6水準 ○ 第水準 現場溶接 平均出検品質限界(AOQL) ※ 全数 ○		4 鉄筋の加工及び組立て (8.21.6)	はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による		3 既存部分の処理 (8.23.3)(8.24.3)	目荒し程度 ※ 平均深さ2~5mm(max:5mm)程度の凹面を全体の15~30%の面積となるよう全体にわたって付ける。 ○ 図示による			3 既存部分の撤去 (8.26.7)(8.26.10)	1 既存部分の撤去 (8.26.5)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。																									
	⑫錆止め塗料 (7.3.2)(8.17.3)	塗料の種類 ● 鉄鋼面の錆止め塗料 ● 表7.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ 垂鉛めつき鋼面の錆止め塗料 ○ 表7.3.2による ※ A種 ○ B種 ○ C種 ○ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面(鉄骨に溶接されたものに限る) ○ 表7.3.1による ※ A種 ○ B種 ○ 耐火被覆材の接着する面への塗装 ○ 行わない ○ 行う		5 コンクリートの打込み工法(8.21.8)	はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ※ 鉄筋は曲げることなく、必要に応じてウレタン等を巻き養生する。また鉄骨は発泡スチロール等で養生する。 ○ 図示による		4 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖7-7巻き工法 (8.23.5)	柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 打ち込むコンクリート又はグラウト材の厚さ ○ mm 打込みの工法 ○ 流込み工法 ○ 圧入工法			3 支保材・減衰材 (8.26.7)(8.26.10)	2 既存部分の処理 (8.26.6)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造・既存杭の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁(増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。																									
	13 耐火被覆 (8.18.2)~(8.18.9)	種類 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>材料・工法</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 耐火材吹付け</td> <td>○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 耐火板張り</td> <td>○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 耐火材巻付け</td> <td>○ 高断熱ロックウール ○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 5張りモルタル塗り</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする 性能 <table border="1"> <thead> <tr> <th>性能</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 30分耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 1時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 2時間耐火</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 3時間耐火</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		種別	材料・工法		適用箇所(部位・部分)	○ 耐火材吹付け			○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○		○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○		○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○		○ 5張りモルタル塗り	-		性能	適用箇所(部位・部分)	○ 30分耐火		○ 1時間耐火		○ 2時間耐火		○ 3時間耐火		6 既存構造体との取合い (8.21.9)	※ 8.19.9の方法による他、以下に注意する ※ 開口周囲の既存壁をはつり、既存壁筋を露出させ、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。 ※ 開口周囲の既存壁にあと施工アンカーを打設し、これに増設する壁筋をフレアー溶接又は重ね継ぎ手により接続する。(壁が厚くW配筋の場合) ※ 開口打設部全てについてグラウト剤を注入する。(壁が薄い場合) ○ 図示による	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のモルタル剥落防止処理方法 ※ 小口裏ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工	3 支保材・減衰材 (8.26.7)(8.26.10)	2 既存部分の処理 (8.26.6)	既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スリット筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による
	種別	材料・工法		適用箇所(部位・部分)																																		
	○ 耐火材吹付け	○ 乾式吹付ロックウール ○ 半乾式吹付ロックウール ○ 湿式ロックウール ○																																				
	○ 耐火板張り	○ 繊維混入ケイ酸カルシウム板 ○																																				
○ 耐火材巻付け	○ 高断熱ロックウール ○																																					
○ 5張りモルタル塗り	-																																					
性能	適用箇所(部位・部分)																																					
○ 30分耐火																																						
○ 1時間耐火																																						
○ 2時間耐火																																						
○ 3時間耐火																																						
⑭アンカーボルト (7.2.4)(7.10.3) ※ 公共建築工事標準仕様書(028版)による。	適用 ● 構造用アンカーボルト 材質 ○ SNR400B ● SS400(貫通ボルト) アンカーフレームの形状及び寸法 ○ 図示による ○ ○ 建方用アンカーボルト 材質 ○ SS400 アンカーボルトの保持及び埋め込み工法 (表7.10.1) 種類 ○ A種 ○ B種 ○ C種 柱底均しモルタルの厚さ ○ 50mm ○ 30mm	7 仕上げ (8.21.10)	※ 図示による ○	5 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 (8.23.6)	鋼板の加工 ○ 円形 ○ 角形 ○ 柱頭のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚のスリット ○ 設ける ○ 設けない 柱脚スリットを設ける場合のモルタル剥落防止処理方法 ※ 小口裏ぎ鉄板溶接 ○ 鋼板曲げ加工	性能確認試験 項目 数量 製品検査 項目 内容 判定基準 検査頻度 防錆処置 設置位置の寸法許容差 別置の支保材又は減衰材 ○ 使用しない ○ 使用する 種類 形状 寸法 数量 設置条件																																
15 柱底均しモルタル (7.2.9)(7.10.3) ※ 公共建築工事標準仕様書(028版)による。	モルタルの種類 ※ 無収縮モルタル ○ 厚さ ※ 図示による ○ 工法 ※ A種 ○ B種					既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割裂補強筋 ※ 「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 スリット筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による																																

章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項	章	項	目	特	記	事	項																																							
8	10	耐震補強工事(免震改修)	4	仕上げ	(8.26.13)	※ 図示による <input type="checkbox"/>	8	12	耐震補強工事(基礎工事)	1	既存部分の処理等	(8.28.2)	既存杭の撤去等 ○撤去範囲及び方法 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○杭頭部の処理 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○既存杭の補強 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○既存杭の健全性を確認する試験 ○図示による () <input type="checkbox"/>	4	移動間仕切	(20.2.4)	パネル操作方法による種類 パネル表面材・仕上 パネル圧接装置の操作方法 遮音性能	9	ユニット及びその他の工事	15	ブラインドボックス カーテンボックス	○ 図示による <input type="checkbox"/> 市販品 (アルミニウム製 押出し型材) 仕様等 溝幅×深さ (mm) ※ 90×150 ○ 150×80 ○ 120×80 <input type="checkbox"/> 表面処理 ○ C-1 (無着色) ○ C-2 (着色)																																					
			5	耐火被覆	(8.26.14)	仕様 _____				2	埋戻し及び盛土	(8.28.3)	埋戻し及び盛土の種類 ○A種 適用箇所 () ○B種 適用箇所 () ○C種 適用箇所 () 土質 () 受渡場所 () ○D種 (細粒分(75µm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする) 適用箇所 () <input type="checkbox"/>	16	くつふきマット	材質 ○塩化ビニル製 (コイル状 ステンレス製 (SUS304) 受枠) ○硬質アルミニウム合金 (受枠とも) ○ステンレス製 (SUS304) (受枠とも) ○ゴム製 (ステンレス製 (SUS304) 受枠)																																											
			6	エクスパンションジョイント	(8.26.15)	仕様 _____ 工法 _____				3	埋戻し及び盛土	(8.28.3)	存置箇所 (※ 図示 <input type="checkbox"/>)	17	鋼製書架及び棚	品質・規格 _____																																											
			7	検査	(8.26.16)	項目 _____ 数量 _____				4	杭地業	(8.28.2)	支持地盤の位置及び種類 (基礎ぐいの先端位置含む) ○図示による () <input type="checkbox"/> 杭の材料、工法、寸法、施行方法等 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○試験杭の位置、本数及び寸法並びに施行方法 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○杭の継手の箇所数、材料、工法等 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○杭の溶接継手 技能資格者の技量 ○図示による () <input type="checkbox"/> 溶接部の確認 ○図示による () <input type="checkbox"/> ○杭頭の処理 ○処理する ○処理しない 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ○図示による () <input type="checkbox"/> ○杭頭の中詰め材料 ○基礎のコンクリートと同調合のもの <input type="checkbox"/> 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○ 杭径の1/4かつ100mm以下 <input type="checkbox"/> 杭の傾斜 ○1/100以内 <input type="checkbox"/> 記録する施工状況等 ○図示による () <input type="checkbox"/>	18	収納家具(木製)	品質・規格 _____																																											
			8	維持管理要領	(8.26.17)	維持管理要領に記載する項目 ※維持管理の目的 ※点検種別(○定期点検 ○応急点検 ○詳細点検) ※点検の実施時期 ※点検項目 ※統括管理体制 ※点検・検査結果の保管 <input type="checkbox"/> 維持管理に必要な計測機器の設置 ○地震計 (仕様 _____) ○下げ振り (仕様 _____) ○けがき板 (仕様 _____) ○別置き試験体 (仕様 _____) ○ _____ (仕様 _____)				5	砂利地業	(8.2.14)	材料 ○再生クラッシャーラン ○切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ ※60mm <input type="checkbox"/>	19	掲示板	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>枠の材質</td> <td>表面の材質</td> <td>照明器具</td> <td>施錠</td> <td>品質・規格</td> </tr> <tr> <td>○屋内</td> <td>※7Mニッケル製 (B-2)</td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○屋外</td> <td>※7Mニッケル製 (B-2)</td> <td></td> <td>※あり</td> <td>※あり</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ステンレス製 (SUS304)</td> <td></td> <td>○なし</td> <td>○なし</td> <td></td> </tr> </table>				枠の材質	表面の材質	照明器具	施錠	品質・規格	○屋内	※7Mニッケル製 (B-2)		—	—		○屋外	※7Mニッケル製 (B-2)		※あり	※あり			○ステンレス製 (SUS304)		○なし	○なし																		
				枠の材質	表面の材質	照明器具				施錠	品質・規格																																																
			○屋内	※7Mニッケル製 (B-2)		—				—																																																	
			○屋外	※7Mニッケル製 (B-2)		※あり				※あり																																																	
	○ステンレス製 (SUS304)		○なし	○なし																																																							
1 既存部分の撤去 (8.27.2)			既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による <input type="checkbox"/> 方法 ※ 図示による <input type="checkbox"/> 既存鉄骨の処置方法 _____			6 捨コンクリート地業 (8.28.4)			捨コンクリートの厚さ ※50mm <input type="checkbox"/>			20 カウンター			品質・規格 _____																																												
2 既存部分の処理 (8.27.3)			既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁 (増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。			9 ユニット及びその他の工事			21 洗面カウンター			材 種 ○メラミン樹脂化粧板張り (芯材:集材材)○人工大理石 (品質 図示) 奥行 (mm) ○約450 ○約600 <input type="checkbox"/>																																															
3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)			減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 はしご筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 ※以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に 縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチ の1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による			2 フリーアクセス フロア (20.2.2)			フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○ _____ 耐衝撃性能 ○ _____ ローリングロード性能 ○ _____ 耐燃焼性能 ○ _____			22 流し台ユニット			種 類 部品寸法 (mm) 規 格 仕 様 ○流し台 ○優良住宅部品 トラップ付き ○コンロ台 ○優良住宅部品 バックガード有り ○吊戸棚 ○優良住宅部品 高さ 約500 mm ○水切り棚 ○優良住宅部品 ステンレス製1段式 ○ _____																																												
8	11	耐震補強工事(制振改修)	1	既存部分の撤去	(8.27.2)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による <input type="checkbox"/> 方法 ※ 図示による <input type="checkbox"/> 既存鉄骨の処置方法 _____	5	砂利地業	(8.2.14)	材料 ○再生クラッシャーラン ○切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ ※60mm <input type="checkbox"/>	9	鏡	(20.2.9)	衝突防止表示 ※ 図示による (市販品 ※ ステンレス製 径 30 mm <input type="checkbox"/> ○ なし 法令に基づく表示 ※ 非常用出入口表示等は消防法に適合する市販品とし、その他は標準詳細図による。	23	非常用救助袋等	※ 垂直降下式緩下機は消防法に基づく国家検定に合格したものとする。 形式 ○ 傾斜式 ○ 垂直式 品質・規格 _____																																										
			2	既存部分の処理	(8.27.3)	既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁 (増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。	6	捨コンクリート地業	(8.28.4)	捨コンクリートの厚さ ※50mm <input type="checkbox"/>	10	表示・標識	(20.2.10) (20.2.11)	室名札 <table border="1"> <tr> <th>厚さ(mm)</th> <th>材</th> <th>質</th> <th>色</th> <th>書</th> <th>体</th> <th>印刷等の種類</th> <th>取付け形式</th> </tr> <tr> <td>※5</td> <td>※アクリル板</td> <td></td> <td></td> <td>※角太ゴシック</td> <td></td> <td>※シルク印刷</td> <td>○平付型</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>○アルミ板</td> <td></td> <td></td> <td>○丸</td> <td></td> <td>○</td> <td>○持出型</td> </tr> <tr> <td colspan="2">外国語表現</td> <td colspan="2">○ 行う (○ 英語 ○ _____)</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td colspan="2">寸法 (mm)</td> <td colspan="2">○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table>	厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種類	取付け形式	※5	※アクリル板			※角太ゴシック		※シルク印刷	○平付型	○	○アルミ板			○丸		○	○持出型	外国語表現		○ 行う (○ 英語 ○ _____)						寸法 (mm)		○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による						24	鍵箱	市販品 形式 ※ 釣下式 ○ 差込式 (○ 30 ○ 60 ○ 120 ○ _____) 組用 (_____) 個		
			厚さ(mm)	材	質	色	書	体	印刷等の種類	取付け形式																																																	
			※5	※アクリル板			※角太ゴシック		※シルク印刷	○平付型																																																	
			○	○アルミ板			○丸		○	○持出型																																																	
			外国語表現		○ 行う (○ 英語 ○ _____)																																																						
			寸法 (mm)		○ 50×250 ○ 60×250 ○ 図示による																																																						
			3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)			減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 はしご筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 ※以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に 縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチ の1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による			2 フリーアクセス フロア (20.2.2)			フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○ _____ 耐衝撃性能 ○ _____ ローリングロード性能 ○ _____ 耐燃焼性能 ○ _____			25 車止め			<table border="1"> <tr> <th>形</th> <th>式</th> <th>材</th> <th>質</th> <th>柱径・肉厚 (mm)</th> <th>高さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>※上下式</td> <td>額内蔵型</td> <td>※ステンレス製 (SUS304)</td> <td></td> <td>※φ76.3 t=2.0</td> <td>※GL+700</td> </tr> <tr> <td>(○スリット付き)</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○φ114.3 t=2.5</td> <td>○GL+850</td> </tr> <tr> <td colspan="2">基礎</td> <td colspan="2">無筋コンクリート造 350×350 H250程度</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>			形	式	材	質	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)	※上下式	額内蔵型	※ステンレス製 (SUS304)		※φ76.3 t=2.0	※GL+700	(○スリット付き)	○			○φ114.3 t=2.5	○GL+850	基礎		無筋コンクリート造 350×350 H250程度																		
形	式	材	質	柱径・肉厚 (mm)	高さ (mm)																																																						
※上下式	額内蔵型	※ステンレス製 (SUS304)		※φ76.3 t=2.0	※GL+700																																																						
(○スリット付き)	○			○φ114.3 t=2.5	○GL+850																																																						
基礎		無筋コンクリート造 350×350 H250程度																																																									
4 仕上げ (8.27.8)			※ 図示による <input type="checkbox"/>			9 ユニット及びその他の工事			26 フェンス			<table border="1"> <tr> <th>表面仕上等</th> <th>種</th> <th>類</th> <th>門扉の仕様</th> </tr> <tr> <td>※垂鉛めっき ○樹脂塗装</td> <td>○メッシュ</td> <td>○エキスパント</td> <td>○片開き</td> </tr> <tr> <td>○ビニル被覆 ○</td> <td>○ネット</td> <td>○</td> <td>○両開き</td> </tr> </table>			表面仕上等	種	類	門扉の仕様	※垂鉛めっき ○樹脂塗装	○メッシュ	○エキスパント	○片開き	○ビニル被覆 ○	○ネット	○	○両開き																																	
表面仕上等	種	類	門扉の仕様																																																								
※垂鉛めっき ○樹脂塗装	○メッシュ	○エキスパント	○片開き																																																								
○ビニル被覆 ○	○ネット	○	○両開き																																																								
5 検査 (8.27.9)			項目 _____ 数量 _____			3 可動間仕切 (20.2.3)			11 ブラインド (20.2.12)			10 排水工事			1 材料 (21.2.1)			本章の項目及び特記事項の()内表示番号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(平成28年版)の該当項目、該当図又は該当表を示す。 <table border="1"> <tr> <th>材 種</th> <th>(表21.2.1)</th> <th>管 の 種 類</th> <th>呼び径</th> <th>基床の厚さ</th> </tr> <tr> <td>○連心力鉄筋コンクリート管</td> <td></td> <td>※外圧管(※1種 ○2種)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td></td> <td>※VP ○VU</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管継手</td> <td></td> <td>○RS-VP ○RS-VU</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※DV</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			材 種	(表21.2.1)	管 の 種 類	呼び径	基床の厚さ	○連心力鉄筋コンクリート管		※外圧管(※1種 ○2種)			○硬質ポリ塩化ビニル管		※VP ○VU			○硬質ポリ塩化ビニル管継手		○RS-VP ○RS-VU					※DV																
材 種	(表21.2.1)	管 の 種 類	呼び径	基床の厚さ																																																							
○連心力鉄筋コンクリート管		※外圧管(※1種 ○2種)																																																									
○硬質ポリ塩化ビニル管		※VP ○VU																																																									
○硬質ポリ塩化ビニル管継手		○RS-VP ○RS-VU																																																									
		※DV																																																									
1 既存部分の撤去 (8.27.2)			既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存構造体の撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 はつりだされた鉄筋及び鉄骨の処置 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存部分が鉄骨造の場合 既存仕上げの撤去範囲 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 設備機器・配管等の撤去及び移設 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-2による。 既存鉄骨の撤去 範囲 ※ 図示による <input type="checkbox"/> 方法 ※ 図示による <input type="checkbox"/> 既存鉄骨の処置方法 _____			2 フリーアクセス フロア (20.2.2)			フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○ _____ 耐衝撃性能 ○ _____ ローリングロード性能 ○ _____ 耐燃焼性能 ○ _____			12 ロールスクリーン (20.2.13)			2 側塊、排水機及 ふた (21.2.1)			○ 側塊の形状および寸法 ※ 図示による <input type="checkbox"/> ○ 排水機の種類 ※ 図示による <input type="checkbox"/> ○ 鋼鉄製マンホールふたの種類 <table border="1"> <tr> <th>種</th> <th>類</th> <th>適用荷重 (安全荷重)</th> </tr> <tr> <td>○水封形</td> <td>○密閉形(7バーバックス式)</td> <td>○T-2用 (5KN) ○T-6用 (115KN)</td> </tr> <tr> <td>○中蓋付密閉形</td> <td>○簡易密閉形(バックス式)</td> <td>○T-20用 (50KN)</td> </tr> </table>			種	類	適用荷重 (安全荷重)	○水封形	○密閉形(7バーバックス式)	○T-2用 (5KN) ○T-6用 (115KN)	○中蓋付密閉形	○簡易密閉形(バックス式)	○T-20用 (50KN)																														
種	類	適用荷重 (安全荷重)																																																									
○水封形	○密閉形(7バーバックス式)	○T-2用 (5KN) ○T-6用 (115KN)																																																									
○中蓋付密閉形	○簡易密閉形(バックス式)	○T-20用 (50KN)																																																									
2 既存部分の処理 (8.27.3)			既存部分が鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の場合の目荒しの程度 既存柱・梁 ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。 壁 (増打ち壁増設の場合) ○ 図示による ※ 本特記仕様書8-6-3による。			3 可動間仕切 (20.2.3)			13 カーテン (20.2.14)			3 緑石 (21.3.1)			歩車道境界ブロックのJIS による呼び名 ※ A ○ _____ 地先境界ブロックのJIS による呼び名 ○ A ○ C ○ _____ 砂利地業の厚さ ※ 100mm ○ _____																																												
3 減衰材 (8.27.4) (8.27.6)			減衰材 材質 _____ 諸元 _____ 性能確認試験 項目 _____ 数量 _____ 製品検査 項目 _____ 内容 _____ 判定基準 _____ 検査頻度 _____ 防錆処置 _____ 設置位置の寸法許容差 _____ 既存部分が鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造の場合 割製補強筋 ※「スパイラル筋」又は「はしご筋(水平鉄筋と直行筋は溶接又は結束する)」 はしご筋は直径6mm以上とし、ピッチは40~60mmとする。 ○ 図示による 既存部分が鉄骨造の場合 割製補強筋 ※以下のスパイラル筋とし、鉄骨ブレース設置後、アンカー筋とスタッドを交互に 縫うように全周にわたり整然と配置する。 直径6mm以上の鉄筋とし、ピッチは40~60mmの範囲でスタッド(アンカー)ピッチ の1/3~1/6程度とする(箇所により内径が異なるので注意する) ○ 図示による			3 可動間仕切 (20.2.3)			フリーアクセスフロアの試験方法 耐荷重性能 ○ _____ 耐衝撃性能 ○ _____ ローリングロード性能 ○ _____ 耐燃焼性能 ○ _____			14 カーテンレール (20.2.14)			4 コンクリート側溝 (21.3.1)			鉄筋コンクリートL形のJIS による呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____ コンクリートU形のJIS による呼び名 ○ 250A ※ 250B ○ _____ 鉄筋コンクリートU形のJIS による呼び名 ○ 240 ○ 300A ○ 360A ○ _____ 現場打ちコンクリートの設計基準強度 $F_c(N/mm^2)$ ○ 18 ○ _____ 地業の材料 ○ C-40 ※ RC-40 ○ C-30 ○ RC-30 ○ C-20 ○ RC-20																																									

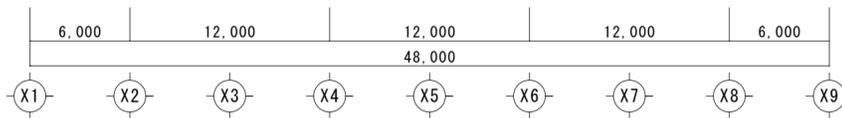
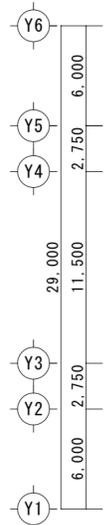
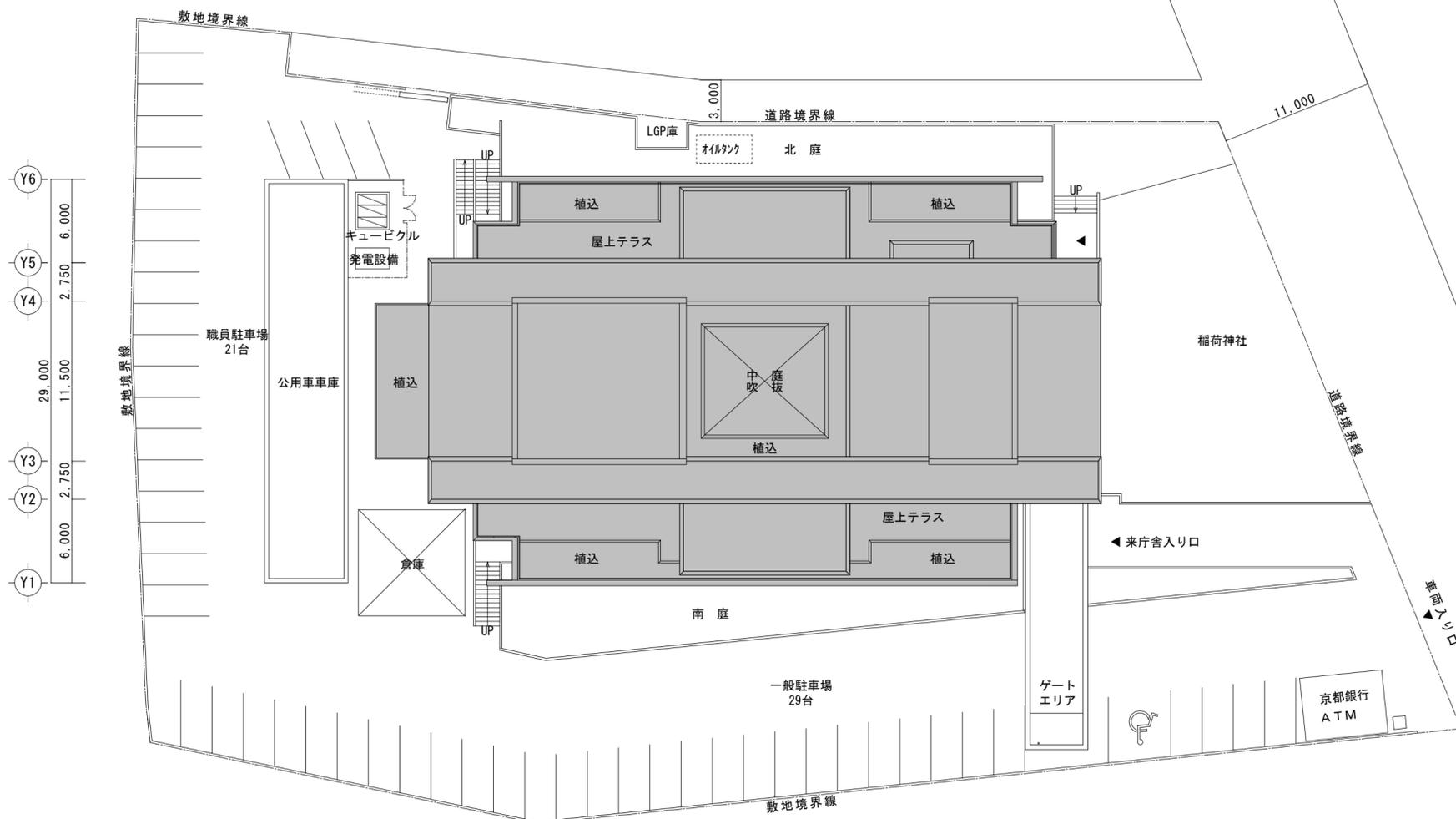
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
11	舗装工事	1 路床 (22.2.2) (22.2.3) (22.2.5)	路床の構成 ○凍上抑制層 厚さ ○ 図示による ○ ○透水性舗装 フィルター層の厚さ 車道部 ○ 図示による ○ 150mm ○ 歩道部 ○ 図示による ○ 50mm ○ 盛土に用いる材料 ○ A種 ※ B種 ○ C種 ○ D種 (表3.2.1) 路床安定処理 ○ 行う ○ 行わない 路床安定処理用材料 ※ 添加材料による安定処理 (表22.2.2) 種類 ○ 地盤改良材 () ○ 高炉セメントB種 ○ 普通ポルトランドセメント ○ 生石灰 特号 ○ 生石灰 1号 ○ フライアッシュセメントB種 ○ 消石灰 特号 ○ 消石灰 1号 添加量 _____ kg/m ³ 路床土の支持力比(GBR)試験 ○ 行う (※ 乱した土 ○ 乱さない土) 路床締固め度の試験 ※ 行う (埋戻し部、盛土部) ○ 行わない 砂の粒度試験 ○ 行う ○ 行わない	7 ブロック系舗装 (22.8.2) (22.8.3)	○ コンクリート平板舗装 種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 目地 ※ 普通平板 (N) ○ カラー平板 (O) ※ 300角 ※ 60 ※ 砂 ○ 洗出平板 (W) ○ 擬石 (S) ○ ○ ○ ○ モルタル 品質・規格 _____ ○ インターロッキングブロック舗装 種類 厚さ (mm) 色彩及び表面加工等 ※ 標準ブロック ○ 京エレンガ 車路 ※ 80 ○ ※ 標準品 ○ 透水性ブロック 歩行者用 ※ 60 ○ 80 ○ ○ 植生ブロック ○ 60 ※ 80 ○ 100 ○ 品質・規格 _____ ○ 舗石舗装 種類 厚さ (mm) 工法 規格品 ※ 小舗石 (花崗岩) ※ 80~100 ※ うろこ張り ※ 2等品 ○ ○ ○ ○ 品質・規格 _____ 通路 ※ A種 ○ B種 建物周囲その他 ○ A種 ※ B種 ※ 下敷きの使用材料は再生クラッシュランとする	④ アスベスト粉じん濃度測定 (9.1.1)	○ 行う 測定時期 測定場所 測定点(各施工箇所ごと) 備考 除去作業前 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 調査対象室外部付近 ○ 1点 ○ 2点 ○ 点 除去作業中 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 負圧粉じん装置の吹出し風速1m/秒以下の位置 排出吹き出し口 各 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 除去作業室外 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 除去作業後 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 点 シート養生中 除去作業後 除去作業室内 ○ 1点 ○ 2点 ○ 3点 ○ 点 シート撤去後 調査対象室外部付近 ○ 1点 ○ 2点 ○ 点 1週間以降 ※ 周囲の状況等により上記によりがたい場合は、監督職員と協議する。 ● 行わない 測定機関 ※ (公社)日本作業環境測定協会による「石綿含有の有無の判定及び石綿の含有率の測定が可能な石綿含有率分析可能機関」とする。 ○ _____ 報告書提出部数 ※ 3部 ○ _____部 施工業者 ※ 工事に相応した技術を有することを証明する資料をあらかじめ提出すること。 ○ 「吹付7ms ³ 粉じん飛散防止処理技術」について(一財)日本建築セーの建設技術審査証明事業による建築物等の施工技術及び保全技術の審査証明を取得した工法の施工業者等。 除去を行う範囲 ※ 図示による (仕上げ表による 床・壁・天井毎に種別を確認) ○ 全ての室 ○ _____ 除去工法 ※ 改修標仕9.1.3(b) (1)による ○ _____ 除去したアスベスト含有吹付け材等の飛散防止 ※ 密封処理 (二重袋梱包) 隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機、除じん機フィルタ等についても密封処理とする。 ※ 湿潤化 ○ セメント固化 ○ 溶融固化 除去物等の保管 ※ 他の建設副産物等と分別して保管する。 ※ 飛散防止措置を講ずる。 ※ アスベスト等の保管場所であることを表示を行う。 除去したアスベスト含有吹付け材等の処分 ○ 埋立処分 (管理型最終処分場) ○ 中間処理 (溶融施設) 除去を行う範囲 ※ 図示による ○ _____ 除去の方法 ※ 原形のまま手ばらし ○ 手ばらし以外 (この場合は改修標仕9.1.3(a)による隔離とする) ○ _____ 除去したアスベスト含有保温材の処分 ○ 埋立処分 (管理型最終処分場) ○ 中間処理 (溶融施設) 除去を行う範囲 ※ 図示による ○ _____ 除去の方法 ※ 湿潤化したのちに手ばらし ○ 湿潤剤等の噴霧、散水等により十分に湿潤化した状態で破砕 ○ _____ 除去したアスベスト含有成形板の処分 ● アスベスト含有せっこうボード ※ 埋立処分 (管理型最終処分場) ○ アスベスト含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板 ○ 埋立処分 (安定型最終処分場) ○ 中間処理 (溶融施設) 除去を行うアスベスト成形板の仕様 種類 厚さ (mm) 種類 厚さ (mm) ● 化粧石膏ボード ● 9.0 ○ 石綿ロックウール ○ ● ビニル床タイル ● 2.0 ○ 石綿スレート (外装・内装) ○ ○ 石綿保温材 ○ ○ 押出成形セメント板 ○ ○ けいそう土保温材 ○ ○ 化粧石綿セメント板 ○ ○ 塩基性炭酸マグネシウム保温材 ○ ● 石綿セメントけい酸加がく板 ● 6.0 ○ けい酸カルシウム保温材 ○ ○ 化粧石綿むつりけい酸加がく板 ○ ○ 親水性バークライト保温材 ○ ○ 吸音穴あき石綿セメント板 ○ ○ 繊維混入けい酸カルシウム板 ○ ● 石膏ボード ● 9.0	12 環境配慮改修工事	5 アスベスト含有吹付け材の除去 (9.1.3)	6 アスベスト含有保温材の除去 (9.1.4)	7 アスベスト含有成形板の除去 (9.1.5)
		2 路盤 (22.3.2) (22.3.3) (22.3.5)	路盤の厚さ _____ mm 材料 ※ 再生クラッシュラン (RC-40, 30, 20) ○ クラッシュラン (C-40, 30, 20) ○ ガラス鉄鋼スラグ (GS-40) 路盤締固め度の試験 ※ 行う ○ 行わない	8 砂利敷き (22.10.2)	① 一般事項 (9.1.1)	除去を行う範囲 ○ 除去工法 () ○ 封じ込め工法 () ○ 囲い込み工法 () ○ アスベスト含有保温材除去工事 ● アスベスト含有成形板除去工事 アスベスト含有建材除去後の仕上げ工事 ※ 図示による ○ _____ 施工調査 ● 行う アスベストの除去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を下記により行い、結果を図面により監督職員に提出する。 調査範囲 ※ 図示による ● 屋根裏断熱材ロックウール 調査事項 ※ アスベスト使用部位の確認 ※ アスベスト層の厚さの確認 ※ 施工範囲と工事管理区分の確認 ※ 更衣施設等の仮設計画 ※ 廃棄物等の搬出方法 ○ 行わない アスベスト含有分析 ● 行う (分析結果を監督職員に提出する) ※ JIS A 1481に基づくこと 材料名 定性分析 定量分析 屋根裏断熱材ロックウール ● (箇所数 1) ● (箇所数 1) ○ (箇所数) ○ (箇所数) ○ (箇所数) ○ (箇所数) ○ (箇所数) ○ (箇所数) サンプル数 1箇所あたり3サンプル ○ 行わない	9 白線引き	② 仕上げ工事 (9.1.1)	③ 施工調査等 (9.1.1)		
		3 アスファルト舗装 (22.4.2) ~ (22.4.6)	舗装の種類 表層 (mm) 基層 (mm) カラー舗装の種類 ※ アスファルト舗装 ※ 顔料混入加熱アスファルト混合物 アスファルト ※ 再生アスファルト ○ ストレートアスファルト 再生加熱アスファルト混合物の種類 区分 ※ 一般地域 ○ 寒冷地域 表層 ※ 密粒度アスファルト混合物 (13) ※ 密粒度アスファルト混合物 (13F) ○ 細粒度アスファルト混合物 (13) 施工 シールコート ※ 行わない ○ 行う (施工範囲 _____) アスファルト混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない アスファルト締固め度、厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない	9 白線引き	② 仕上げ工事 (9.1.1)	③ 施工調査等 (9.1.1)					
		4 コンクリート舗装 (22.5.2) ~ (22.5.6)	構成 舗装の種類 部位 厚さ (mm) 設計基準強度 (N/m ²) スランプ (cm) 早強セメント ※ 使用しない ○ 使用する 目地 注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ 種類 ○ 突合せ目地 ○ 収縮目地 ○ 伸縮調整目地 ○ 間隔 ○ 5m程度ごと ○ 4m程度ごと ○ 3m程度ごと ○ コンクリート厚さの試験 ○ 行う ※ 行わない	9 白線引き	② 仕上げ工事 (9.1.1)	③ 施工調査等 (9.1.1)					
		5 カラー舗装 (22.6.3) ~ (22.6.6)	種類 部位 配合その他 ※ 加熱系7777混合物 ○ 車路 添加剤 ○ 着色骨材 ○ 自然石 ○ 歩行者用通路 結合材 ○ 7777 ○ 石油樹脂 (添加量 _____) 7777混合物等の抽出試験 ○ 適用する ※ 適用しない 舗装の厚さ _____ mm ○ 常温系ニート工法 ○ 常温系塗布工法 着色部の下部 ○ アスファルト舗装 ○ コンクリート舗装	9 白線引き	② 仕上げ工事 (9.1.1)	③ 施工調査等 (9.1.1)					
		6 透水性舗装 (22.7.2) ~ (22.7.6)	舗装構成及び厚さ ※ 図示による ○ 表層の厚さの試験 ※ 行う ○ 行わない 開粒土7777混合物の抽出試験 ○ 行う ※ 行わない	9 白線引き	② 仕上げ工事 (9.1.1)	③ 施工調査等 (9.1.1)					
12	環境配慮改修工事	11 舗装工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	12 環境配慮改修工事	

工 事 項 目	建 築	電 気	機 械	別 途	工 事 項 目	建 築	電 気	機 械	別 途	工 事 項 目	建 築	電 気	機 械	別 途	参考メーカー			
1 一般事項	本設水道、下水、ガスの引渡しまでの使用料金	●	●	●	8 昇降機 □はEV工事	EV機械室の上げ床、床仕上げ				11 仕上げユニット等	カーテン			●	工種	メーカー名		
	本設受電後引渡しまでの電気使用料金	●	●	●		昇降路内ビット防水及び排水桁					ブラインド			●				
	監督員事務所					EV出入口扉					暗幕							
	警備保障会社の警備員	●				同上三方枠					映写スクリーン							
						軌条、中間ビーム、ブラケット等の昇降路内の鋼材一切					黒板、白板、掲示板							
						ホール押釦、インジケーター					銘板							
						天井フック					設備機器表示							
						昇降路ビット内保守用コンセント					案内板							
						同上保安用梯子及び取付け					誘導鈴（玄関の天井）							
						EV機械室受電盤1次側端子の電源及び接地線供給												
2 機械基礎	電気、機械の基礎（建築物と接して一体の物）				EV機械室受電盤及び2次側電気工事一切					12 外構	雨水排水溝、会所、蓋（下水分流方式地域の場合）							
	同上アンカーボルト、箱入れ、埋込み				昇降カゴ内スピーカー取付け				同上（下水合流方式地域の場合）									
	電気、機械の基礎（単独設置物）				同上機械室までの配線、配管				雑排水工事、会所、蓋									
	同上アンカーボルト、箱入れ、埋込み				EV用インターホン、同配線				汚水排水工事、会所、蓋									
					同上用配管（シャフト内）				下水本管への接続									
					同上用配管（シャフト外）				電力、電話引込みマンホール									
					EV監視用表示信号線（シャフト内）				植樹、客土									
					同上（シャフト外）				上水引込み工事									
					EVカゴ内の保安灯、蓄電池				給水加入金									
					EV機械室換気設備				電気ハンドホールの化粧マンホール									
3 躯体貫通	はり（S、SRC）の貫通スリーブ（鉄骨部分）	●			EV機械室内の照明（非常用照明共）				壁付きは電気	13 その他	避雷針		●					
	同上貫通補強（鉄骨穴明けを含む）	●																
	基礎立上り（RC）の貫通スリーブ（鉄筋コンクリート部分）	●	●		煙感知器連動防火戸、シャッター	●												
	同上貫通補強	●			同上用レリーズ	●	●		垂れ壁、シャッターは建築 扉は電気									
					同上用煙感知器、同配管、配線及び制御盤	●												
	壁、床の貫通スリーブ、箱入れ		●	●	防煙ダンパー													
	同上貫通補強	●			同上用配線、配管、制御盤、（作動、復帰、表示共）													
	はり、壁、床の貫通部穴埋め、躯体補修	●	●		自動ドア、電動シャッター取付け 2次側電気工事	●												
	二重スラブ内地中ばり連通管及び通気管、水抜管				同上1次側電気供給工事	●												
					屋内消火栓BOX（総合型）同起動鈕共													
4 その他の貫通	工場製作間仕切り及び床の穴明け、取付け枠、補強				同上用発信機 ベル表示灯													
	現場製作間仕切り及び床の穴明け、取付け枠、補強	●	●	●	消火器（粉末、強化液）			●										
	天井付き各種設備器具穴明け、取付け枠及び補強	●			消火器BOX	●			壁埋め込みの場合									
	同上墨出し		●	●	屋内消火栓ポンプ制御盤													
	ALC版、石等の設備機器取付け用穴明け及び補強				同上2次側の電気配線配管工事（呼水槽電極棒取付け共）													
	同上墨出し				同上1次側の電源供給、ポンプ起動回路													
	壁付き換気扇				同上外部警報盤配線配管工事													
	同上取付け貫通孔、取付け枠																	
	天井扇、中間ファン、ロスナイ等の本体取付け			●														
	同上孔明け、補強	●																
5 ガラリ・点検口等	外部取付けのガラリ	●			ガス漏れ警報機（ピコピコー般湯沸し室用）													
	外部取付けの換気ベンドキャップ			●	同上（戸外表示器）配線配管共													
	レタングリル（FS共）				同上（機械室用）													
	ドアグリル	●			給湯機取付け用壁内補強													
	点検口（床、天井、各PS）	●			吸収式冷温水発生機の制御盤及び2次側電気配線配管工事													
	マンホール				同上の1次側電源工事													
					同上の温度上昇防止サーモ、ガス洩れ警報感知器													
					同上の制御盤及び2次側電気配線配管工事													
					エアコンの屋内屋外渡り制御線及び操作回路電気工事			●										
					同上1次側電源工事			●										
6 厨房浴室湯沸洗面便所	営業用厨房器具			●	同上リモコンスイッチ			●										
	同上フード、幕板			●	ルームエアコン室内機取付け用壁内補強													
	既製品及び送り付けの流し台、ガス台、水切棚、吊戸棚				ファンコイルユニット電源送り													
	同上給排水、ガス等の接続				同上リモコンスイッチ													
	流し台等の配管バック取付け工事（配管用孔明け共）	●			上記以外の機器類の1次側、制御盤、2次側 配管配線													
	シャワーユニット				中央監視盤（遠隔発停操作、監視 故障表示機能）													
	同上の換気扇				同上各の接続端子準備工事（電気盤、消火盤）													
	風呂がま、バーナー、換気扇、給排水ガスなどの接続共				同上各機器よりの中央監視盤までの電気配管配線													
	陶器製流し			●	換気扇の設置			●										
	洗濯用防水パン	●			同上電源供給			●										
流しの排水金物	●			同上スイッチ（配管・配線共）			●											
化粧鏡			●	全熱交換機の設置			●											
同上以外の鏡	●			同上電源供給			●											
湯沸し器用フード				同上スイッチ（配管・配線共）			●											
グリーストラップ			●															
紙巻器			●															
L型手摺	●																	
7 電気室機械室	機械搬出入及び据付けフック（構造補強共）				同上電源供給			●										
	配線ビット				同上スイッチ（配管・配線共）			●										
	配管ビット（釜場、点検口共）																	
	煙突（コンクリート、鋼製共）接続フランジ共																	
	通気管、ベントキャップ																	

工事場所：船井郡京丹波町本庄地内

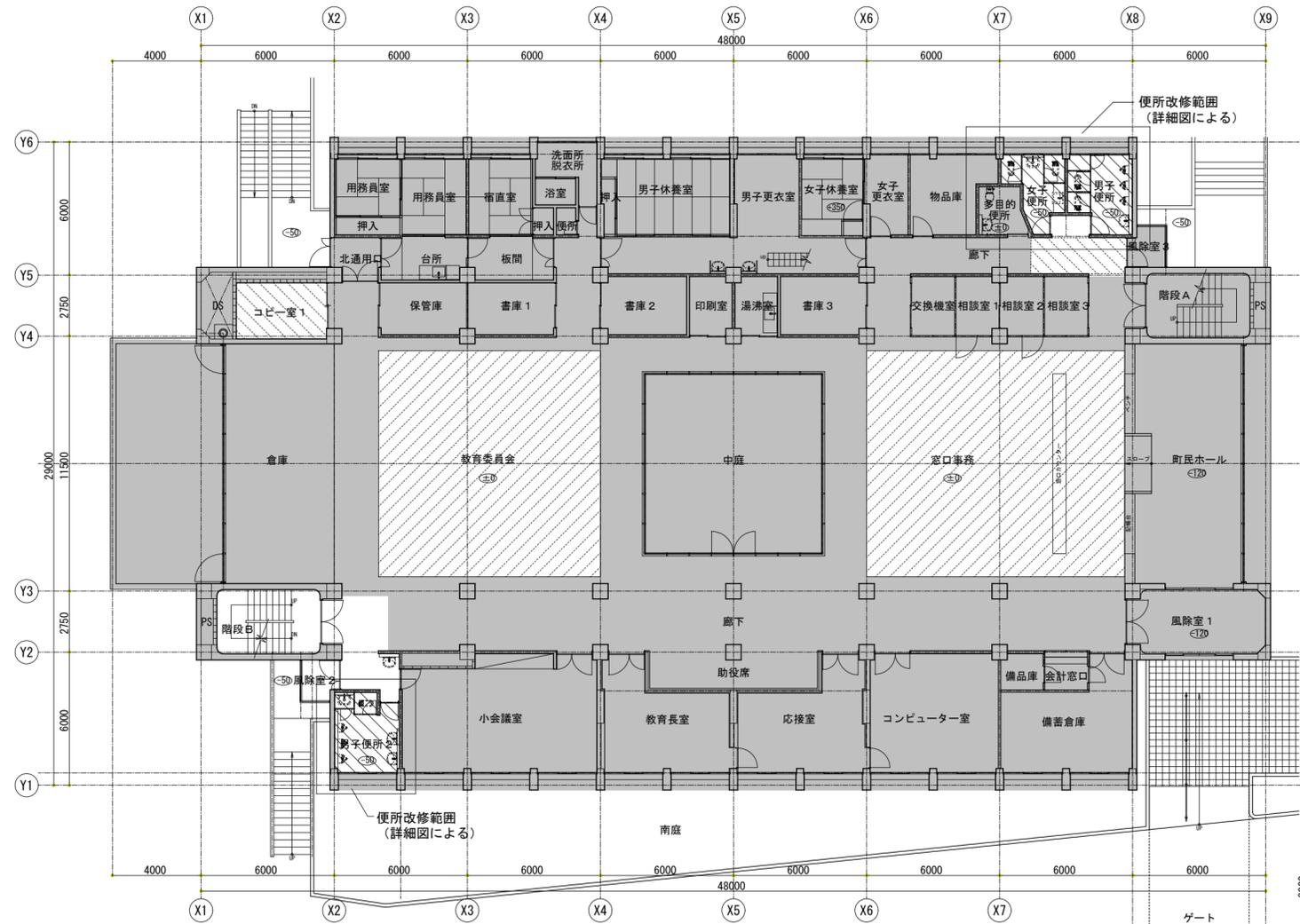


附近見取図 1/10000

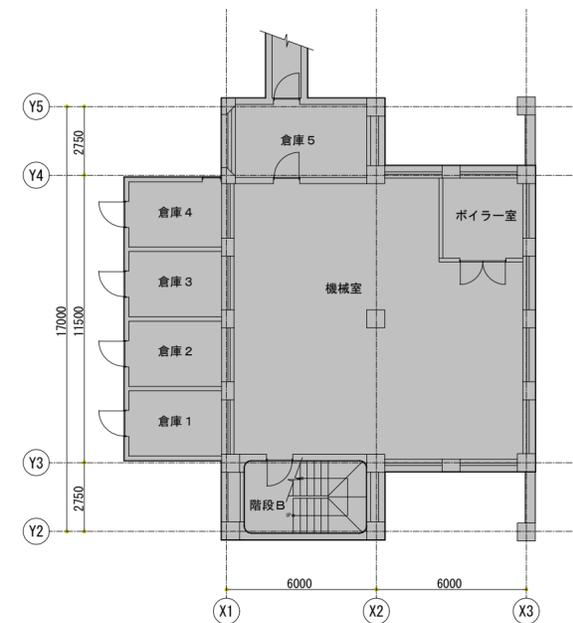


配置図 1:300

凡例	
	工事対象建築物を示す



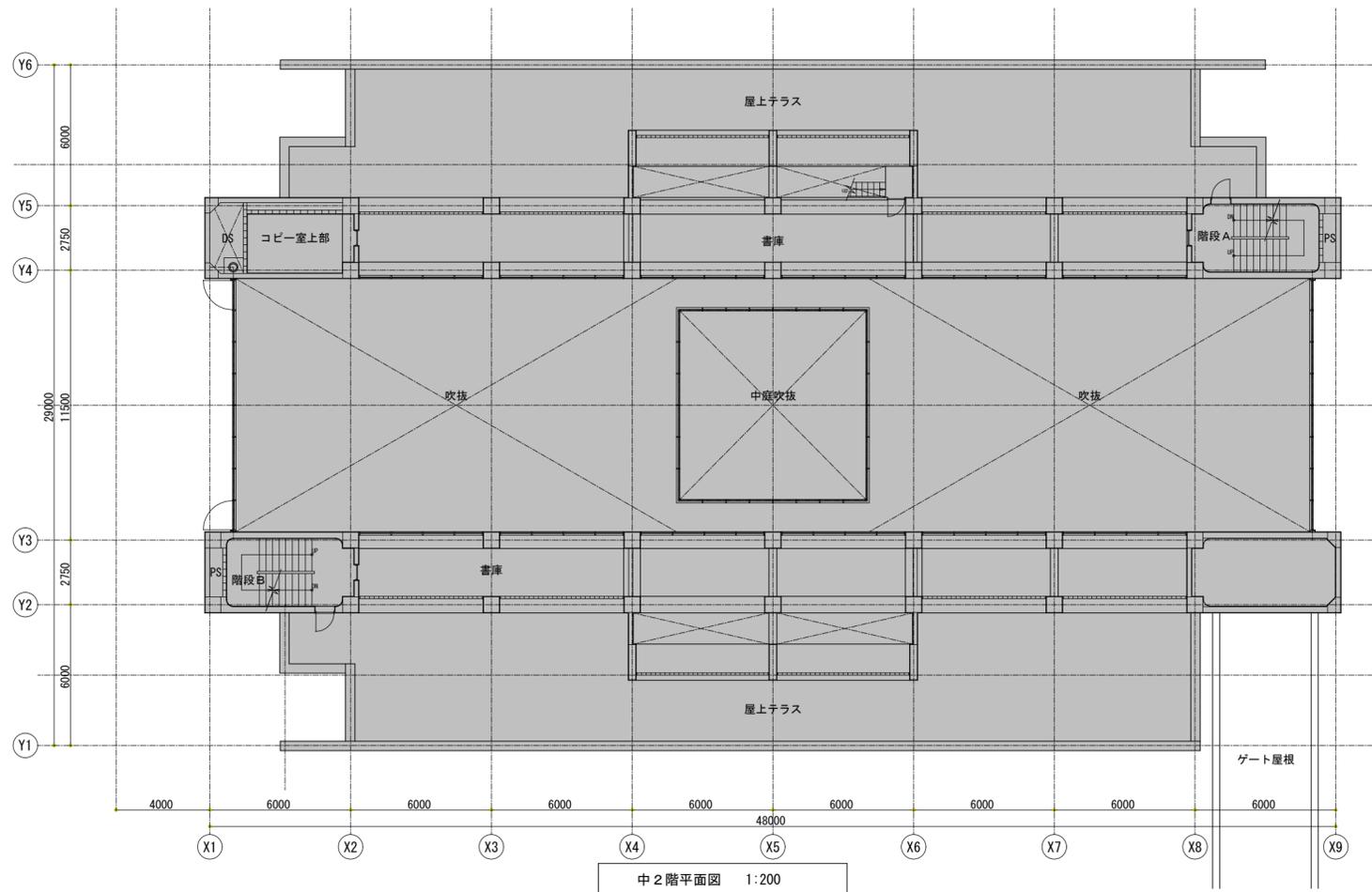
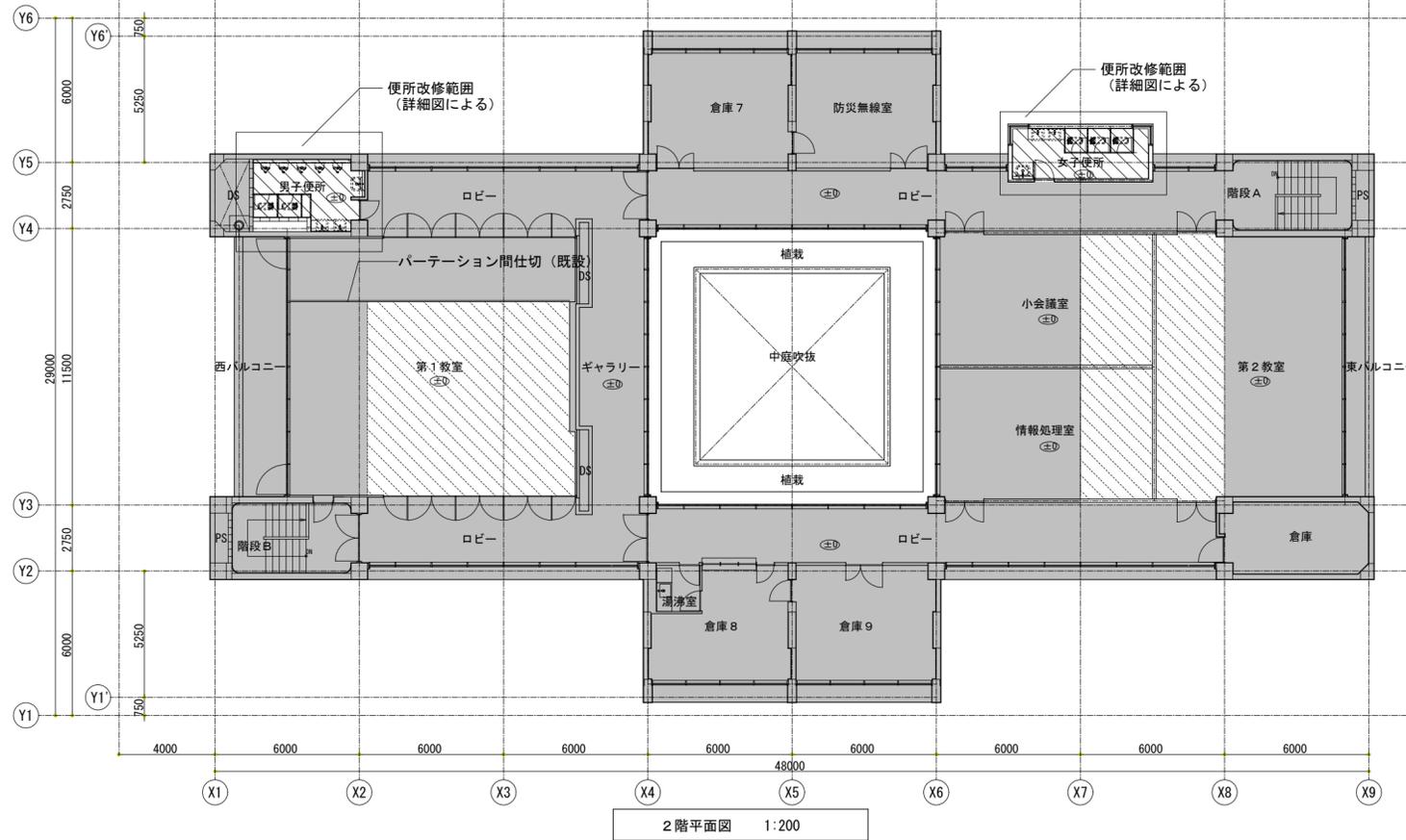
1階平面図 1:200



B1階平面図 1:200

- 【凡例】
- : 内部改修範囲を示す。
 - : 照明器具改修範囲を示す。
(天井仕上げ材は既存のまま)
 - : 天井撤去復旧範囲を示す。
 - : 改修範囲外を示す。

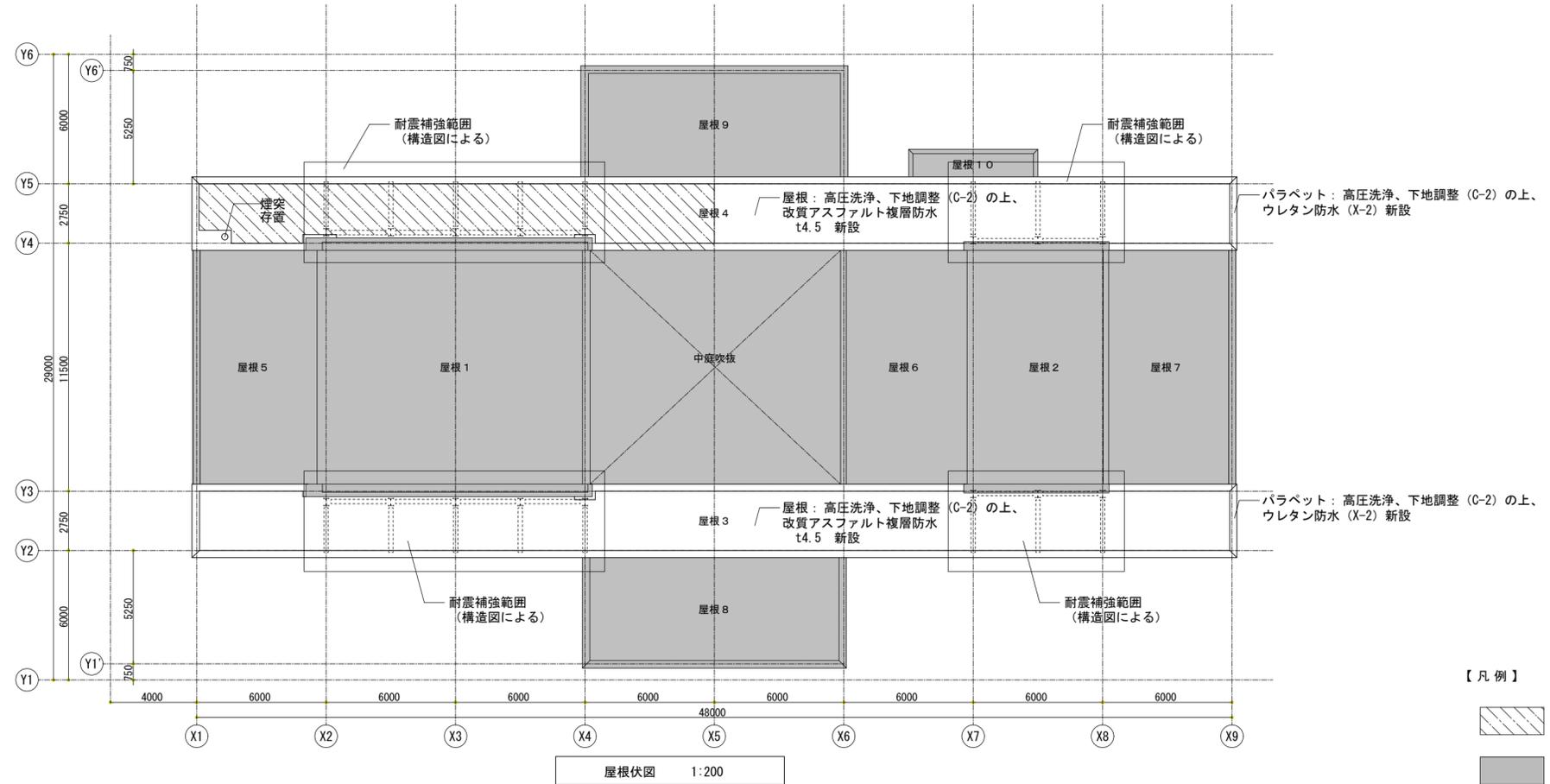
凡例	
	鉄筋コンクリート造
	補強コンクリートブロック造
	軽量鉄骨壁下地 65
	床下点検口600角
	設計GLからの高さ



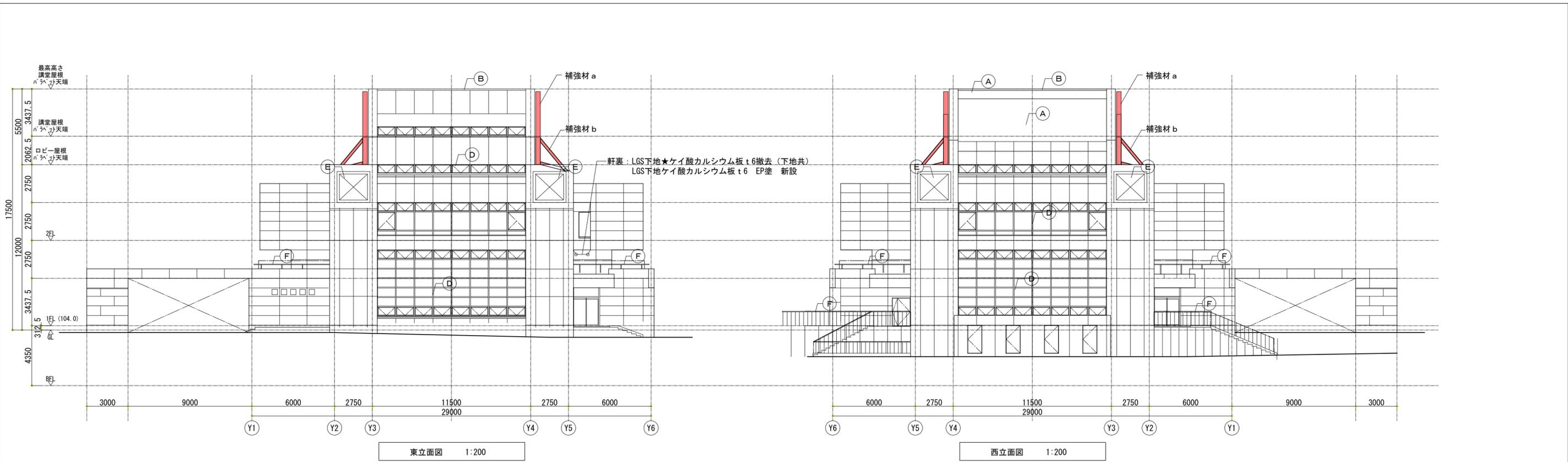
【凡例】

-  : 内部改修範囲を示す。
-  : 照明器具改修範囲を示す。
(天井仕上げ材は既存のまま)
-  : 天井撤去復旧範囲を示す。
-  : 改修範囲外を示す。

凡例	
	鉄筋コンクリート造
	補強コンクリートブロック造
	軽量鉄骨壁下地 65
	床下点検口600角
	設計GLからの高さ



- 【凡例】
-  : 既存シート防水 (機械固定式) 範囲を示す。その他はアスファルト露出防水
 -  : 改修範囲外を示す。
 -  : 耐震補強鉄骨材 (溶融垂鉛めっき) を示す。(構造図による)
 - ※1 改修範囲内全て防水改修 (改質アスファルトシート防水) とする。(パラペット平場、立上共)
 - ※2 既設防水層下部に雨水の浸入が見られる箇所は、切開の上水を抜き、補修後に防水改修を行うこと。



東立面図 1:200

西立面図 1:200



南立面図 1:200

北立面図 1:200

外部仕上

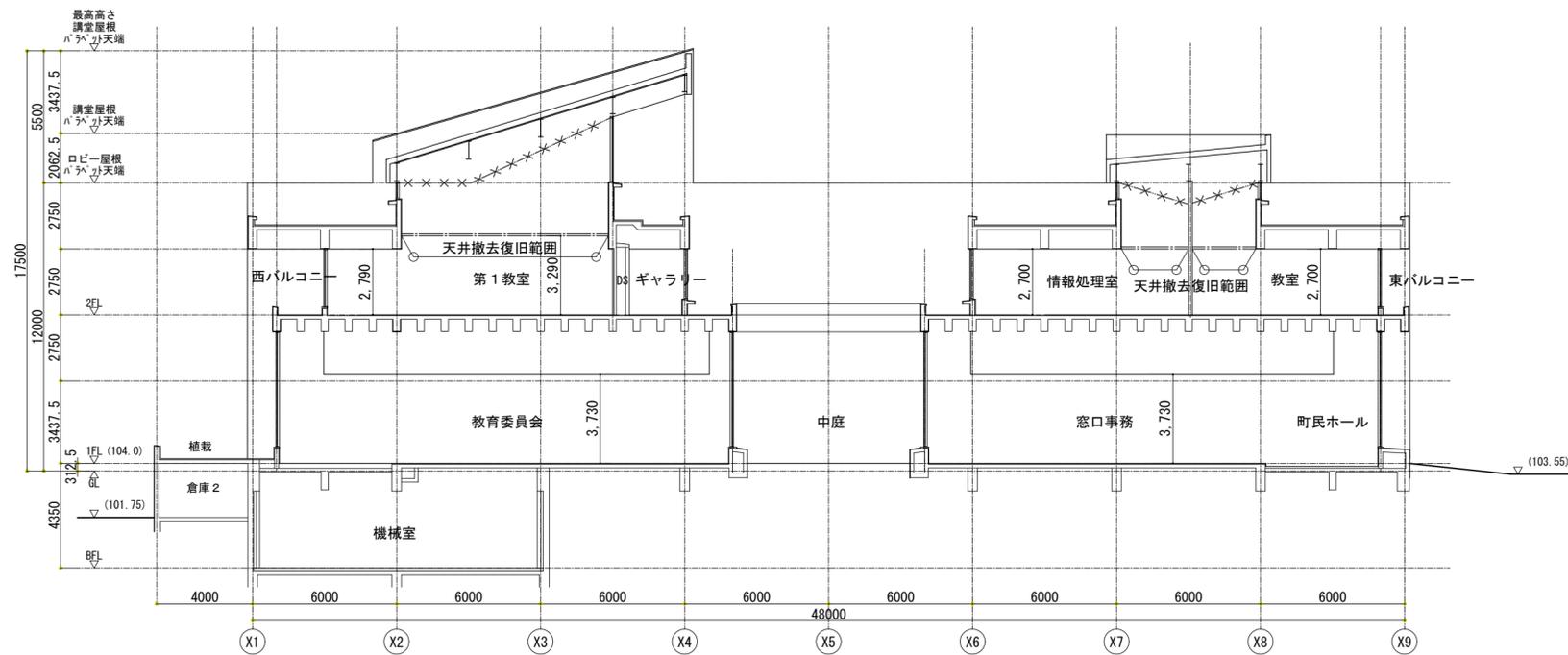
(A) アスファルト露出防水、緩衝材の上、塩ビ系シート防水 t 1.3 (S-M2)	既存のまま
(B) アルミ笠木	既存のまま
(C) コンクリート、モルタル金こて押えの上、メタラックCクリアー吹付	既存のまま
(D) 開口部: アルミ製 アルマイト処理	既存のまま
(E) ステンレス t 2.0 鏡面仕上	既存のまま
(F) 手摺: スチール 42.7φ×2.4、手摺子 21.7φ×1.9 グラファイベント	既存のまま

特記なき限りはコンクリート打放し仕上げとする。

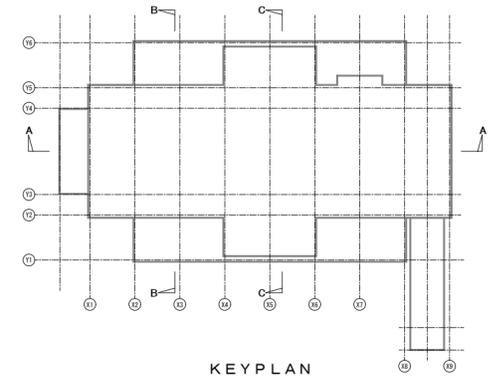
★: アスベスト含有建材を示す

凡例

	新設補強部材を示す (溶融垂鉛めっき)
a	H-340×250×9×14 (壁面)
b	H-200×200×8×12 (斜材)
c	H-200×100×5.5×8



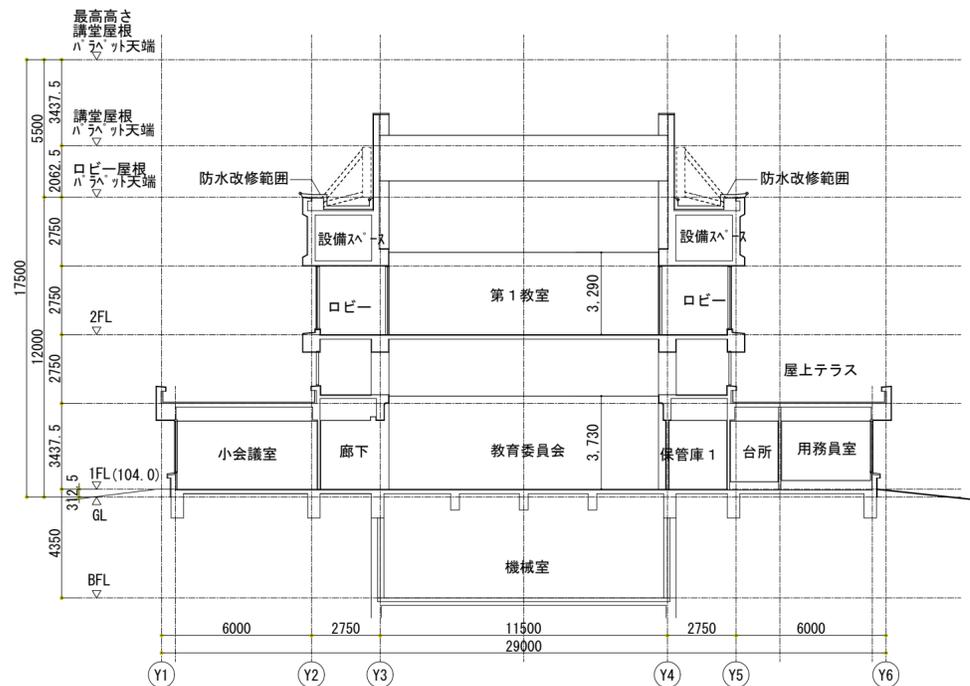
A-A断面図 1:200



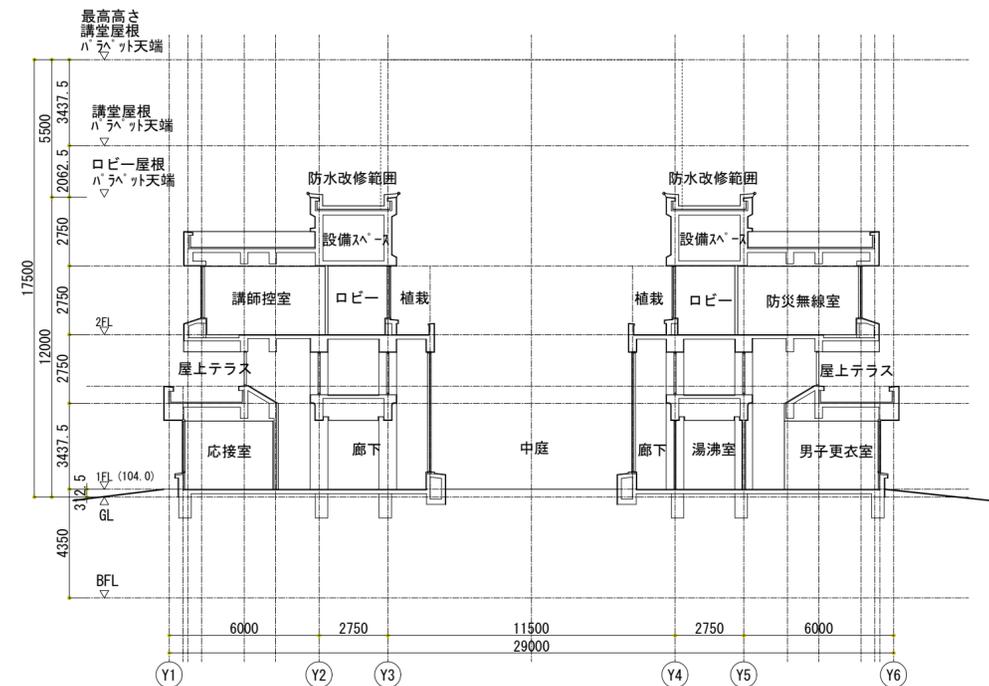
KEYPLAN

凡例

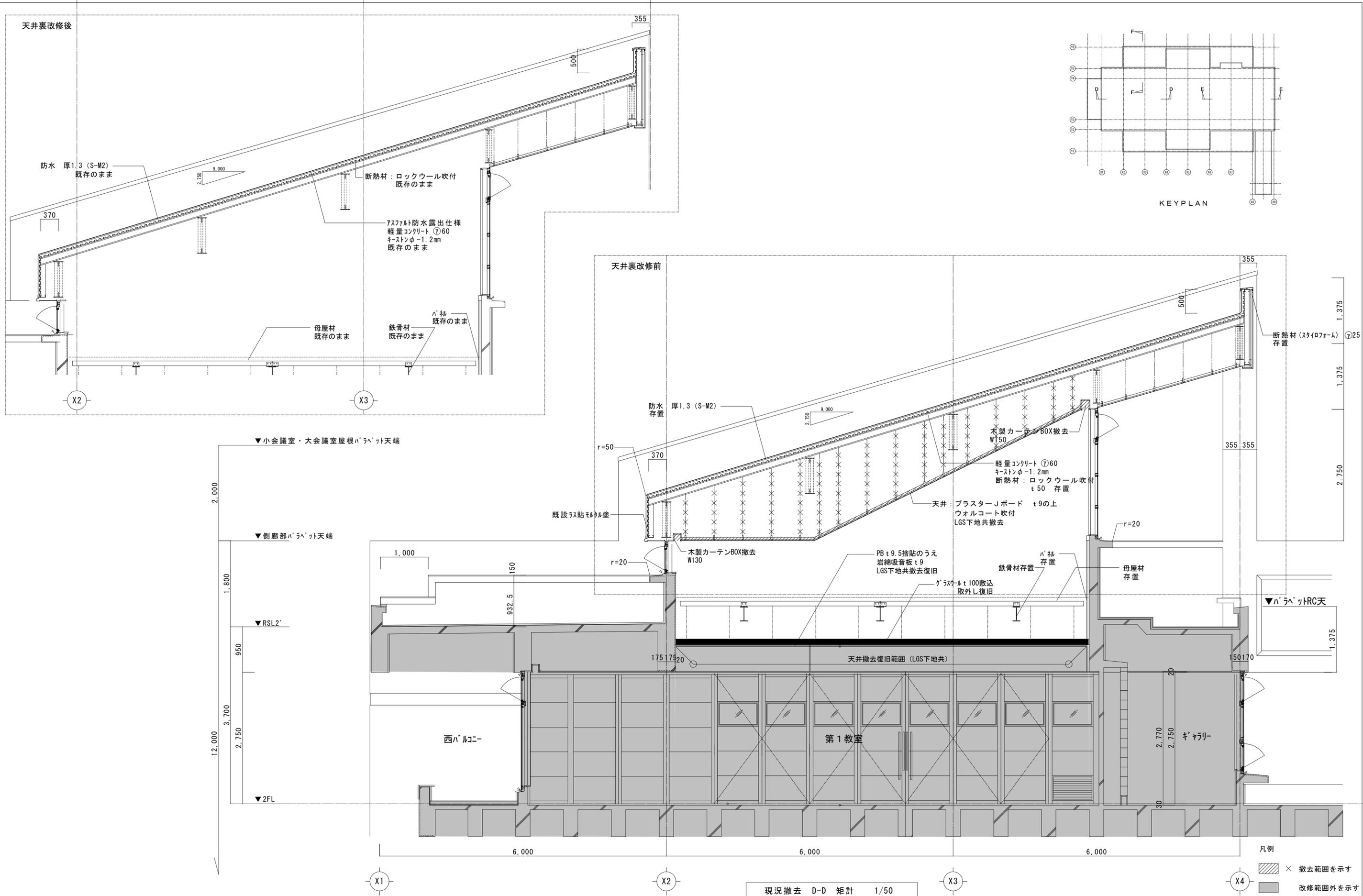
- ××× 現況撤去天井を示す
- 現況撤去復旧天井を示す
- 耐震補強材を示す

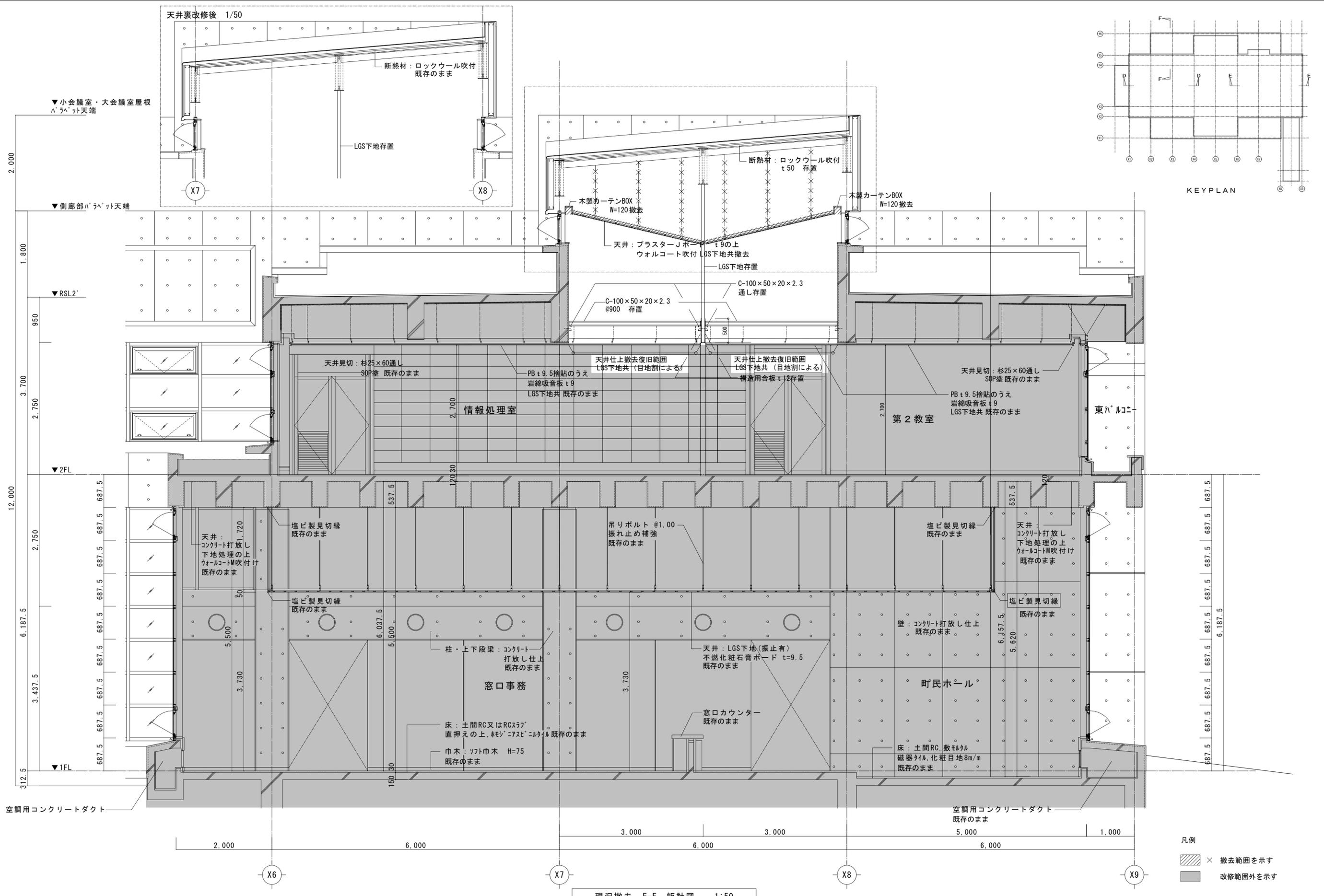


B-B断面図 1:200



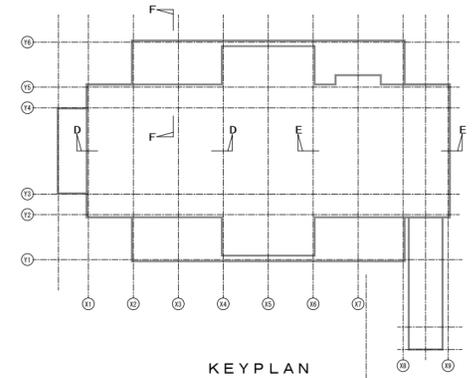
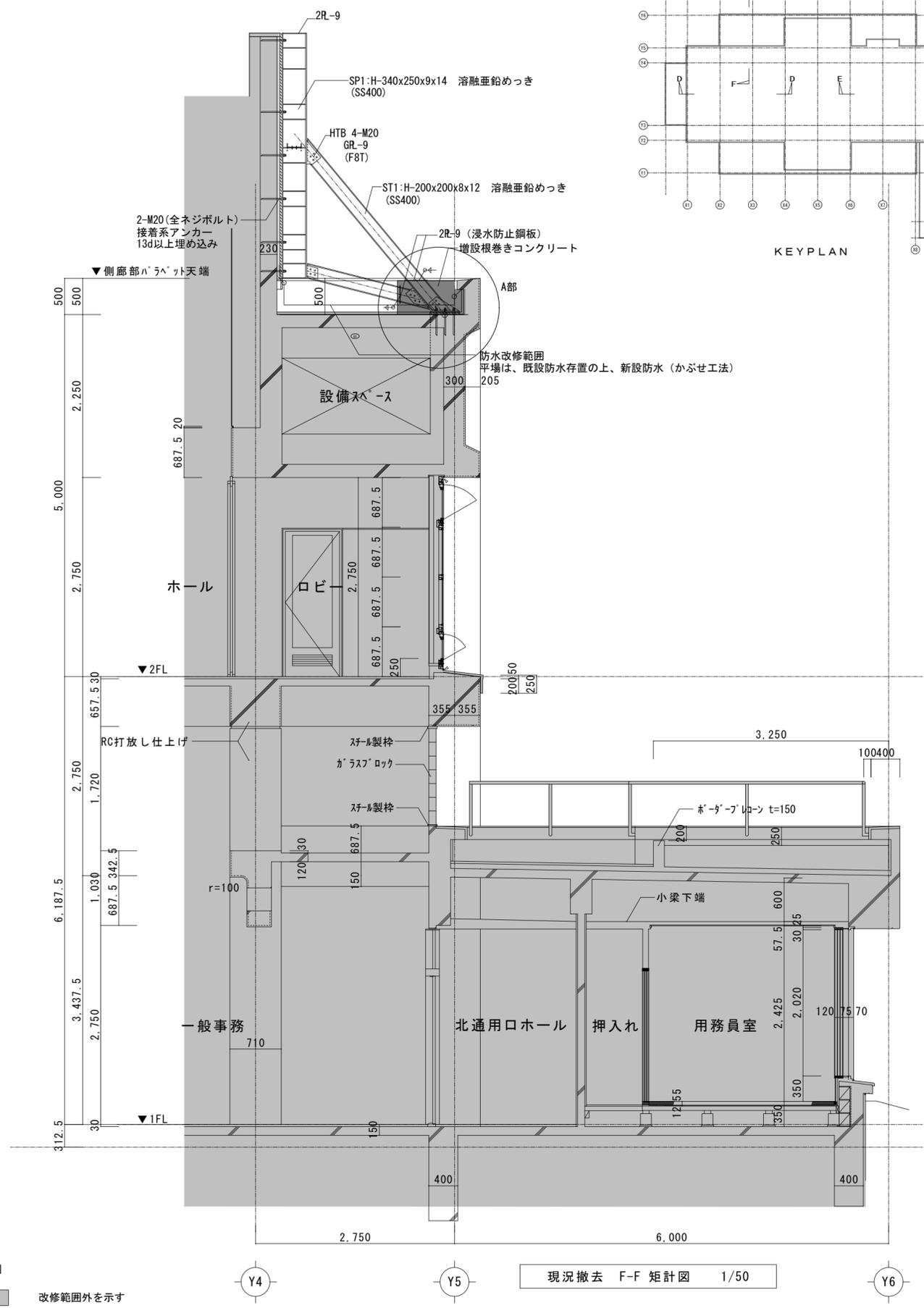
C-C断面図 1:200



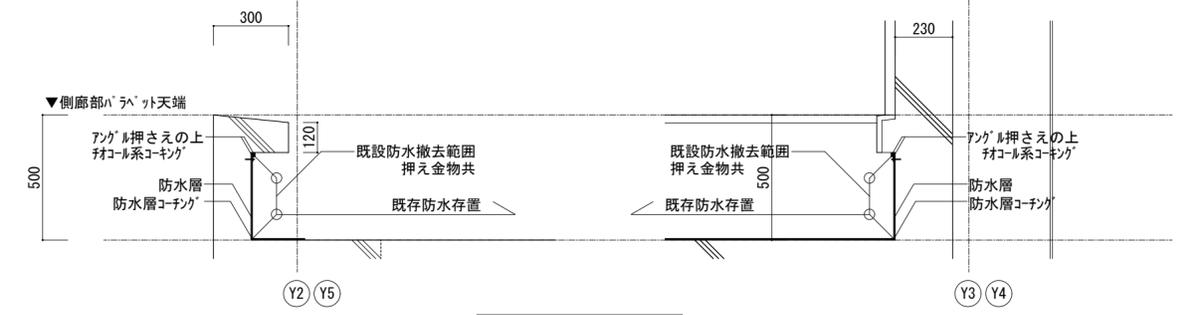


現況撤去 E-E 矩計図 1:50

- 凡例
- × 撤去範囲を示す
 - 改修範囲外を示す



一般部詳細 1/20

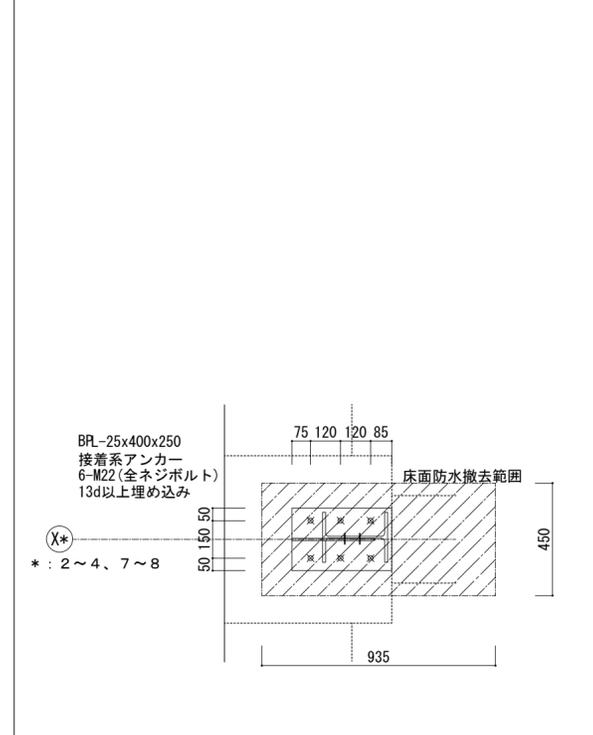


撤去 断面 1/20

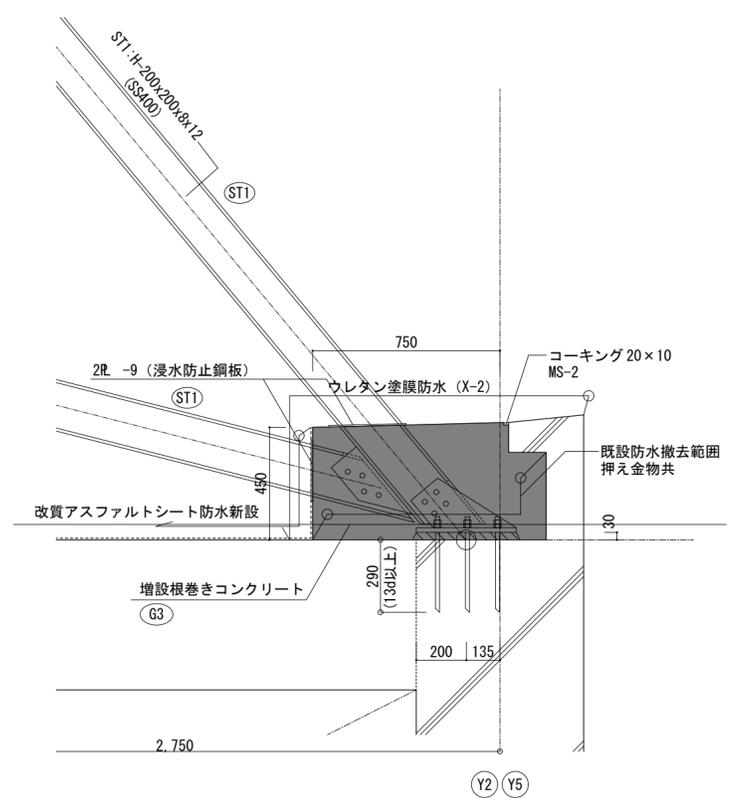


改修 断面 1/20

A部詳細 1/20

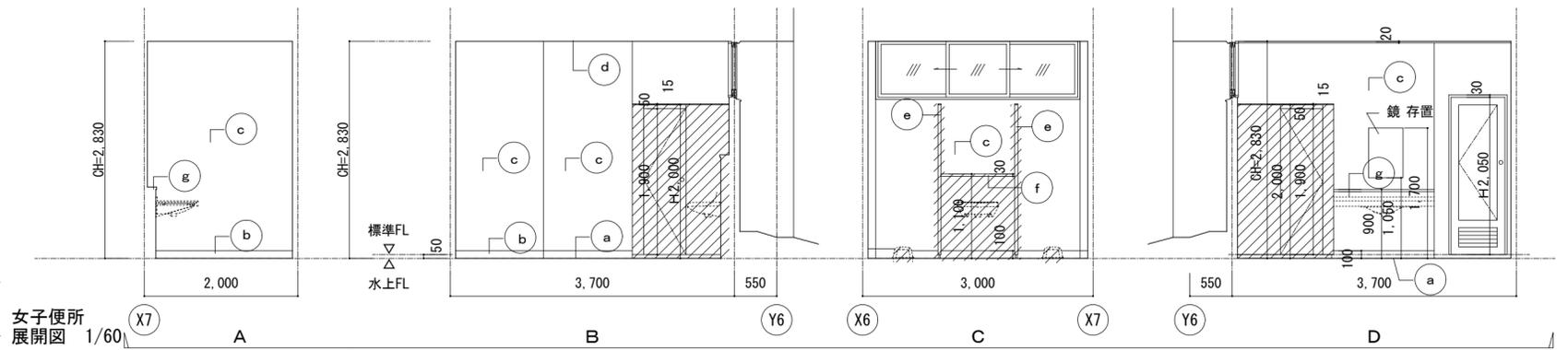
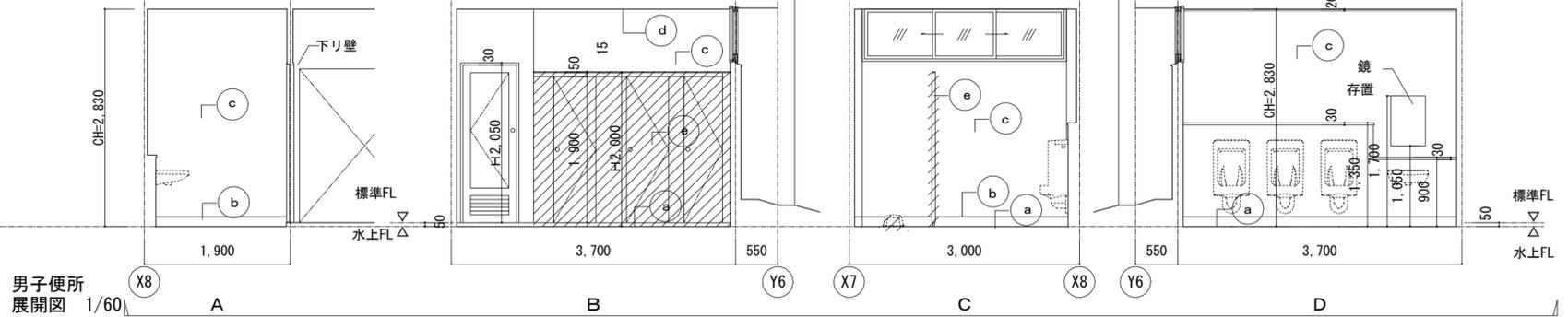
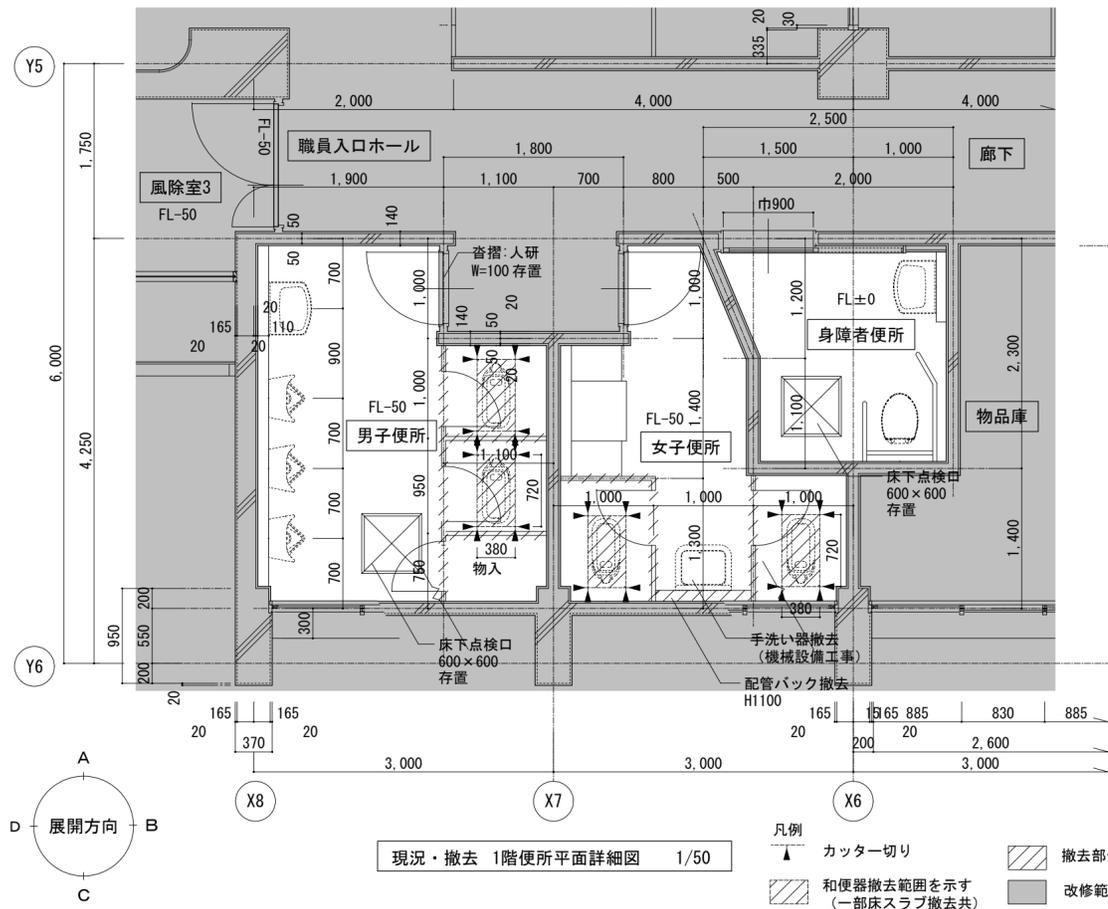


改修 BPL位置平面 1/20



改修 BPL位置断面 1/20

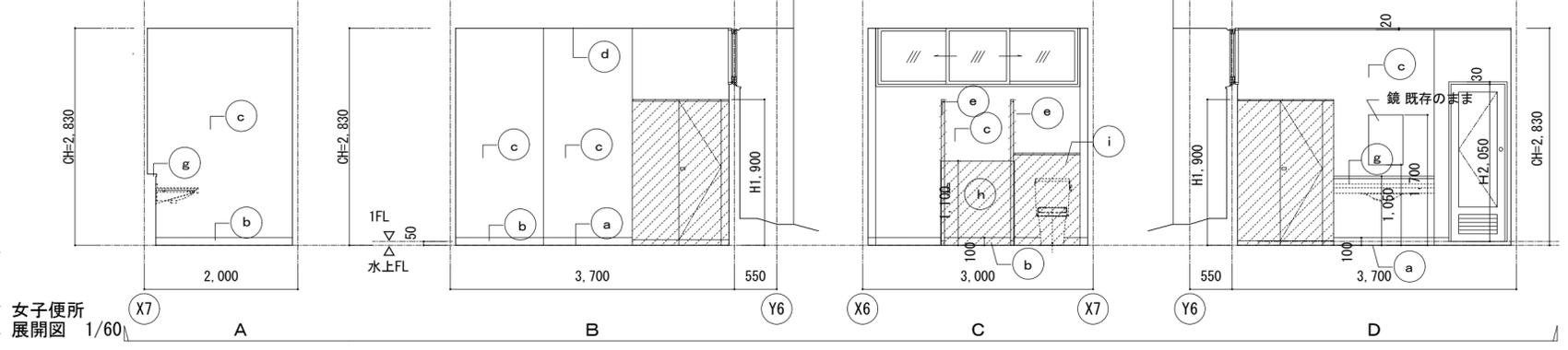
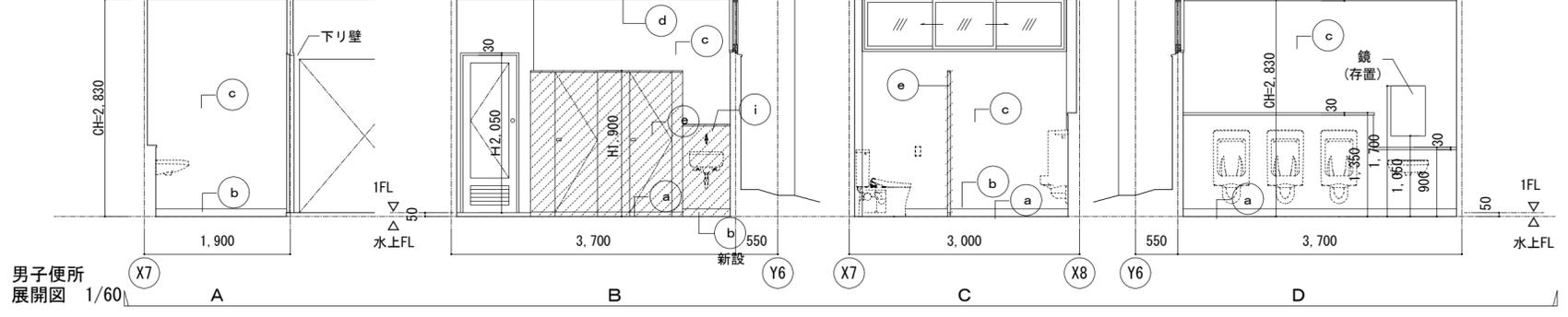
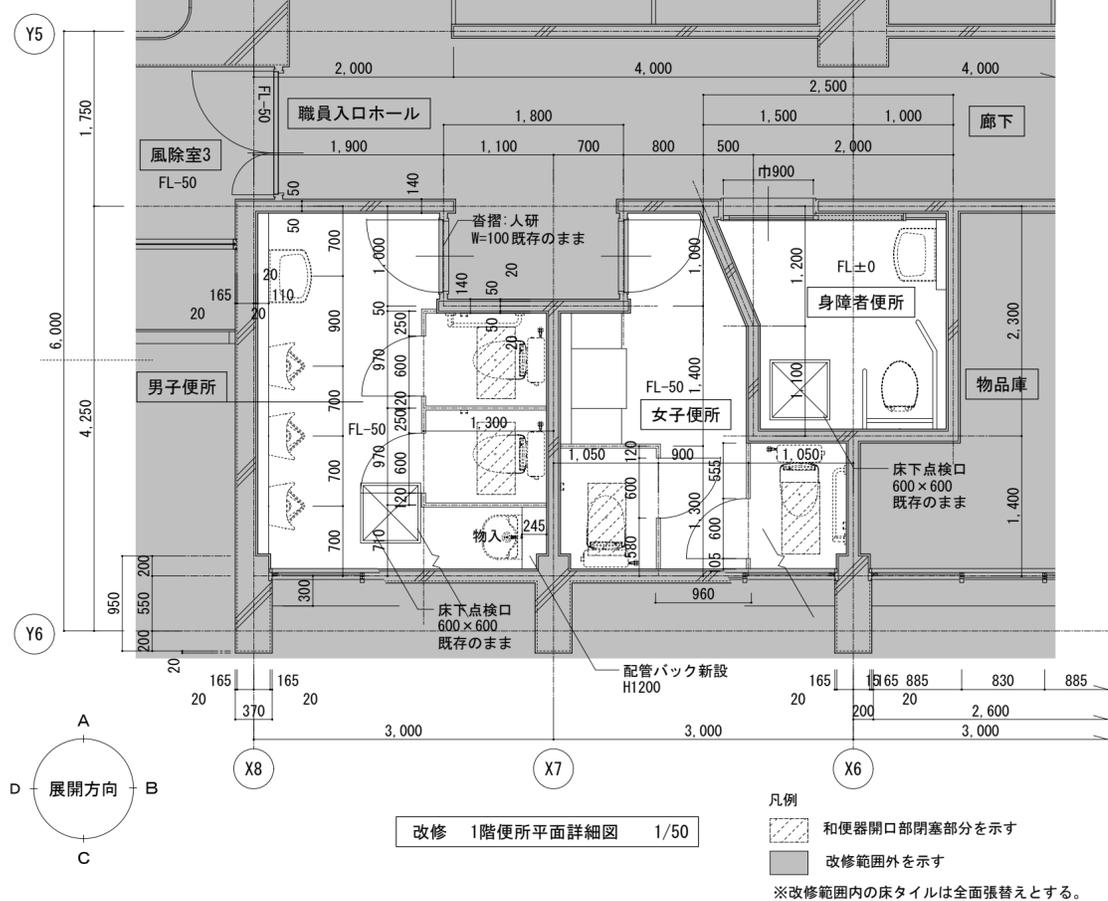
現況・撤去



仕上表 現況・撤去		凡例	
(a)	床：モルタル下地 t30、無ゆうモザイクタイル張	和便器廻り撤去	撤去
(b)	巾木：陶器質100角タイル	欠損部・改修範囲内撤去	撤去
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキ吹付	存置	存置
(d)	天井：フレキシブルボード t4 底目張 EP塗	存置	存置
(e)	トイレブース		撤去
(f)	面台人研石 w100		撤去
(g)	洗面台存置		存置

撤去部分を示す

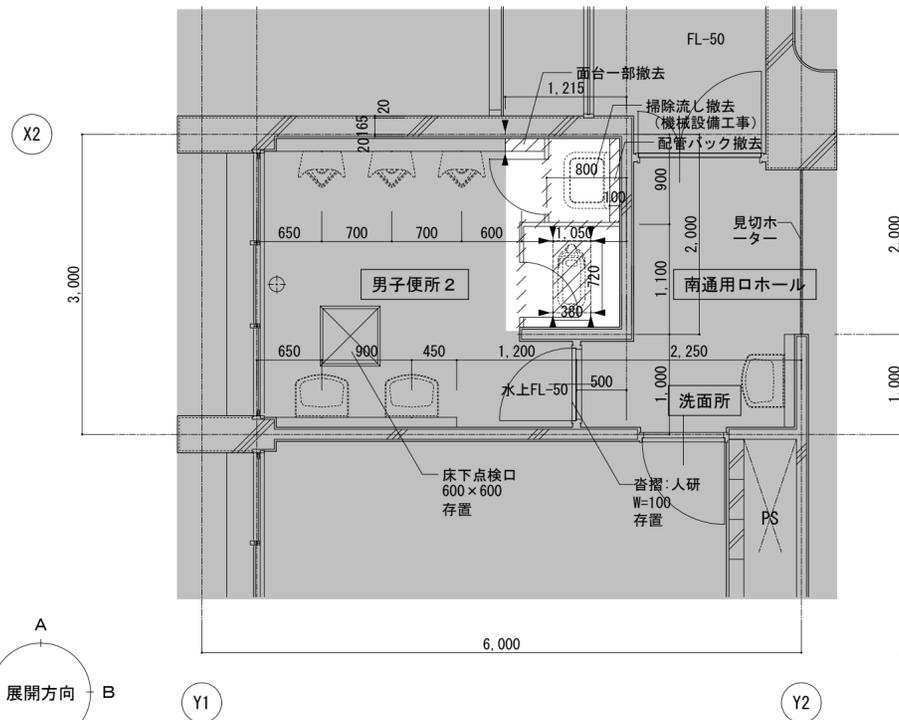
改修



仕上表 改修		凡例	
(a)	床：モルタル下地 t30、無ゆうモザイクタイル張	和便器廻り補修	新設
(b)	巾木：陶器質100角タイル	欠損部・改修範囲内新設	既存のまま
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキ吹付	既存のまま	新設
(d)	天井：フレキシブルボード t4 底目張 EP塗	既存のまま	新設
(e)	トイレブース		新設
(g)	洗面台存置		既存のまま
(h)	壁：モルタル下地 t20、内装薄塗材		新設
(i)	配管バック新設		新設

改修・新設部分を示す

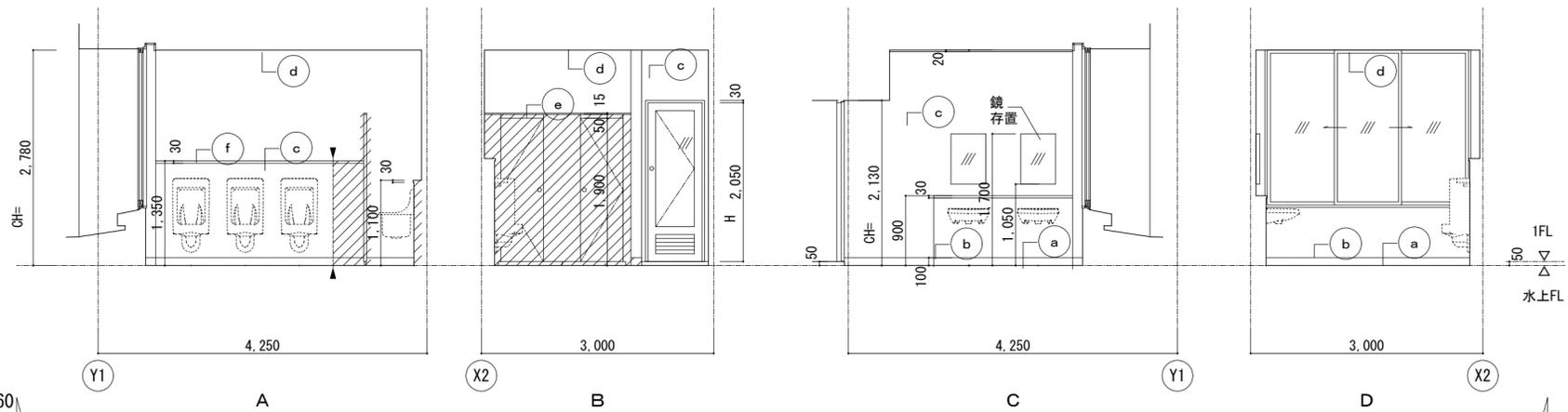
現況・撤去



現況・撤去 男子便所2 平面詳細図 1/50

- 凡例
- ▲ カッター切り
 - 和便器撤去範囲を示す (一部床スラブ撤去共)
 - 撤去部分を示す
 - 改修範囲外を示す

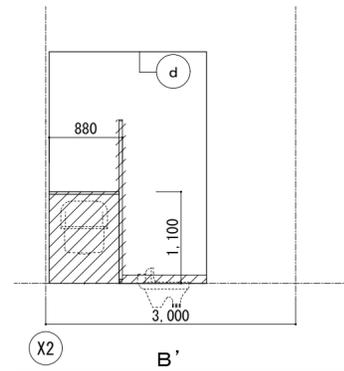
男子便所2 展開図 1/60



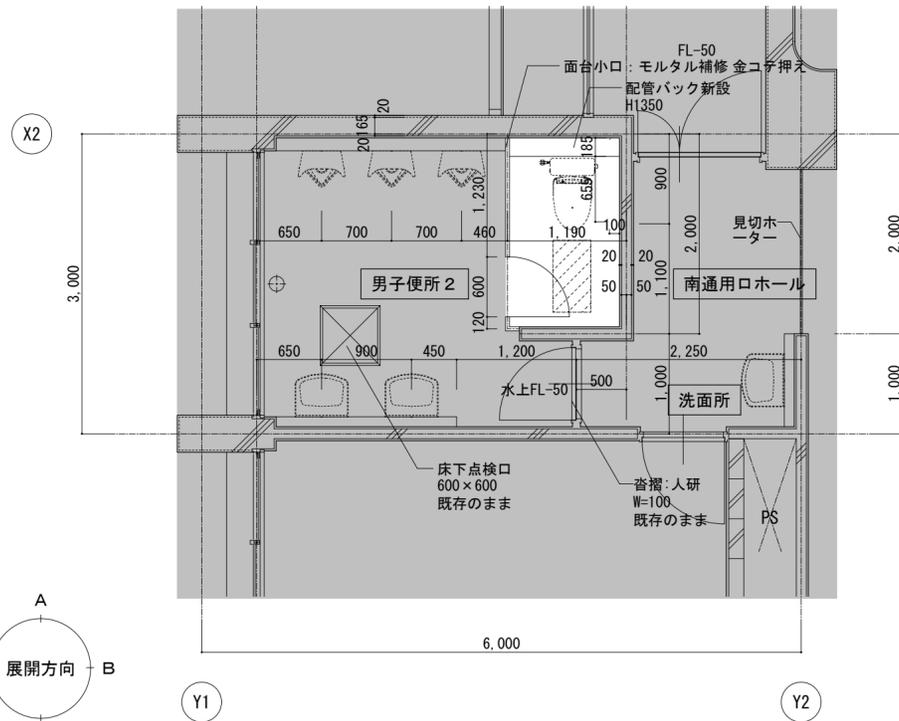
- 凡例
- ▲ カッター切り
 - 撤去部分を示す

仕上表

現況・撤去		
(a)	床：モルタル下地 t30、無ゆうモザイクタイル張	和便器廻り撤去
(b)	巾木：陶器質100角タイル	欠損部撤去
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキン吹付	存置
(d)	天井：フレキシブルボード t4 底目張 EP塗	存置
(e)	トイレベース	撤去
(f)	面台 w100	存置



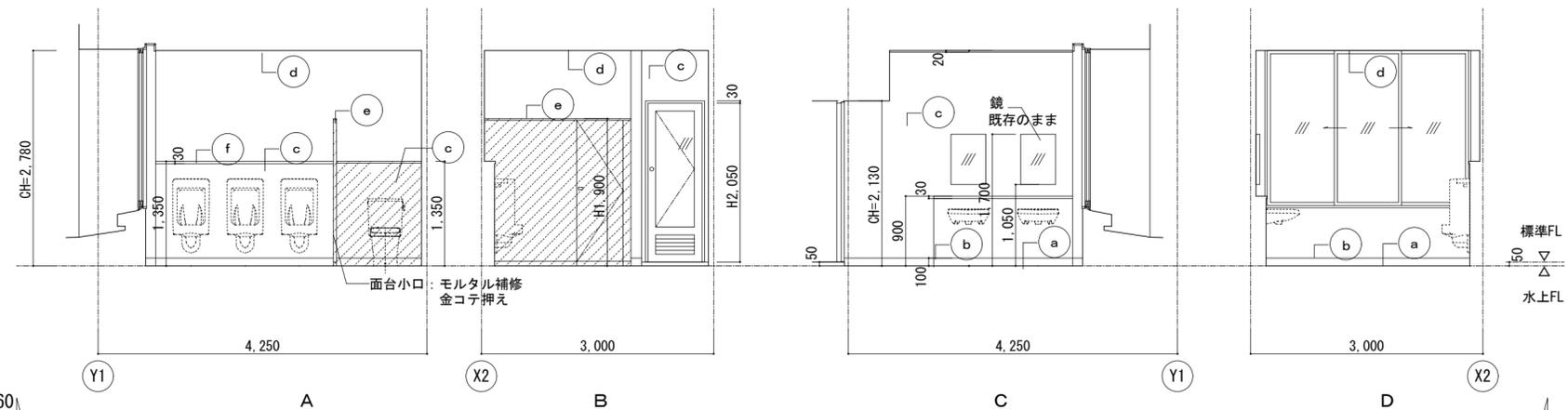
改修



改修 男子便所2 平面詳細図 1/50

- 凡例
- 和便器開口部閉塞部分を示す
 - 改修範囲外を示す
 - ※改修範囲内の床タイルは全面張替えとする。

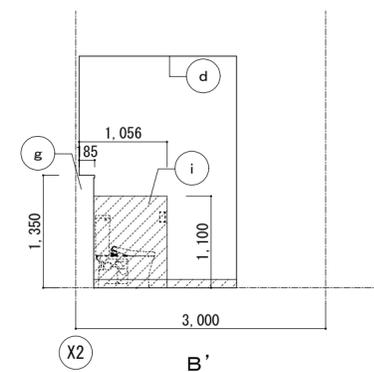
男子便所2 展開図 1/60



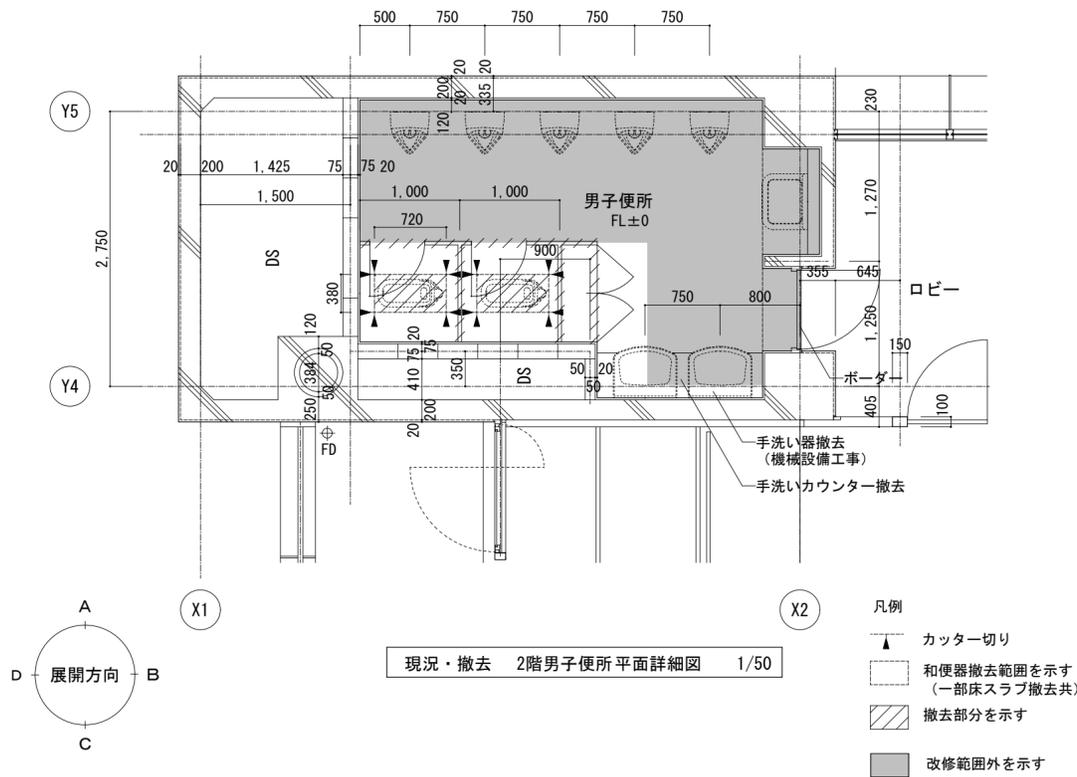
- 凡例
- 改修部分を示す

仕上表

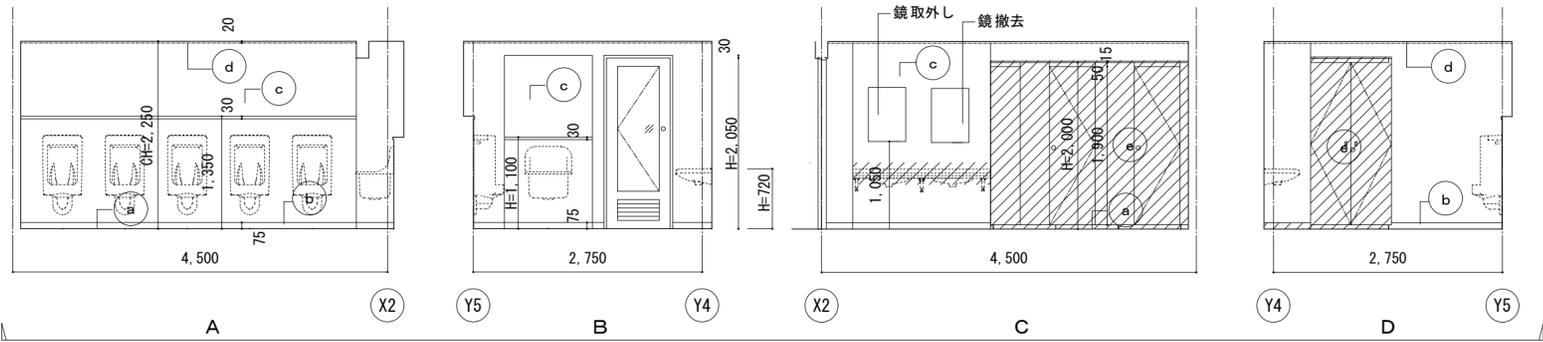
改修		
(a)	床：モルタル下地 t30、無ゆうモザイクタイル張	和便器廻り補修
(b)	巾木：陶器質100角タイル	欠損部補修
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキン吹付	既存のまま
(d)	天井：フレキシブルボード t4 底目張 EP塗	既存のまま
(e)	トイレベース	新設
(f)	面台 w100	既存のまま
(g)	配管バック新設	
(i)	下地補修の上、砂壁状吹付材	



現況・撤去

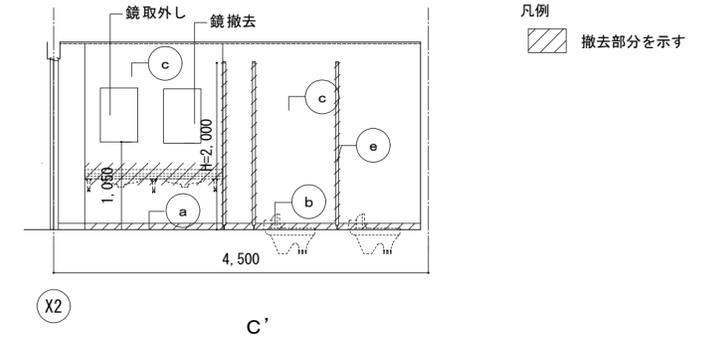


男子便所
展開図 1/60

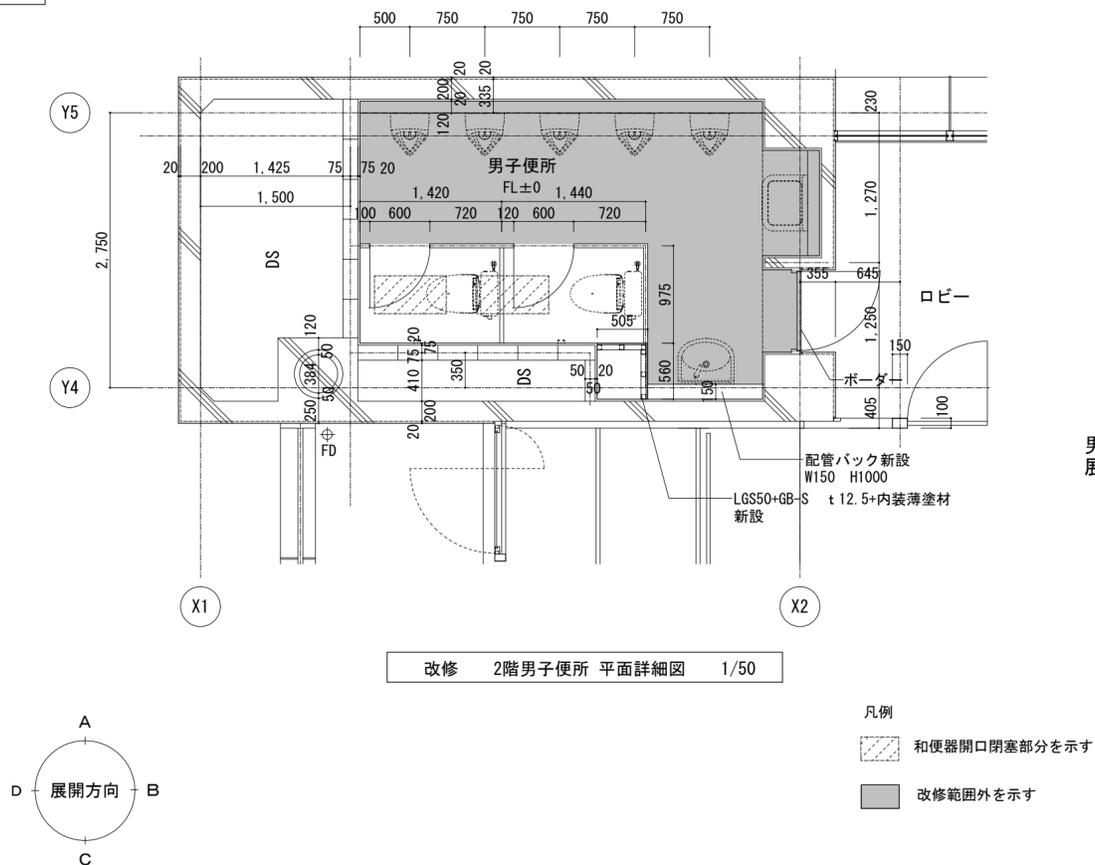


仕上表

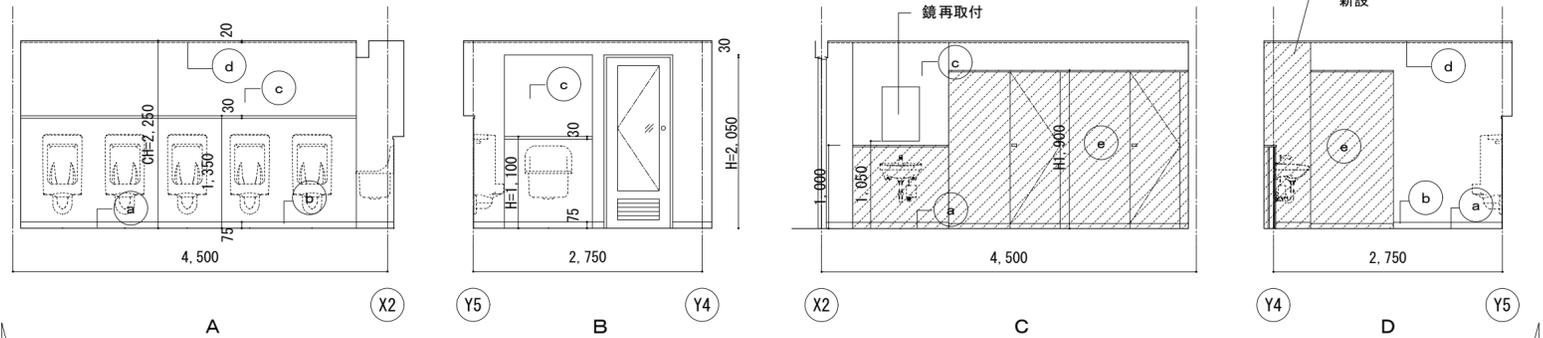
現況・撤去		
(a)	床：モルタル下地 t28、★塩ビタイル張	改修範囲内★塩ビタイル撤去
(b)	巾木：ビニル巾木 H75	改修範囲内撤去
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキン吹付	存置
(d)	天井：RC打放し、下地処理の上、セラスキン吹付	存置
(e)	トイレブース	撤去
(f)	面台人研石 w100	存置



改修



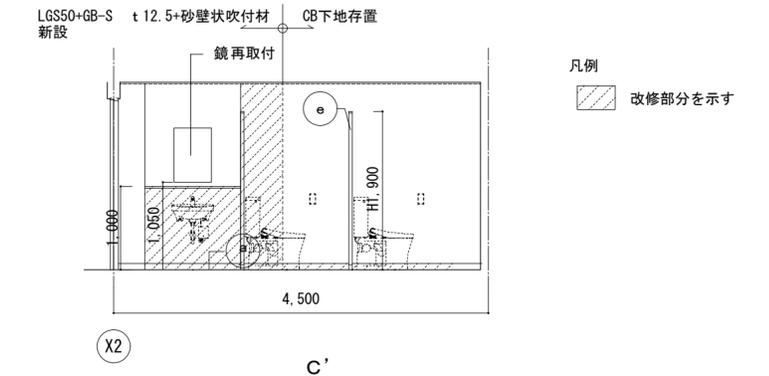
男子便所
展開図 1/60



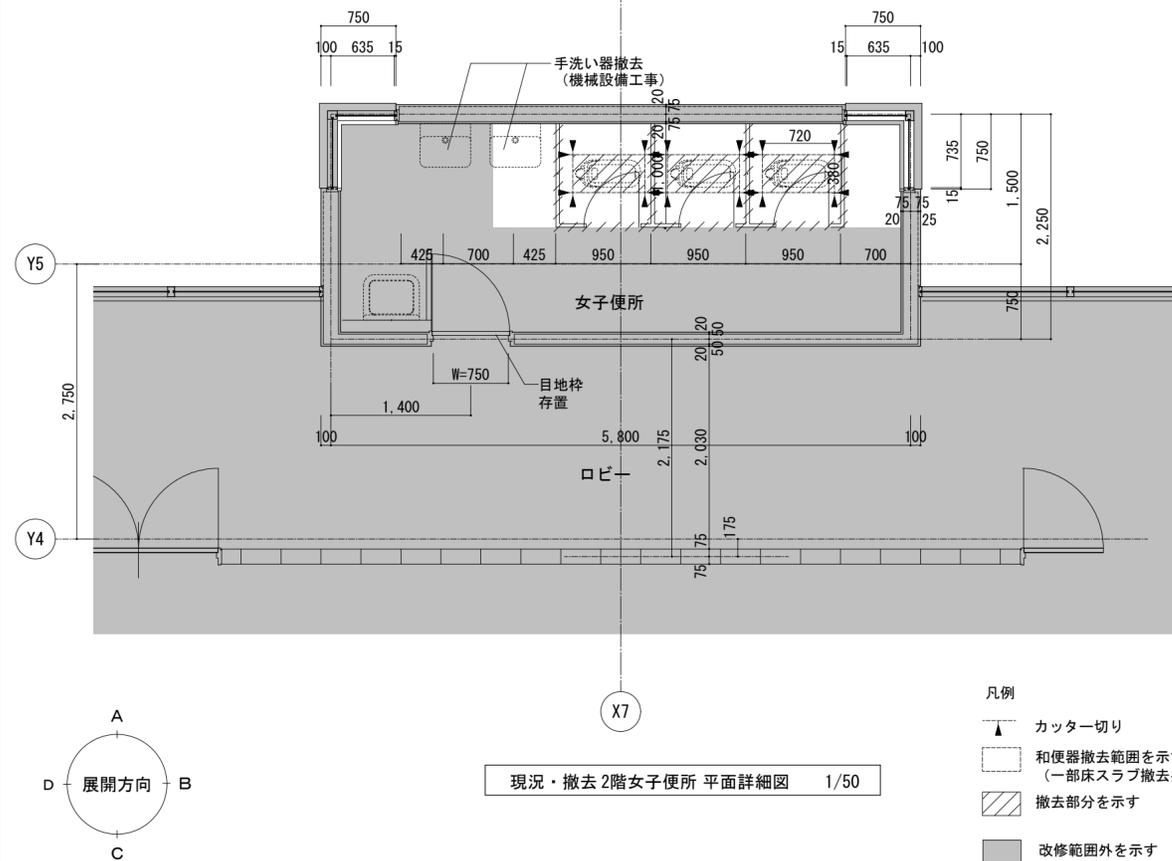
仕上表

改修		
(a)	床：下地調整の上、塩ビタイル張	改修部
(b)	巾木：ビニル巾木 H75	改修範囲内新設
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキン吹付	既存のまま
(d)	天井：RC打放し、下地処理の上、セラスキン吹付	既存のまま
(e)	トイレブース	新設
(f)	面台人研石 w100	既存のまま

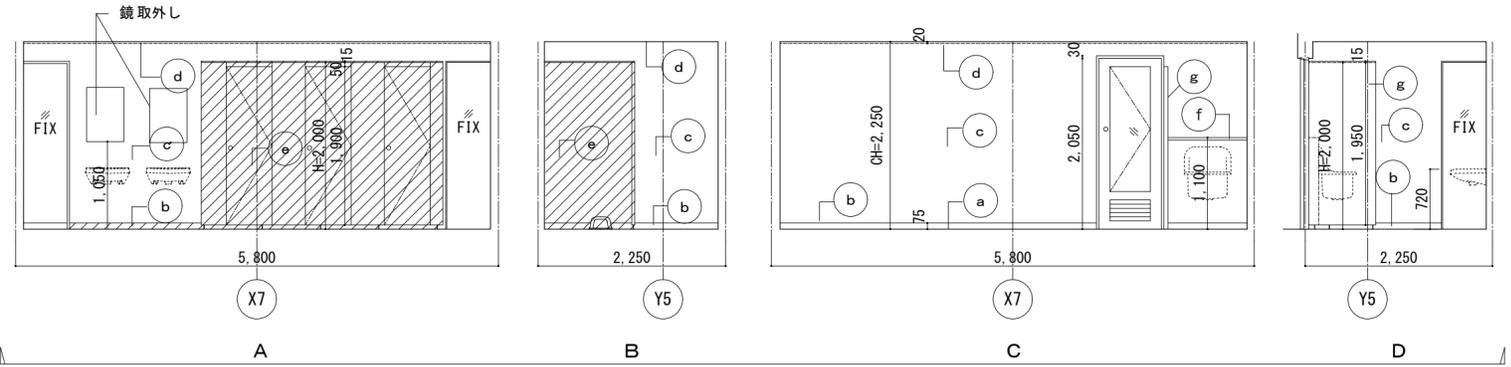
※GB-S：シーリングせっこうボード



現況・撤去

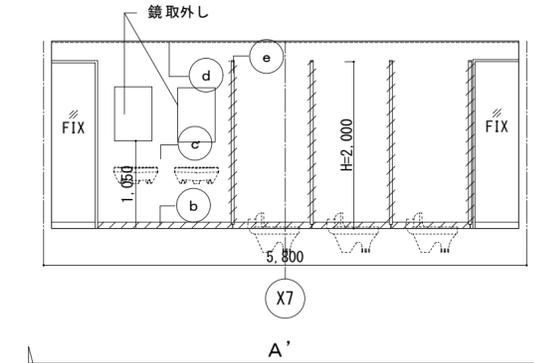


女子便所
展開図 1/60

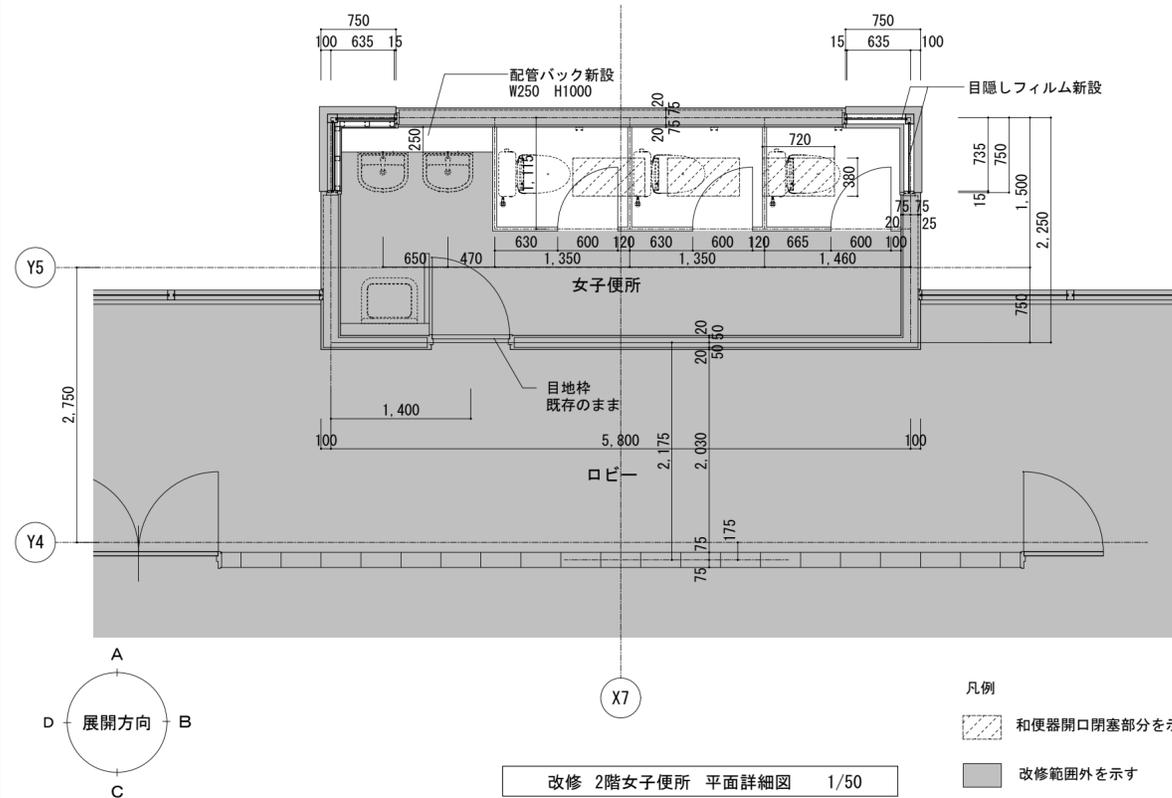


仕上表

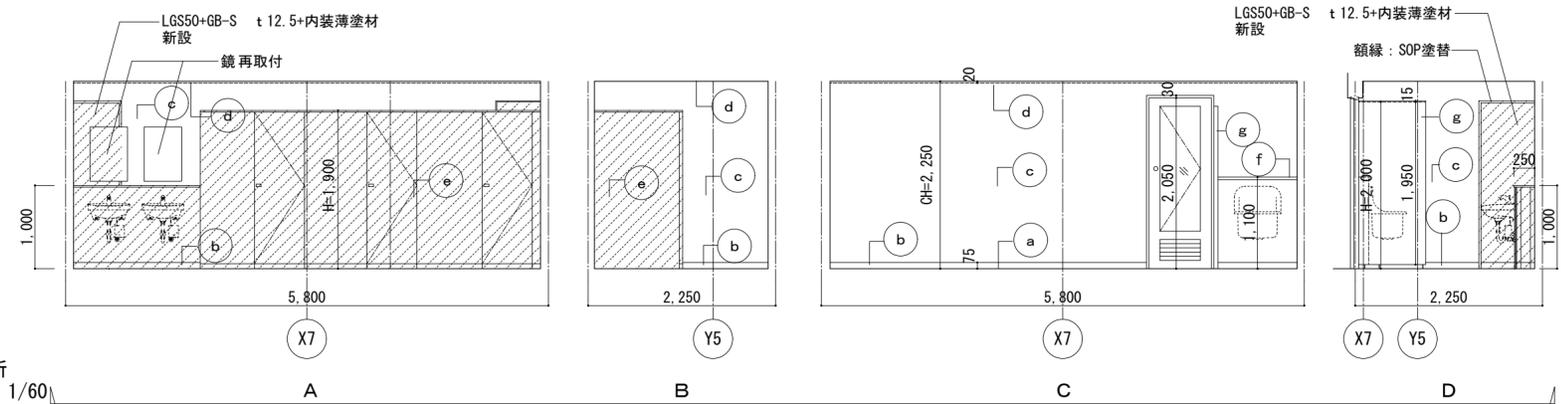
現況・撤去		
(a)	床：モルタル下地 t28、★塩ビタイル張	改修範囲内★塩ビタイル撤去
(b)	巾木：ビニル巾木 H75	改修範囲内撤去
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキ吹付	存置
(d)	天井：RC打放し、下地処理の上、セラスキ吹付	撤去
(e)	トイレブース	撤去
(f)	面台人研石 w100	存置
(g)	隔て板	存置



改修



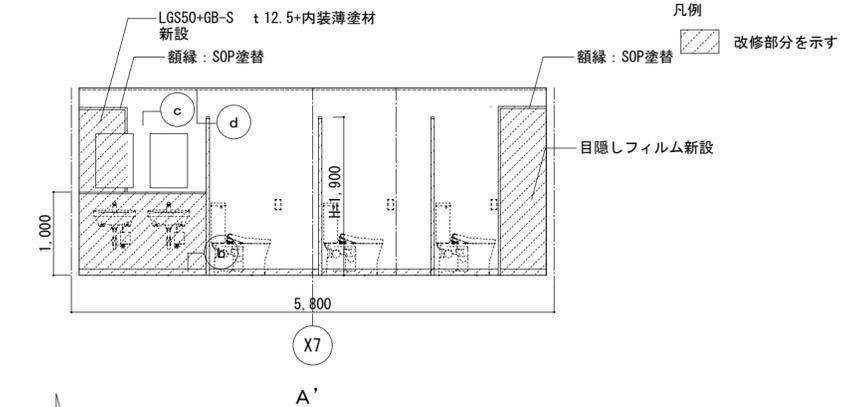
女子便所
展開図 1/60

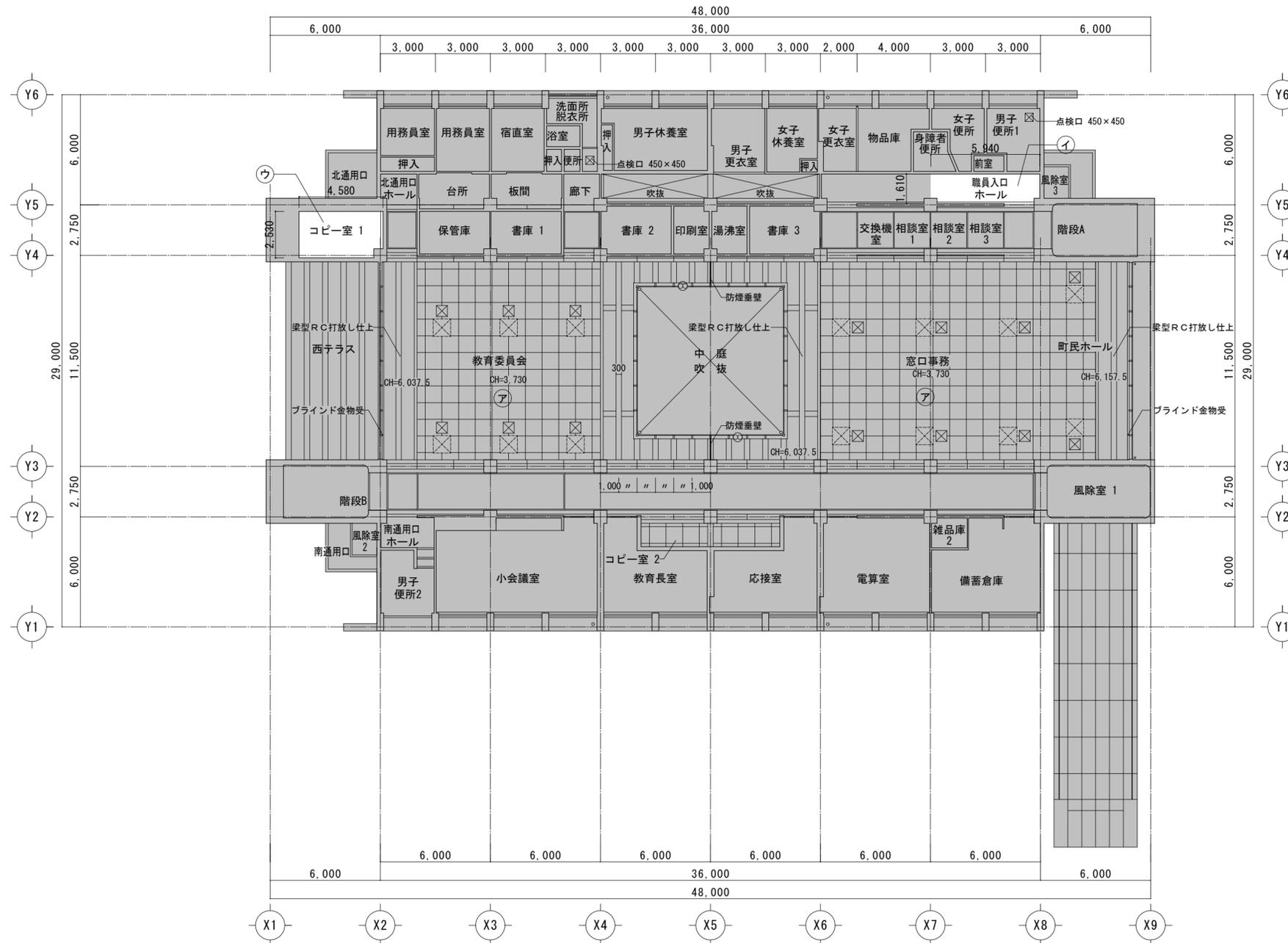
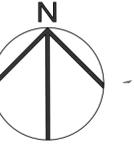


仕上表

改修		
(a)	床：下地調整の上、塩ビタイル張	改修部
(b)	巾木：ビニル巾木 H75	改修範囲内新設
(c)	壁：モルタル下地 t20、セラスキ吹付	既存のまま
(d)	天井：下地処理の上、内装薄塗材	新設
(e)	トイレブース	新設
(f)	面台人研石 w100	既存のまま
(g)	隔て板	既存のまま

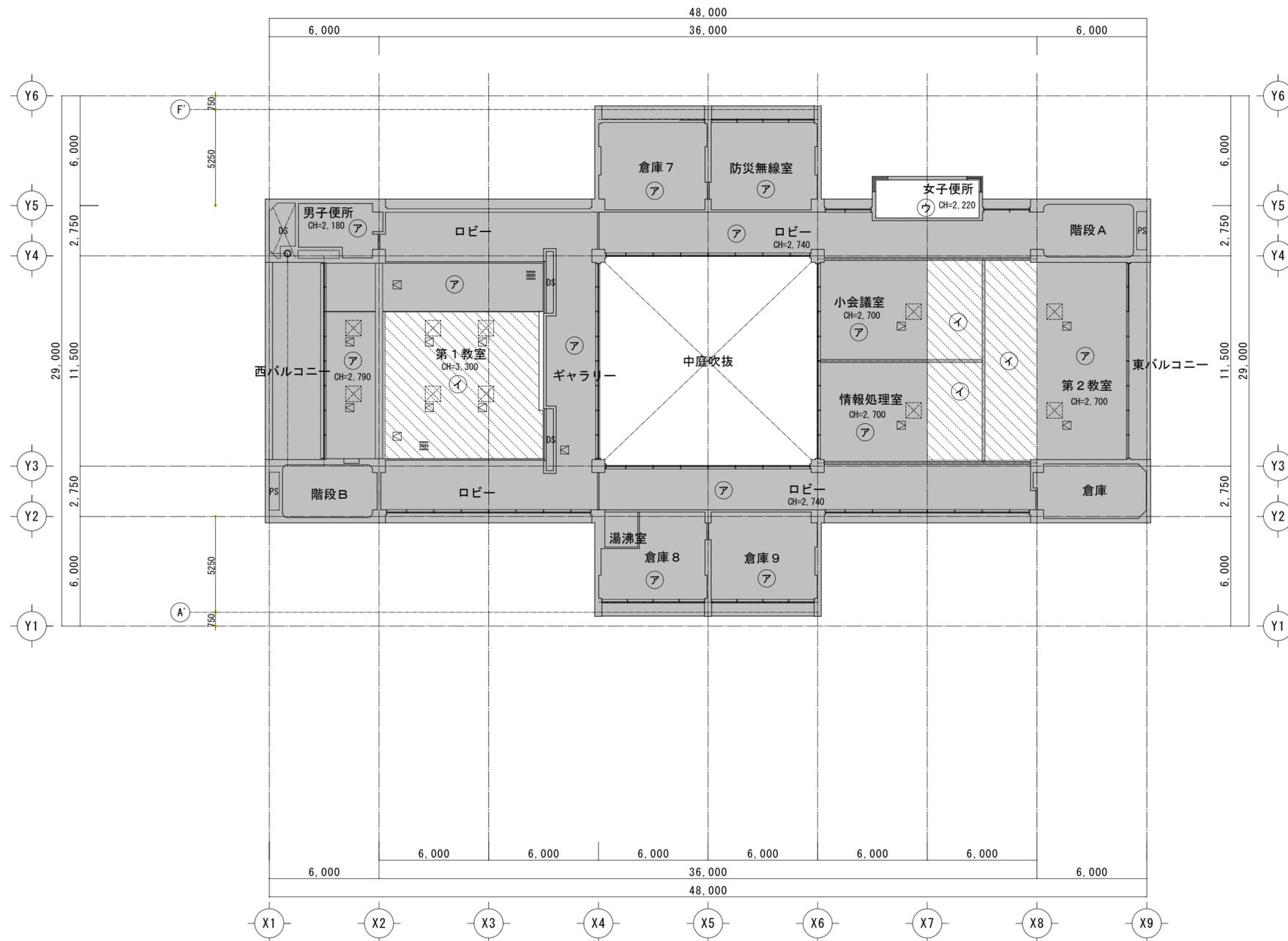
※GB-S：シーリングせつこうボード





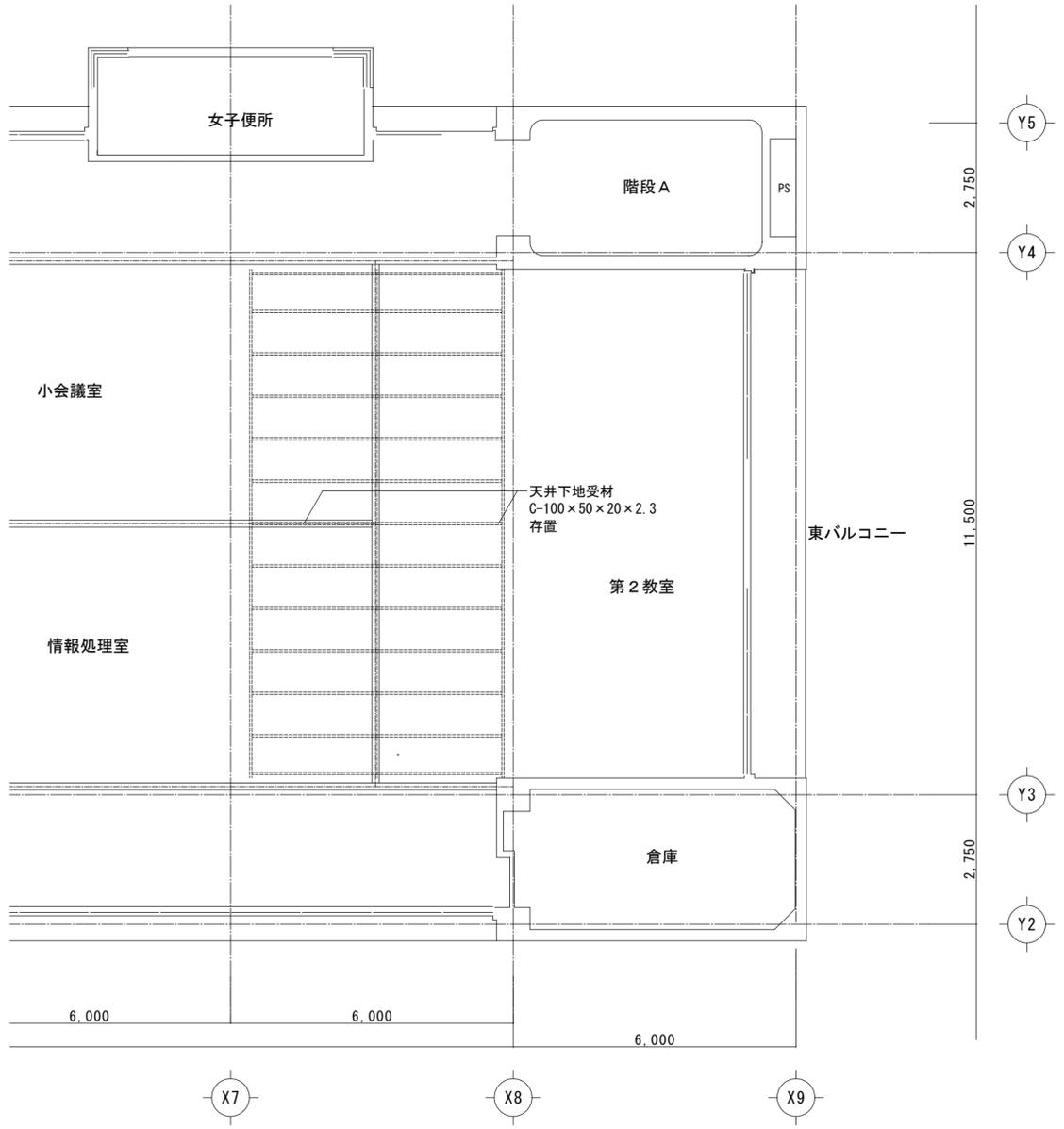
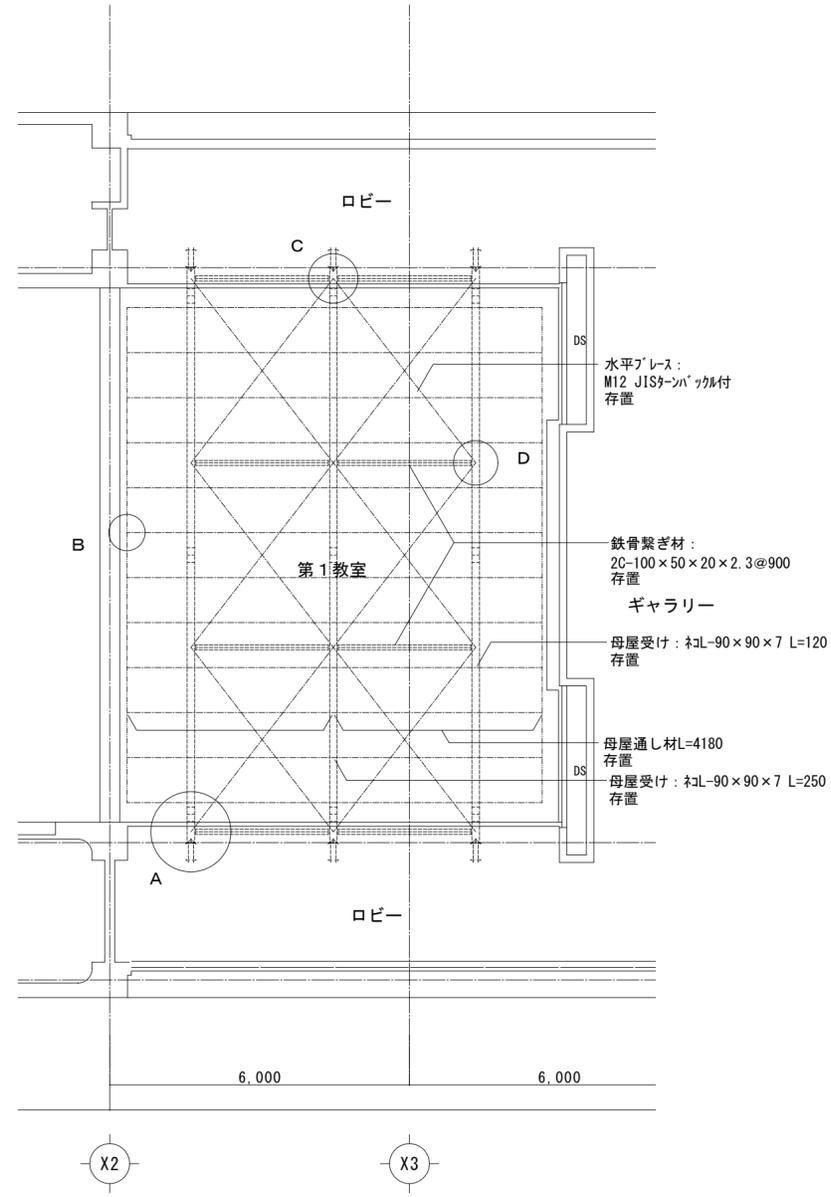
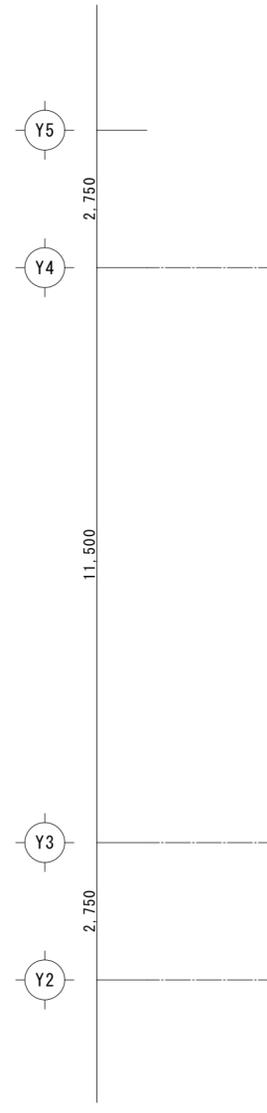
1階天井伏図 1:200

凡例	
	改修範囲外を示す
天井仕上 (改修内容)	
ア	LGS下地 (振れ止めあり) 不燃化粧石膏ボード 9.5mm 既存のまま
イ	★ プラスターボード t9.0撤去 (LGS下地存置) PB t9.5の上、EP塗新設
ウ	★ 化粧石膏ボード t9.0撤去 (下地存置) 不燃化粧石膏ボード 9.5mm 新設 (★ アスベスト含有建材を示す)
設備器具 (開口)	
	エアコン室内機 開口 950×950
	点検口 600×600



改修2階天井伏図 1:200

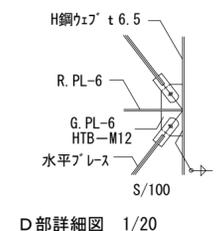
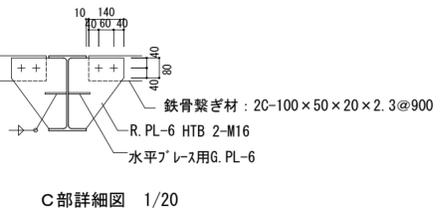
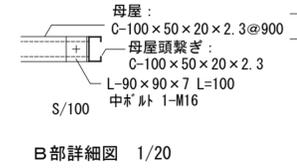
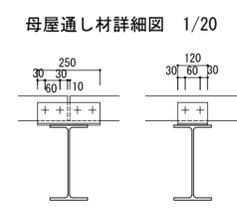
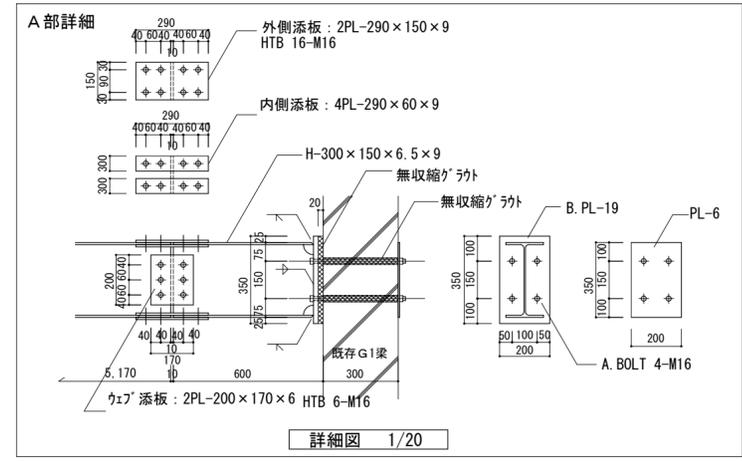
凡例	
	:天井撤去復旧範囲を示す。
	改修範囲外を示す
天井仕上 (改修内容)	
ア	既存のまま
イ	PB t 9.5捨貼のうえ岩綿吸音板 t 9撤去及び プラスターボード t 9捨貼の上、ウォールコート吹付け撤去 (LGS下地共、鉄骨下地は存置) PB t 9.5捨貼のうえ岩綿吸音板 t 9新設 (LGS下地共)
ウ	コンクリート打放しの上、セラスキン吹付、撤去 下地調整の上、砂壁状吹付材
設備器具 (開口) 天井撤去部取外復旧	
	天井埋込型空調機を示す 天井開口900×900 開口補強あり
	7/8製天井点検口450角を示す
	換気扇を示す 天井開口450×450 開口補強あり

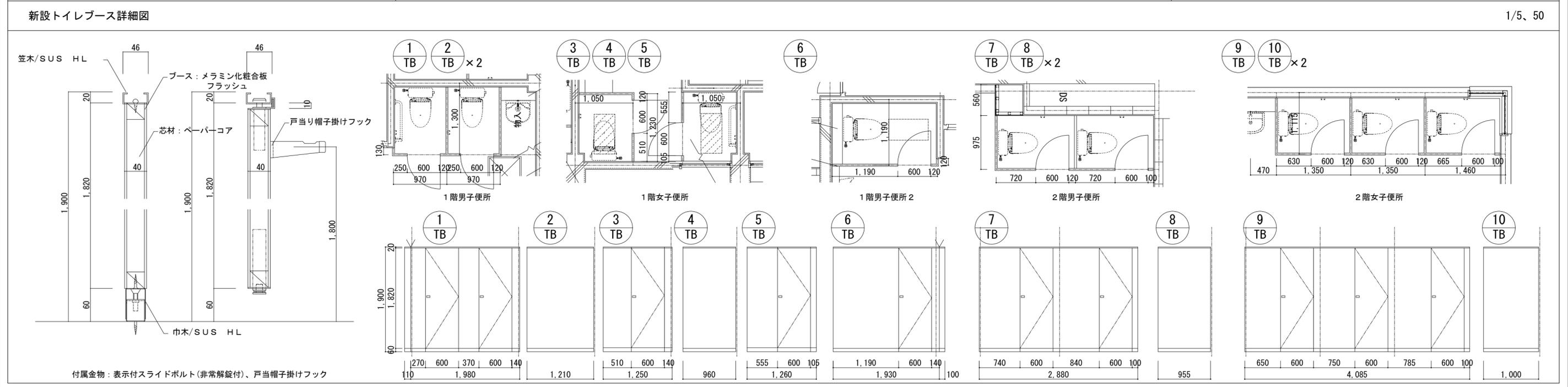
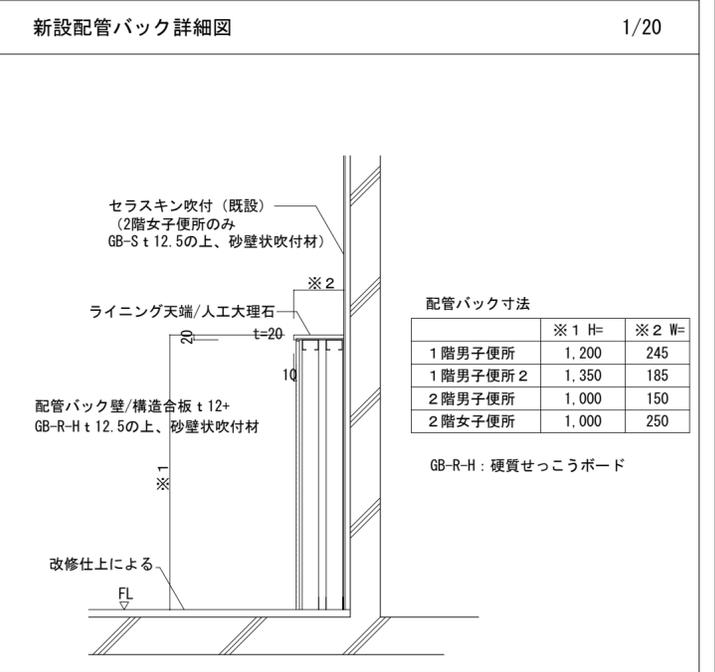
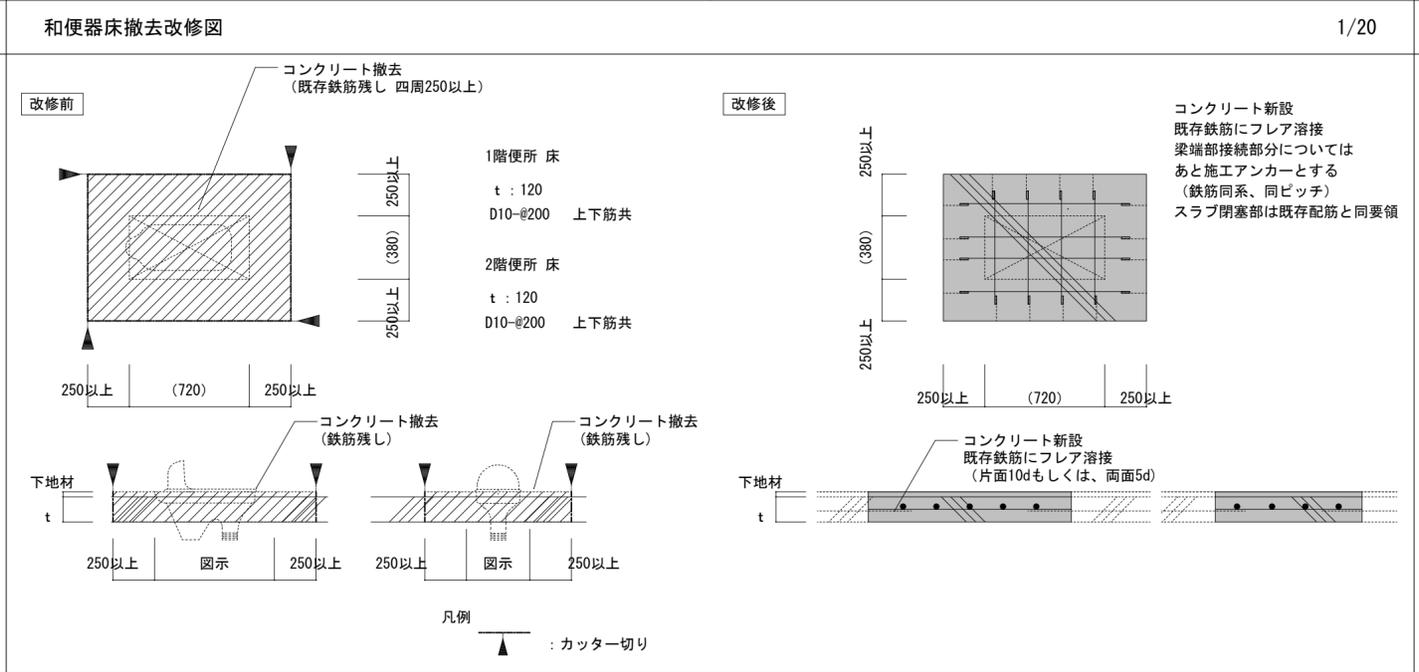
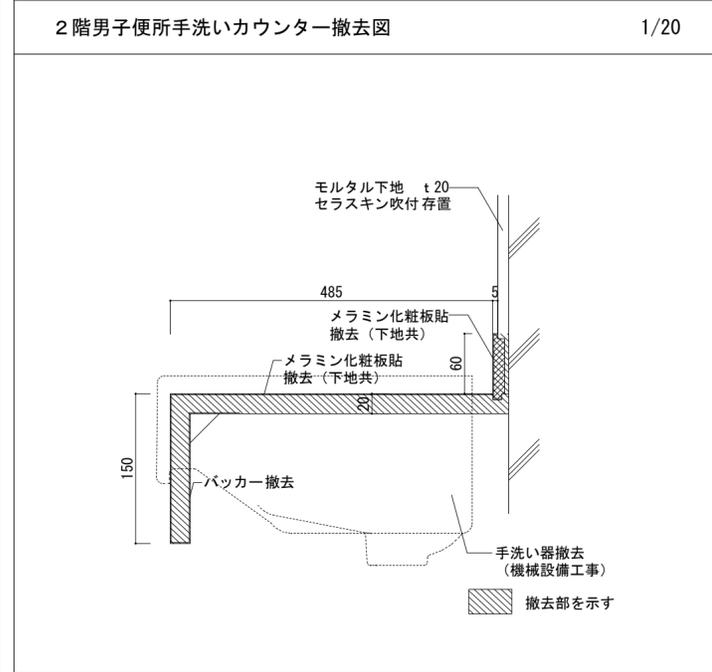
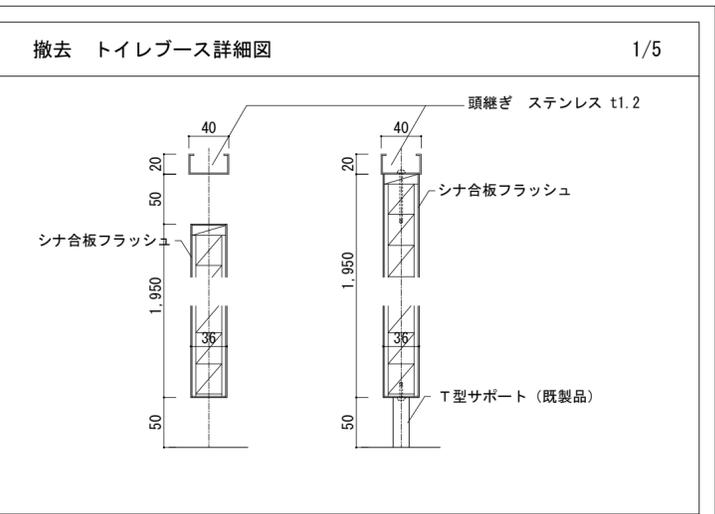
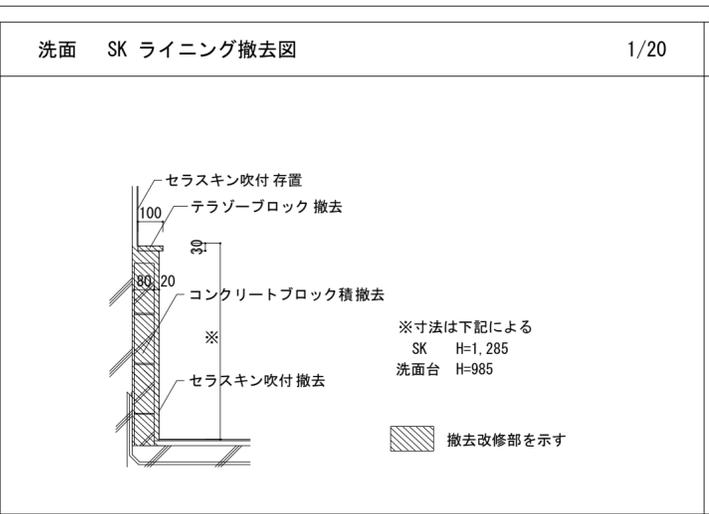
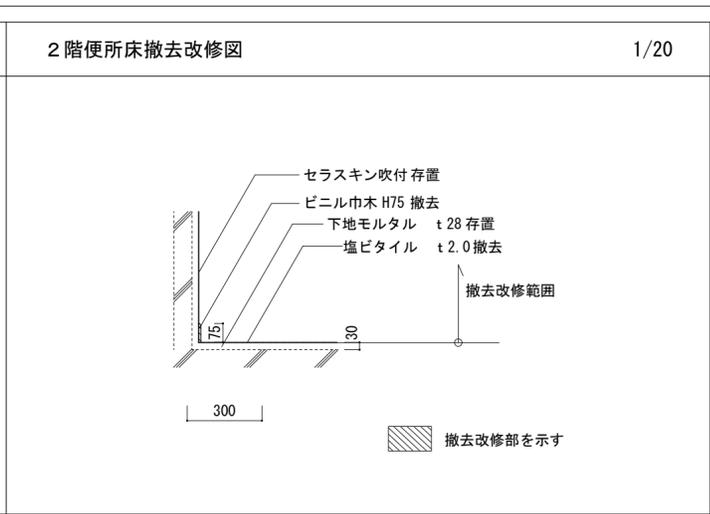
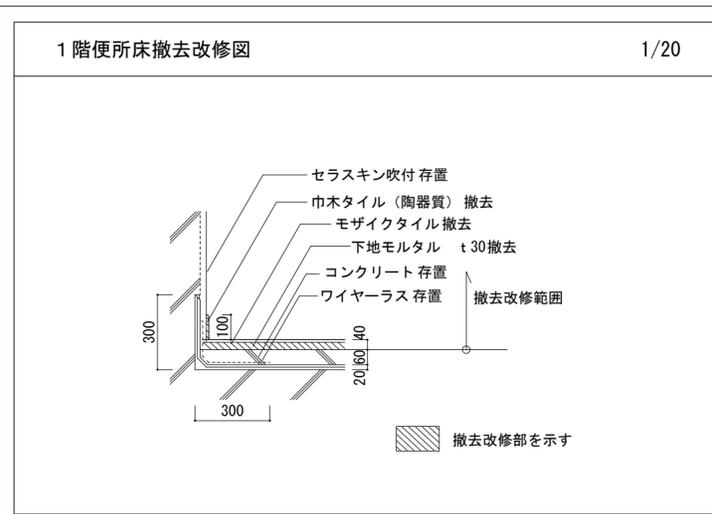


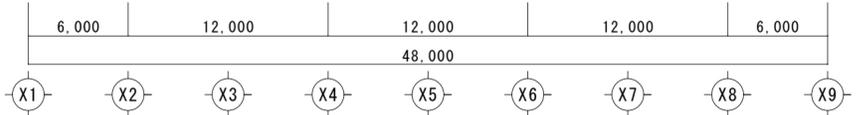
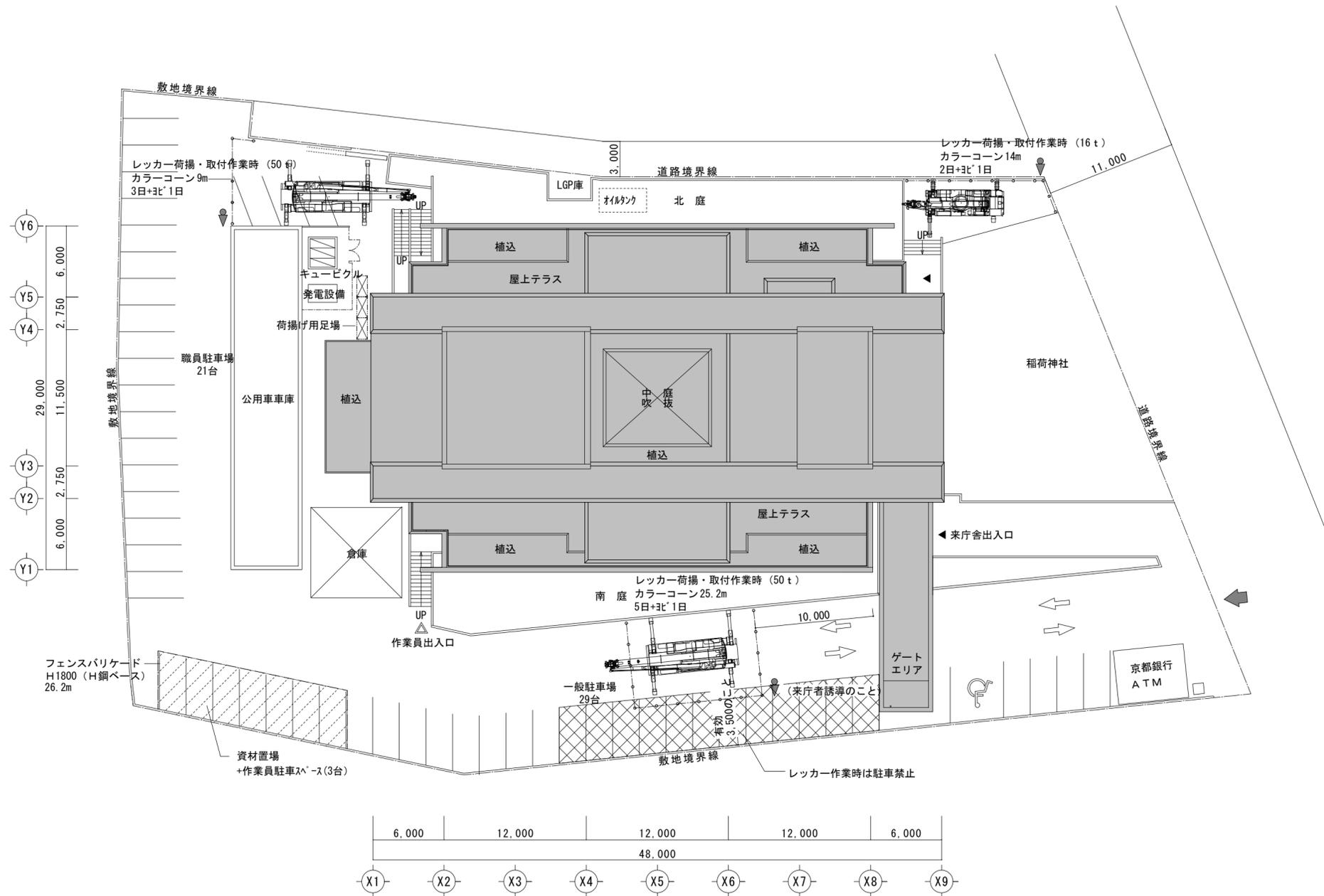
現況2階天井鉄骨下地図 1:100

鋼材仕様材料	
H形鋼	SS400
C形鋼	SSC400
ハチジョウボルト	HTB S10T, F10T(水平ブレース)
中ボルト	SS400
アカボルト	SNR400B
無収縮ワット	設計基準強度=30N/mm2

	既存G1	
	端部	中央
R階		
幅×D	300×2250~2050	
上端筋	5-D25	3-D25
下端筋	3-D25	5-D25
腹筋	10-D10	
スタップ	D13@200	

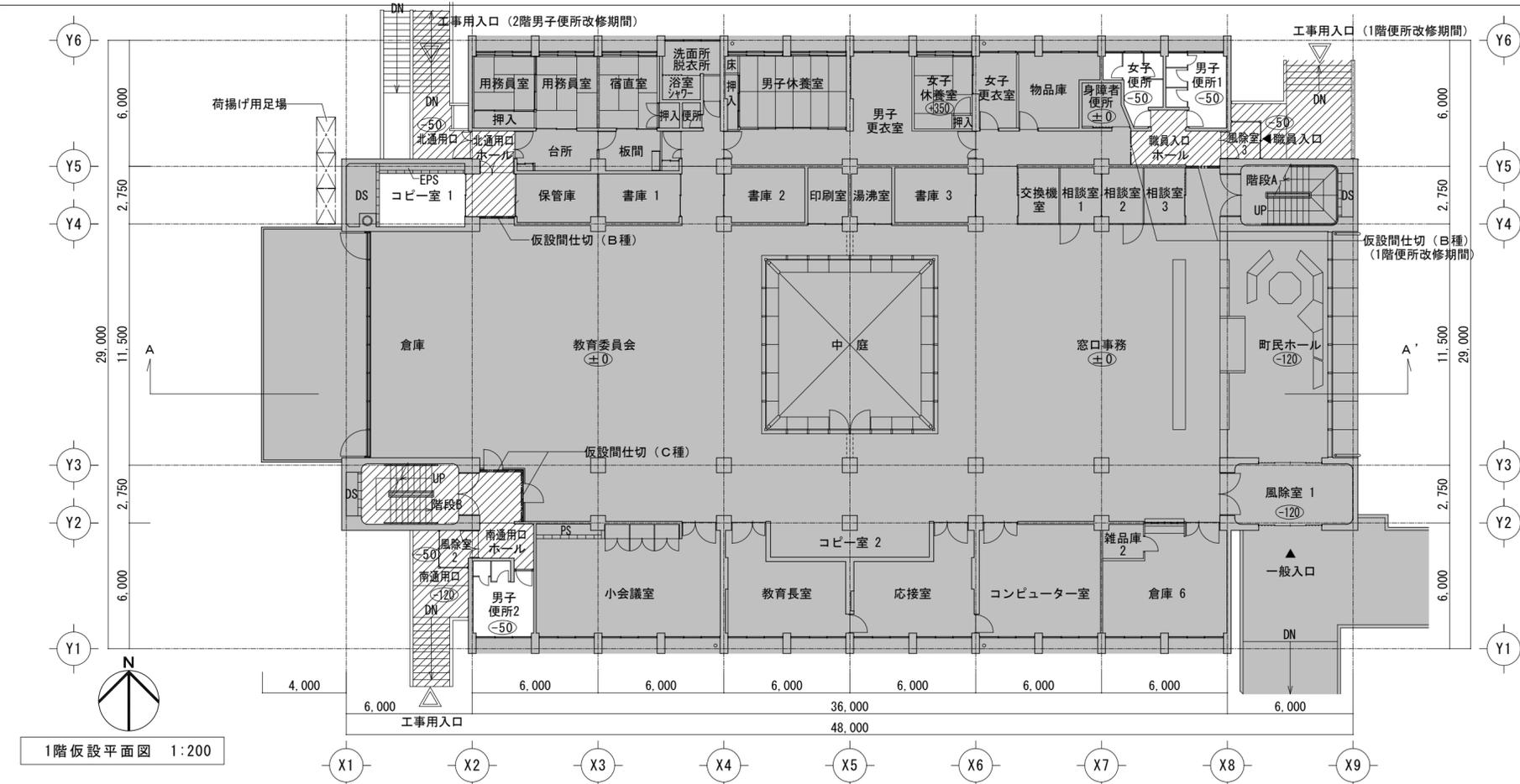




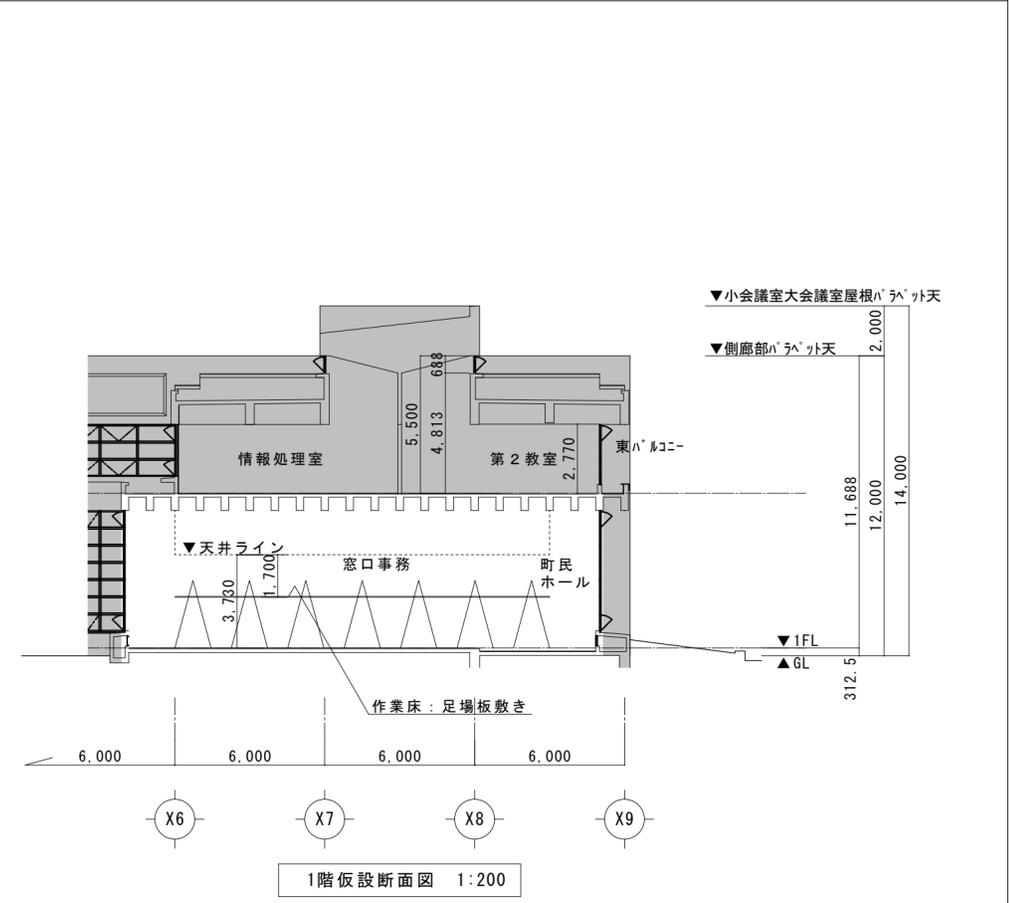
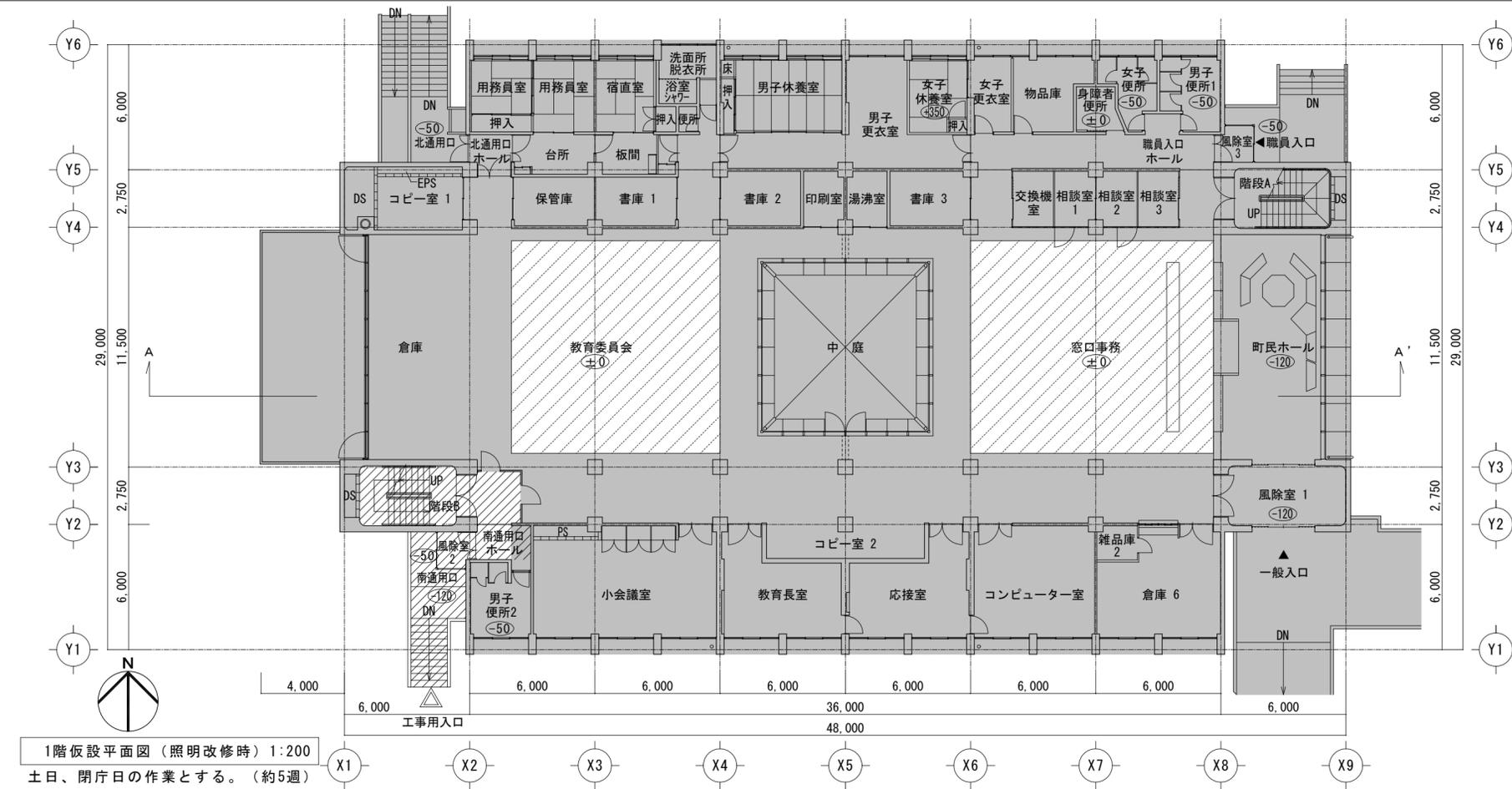


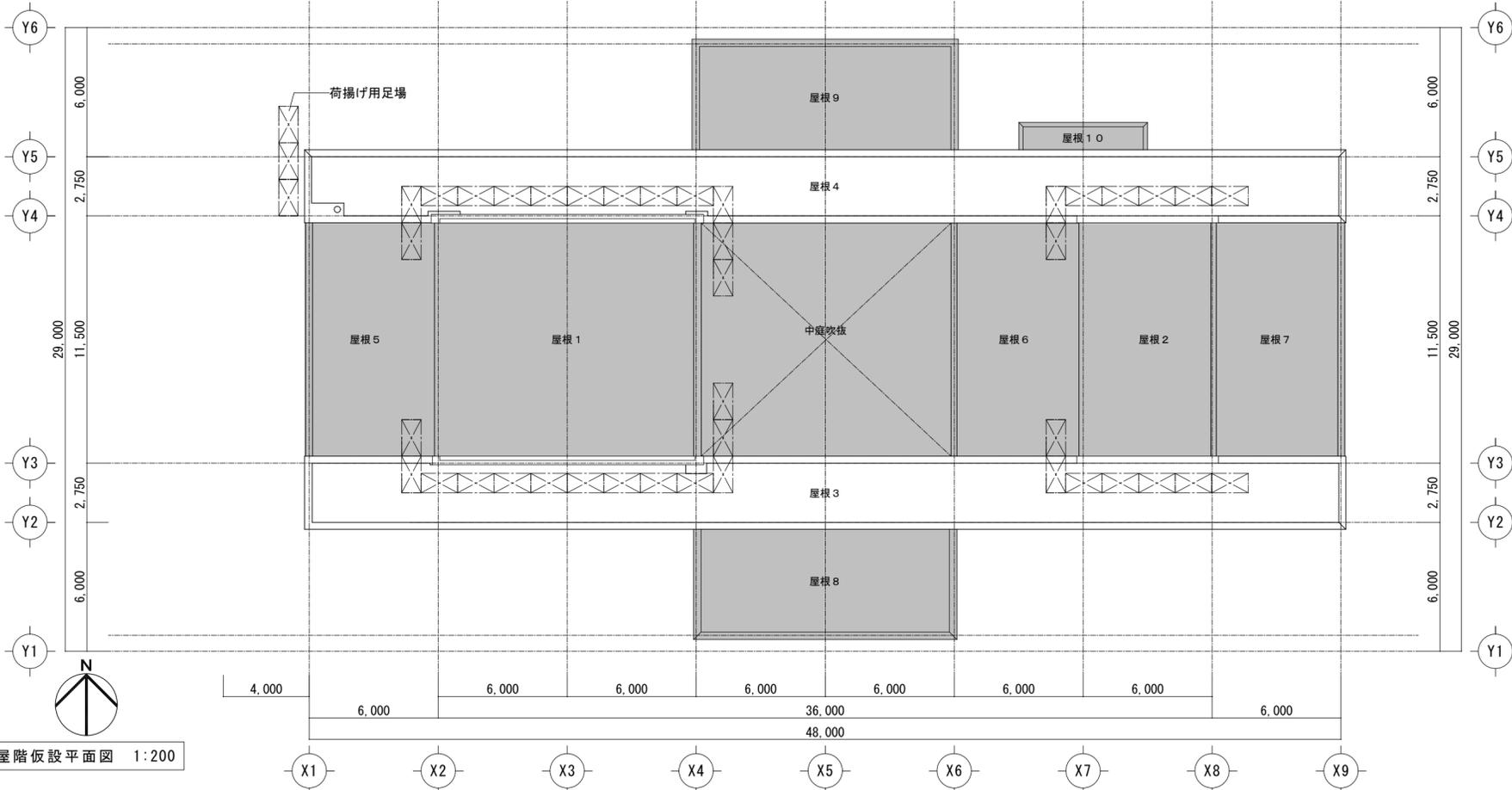
仮設計画図 1:300

凡例	
	工事対象建築物を示す
	工事出入口を示す
	工事車両進入経路を示す
	工事用駐車及び資材置き場スペースを示す
	レッカー作業時駐車禁止範囲を示す
	カラーコーンを示す
	交通誘導員を示す 25人 (資材搬入時含む)



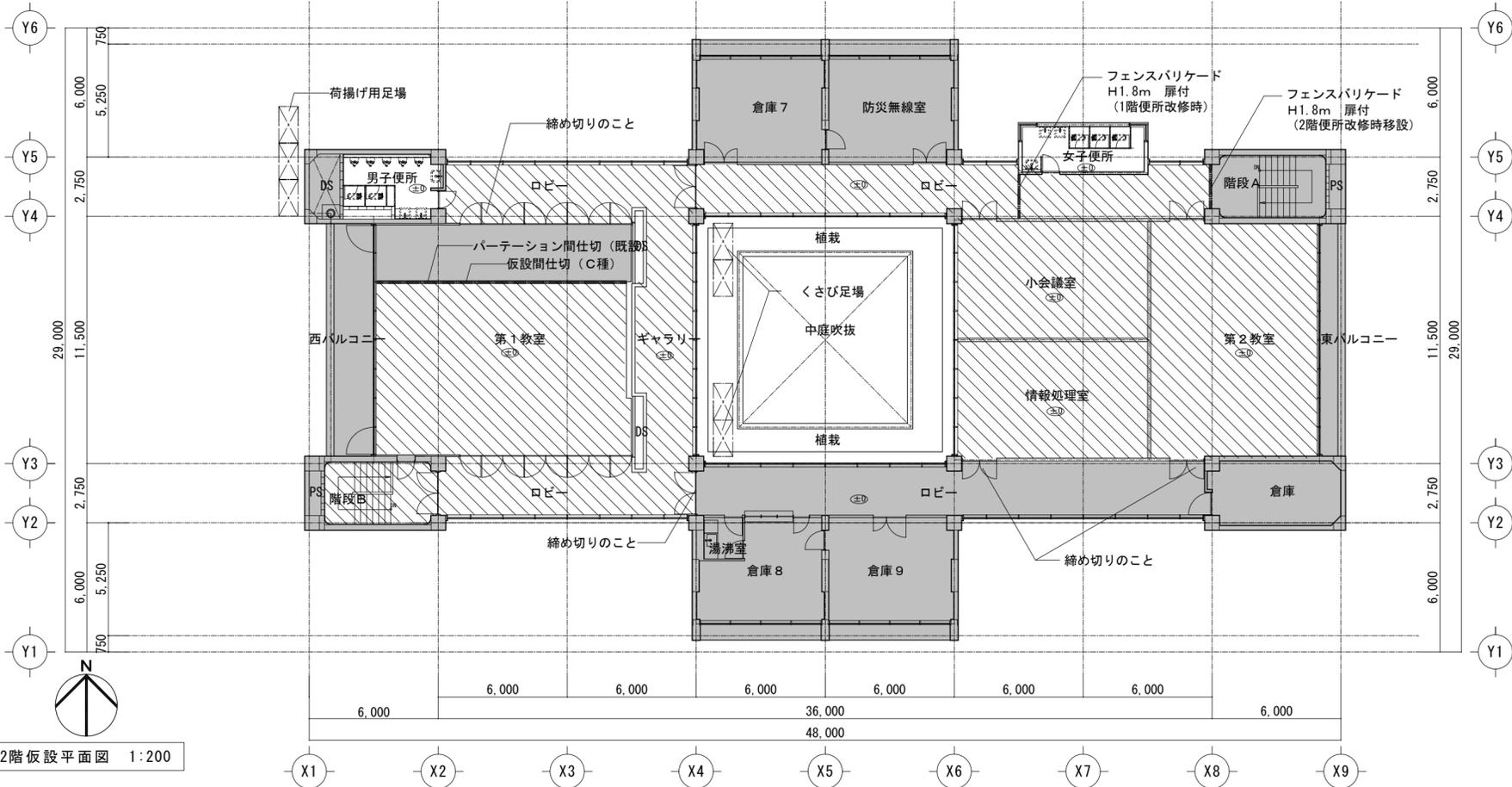
仮設計画凡例	
	改修範囲外を示す
	床養生範囲を示す。
	くさび足場(手摺先行式)とする
	脚立足場設置範囲を示す。
	仮設間仕切りを示す
	断面位置を示す
注意事項	
1、机・棚などの備品類については、養生シートにて確実に養生する事。	





屋根仮設平面図 1:200

仮設計画凡例	
	改修範囲外を示す
	床養生範囲を示す。
	くさび足場(手摺先行式)とする
	脚立足場設置範囲を示す。
	仮設間仕切りを示す
注 意 事 項	
1、机・棚などの備品類については、養生シートにて確実に養生する事。	



2階仮設平面図 1:200

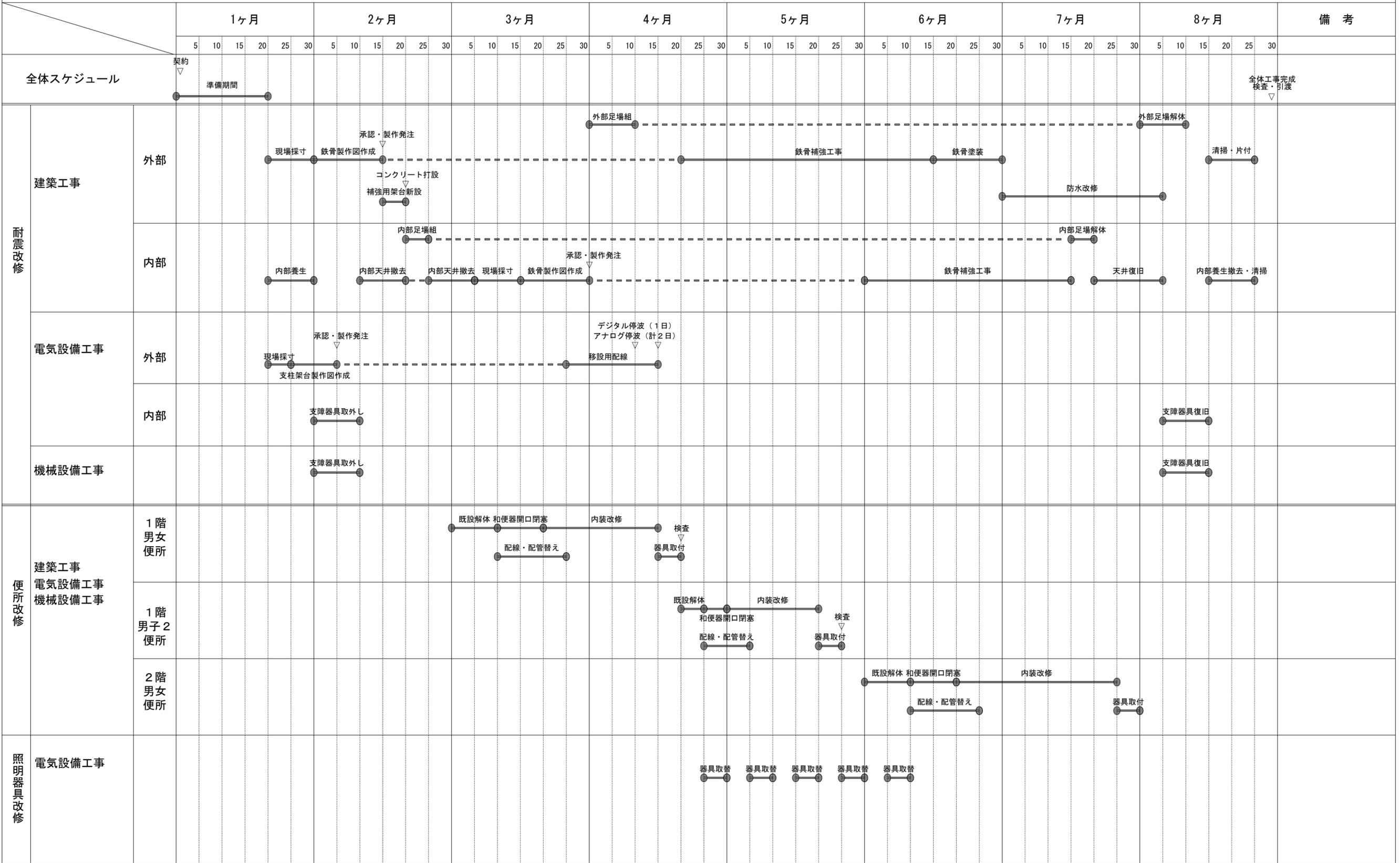
2階移動家具リスト (天井改修範囲外に移動し、シートにて養生のこと)

室名	家具	数量
第1教室	スチール製机 W1500×D800	20
	スチール肘付きイスW520×D530×H730	12
	スチールスタッキングイスW460×D500×H700	40
	木製台W500×D350×H700	1
	テレビ台W500×D410×H430	1
	キャスター付アルミ枠製塗板W1890×D610×H1870	1
第2教室	スチール製机 W1500×D800	9
	スチールスタッキングイスW460×D500×H700	18
	スチール机 W1800×D450	1
	スチール机 W1500×D450	2
	キャスター付アルミ枠製塗板W1890×D610×H1870	1
	演台W900×D400	1
情報処理室	スチール製机 W1800×D450	12
	スチールスタッキングイスW460×D500×H700	24
	スチール机 W1000×D700	1
	スチール棚 W1760×D400	1
	キャスター付アルミ枠製塗板W1890×D610×H1870	1
小会議室	スチール製机 W1500×D800	4
	スチール製机 W1800×D450	2
	スチールスタッキングイスW460×D500×H700	80
	円卓W1200×D2400	1
	スチール机 W1060×D730	1
	卓球台	2
	スチールベッ W900×D2000	1

備品移動作業員
10人程度

特記事項
 ※改修対象室内：養生シート全面貼り 養生ベニヤt=12 1重(全面)
 ※くさび足場(棚足場)の設置は、第1、2教室、情報処理室、小会議室とし、天井改修範囲のみとする。
 ※棚足場は手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準に適合する手すり、中棧、幅木等の有する足場とする。
 ※現況鉄骨天井下地に配慮し、棚足場の架構を行うこと。
 ※第2教室は、1階便所改修工事完了後の養生開始とする。
 ※緊急時防災無線室へ入れる横通路を確保し、廊下には資材を置かないこと

令和元年度和知支所耐震改修工事



既存建物耐震改修工事仕様書(1) 2019年度版

§ 1 一般事項

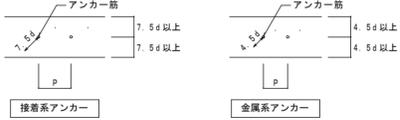
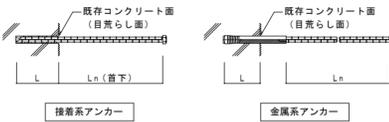
1-1 適用範囲	既存建物(鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造)の耐震補強に関する鉄筋工事、コンクリート工事及び鉄骨工事に適用する。
1-2 図面寸法	現況図面は参考図面とし、現地調査のうえ現地寸法に合わせる。本仕様書に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。
1-3 使用材料	使用材料は原則としてJIS規格品又は大臣認定品とする。
1-4 施工順序	既存設備の配置等実測した後、工事計画書及び施工図を作成し、工事監督者の承諾を得ること。
1-5 耐火被覆	鋼板補強、炭素繊維補強を行った部分は別途仕様書により耐火被覆を行う。
1-6 補修	ひび部の断面欠損、耐震壁増設部のすきま、鉄筋の露出、あと施工アンカー打設不良挿孔及びクラック等があれば樹脂モルタル等にて補修する。
1-7 打設面の処理	耐震壁を増設する部分等に接する既設部分は目尻らし(深さ5 ^{mm} 程度を目安とする)を行い、ひび粉、粉塵などはワイヤブラシ又は水洗いにより完全に除去する。
1-8 コンクリート打設時の注意事項	既設部分と接する箇所はコンクリート打設前に十分な水遣を行う。コンクリート打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより密実なコンクリートを締め固める。梁下の耐震壁等は梁下200~300程度までコンクリートを打設し、壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。
1-9 参考図書	以下の参考図書は現場に常備すると共に十分理解し適用すること。 (財)日本建築防災協会 改訂版 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説 改訂版 既存鉄筋鉄骨コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説 改訂版 既存鉄骨造建築物の耐震改修設計施工マニュアル (財)建築安全センター 建築改修工事標準仕様書 建築改修工事監理指針
1-10 その他	各種工程における検査等の費用は工事者の負担とする。 鉄骨ブレース接着工法の場合は、(財)日本建築防災協会技術評価書建防災発第1279号に基づく『鉄骨ブレース接着工法設計施工指針』による。

§ 2 使用材料

(選択項目は◎印による。)

2-1 コンクリート	設計基準強度 <ul style="list-style-type: none"> ● Fc 24 N/mm² ◎ Fc 21 N/mm² セメント <ul style="list-style-type: none"> ● 普通ポルトランドセメント 粗骨材 <ul style="list-style-type: none"> ◎ 砂利 ◎ 砕石 最大径(mm) ◎ 20 ● 25 混和材 <ul style="list-style-type: none"> ● A E減水剤 ● 高性能A E減水剤 ● 膨張材 スランプ(mm) ◎ 24 cm
2-2 無収縮モルタル	無収縮モルタルは原則としてプレミックスタイプを使用する。 設計基準強度 Fc30N/mm(既存躯体同等程度)以上とする。 圧縮強度試験(各工程につき) JASS-5「品質管理・検査」に準じる。試験は公的機関によって行う。
2-3 鉄筋	D16 以下 SD295A D19 以上 SD345
2-4 スパイラル筋	● SS400 ● SR235 ● SD295A

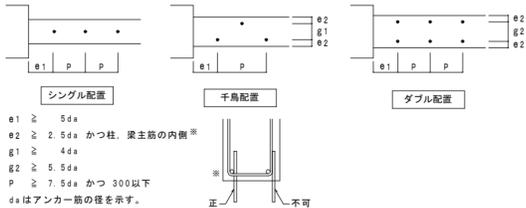
あと施工アンカーの施工は工事内容に相応した施工管理技術者及び十分な経験と技能を有する技術者により実施する。
 アンカーの設置に先立って鉄筋探査を行い、既存鉄筋が干渉しない位置で穴明けを行う。また孔内のコンクリート粉、粉塵を圧搾空気などにより、完全に除去した後に取り付ける。
 ◎接着系アンカー カプセル型の有機系又は無機系のものでメーカーによりアンカー筋の母材強度が保証されたもの。本体はSD295A、SD345としナット付きとする。
 ◎金属系アンカー 両端部打込み型のものでメーカーによりアンカー筋の母材強度が保証されたもの。本体はJISG3101、S123、344E、480Sの規格品とする。
 接着剤はSD295A、SD345とする。
 定着作業の終了したアンカー筋は24時間以上衝撃等与えない様に養生する。



接着系 アンカー	Ln (20d)	L (10d以上) (アンカー埋込み長さ)	ピッチ	※設計用引張強度(参考) kN/本		
				Fc=15	Fc=18	Fc=21
● D13	260	110以上	100	17	19	20
			150	24	26	28
● D16	320	130以上	150	31	34	36
			200	38	42	45
◎ M20	-	260	150	37	41	44
			200	47	52	56
◎ M22	-	280	200	56	62	67
			250	67	74	80

金属系 アンカー	接合部	Ln (-)	L (4d以上) (アンカー埋込み長さ)	ピッチ	※設計用引張強度(参考) kN/本		
					Fc=15	Fc=18	Fc=21
● I36	D10	390	65以上	100	9	10	11
				150以上	10	11	12
◎ E66	D10、D13	400	65以上	150以上	15	16	17
				150	20	22	23
● I96	D13	570	95以上	200以上	21	23	25
				200	28	31	33
● I226	D16	660	110以上	200以上	28	31	33

※ コーン状破壊による引き抜き耐力とする。



アンカー固着力試験
 アンカーの固着力の検査は、全数を打音検査する。またあと施工アンカー協会(JCACA)の試験方法により1日に施工されたもの各径毎を1ロットとしこの中から3本以上引張試験を行う。引張試験は非破壊試験により、設計引張強度の2/3程度以上の荷重に対してアンカーが抜け出す等の過大な変形が生じなければ合格とする。検査のうち1本でも不合格のものがある場合は、全数の20%以上を再試験し、さらにその中に不合格のものがあれば全数を試験する。不合格となったものは新たに施工し直すことを原則とする。打音検査は上記引張試験に合格となったアンカーを叩いて、音及び感触をつかみこれと比較して検査する。

接着系アンカーの埋込み長さの測定超音波パルス反射法による。
 ● する ● しない
 する場合は原則全数測定とする。減じる場合は特記する。

規格名称	鋼材名	柱	ダイア	大梁	ブレース	小梁	他
一般構造用圧延鋼材	◎SS400	●	○	○	○		○
溶接構造用圧延鋼材	●SH40A	●SH40A					
	●SH40A						
	●SH40B	●SH40B					
建築構造用圧延鋼材	●SH40C	●SH40C					
	●SH40D	●SH40D					
一般構造用角形鋼管	●STK400	●STK400					
冷間成形角形鋼管	●R225						
	●R225	●R225					
熱間成形角形鋼管	●SH40B	●SH40C					
一般構造用炭素鋼管	●STK400	●STK400					
一般構造用軽量形鋼	◎SS400	●					○

炭素繊維補強の工法は国土交通省告示、又は日本建築センターの認定工法、日本建築防災協会の技術評価を受けた工法とする。
 高強度炭素繊維
 引張強度 ● 3400N/mm²以上 ● 2700N/mm²以上
 繊維重量 ● 200g/m² ● 300g/m²
 材料巾 ● 250 ● 150
 巻数 ● 1層 ● 1層

2-6 鋼材

2-7 炭素繊維補強

3-1 標準仕様

3-2 改修箇所
◎印で示す

3-3 現場作業要領

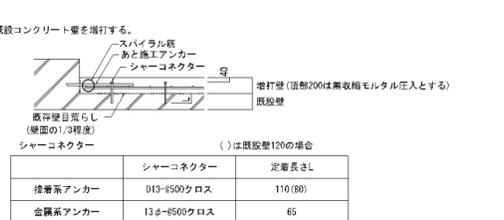
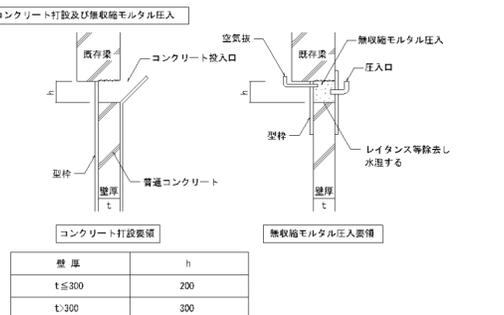
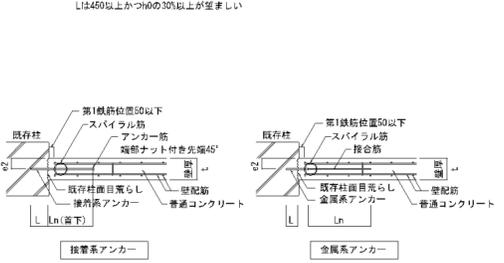
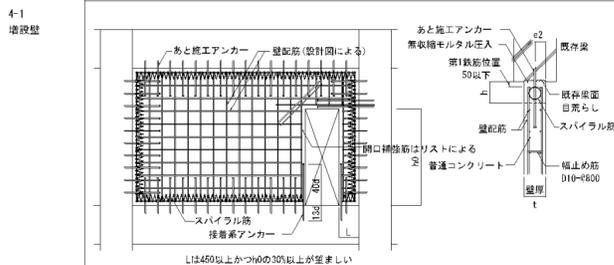
§ 3 鉄骨造補強

(出)日本鋼構造協会・(財)日本建築防災協会編による既存鉄骨造建築物の耐震改修施工マニュアル(改訂版)及び(出)日本建築学会JASS6による。

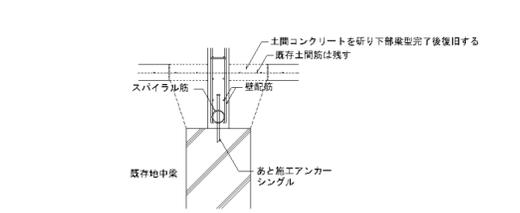
- 1) 架構全体の改修
 - 1-1 軸組構面の改修
 - 筋かいの新設
 - 耐震間柱の新設
 - 耐震フレームの設置
 - 柱・梁接合部の方杖補強
 - 1-2 水平構面の改修
 - ◎ 水平筋かいの新設
 - 火打ちの新設
- 2) 部材断面の改修
 - 2-1 柱の耐力増大
 - コンクリートによる補強
 - 日の字形断面柱の補強
 - ◎ カバープレート、形鋼による補強
 - 2-2 梁の耐力増大
 - 梁フランジ溶接部の補強
 - 梁ウェブの補強
 - 梁フランジの補強
 - 2-3 トラス梁の耐力増大
 - 部材断面の増大
 - トラス構面の内産屈の補剛
 - ◎ トラス構面の外産屈の補剛
 - トラス端表口補強
 - 2-4 筋かいの耐力増大
 - 引張筋かいの部材交換
 - ボルト接合部の補強
 - 圧縮筋かいの部材交換
 - ガセットプレートの補強
- 3) 柱脚の改修
 - 3-1 鋼板巻きによる補強
 - 隅角部柱脚の補強
 - 中央部柱脚の補強
 - 3-2 RC壁による補強
 - 接着系アンカーによる補強
 - 既存主筋と接合する補強
 - 3-3 RC柱とS梁の接合部補強
 - アンカーボルトの増設
 - アンカーボルトのはしあき補強
 - 貫通ボルトによる補強
- 4) 柱頭部の改修
 - 4-1
 - RC柱頂部のS柱・梁接合部の補強
 - RC柱頂部とS梁の接合部の補強

- 1) 前処理
補強する部位は塗料、コンクリート、耐火被覆、その他の異物を除去する。
- 2) 高力ボルト接合
高力ボルトは高力六角ボルトまたはトルシア形高力ボルトとする。
孔明けは電気ドリルを原則とするが、やむをえずガス加工による場合はリマを通しを行う。
摩擦面の処理は、クラインダー掛けを原則とし、さび発生状態を標準とする。
- 3) 溶接接合
溶接方法は被覆アーク溶接及びガスシールドアーク溶接とする。
完全溶込溶接の端部はエンドタブを使用し、すみ肉溶接の端部は回し溶接を行う。
溶接と高力ボルト接合が併用される場合は高力ボルト接合を先行する。
- 4) 接合部の調査
高力ボルトの検査はJASS6 6節による。
溶接部の検査は完全溶込溶接は全数を超音波探傷試験をする。
すみ肉溶接および部分溶込溶接は全数目視検査とする。

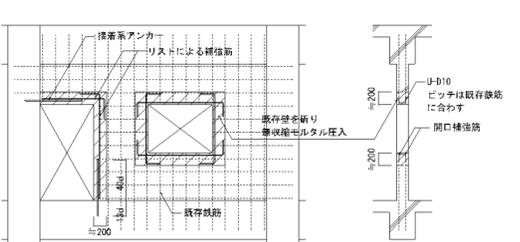
§4 壁補強要領



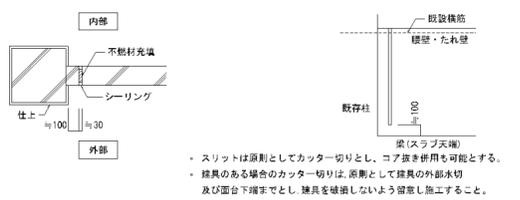
4-5 地中壁に新設壁を設ける



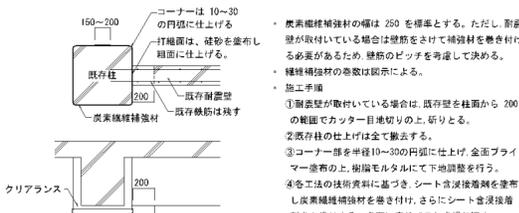
4-6 既存壁開口部設け(耐震壁を除く)



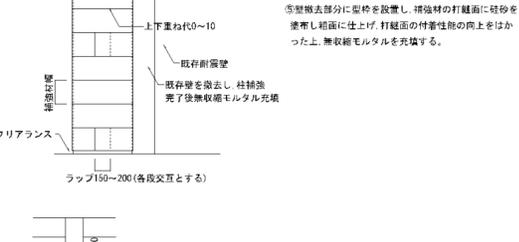
4-7 スリット増設



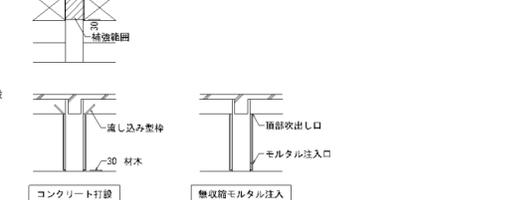
5-4 炭素繊維補強



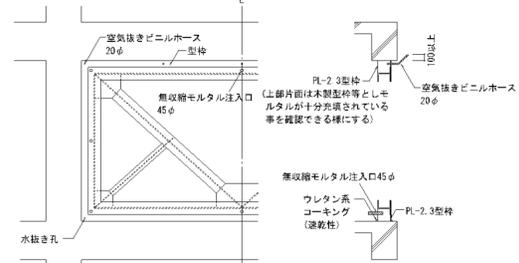
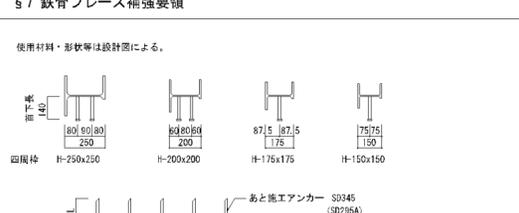
5-5 壁壁、たれ壁補強要領



5-6 コンクリート打設無収縮モルタル注入法

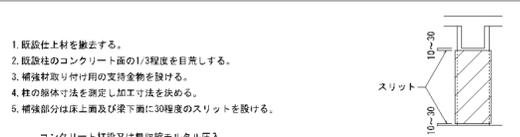


§7 鉄骨ブレース補強要領

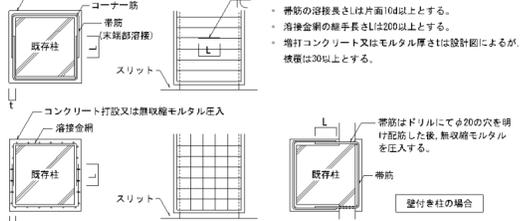


§5 柱補強工事要領

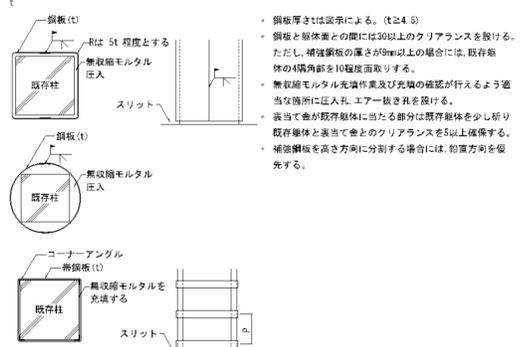
5-1 共通事項(炭素繊維補強は除く)



5-2 帯筋補強溶接金網補強



5-3 鋼板補強

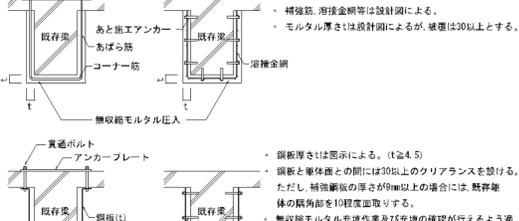


§6 梁補強工事要領

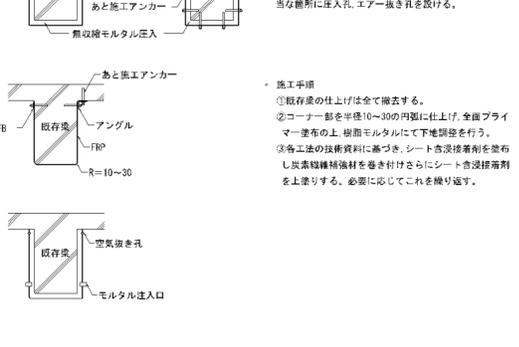
6-1 共通事項(炭素繊維補強は除く)



6-2 あばら筋補強溶接金網補強

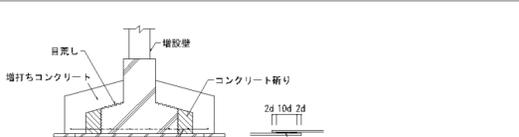


6-3 鋼板補強

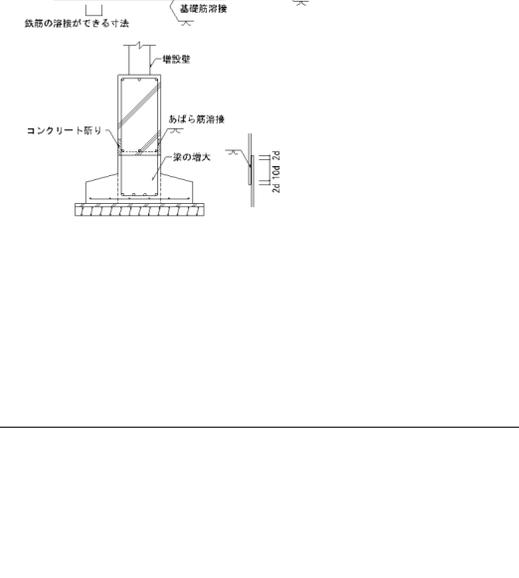


§8 基礎の補強

8-1 基礎底版の拡張



8-2 基礎の増設



鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1) 2019年度版

§1 一般事項

1-1 基本事項

1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書1-2-4に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2015)」及び「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

鉄筋の表示記号及び最大径は下表による。

記号	×	◇	●	○	◎	⊕	◆	⊞			
呼び径 d	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最大径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合
 ○ フックのある場合
 ○ 本数に差がある場合
 ○ 機械式継手表示
 ○ ガス圧接、溶接継手表示

2-1 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最大径は下表による。

折曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋 常筋	SD295 SD345	D16以下 D19~D41	3d以上 4d以上
135°		あばら筋 スパイラル筋	SD390	D41以下	5d以上
90°		壁筋	SD490	D25以下 D29~D41	5d以上 6d以上

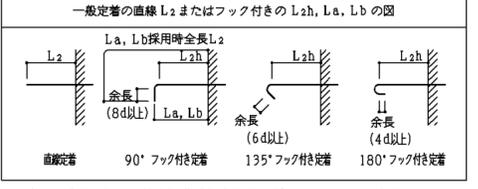
2-2 鉄筋の折り曲げ

柱・梁・基礎の主筋、及び、その他の鉄筋の折曲げ形状・寸法

2-3 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

「JASS5(2015)」に準拠

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ	定着の長さ		L _s =20d L _{sh} =10d
			一般	小梁・床スラブ	
SD295 SD345 (LはSD345を示す)	18	45d(50d)	40d	15d(20d)	L _s =20d L _{sh} =10d
		35d	30d	20d	
	21	40d(45d)	35d	15d(20d)	
	24~27	35d(40d)	30d(35d)	15d(20d)	
	30~36	25d(30d)	20d(25d), 15(20)d	15d	
SD390 (LはSD490)	21	50d(-)	40d(-)	20d(-)	SD490は適用外
		35d(-)	30d(-), 20d(-)	(-)	
	24~27	45d(55d)	40d(45d)	20d(25d)	
	30~36	35d(45d)	30d(35d), 20(25)d	15d(-)	
48~60	40d(45d)	35d(40d)	25d(30d), 15(20)d	(-)	
	30d(35d)	25d(30d)	20d(25d), 15(20)d		

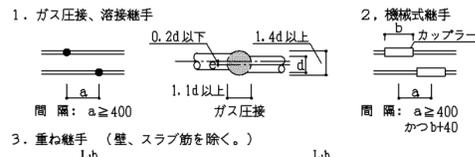


1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL_{2h}は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。

2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

3. 構造特記仕様書2-2で政令第73条とした場合、主筋又は耐力壁の鉄筋の重ね継手長さは左下表L₁かつ40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする。

4. 構造特記仕様書2-2でJASS5(2015)、RC規程2010とした場合、主筋又は、耐力壁の鉄筋の重ね継手長さは設計者の指示による。参考値として左下表JASS5(2015)にL₁, L₂を示す。



2-5 鉄筋のフック

1. あばら筋及び帯筋 2. 煙突の鉄筋

3. 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部分の鉄筋(下図参照)

4. 片持ちスラブの上端筋の先端

5. 最上階及びこれに準ずる箇所の柱頭の四隅の鉄筋

6. 杭基礎の基礎筋(偏心基礎及び杭2本打以上の場合)

7. 鉄骨柱の脚部の基礎柱、又は根巻コンクリートの四隅の鉄筋

○ 鉄筋のあきaは原則として下記による。

呼び名の数値dの1.5倍以上 } かつ25以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上 } かつ25以上

○ 鉄筋径が異なる場合は大きい方による。

○ 二段筋のあきは1.5dとする。

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部 位	かぶり厚さ	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	屋根スラブ	30(20)
	床スラブ	30(20)
	耐力壁	40(30)
	柱	40(30)
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁	50(40)
	基礎・擁壁	70(60)

2-6 鉄筋のあき

2-7 かぶり厚さ

1. ()内の数値は最小かぶり厚さを示す。

2. 仕上げありとは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。

3. ※1 品質・施工法に応じて、工事監理者の承認で10減の値とすることができる。

4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。

5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

§3 柱

ガス圧接、溶接、機械式継手

重ね継手

1. 重ね継手の長さは鉄筋の折曲げ起点間の距離、又、フック付きのL_{2h}は仕口面から鉄筋の折曲げ起点までとし、末端のフックは定着長さに含まない。

2. 軽量コンクリートを使用する場合は、2-3の数値に5dを加算する。

3-1 主筋の継手

3-2 主筋の定着

3-3 帯筋

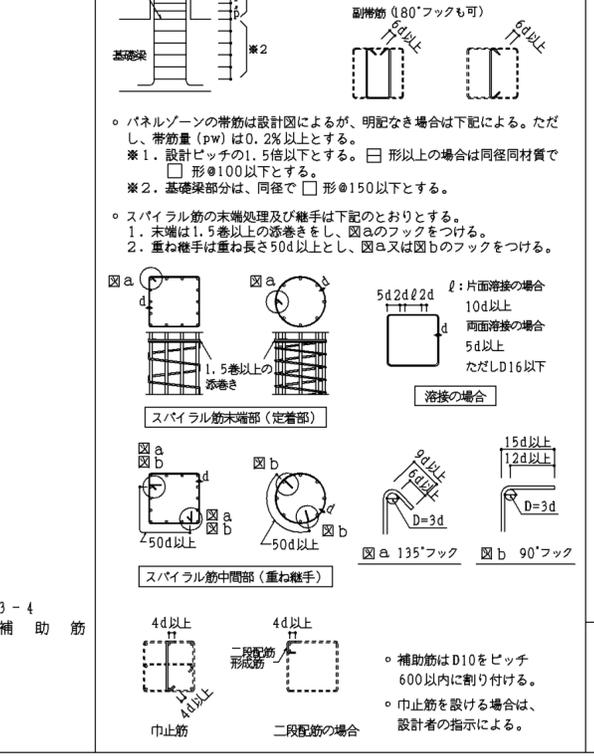
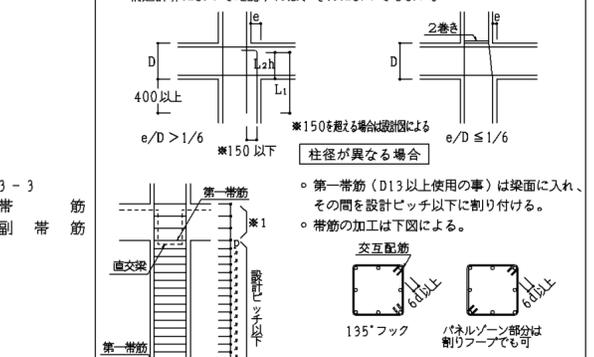
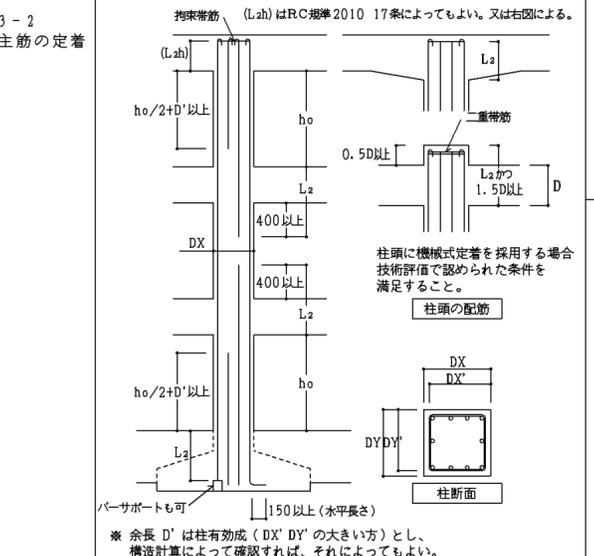
3-4 補助筋

3-5 柱のコンファインド補強

4-1 主筋の継手

4-2 主筋の定着及び余長

4-3 あばら筋副あばら筋

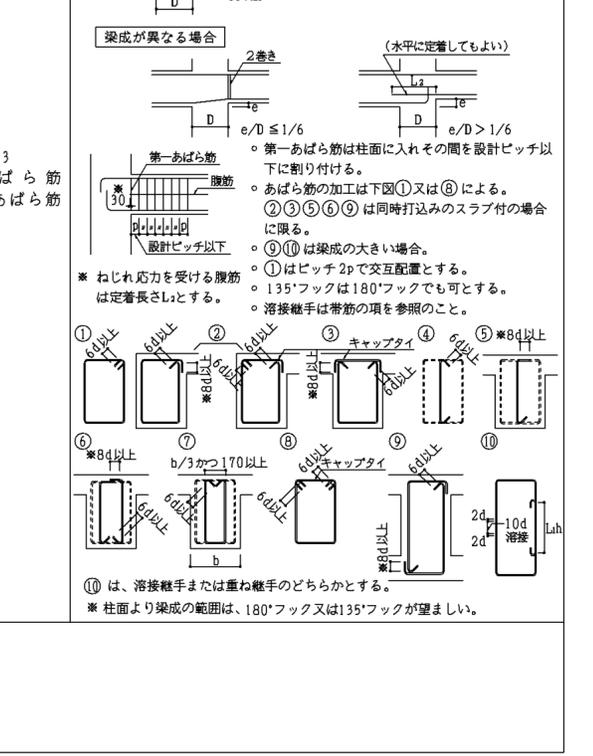
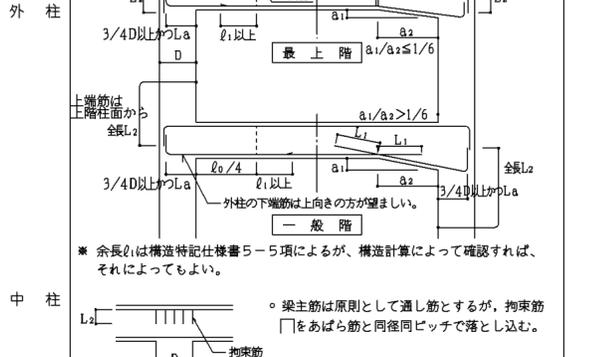
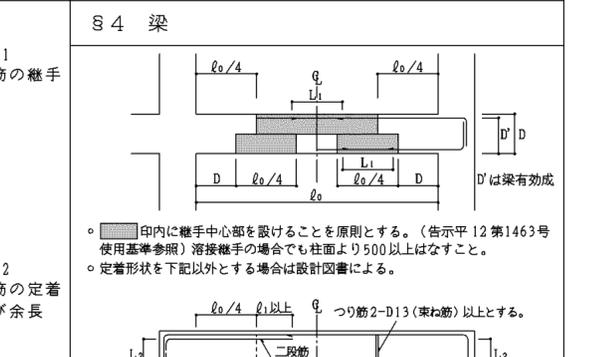


3-5 柱のコンファインド補強

補強する柱は設計図による。(柱頭、柱脚付成の範囲を補強する。)

a スパイラル帯筋 φ60~75 (有効間隔50程度)

b 溶接閉鎖型帯筋 φ60~75 (有効間隔50程度)



鉄骨工作標準図 (1) 2019年度版

§1 一般事項

1-1 基本事項

- 1) 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。
- 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書1-2-4, 5に指定した共通仕様書および標準仕様書による。
- 3) 製作精度等に関しては、JASS6の付則6「鉄骨精度検査基準」による。
- 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

1-2 その他

§2 共通事項

2-1 略号

○ AB	アンカーボルト	○ BH	組立てH形鋼
○ BE	ベースプレート	○ CH	チェッカープレート
○ DE	ダイヤフラム	○ FB	フラットバー
○ FE	フランジプレート	○ GE	ガセットプレート
○ HTB	高力ボルト	○ RE	リブプレート
○ SE	スプライスプレート	○ TB	ターンバックル
○ WE	ウェブプレート	○ Wt-9	溶接記号 (§4 参照)

§3 ボルト接合

3-1 高力ボルト

ボルトの長さ

ボルトの呼び径	締付け長さに加える長さ	
	F8T, F10T	S10T
M16	30	25
M20	35	30
M22	40	35
M24	45	40

3-2 高力ボルトのピッチ

呼び径	M 16				M 20				M 22				M 24			
	標準	P	最小	最大												
はしあき e	40	40(50)	40(55)	45(60)	40	40(50)	40(55)	45(60)	40	40(50)	40(55)	45(60)	40	40(50)	40(55)	45(60)

3-3 形鋼のゲージ

A or B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径	B	g1	g2	最大軸径
**50	30	16	**100	60	16	**50	30	16	60	16	**100
60	35	16	125	75	16	65	35	20	70	16	125
65	35	20	150	90	22	70	40	20	75	16	150
70	40	20	175	105	22	75	40	22	80	16	175
75	40	22	200	120	24	80	45	22	85	16	200
80	45	22	250	150	24	90	50	24	90	16	250
90	50	24	*300	150	40	24	100	24	95	16	300
100	55	24	350	140	70	24			100	16	350
125	50	35	400	140	90	24			110	16	400
130	50	40	24						115	16	400
150	55	55	24						120	16	400
175	60	70	24						130	16	400
200	60	90	24						140	16	400

§4 溶接接合

4-1 隅肉溶接

脚長 (S) $0 \leq \Delta S \leq 0.5S$ かつ $\Delta S \leq 5$
 $\Delta S = S' - S$
 $S =$ 設計サイズ
 $S' =$ 実際サイズ

t	6以下	9	12	14	16	19	22	25	28	32	36	40
s	t	7	9	10	12	11	13	15	17	19	21	24

4-2 完全溶込み溶接 (突合せ溶接)

1) 板厚の異なる場合 (通しダイヤフラムは除く)

2) エンドタブ

3) 開先加工 (下図は参考とする。)

a) スクラップ工法

b) ノンスクラップ工法

4) 開先形状

記号	形状	適用板厚	寸法
W ₂		6~	G 9 +0 (+0) 7 +0 (+0) R 2 -2 (-2) 2 -2 (-2) a1 35 +0 (+0) 35 +0 (+0)
MC-BL-1B GC-BL-1B		6~	G 7 +0 (+0) 7 +0 (+0) R 2 -2 (-2) 2 -2 (-2) a1 30 +0 (+0) 30 +0 (+0)
W ₃		6~	G 0 +2.5 (+4) 0 +2 (+3) R 2 +2 (+3) 2 +2 (+3) a1 45 +0 (+0) 45 +0 (+0)
MC-BL-2 GC-BL-2		6~	G 0 +2.5 (+4) 0 +2 (+3) R 2 +2 (+3) 2 +2 (+3) a1 45 +0 (+0) 45 +0 (+0)
W ₄		16~	G 0 +2.5 (+4) 0 +2 (+3) d1 1/2 (T-R) 1/2 (T-R) R 2 +2 (+3) 2 +2 (+3) d2 1/2 (T-R) 1/2 (T-R) a1 45 +0 (+0) 45 +0 (+0) a2 60 +0 (+0) 60 +0 (+0) G T -2 (-3) T -2 (-3)
MC-BK-2 GC-BK-2		16~	G 0 +2.5 (+4) 0 +2 (+3) d1 1/2 (T-R) 1/2 (T-R) R 2 +2 (+3) 2 +2 (+3) d2 1/2 (T-R) 1/2 (T-R) a1 45 +0 (+0) 45 +0 (+0) a2 60 +0 (+0) 60 +0 (+0) G T -2 (-3) T -2 (-3)
W ₅		3~6	G T -2 (-3) T -2 (-3)
MC-BI-1B GC-BI-1B		3~6	G T -2 (-3) T -2 (-3)

4-3 部分溶込み溶接

片面溶接 W₆
 $12 \leq t \leq 40$

両面溶接 W₇
 $16 \leq t \leq 40$

t	12	16	19	22	25	28	32	36	40
D	10	11	12	13	13	14	15	15	16

$D = (t-2)/2$
 $t/4 \leq S \leq 10$

4-4 フレア溶接

4-5 その他

加工工程中及び現場運搬中においてもアークストライク、ショートビートをしてはならない。

§5 継手

5-1 継手リスト

フランジ巾 250 以下
 フランジ巾 300
 フランジ巾 350, 400

材種	主材	フランジ		ウェブ	
		ボルト 2E- 給本数	外側添板 4E- t ₂₁ × a ₁ × l ₁	内側添板 4E- t ₂₂ × a ₂ × l ₁	ボルト 2E- 給本数
H	A × B × t ₁ × t ₂	X	X	X	X
BH	A × B × t ₁ × t ₂	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X
H	X × X × X	X	X	X	X

5-2 小梁仕口

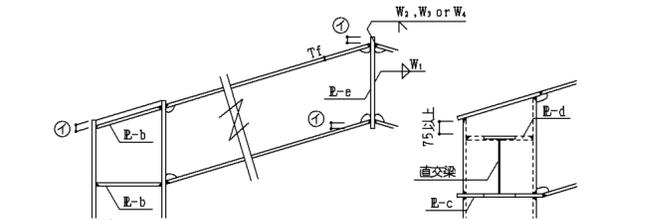
ピン接合 Aタイプ

剛接合 Bタイプ

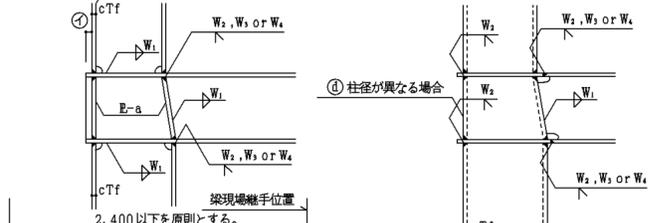
1. フランジ E 面もしくはウェブ E 面で、段差 1mm を超える場合は、ファイラー E を入れて調整すること。
 2. a₃ は原則として梁成の 2/3 以上確保すること。

86 柱梁接合部及び継手

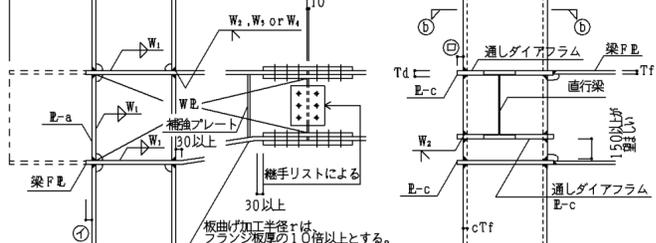
6-1
勾配屋根



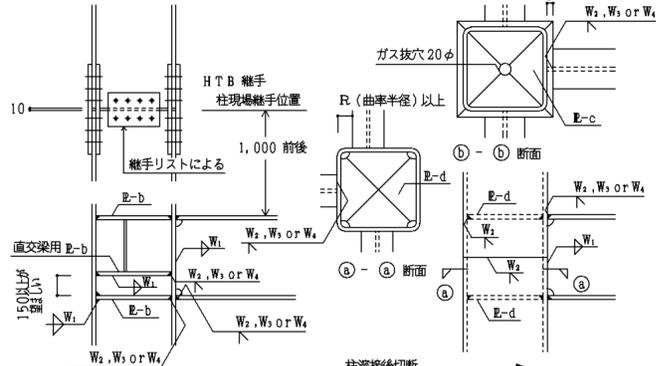
6-2
梁通し



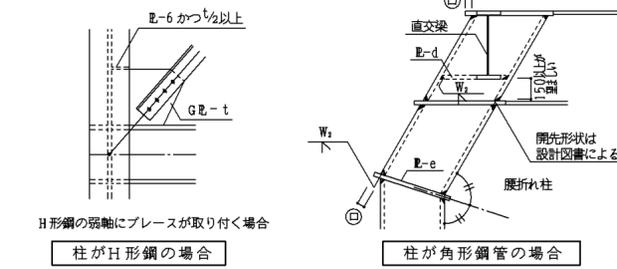
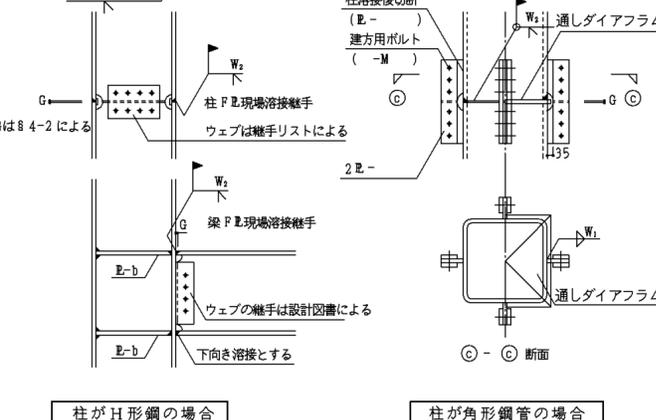
6-3
仕口と継手



6-4
柱通し

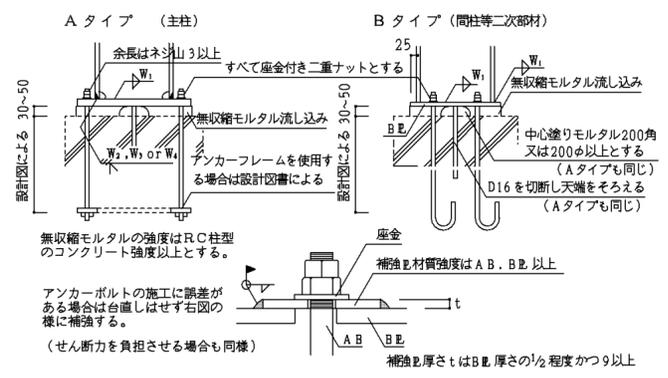


6-5
現場溶接継手

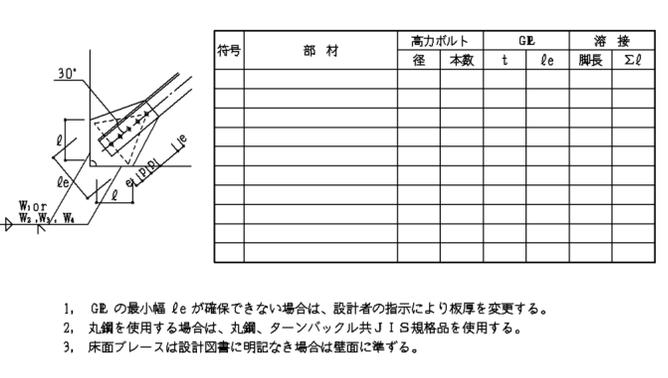


- H形鋼の弱軸にブレースが取り付け場合
柱がH形鋼の場合
- パネルゾーンのエの厚さ
 - E-a (鉛直スチフナ) 上下柱のF Eの厚い方より1サイズUP以上
 - E-b (水平スチフナ) 仕口部に集結する梁の最大F Eより1サイズUP以上
 - E-c (通しダイヤフラム) 仕口部に集結する梁の最大F Eより2サイズUP以上かつ柱のF E以上
 - E-d (内ダイヤフラム) 仕口部に集結する梁の最大F Eより2サイズUP以上
 - E-e (折れ曲がり部) 梁(柱)のF Eより1サイズUP以上
 - 寸出法
 - 25mm かつ cTf 以上
 - cTf ≤ 25 の場合 25
 - cTf ≥ 28 の場合 30
 - 注記
 - ダイヤフラムの材質は特記仕様書による。特記なき場合は、接続する柱及び梁の1ランク上質とする。また接続する柱及び梁の強度及び材質の異なる場合は、強度は大きい方に同じとし、材質は上の方の1ランク上質とする。
 - ④(6-2項)上下階で柱径が異なる場合の板厚は上下階柱の厚い方、材質は上下階柱と同質以上とし、折り曲げ加工又は溶接加工とする。
 - ハンチ部でF Eを折曲げる場合は R ≥ 10Tf とし補強プレートを入れる。ただし、勾配のゆるい場合(1/6程度)は不要。
 - ダイヤフラムと梁フランジの溶接部は、梁フランジはダイヤフラムの厚みの内部で溶接すること。(告示1464)
 - 現場溶接を行なう場合は工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。

87 柱脚

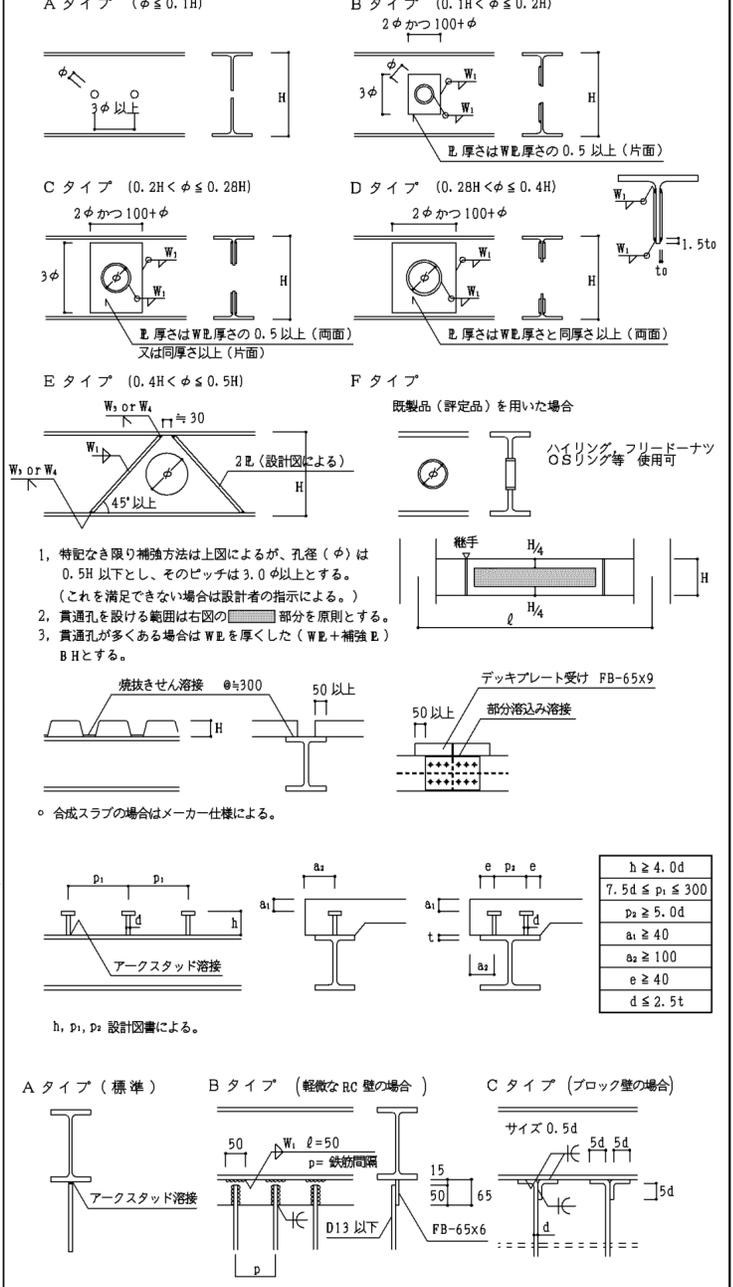


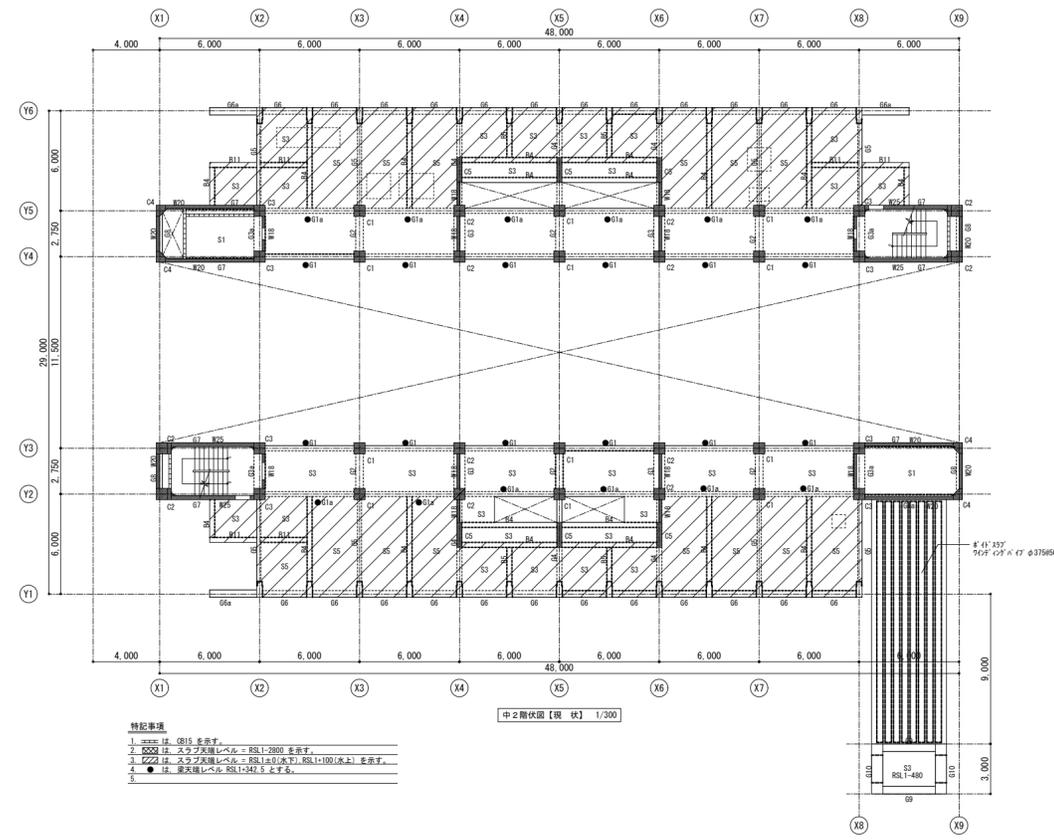
88 壁面ブレース



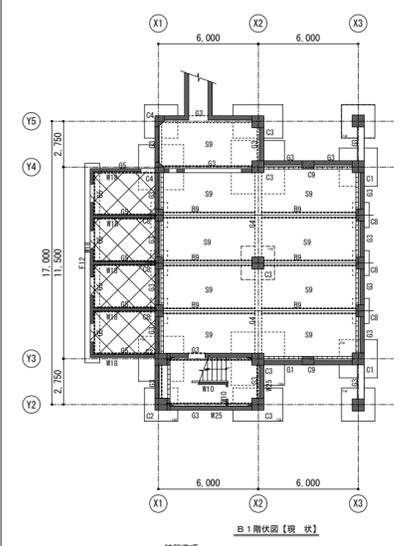
- GEの最小幅 ℓ_e が確保できない場合は、設計者の指示により板厚を変更する。
- 丸鋼を使用する場合は、丸鋼、ターンバックル共JIS規格品を使用する。
- 床面ブレースは設計図書に明記なき場合は壁面に準ずる。

89 その他

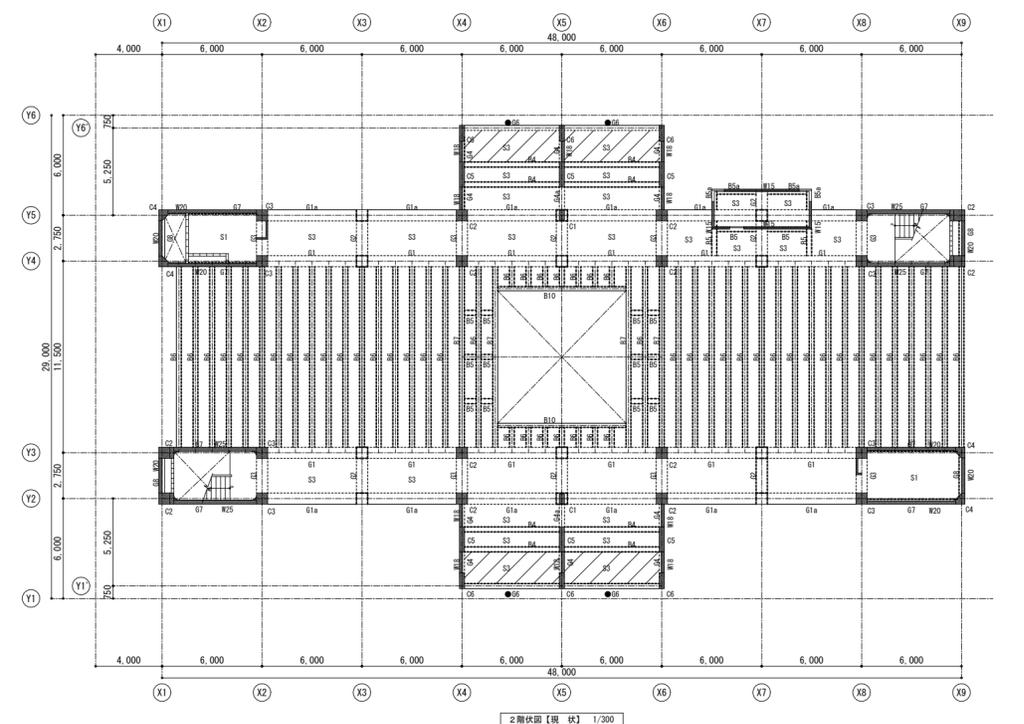




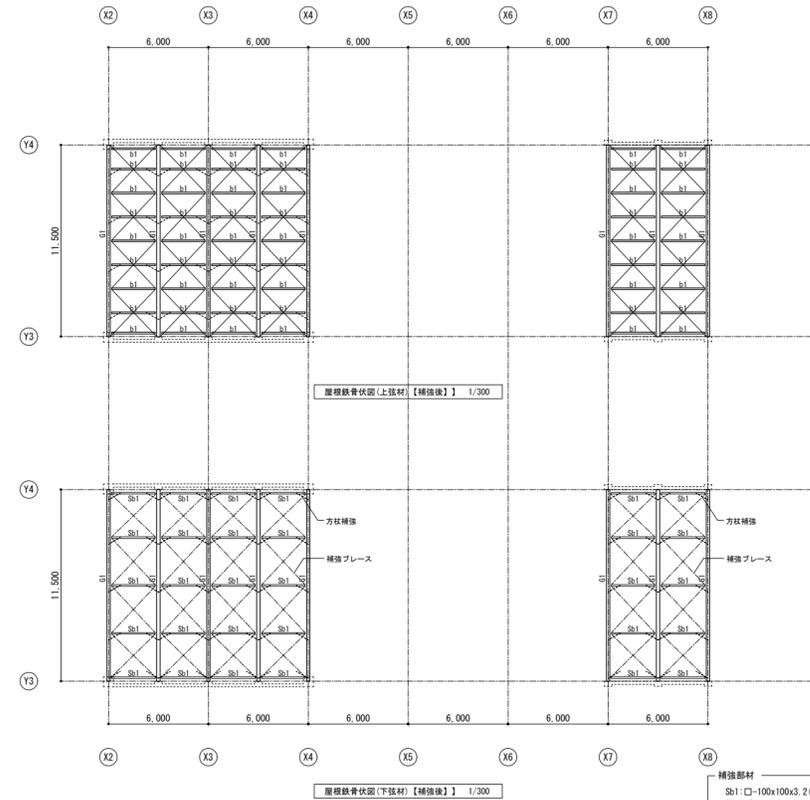
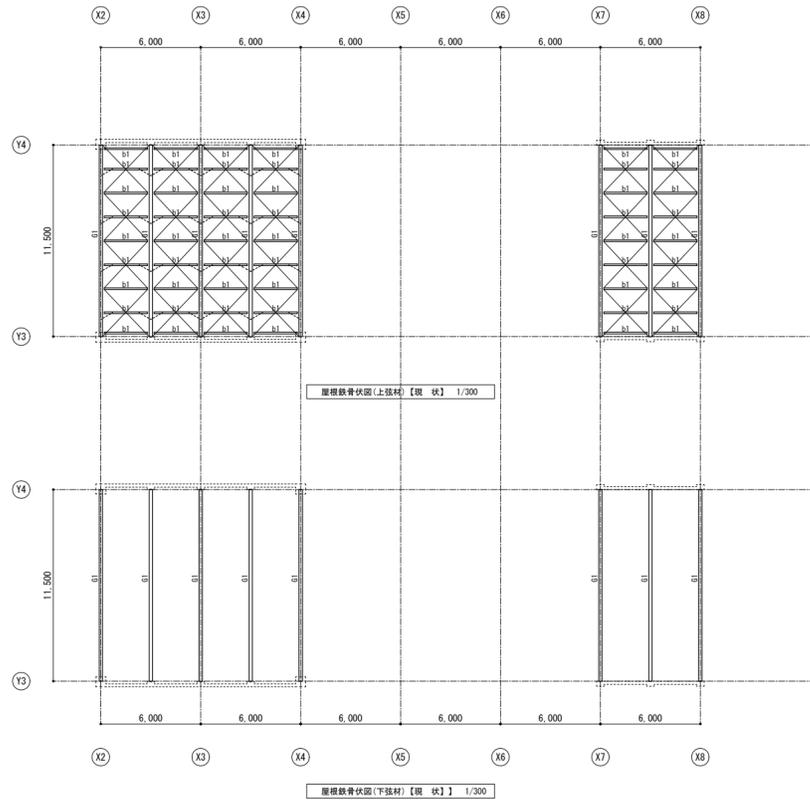
- 特記事項
1. mm は、0B15 を表示。
 2. 600 は、スラブ実厚レベル = RL+1.280 を表示。
 3. 620 は、スラブ実厚レベル = RL+1.00(地上) を表示。
 4. ● は、梁実厚レベル = RL+1.275 を表示。
 5. ● は、梁実厚レベル = RL+1.275 を表示。



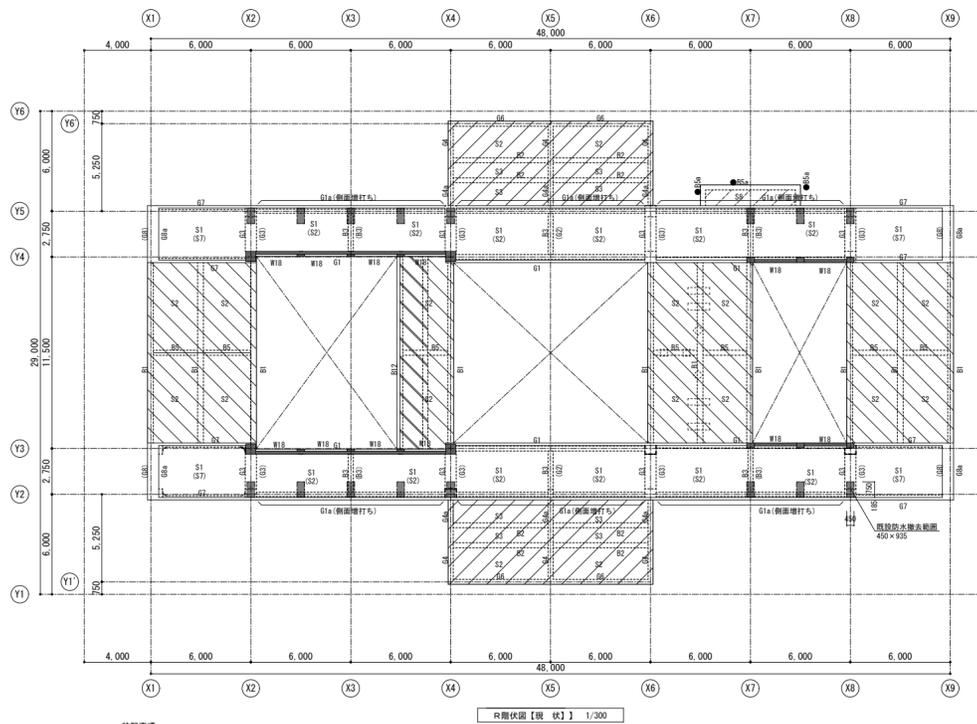
- 特記事項
1. 特記なしは、R10 とする。
 2. mm は、0B15 を表示。
 3. ● は、梁実厚レベル = RL-50 とする。
 4. ● は、梁実厚レベル = RL-292 (100) とする。
 5. ● は、梁実厚レベル = RL-200 とする。
 6. 〃 は、本階コンクリートを表示 (100)。
 7. 〃 は、スラブ実厚レベル = RL-30 を表示。
 8. 〃 は、スラブ実厚レベル = RL-120 を表示。
 9. 〃 は、スラブ実厚レベル = RL-282.5 を表示。
 10. 〃 は、スラブ実厚レベル = RL-400 を表示。
 11. 〃 は、スラブ実厚レベル = RL-1732.5 を表示。



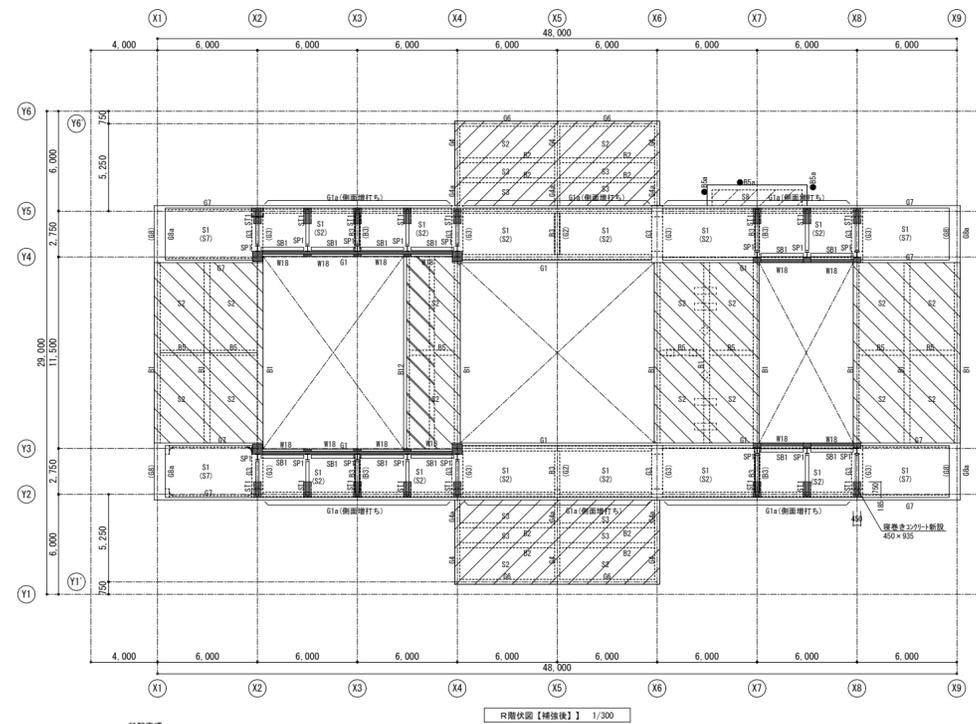
- 特記事項
1. mm は、0B15 を表示。
 2. 特記なしは、R10 とする。
 3. 特記なしは、スラブ厚、表示。
 4. 〃 は、スラブ実厚レベル = RL-100 を表示。
 5. ● は、梁実厚レベル = RL+1.00 を表示。



補強部材
 Sb1 □-100x100x3.2(SSC400)
 補強プレート: 11-M22(9- π ×14補)JIS規格品
 方柱材: L-65x65x6(SS400)

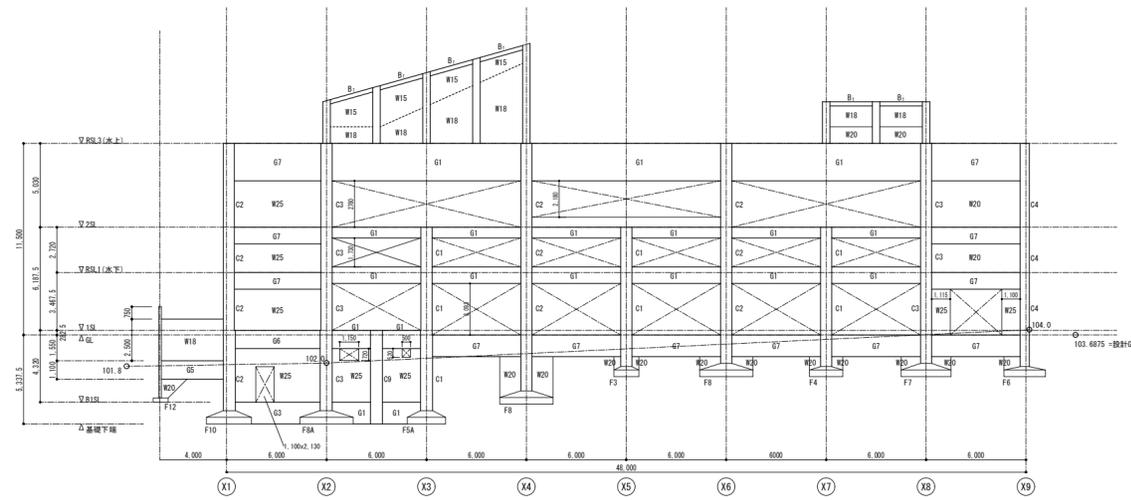


- 特記事項
- は、梁天端レベル R3.3-2270 とする。
 - ()内は、柱梁及び梁スラブの下部を示す。
 - は、スラブ天端レベル = R3.3-1900 (0.1米下) R3.3-1842 (0.1米下) を示す。
 - は、スラブ天端レベル = R3.3-1300 (0.1米下) R3.3-1240 (0.1米下) を示す。
 - △は、スラブ天端レベル = R3.3-2600 (0.1米下) R3.3-2550 (0.1米下) を示す。
 - ▽は、スラブ天端レベル = R3.3-1100 (0.1米下) を示す。

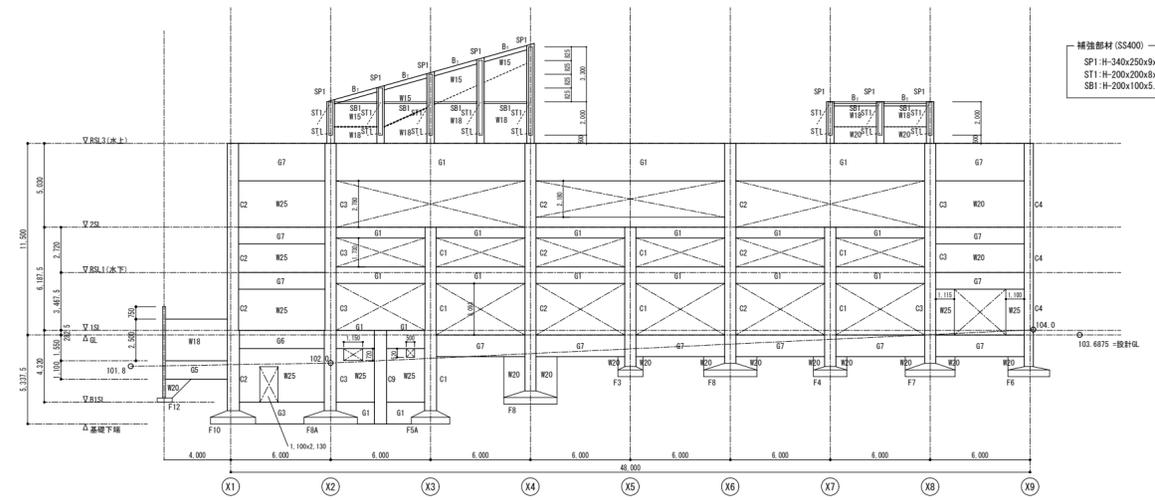


- 特記事項
- は、梁天端レベル R3.3-2270 とする。
 - ()内は、柱梁及び梁スラブの下部を示す。
 - は、スラブ天端レベル = R3.3-1900 (0.1米下) R3.3-1842 (0.1米下) を示す。
 - は、スラブ天端レベル = R3.3-1300 (0.1米下) R3.3-1240 (0.1米下) を示す。
 - △は、スラブ天端レベル = R3.3-2600 (0.1米下) R3.3-2550 (0.1米下) を示す。
 - ▽は、スラブ天端レベル = R3.3-1100 (0.1米下) を示す。

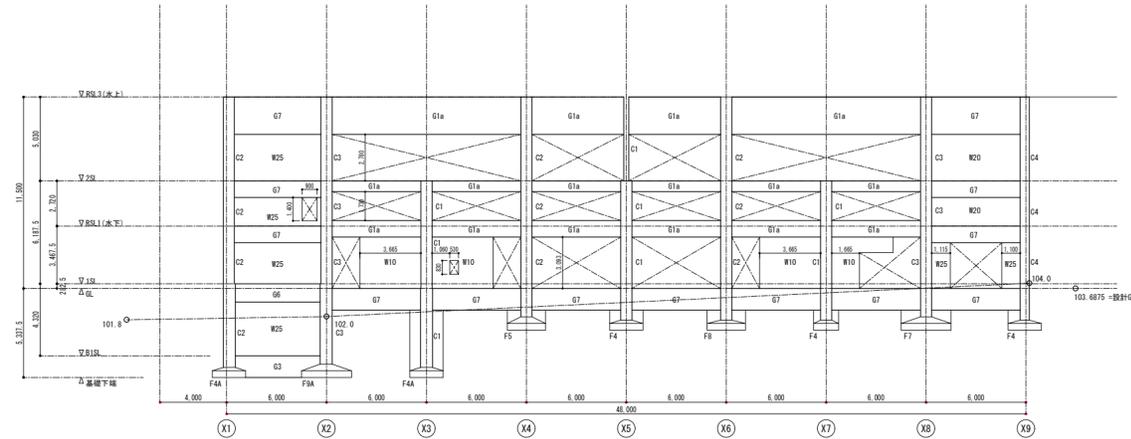
補強部材 (SS400)
 SP1 H-340x250x9x14
 ST1 H-200x200x8x12
 SB1 H-200x100x5.5x8



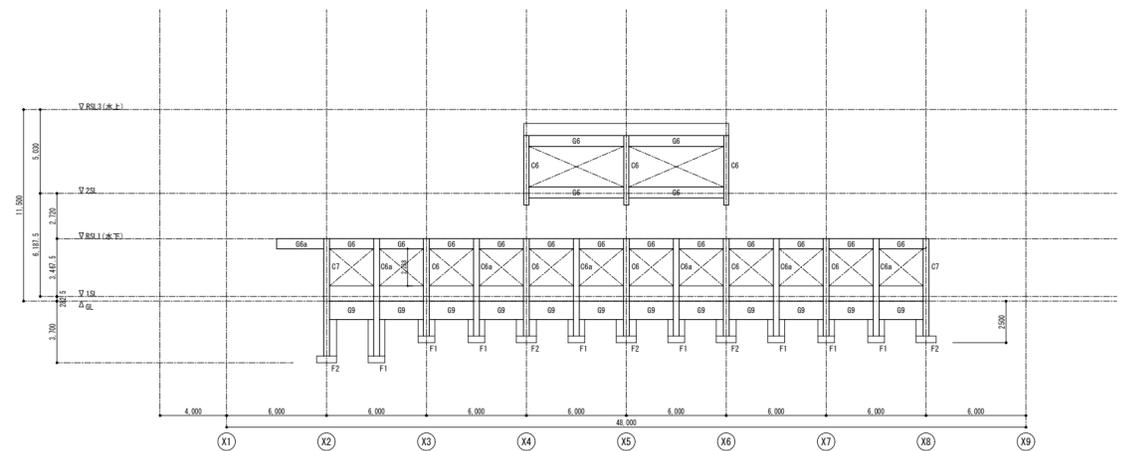
C通り軸組図【現状】 1/300



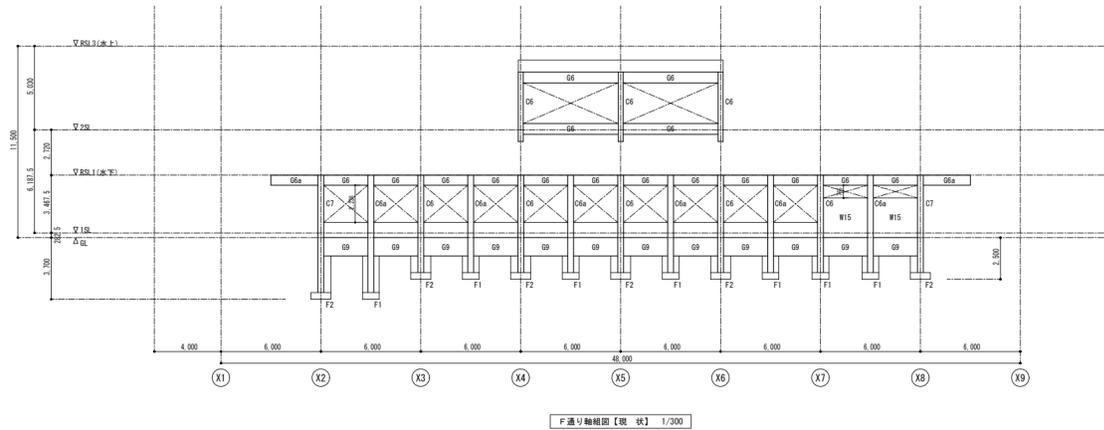
C通り軸組図【補強後】 1/300



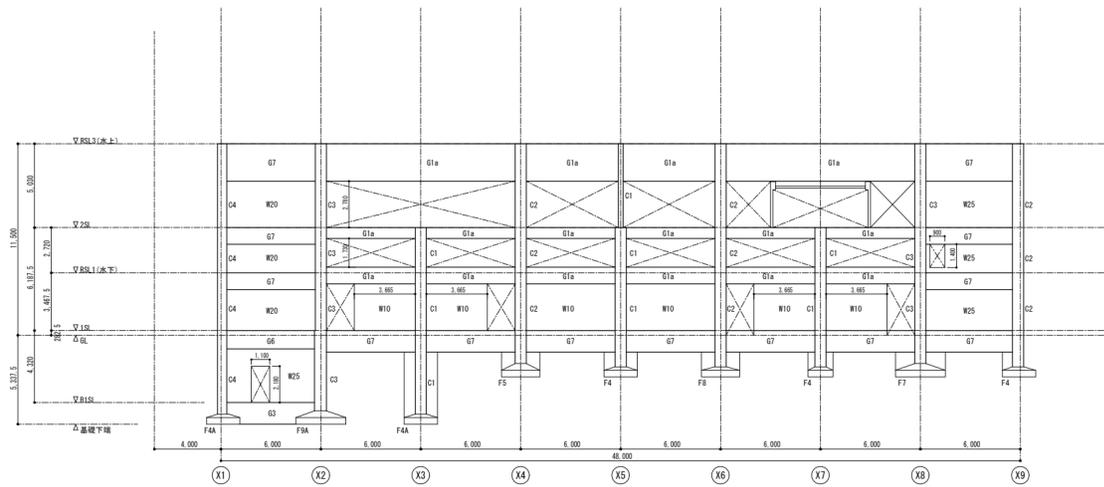
B通り軸組図【現状】 1/300



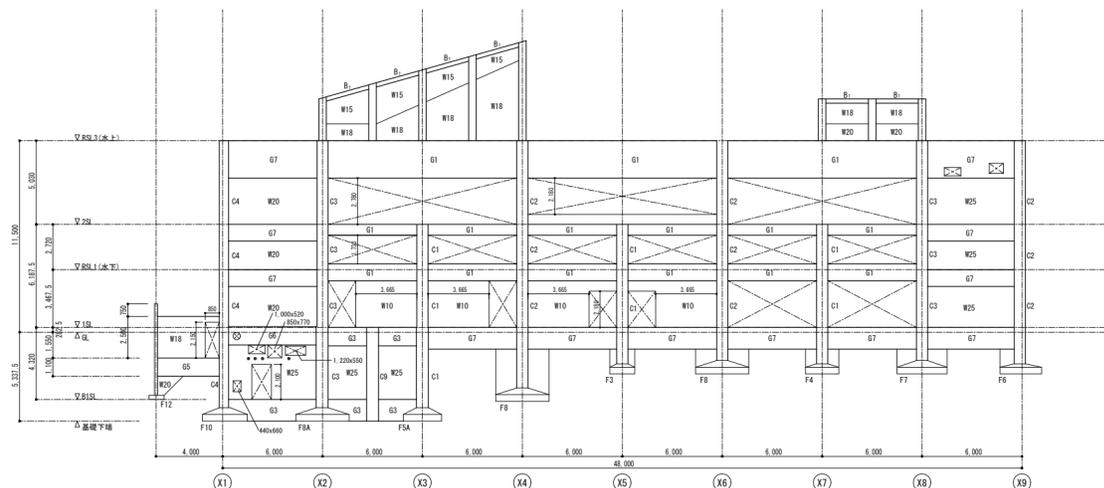
A通り軸組図【現状】 1/300



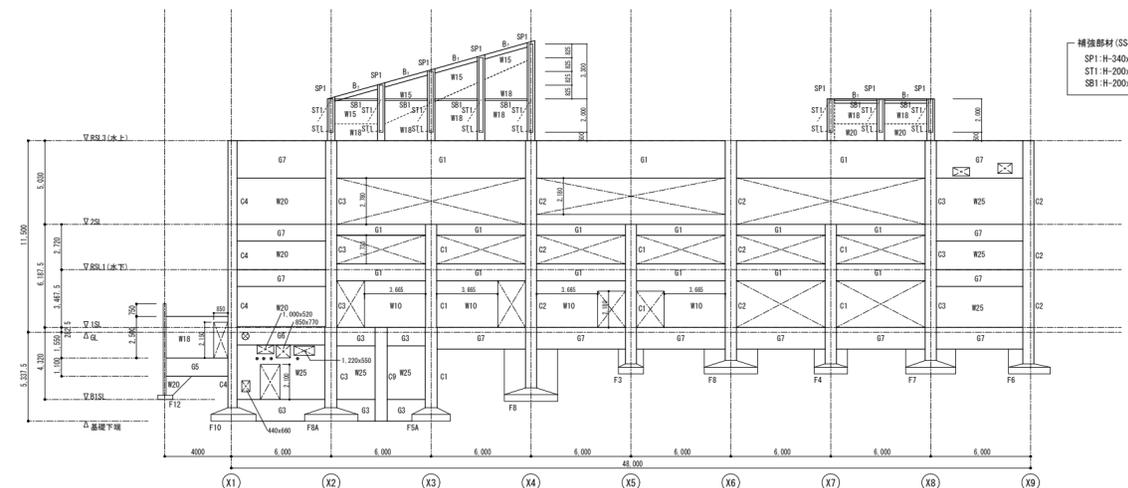
F通り軸組図【現状】 1/300



E通り軸組図【現状】 1/300

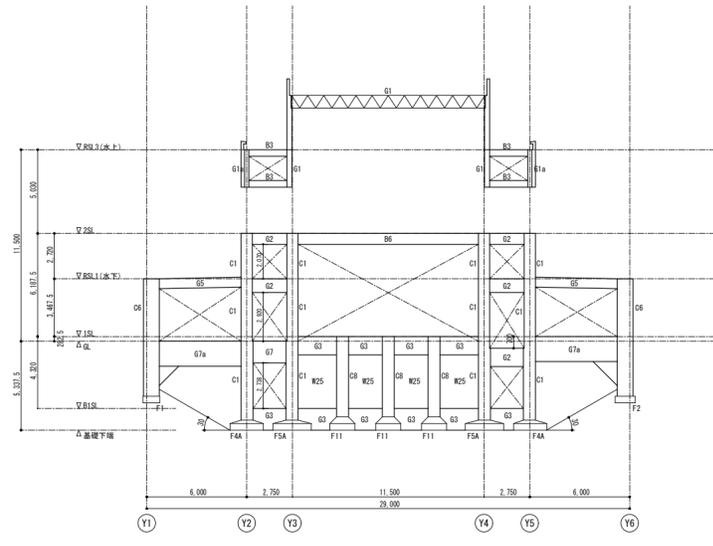


D通り軸組図【現状】 1/300

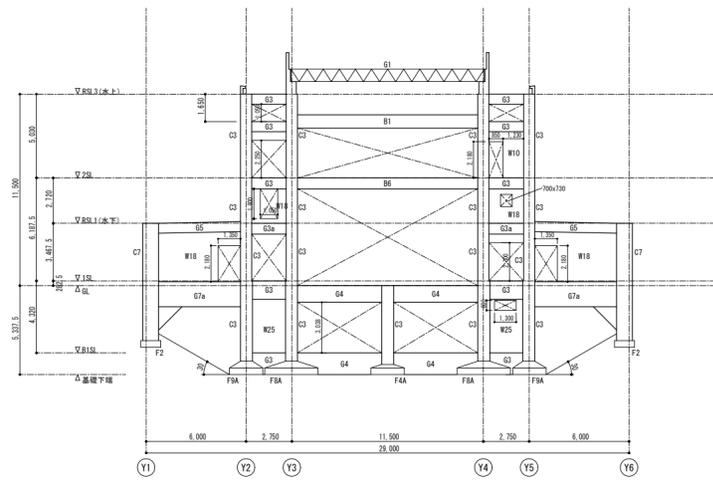


D通り軸組図【補強後】 1/300

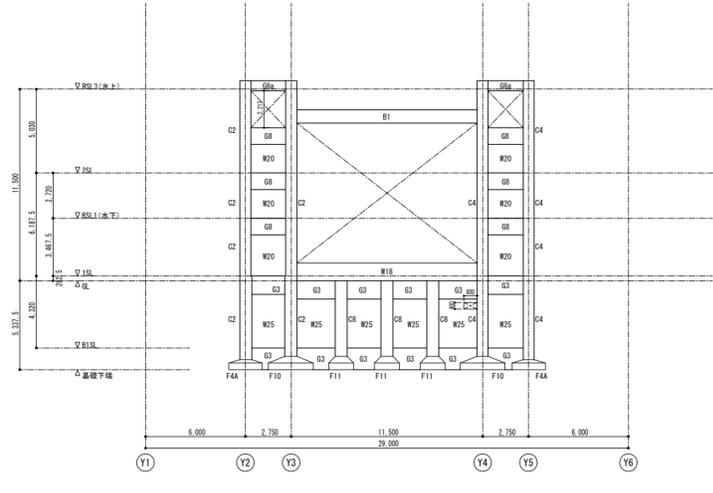
補強部材 (SS400)
 SP1: H-340x250x9x14
 ST1: H-200x200x8x12
 SB1: H-200x100x5.5x8



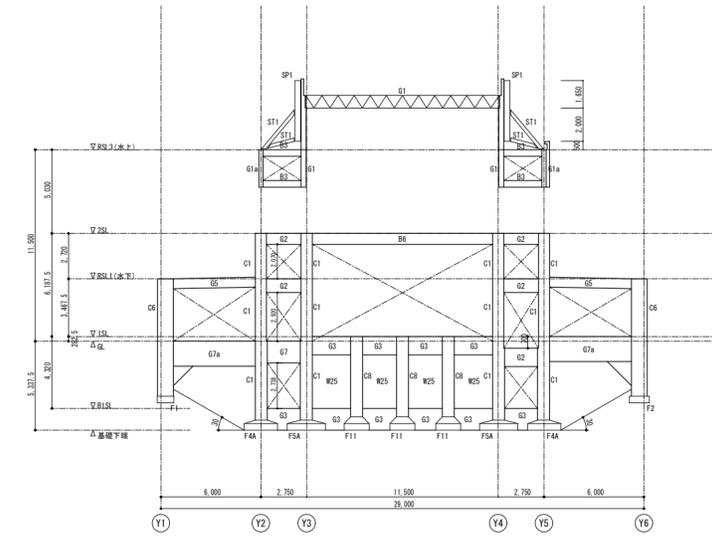
3通り軸組図【現状】 1/300



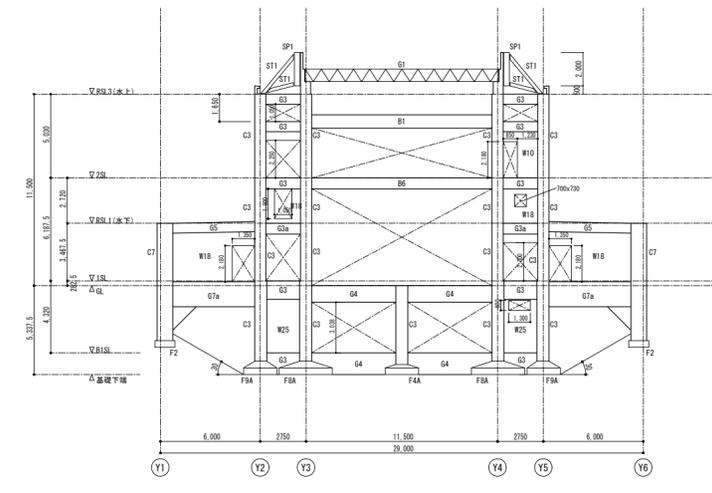
2通り軸組図【現状】 1/300



1通り軸組図【現状】 1/300



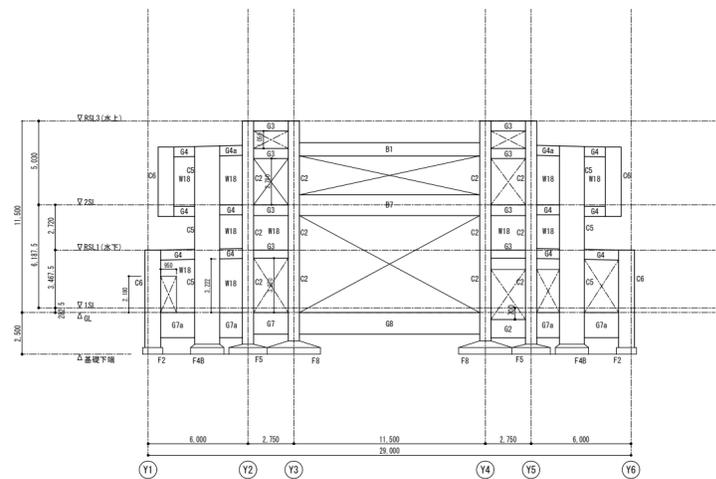
3通り軸組図【補強後】 1/300



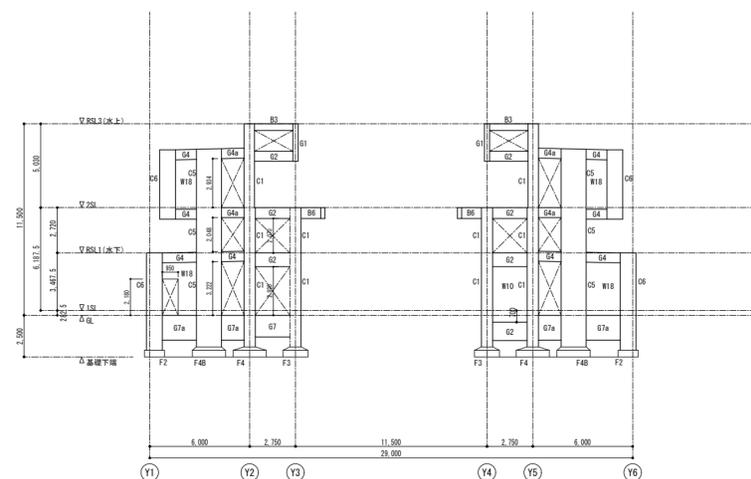
2通り軸組図【補強後】 1/300

補強部材 (SS400)
 SP1: H-340x250x9x14
 ST1: H-200x200x8x12
 SB1: H-200x100x5.5x8

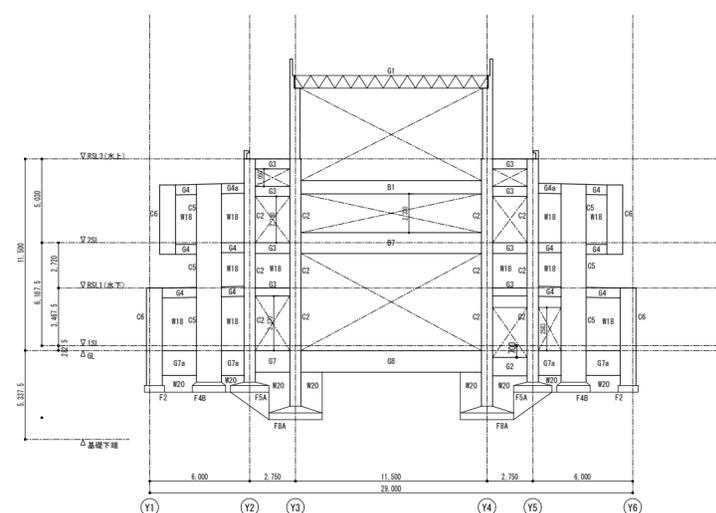
補強部材 (SS400)
 SP1: H-340x250x9x14
 ST1: H-200x200x8x12
 SB1: H-200x100x5.5x8



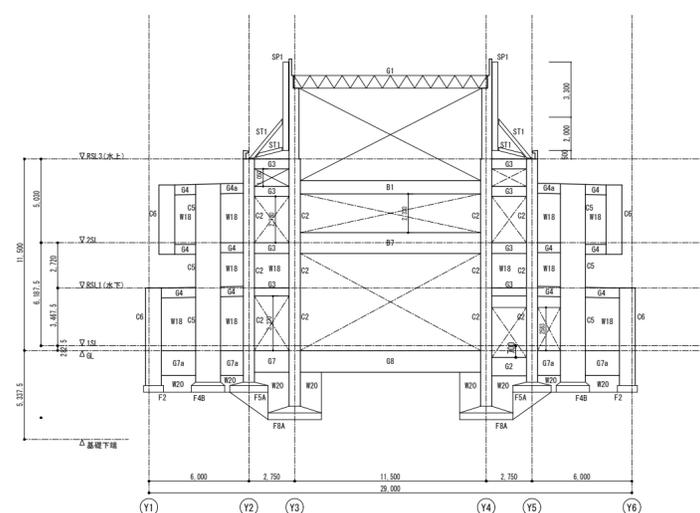
6通り軸組図【現 状】 1/300



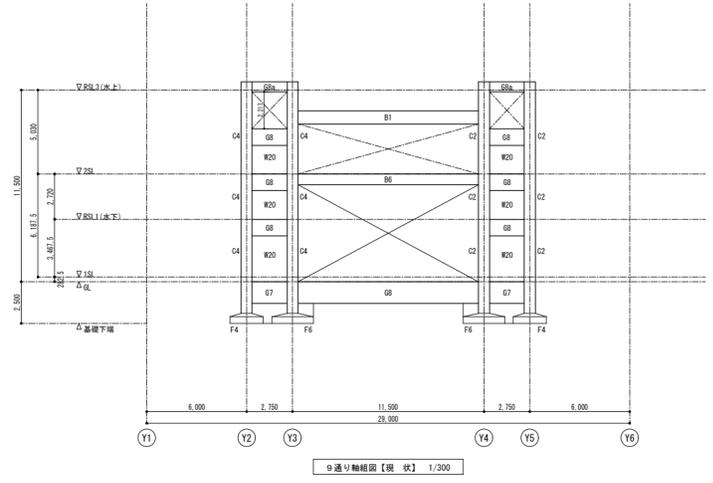
5通り軸組図【現 状】 1/300



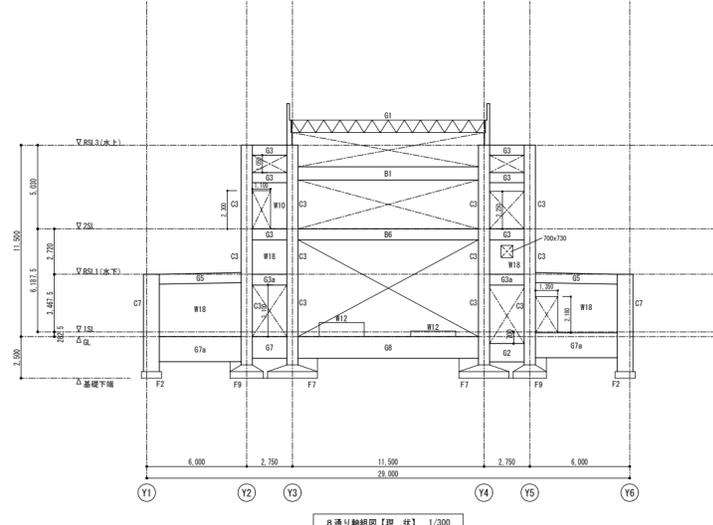
4通り軸組図【現 状】 1/300



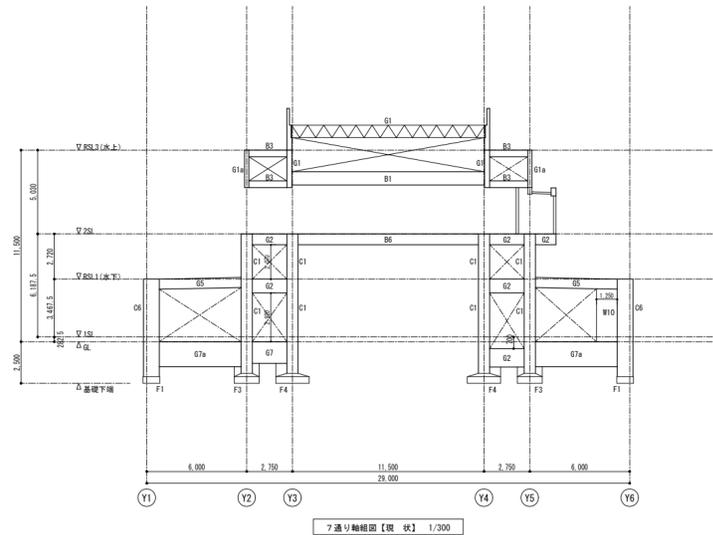
4通り軸組図【補強後】 1/300



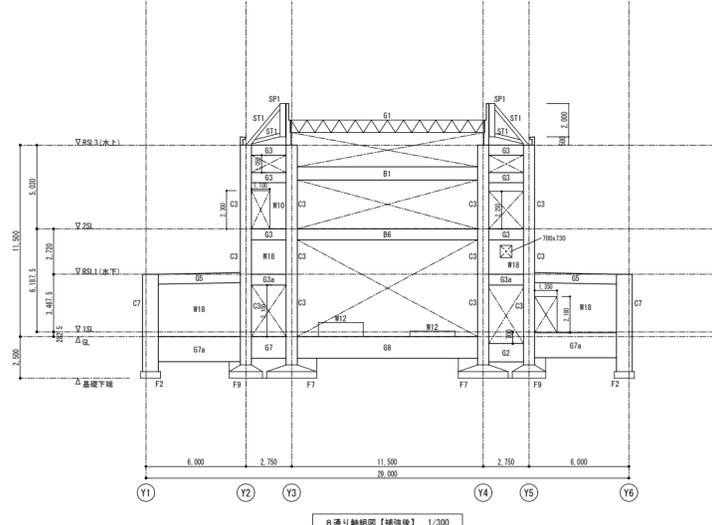
9通り軸組図【現状】 1/300



8通り軸組図【現状】 1/300

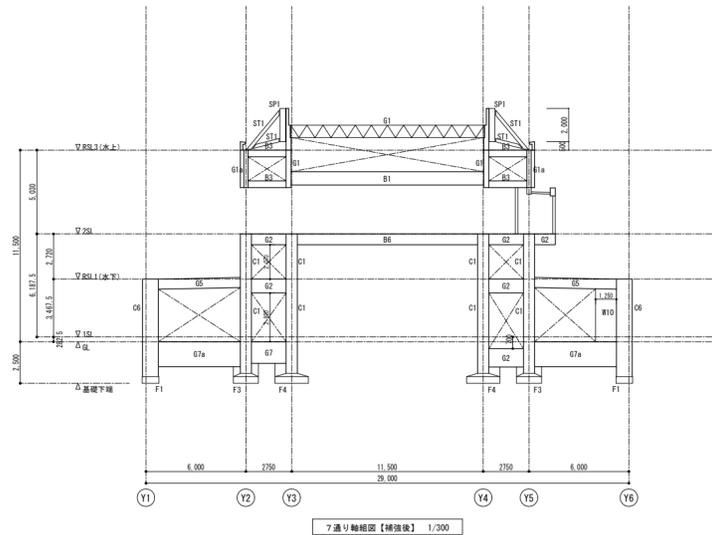


7通り軸組図【現状】 1/300



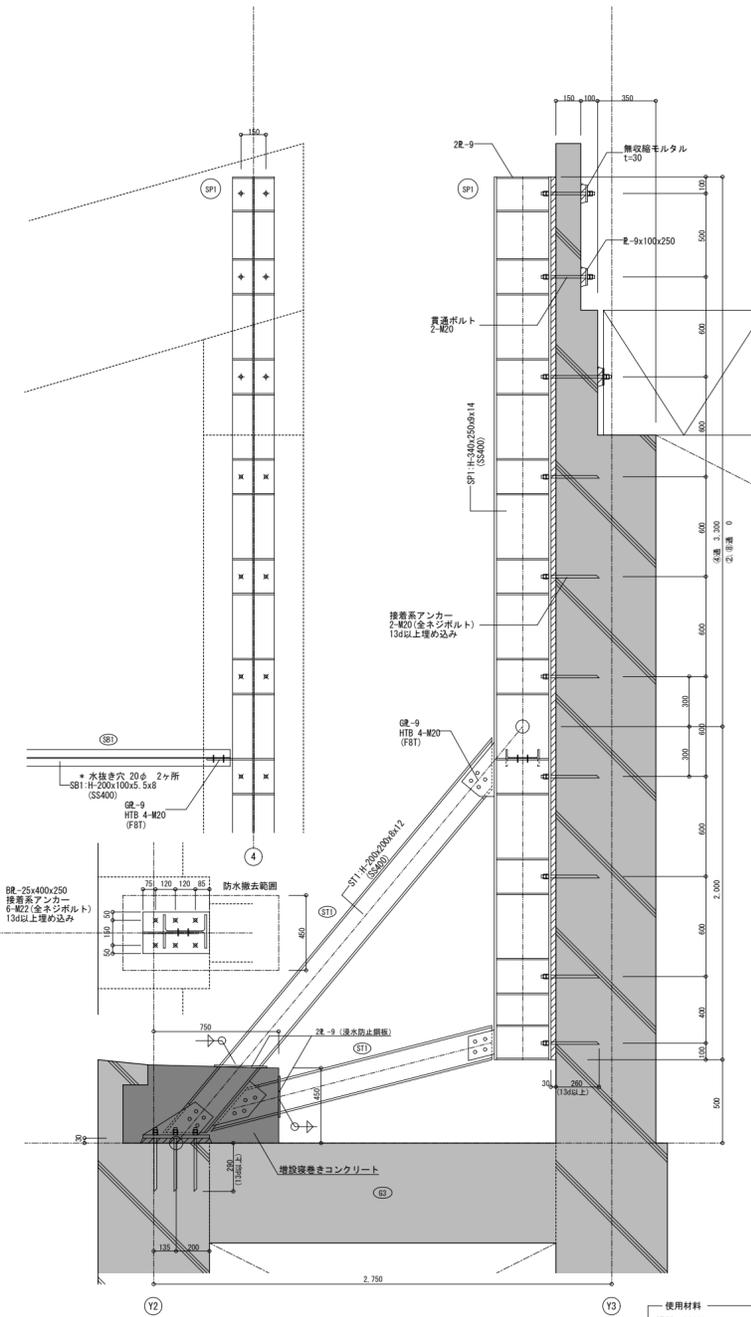
8通り軸組図【補強後】 1/300

補強部材 (S5400)
 SP1: H-340x250x9x14
 ST1: H-200x200x8x12
 SB1: H-200x100x5.5x8



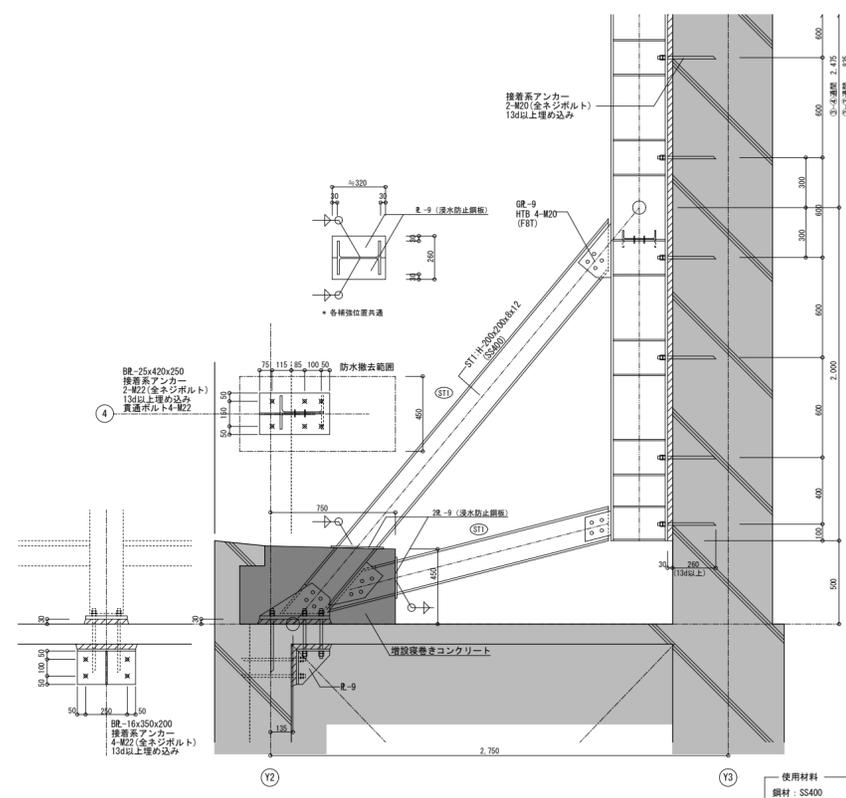
7通り軸組図【補強後】 1/300

補強部材 (S5400)
 SP1: H-340x250x9x14
 ST1: H-200x200x8x12
 SB1: H-200x100x5.5x8



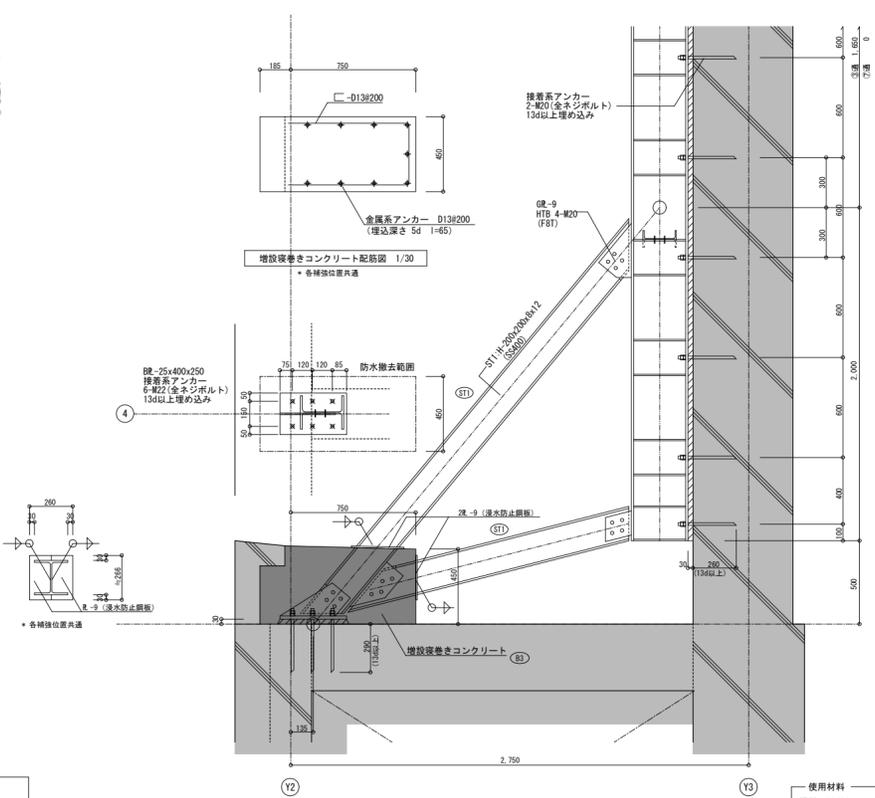
2・4・8 通り補強詳細図 1/30

使用材料
鋼材：SS400
ボルト：F8T
アンカー筋：SS400
* 溶融亜鉛メッキ仕上げとする。



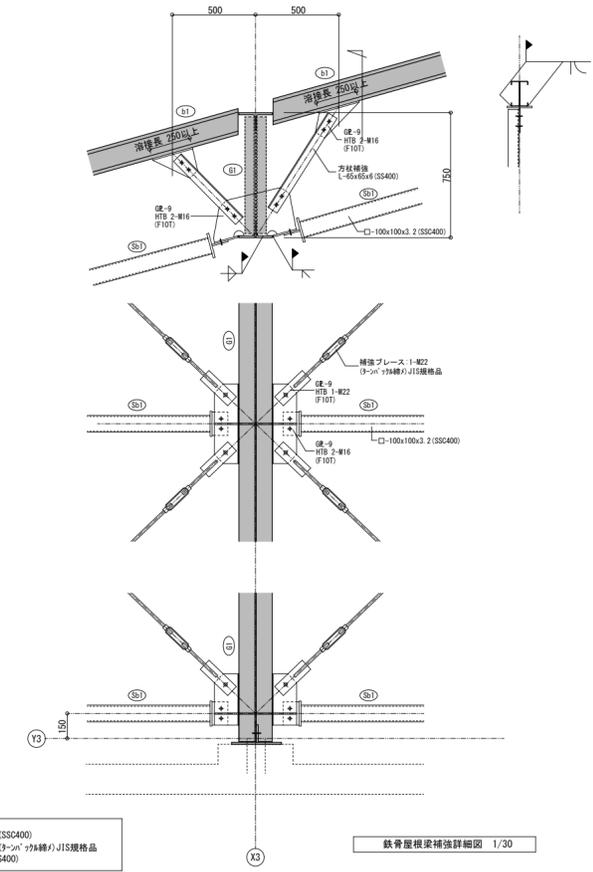
中間通り補強詳細図 1/30

使用材料
鋼材：SS400
ボルト：F8T
アンカー筋：SS400
* 溶融亜鉛メッキ仕上げとする。



3・7 通り補強詳細図 1/30

使用材料
鋼材：SS400
ボルト：F8T
アンカー筋：SS400
* 溶融亜鉛メッキ仕上げとする。



鉄骨屋根梁補強詳細図 1/30

補強部材
Sb1: □-100x100x3.2 (SS400)
補強プレート 1-M22 (9ヶ所) J15規格品
方杖材 L-65x65x6 (SS400)

既設部分を示す

電気設備工事特記仕様書 No.1

- 【工事概要】
1 工事場所 京都府船井郡京丹波町本庄地内
2 建物概要

Table with 7 columns: 建物名, 構造, 階数, 延床面積 (m²), 消防法令別表第一耐震安全性の分類, 備考. Rows include building name and classification details.

3 工事科目 ●印をついたものを適用し、各一式とする。

Table with 3 columns: 工事科目, 建物名称, 京丹波町和支所. Lists various electrical and construction items with checkboxes for application.

【特記事項】

- 1 一般事項
1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）平成三十一年版」...
2) 工事種目に機械設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。

Main specification table with 3 columns: 項目, 特記事項, 備考. Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Main specification table with 3 columns: 項目, 特記事項, 備考. Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

Main specification table with 3 columns: 項目, 特記事項, 備考. Contains detailed technical requirements for equipment, materials, and construction methods.

電気設備工事特記仕様書 No.2

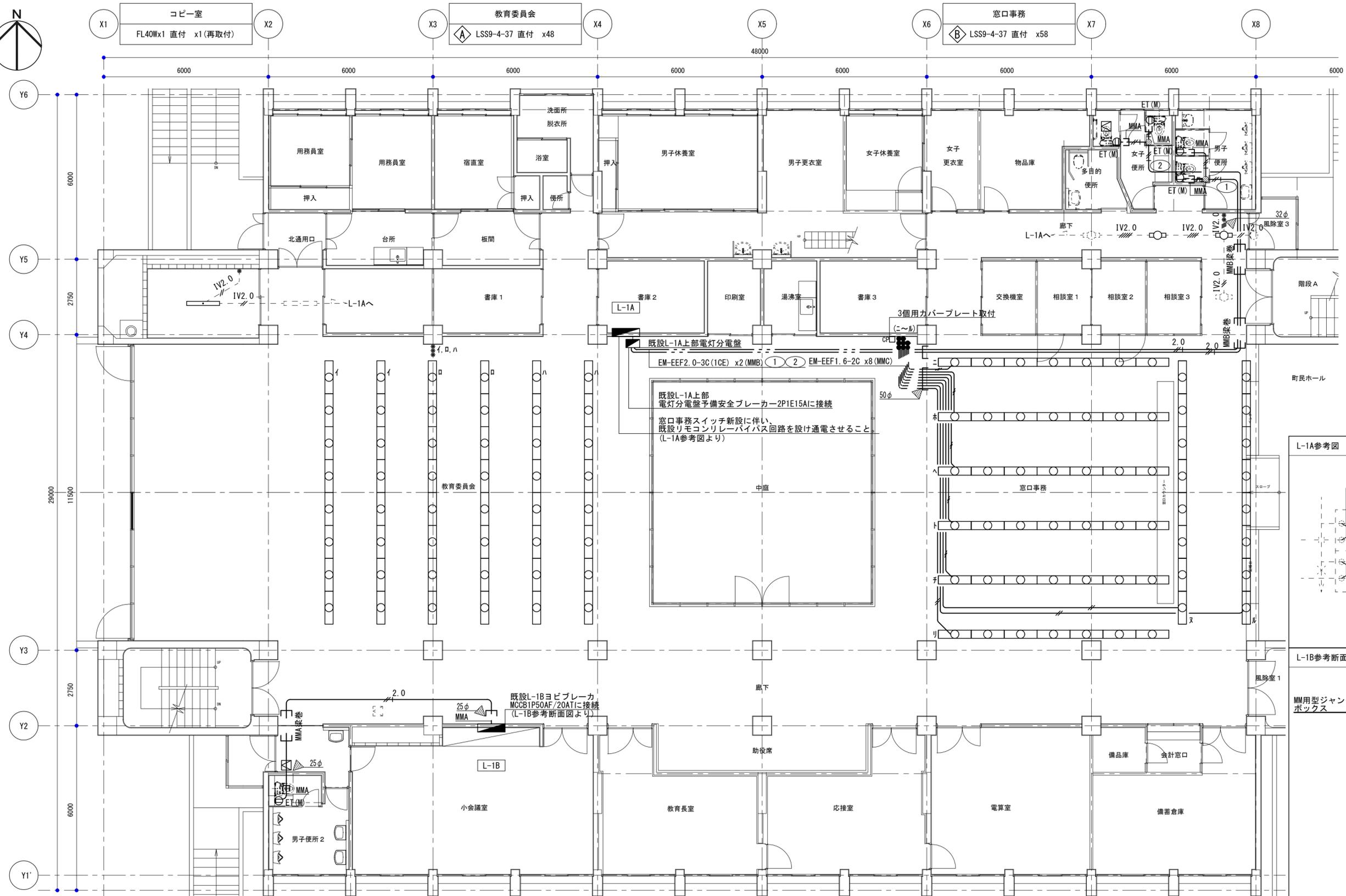
章	項目	特記事項
電力貯蔵設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○直流電源装置	用途 ○建築基準法用 ○消防法用 ○受変電設備専用 その他 ○過放電防止保護装置（直流不足電圧継電器）の設定電圧は、90Vとする。
発電機	○交流無停電電源装置（UPS）	用途（ ） 方式 ○一般形 ○簡易形
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
発電機	○形式	○オープン形 ○簡易形 ○キュービクル
	○連続運転可能時間	○10時間（乙） ○72時間（甲） ○
発電機	○発電機	電気方式 三相3線式 電圧 ○210V ○6.6kV ○415V 定格出力 kVA以上 力率 0.8
	○原動機	種別 ○ガスタービン ○ディーゼル機関 ○ガスエンジン ○マイクロガスタービン ○燃料電池 ○コージェネレーション 定格出力 kW（PS）以上 始動方式 ○電気式 ○空気式 冷却方式 ○ラジエーター式 ○水循環環式 現地負荷試験 ○行う ○行わない
発電機	○燃料	種類 ○重油 ○軽油 ○灯油 ○ガス（ ） ○燃料小出槽 ○主燃料槽
	○監視方式	○警報盤による代表監視 ○中央監視盤による監視
太陽光発電装置	太陽電池	アレイ設置可能建築面積 公称最大出力 kW以上 m ² 以下（長辺 m×短辺 m）
	系統連系	○受動 ○能動
太陽光発電装置	パワーコンディショナ出力	相線式 V kW以上
	逆流	○有 ※無
太陽光発電装置	交流出力電圧	○100V ○200V
	出力電気方式	○三相3線式 ○単相3線式 ○単相2線式
○外部移報	○有 ○無	
構内情報設備	●工事範囲	●配管 ●配線 ●機器取付
	●施工方法	●金属管配線 ●ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
構内交換設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○保安器用接地	○本工事 ○別途工事
○形式	○電子交換機 ○ボタン電話装置	
情報表示設備	○工事種類	○マルチサイン装置 ○出退表示設備 ○時刻表示設備
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
情報表示設備	○親時計及び付属装置	○CR-P M ○CW-P M ○プログラムタイマー（カード式 ○キー式 ○ ）
	○子時計	特記なきものは ○SWA ₃₃ -G ₂ B ₂ ○
映像音響設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○施工方法	○金属管配線 ○ケーブル配線 ○合成樹脂管配線
拡声設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○増幅器	用途 ○全館放送用（○一般放送 ○非常放送）○ローカル放送用 ○自動放送はアッテネーターを経由した回路とする。
○スピーカー	特記なきものは ○SC _H i-1V ₃ -M ○	
誘導支援設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○工事内容	○音声誘導装置 検出方式（○磁気式 ○無線式 ○画像認識） ○インターホン ○電話式 ○相互式 ○テレビインターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○外部受付用インターホン ○親機に子機カメラ角度調整機能（上下）を設ける。 ○トイレ等呼出し装置 ○1室 ○3室 ○5室 ○ 呼出しボタン ○壁付ボタン（フリースイッチの長さは0.2m以上とする） ○壁付押しボタン（押しボタンの長さは1.2m以上とする） ○受付呼出し装置 ○誘導音
テレビ共同受信設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○アンテナ	○UHF用 ○BS用 ○CS用 ○AM用 ○FM用 ○CATV
○アンテナマスト	○壁面取付形 ○自立形 ○配管用ステンレス鋼管 ○一般構造用炭素鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ） ○圧力配管用炭素鋼管（溶融亜鉛メッキ仕上げ）	
○電界強度測定	電界強度及び面質は、最上階が打上がったときに、アンテナ取付予定位置、またその周辺で測定し、その測定記録を監督職員に速やかに提出すること。 測定チャンネルは、監督職員と協議する。	

章	項目	特記事項
監視カメラ	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○画像	○カラー ○白黒
監視カメラ	○伝送方式	○アナログ伝送方式 ○ネットワーク伝送方式 ○
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
監視カメラ	○車両検出方式	○ループコイル方式 ○光線方式
	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
監視カメラ	○工事種類	○機械警備用配管 ○防犯装置 ○入退室管理制御装置
	●自動火災報知装置	●工事範囲 ○配管 ●配線 ●機器取付
火災報知設備	○受信機	○形 級 回線 ○壁掛形 ○自立形 ○単独形 ○複合形 ○副受信機 窓 ○盤面に消火ポンプ運転表示灯を設ける。 ○消火ポンプ始動 ○消火栓箱内押ボタン ○発信機と連動（総合盤に始動表示灯を設ける。）
	○自動閉鎖装置	○機器収容箱 ○消火栓一体形 ○単独形 ○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○連動制御器 回線 【予備電源（蓄電池）内蔵】 ○単独 ○自火報受信機と一体 ○ダンパ等（全数）復帰用の予備電源容量を持つこと。 ○自動閉鎖装置 ○防火戸用【DC24V 0.6A以下電磁式またはラッチ式】 ○防煙ダンパ用 【別途工事 瞬時通電式又は電動式 DC24V 0.6A以下 遠方復帰機構（電動式）DC24V 0.7A以下】 ○防火シャッター用 【別途工事 DC24V 0.6A以下】
火災報知設備	○非常警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○電気方式 DC24V ○電源装置 ○非常電源（蓄電池） ○自動火災報知設備と兼用
	○ガス漏れ火災警報装置	○工事範囲 ○配管 ○配線 ○機器取付 ○受信機 ○単独形 ○自火報受信機と一体 ○ガスの種類 ○都市ガス（13A） ○液化石油ガス
○諸警報表示	受信機に諸警報表示窓（窓）を設ける。	
制中央監視	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○監視方式	○警報盤 ○監視制御装置
医療関係設備	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○非接地電源用分電盤	キャビネット ○鋼製 ○ステンレス製
○ナースコール装置	トイレ及び浴室等の呼出しボタン ○防滴 ○防曇	
○その他	○オプション等の試験は、監督職員の指示による。	
構内配線	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○電気方式	高圧 三相3線式 6kV 低圧 三相3線式 200V ○ 単相3線式 100/200V 単2線式（○100V ○200V）
構内配線	○ふ設方式	○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装下面） -300mm以下とする。 ○架空線 電柱 ○速心カプレストレストコンクリートポール
	○区分開閉器	○高圧負荷開閉器 7.2kV 300A 用途 ○架空引込用 ○地中引込用 構造 ○耐中塩じん用 ○耐重塩じん用 形式 ○引外し装置付き（SOG形） ○引外し装置なし ○避雷器内蔵 ○制御電源用変圧器内蔵
構内配線	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は電力とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○余長	高圧ケーブルは、受変電設備までの配線経路中、1ヶ所以上で3m余長をとる。 ○一般用 ○耐塩用 ○重耐塩用
構内配線	○避雷器	○屋外形 ○耐塩形
	○装柱材	○一般用 ○耐塩形
構内配線	○外灯	基礎 ○本工事 ○別途工事 ○外灯ボールの材質が鋼製（SPC）の場合は溶融亜鉛メッキとし、指定色塗装とする。
	○標識シート	外灯回路以外に設ける。また、2倍長とする。
構内配線	○工事範囲	○配管 ○配線 ○機器取付
	○ふ設方式	○地中線 ○管路式 ○波付硬質合成樹脂管（FEP） ○ポリエチレン被覆管（PLP） ○埋設深さ 特記なきものはGL（舗装がある場合は、舗装（表層）下面） -300mm以下とする。 ○架空線 電柱 ○速心カプレストレストコンクリートポール
構内配線	○マンホール及びハンドホール	構造・寸法 ○標準図による ○図示による。 蓋の文字 ○蓋の用途表示は通信とする。 ○ ハンドホールにおいてもケーブル支持材を設ける。 ケーブルが直接接触しない場合の金物は、接地を省略してもよい。
	○標識シート	地中配線（管路）のすべてに設ける。

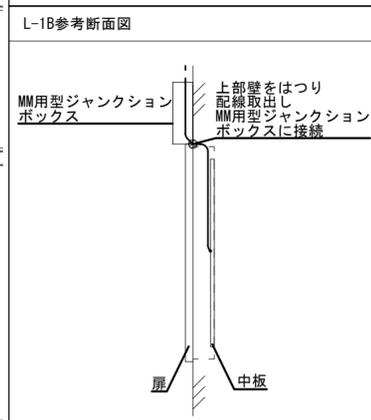
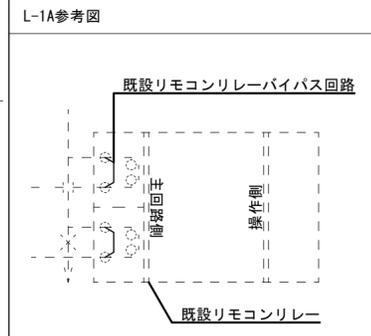
章	項目	特記事項
調査	○調査範囲	○測定のみ ○対策工事実施設計書作成まで
	○測定時期	○工事前 ○工事中 ○完成後
調査	○測定箇所	箇所
	○測定内容	受信可能な全チャンネルとし、結果報告書を提出する。

別表 1 付属品・予備品

○イーサーキャビネット	箱	○キーボックス	○テスター	○マンホールフック
○工具箱（ドライバー、モンキーレンチ、組スプナー、ハンマー）				
○受変電設備・盤				ランプ及びヒューズの予備品は、20%とする。

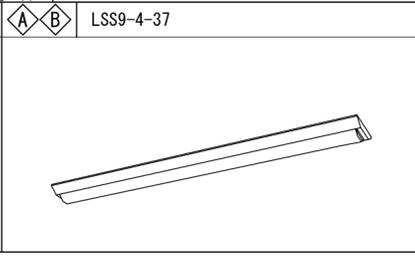
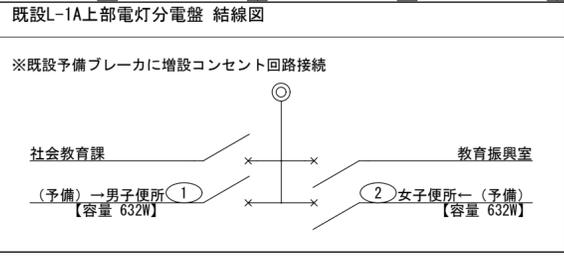


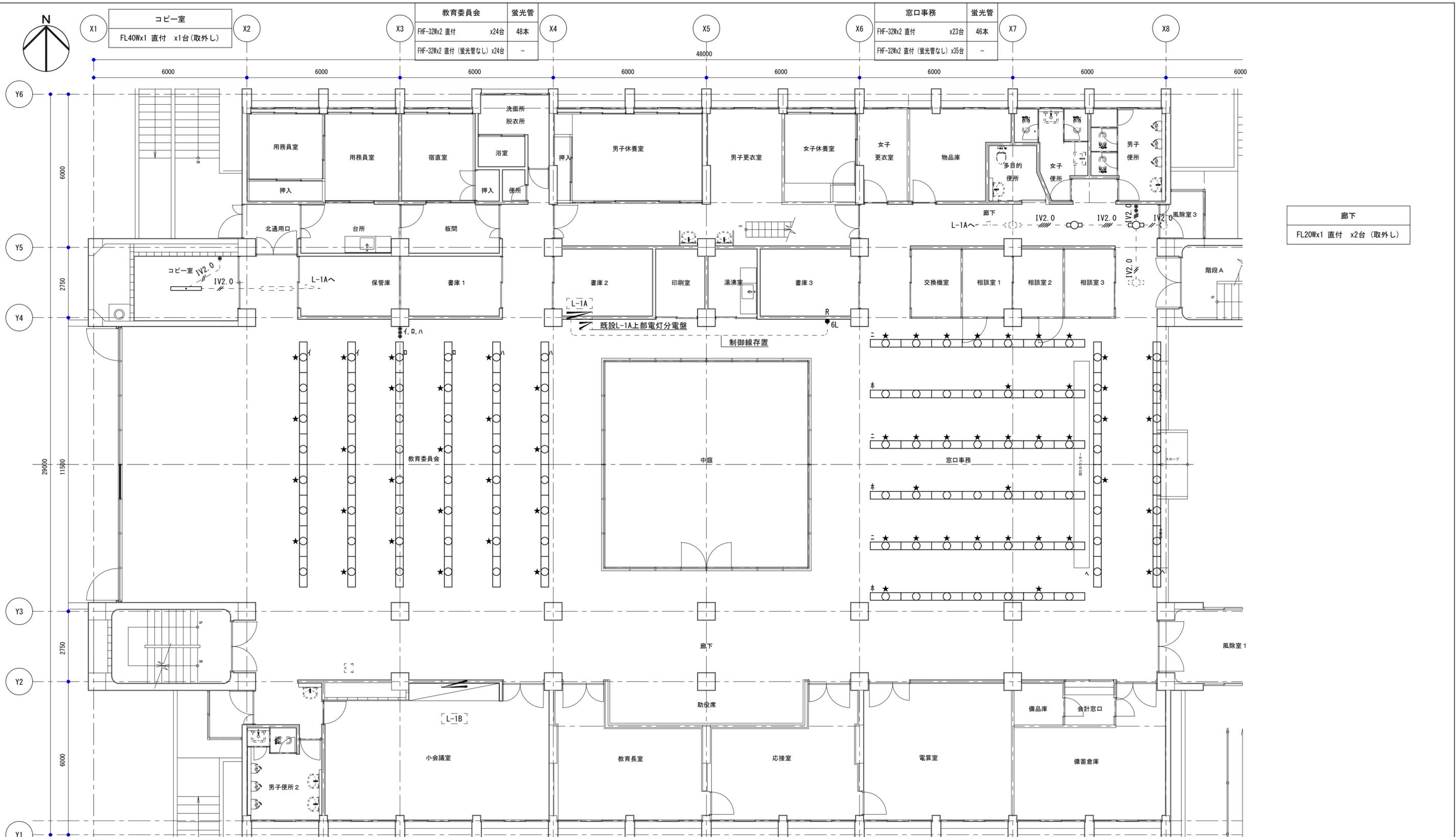
廊下
FL20Wx1 直付 x2台 (再取付)



凡例	名称	備考
	LED照明器具	新設
	既設照明器具	再取付
	既設照明器具	存置
	既設照明器具	再取付
	既設照明器具	存置
	スイッチ 1P15Ax8 ネーム付(大角型) 新金プレート	新設(露出MM用ボックス共)
	既設スイッチ	存置
	カバープレート 2個用	新設
	ジョイントボックス	新設

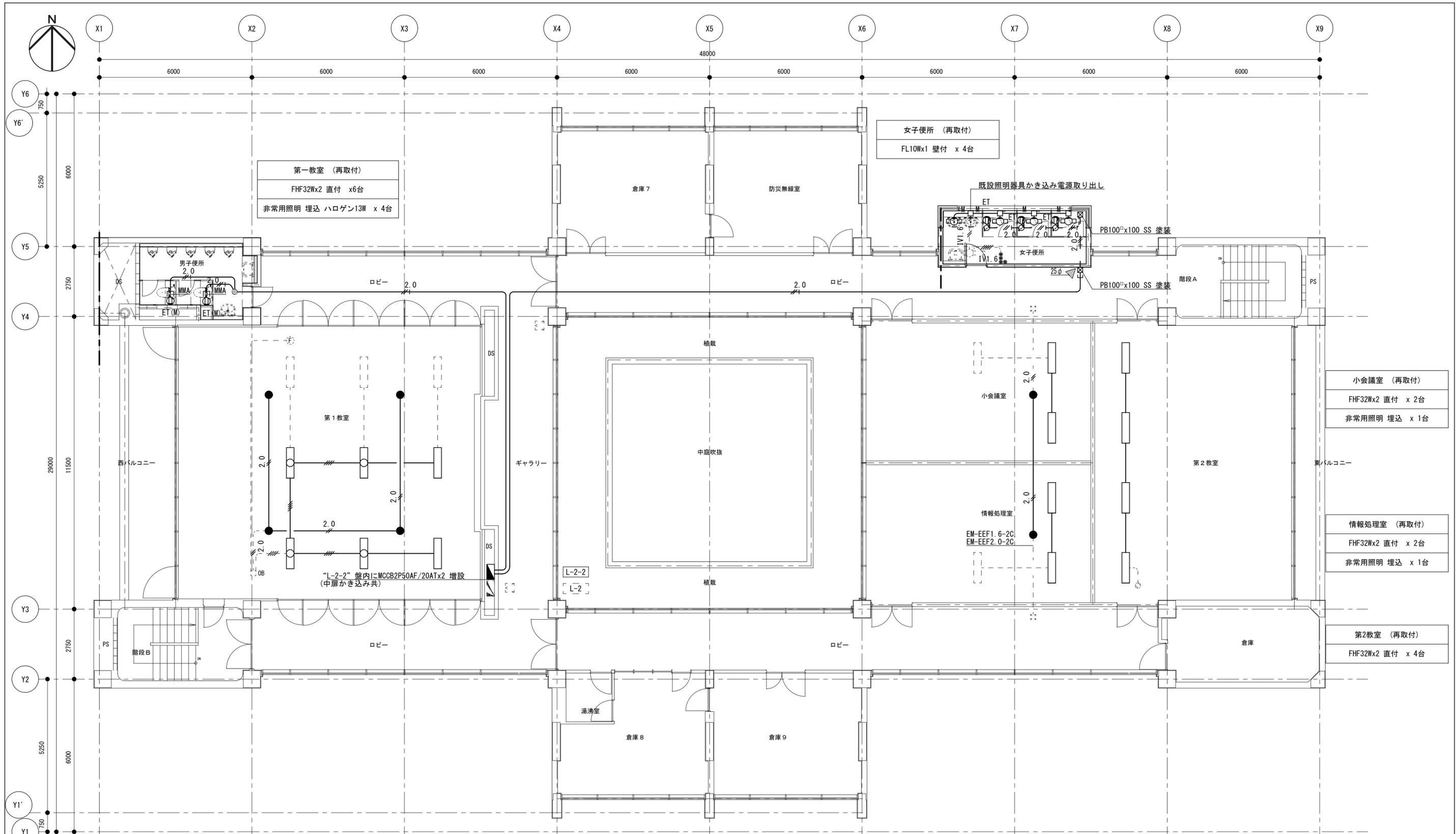
凡例	名称	備考
	壁付露出コンセント 2P15Ax1 ET付	新設(露出MM用ボックス共)
	貫通部を示す	
	IV2.0x2 (C19)	存置
	IV2.0x4 (C25)	存置
	IV2.0x5 (C25)	存置
	EM-EEF1.6-2C コロガシ	新設
	EM-EEF2.0-3C(1CE) コロガシ	新設
	点検口 450x450 アルミ枠	新設
	既設点検口	存置



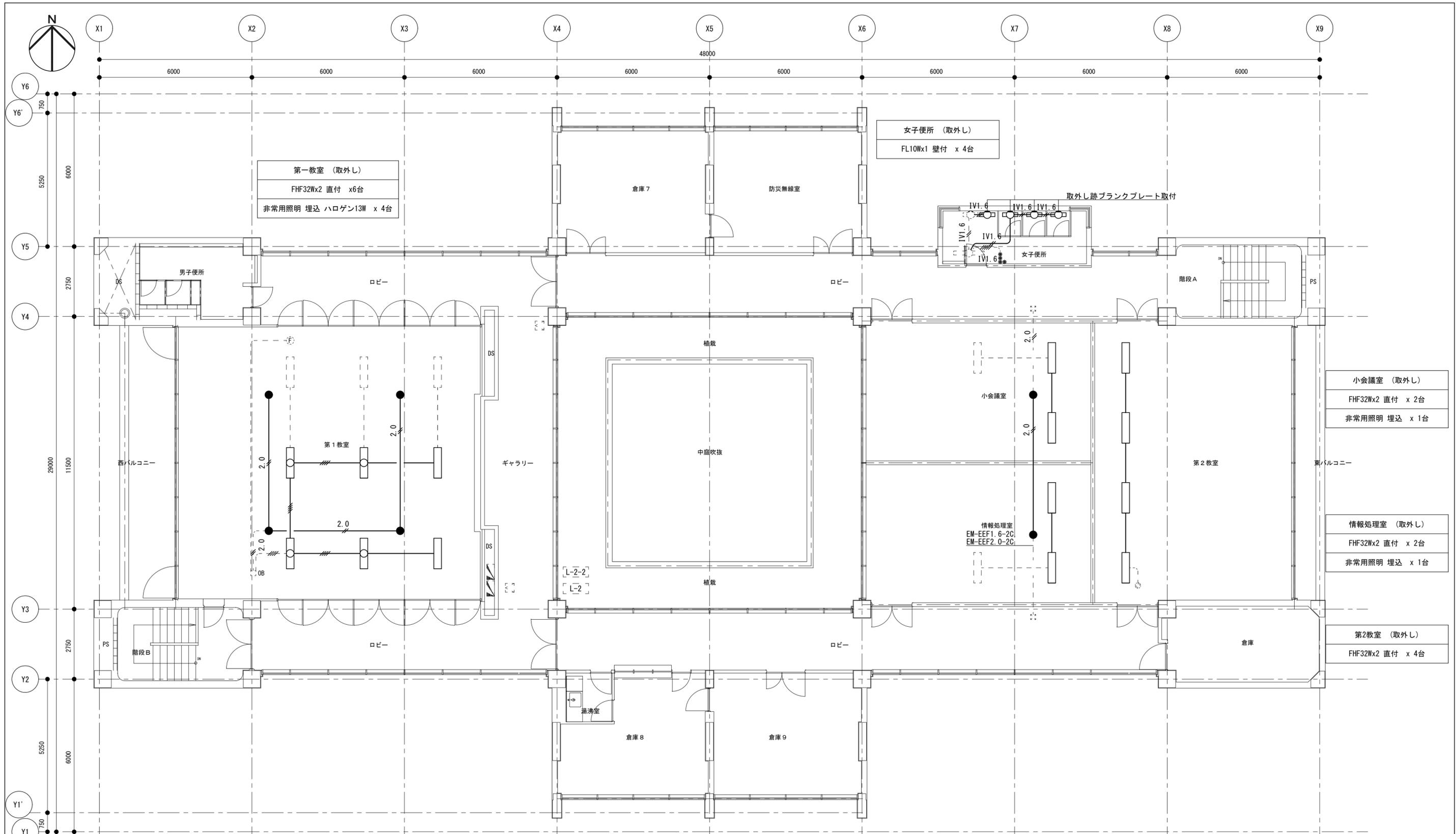


廊下
FL20Wx1 直付 x2台 (取外し)

凡例		名称	備考	規格	名称	備考
○	既設照明器具		撤去	IV2.0	IV2.0x2 (C19)	存置
○★	既設照明器具	蛍光管なし	撤去	IV2.0	IV2.0x4 (C25)	存置
○	既設照明器具		取外し・再使用	IV2.0	IV2.0x5 (C25)	存置
□	既設照明器具		存置			
○	既設照明器具		取外し・再使用		既設点検口	存置
○	既設照明器具		存置			
●R	既設	リモコンスイッチ 6L	撤去			
*	既設	スイッチ	存置			



凡例		名 称		備 考		名 称		備 考		名 称		備 考		
○	既設照明器具	再取付	ET	壁付露出コンセント 2P15Ax1 ET付	新設	○	丸ボックス SS	新設	EM-EEF1.6-2Cx2	コロガシ	再使用			
□	既設照明器具	再取付	ET(M)	壁付露出コンセント 2P15Ax1 ET付	新設(露出MM用ボックス共)	⊠	ブルボックス 100 ² x100 SS 塗装	新設	EM-EEF2.0-2C	コロガシ	新設	2.0		
□	既設照明器具	存置	△	貫通部を示す		∴	ブルボックス 300 ² x300 SS	存置	EM-EEF2.0-3C(1CE)	コロガシ	新設	2.0		
□	既設照明器具	存置	OB	アウトレットボックス	存置			存置	EM-EEF2.0-3C(1CE)	MMA	新設	2.0		
□	既設照明器具	再取付	F	天井換気扇	存置		EM-EEF1.6-2C	コロガシ	EM-EEF2.0-3C(1CE)	(E25) 露出・塗装	新設	2.0		
□	既設照明器具	存置	M	MM用型ジャンクションボックス	新設		EM-EEF1.6-2C	MMA	IV1.6x5 (C25)		存置	1V1.6		
*	既設スイッチ	存置	⊙	ジョイントボックス	新設		EM-EEF1.6-2C	コロガシ			再使用			
●	非常用照明	再取付	⊙	ジョイントボックス	存置		EM-EEF1.6-2Cx2	コロガシ			新設			
													既設点検口	存置



第一教室 (取外し)
FHF32Wx2 直付 x 6台
非常用照明 埋込 ハロゲン13W x 4台

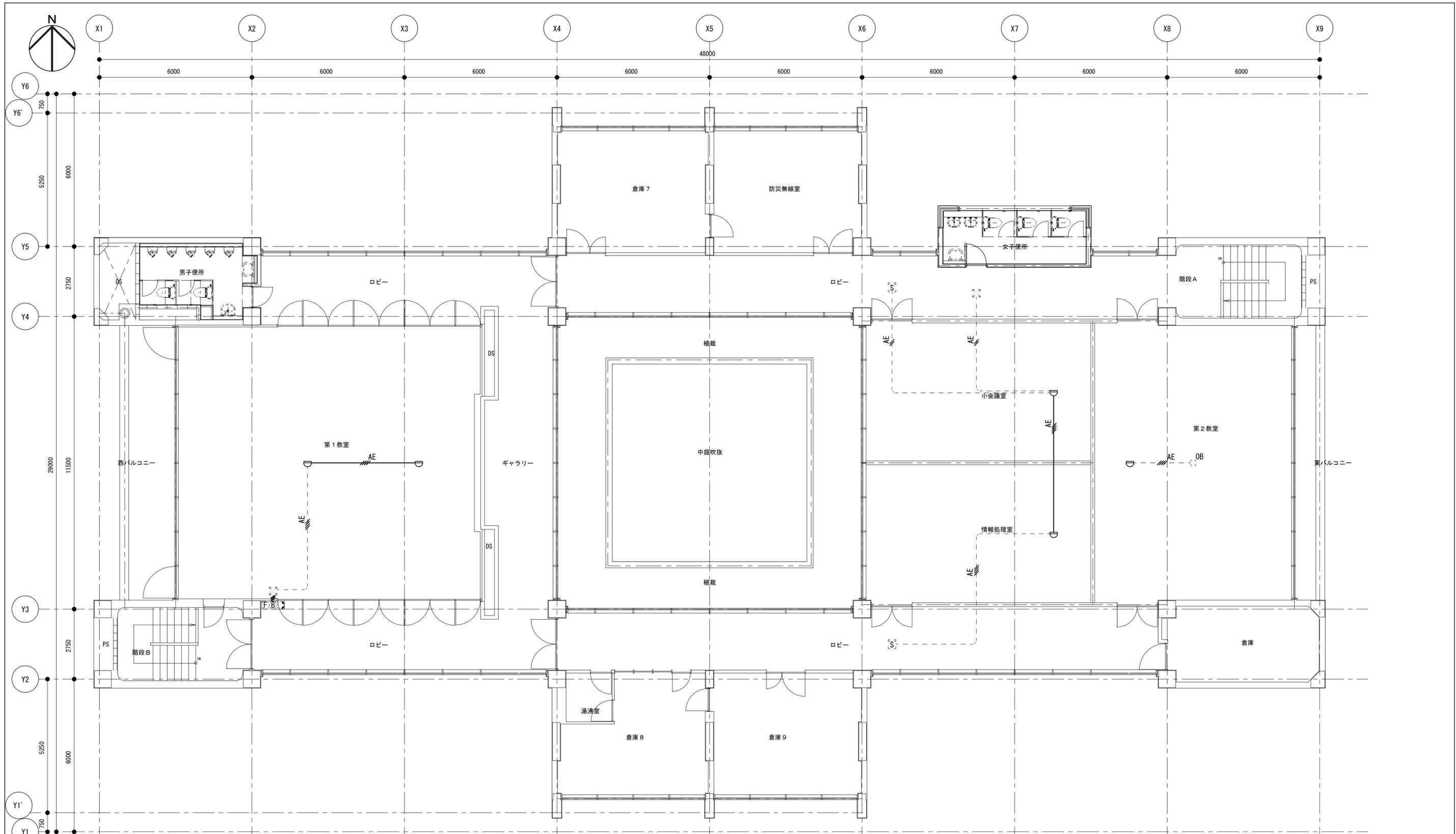
女子便所 (取外し)
FL10Wx1 壁付 x 4台

小会議室 (取外し)
FHF32Wx2 直付 x 2台
非常用照明 埋込 x 1台

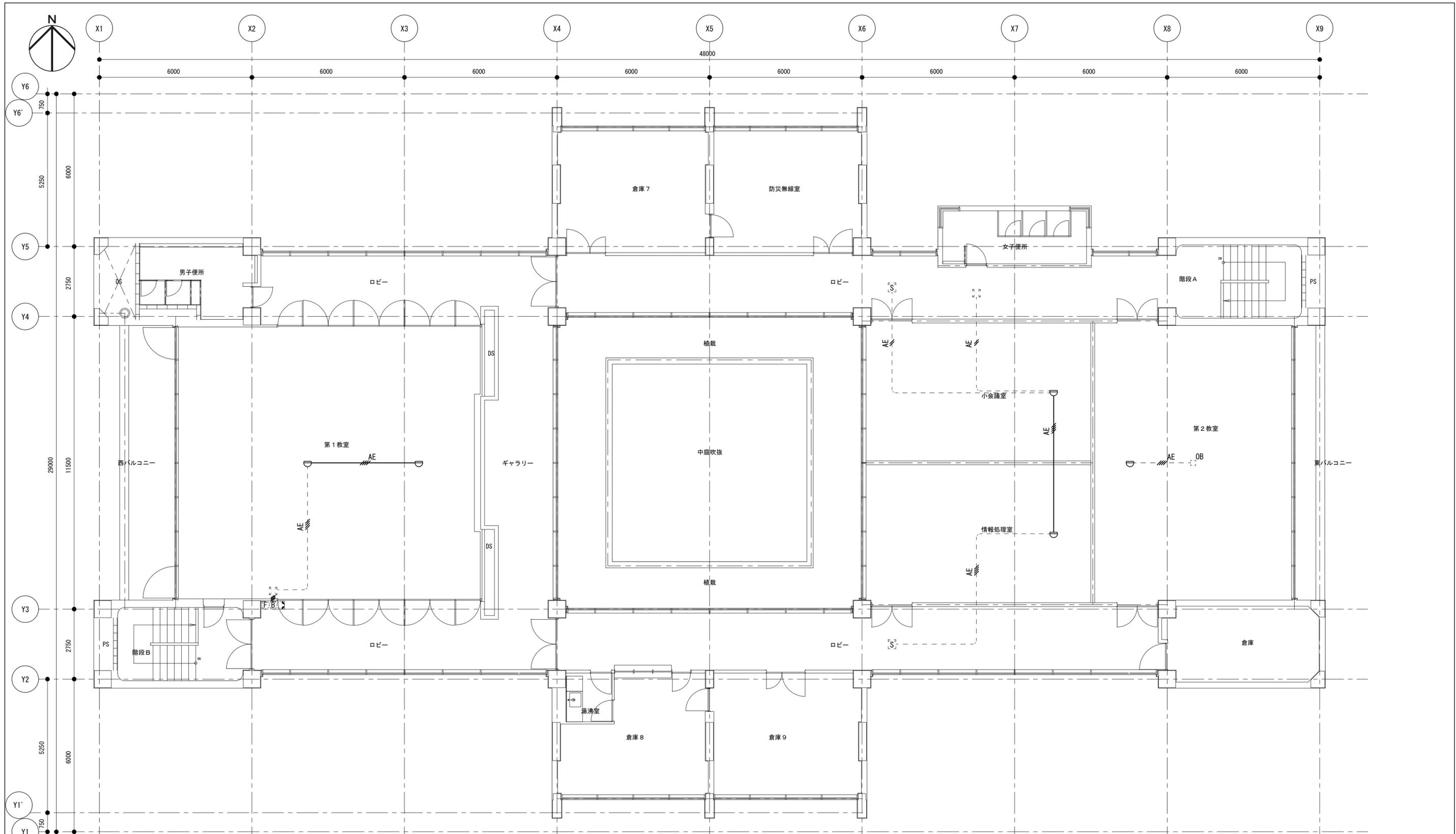
情報処理室 (取外し)
FHF32Wx2 直付 x 2台
非常用照明 埋込 x 1台

第2教室 (取外し)
FHF32Wx2 直付 x 4台

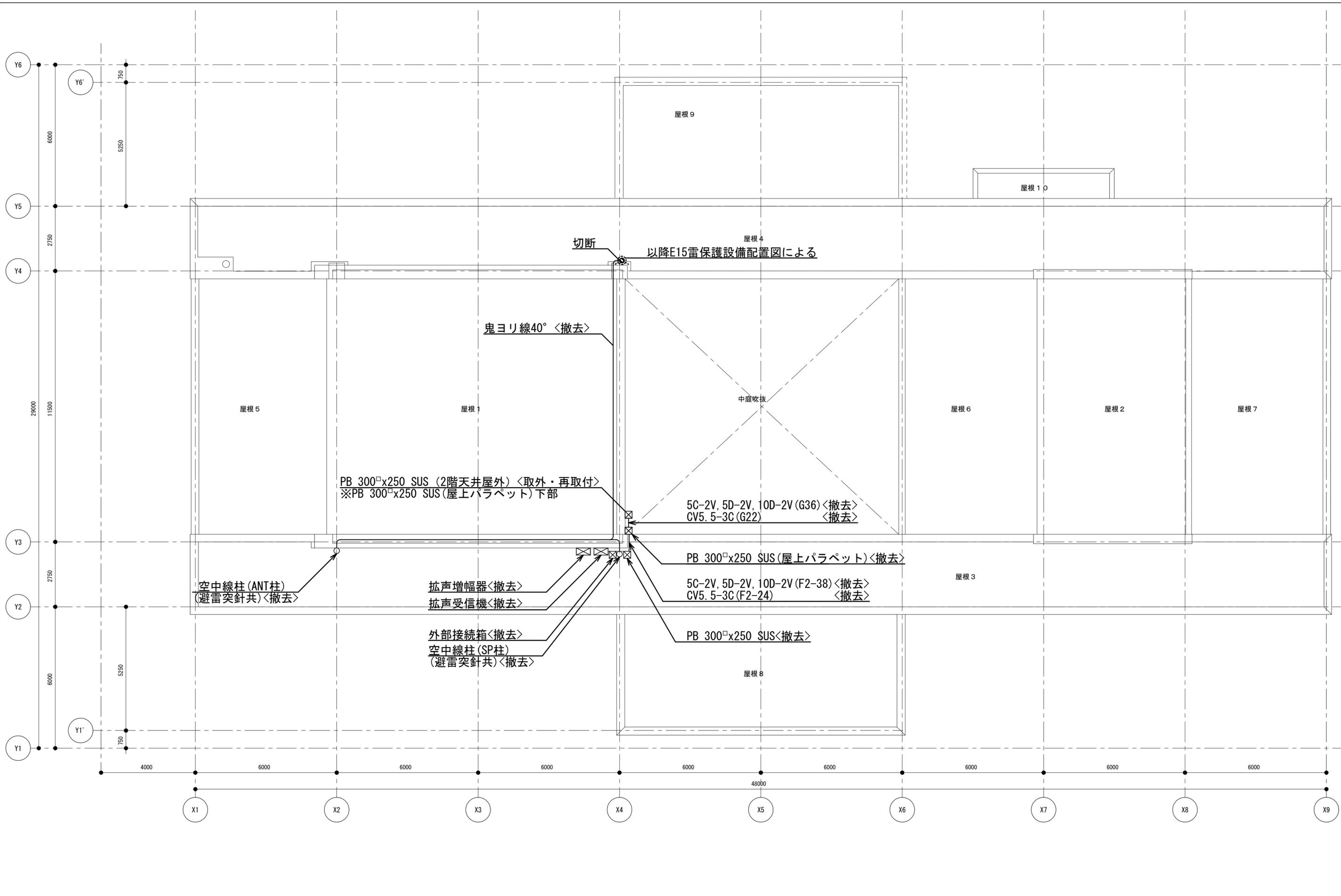
凡例		名称	備考	名称	備考	名称	備考
	既設照明器具		取外し・再使用		アウトレットボックス	IV1.6	IV1.6x5 (G25)
	既設照明器具		取外し・再使用		天井換気扇	EM-EEF1.6-2C	コロガシ
	既設照明器具		存置			EM-EEF1.6-2C	コロガシ
	既設照明器具		存置		ジョイントボックス	EM-EEF1.6-2Cx2	コロガシ
	既設照明器具		取外し・再使用		プルボックス 300 \times 300 SS	EM-EEF1.6-2Cx2	コロガシ
	既設照明器具		存置			EM-EEF2.0-2C	コロガシ
	非常用照明		取外し・再使用		IV1.6x2 (C19)	EM-EEF2.0-2C	コロガシ
	既設スイッチ		存置		IV1.6x2 (C19)		既設点検口

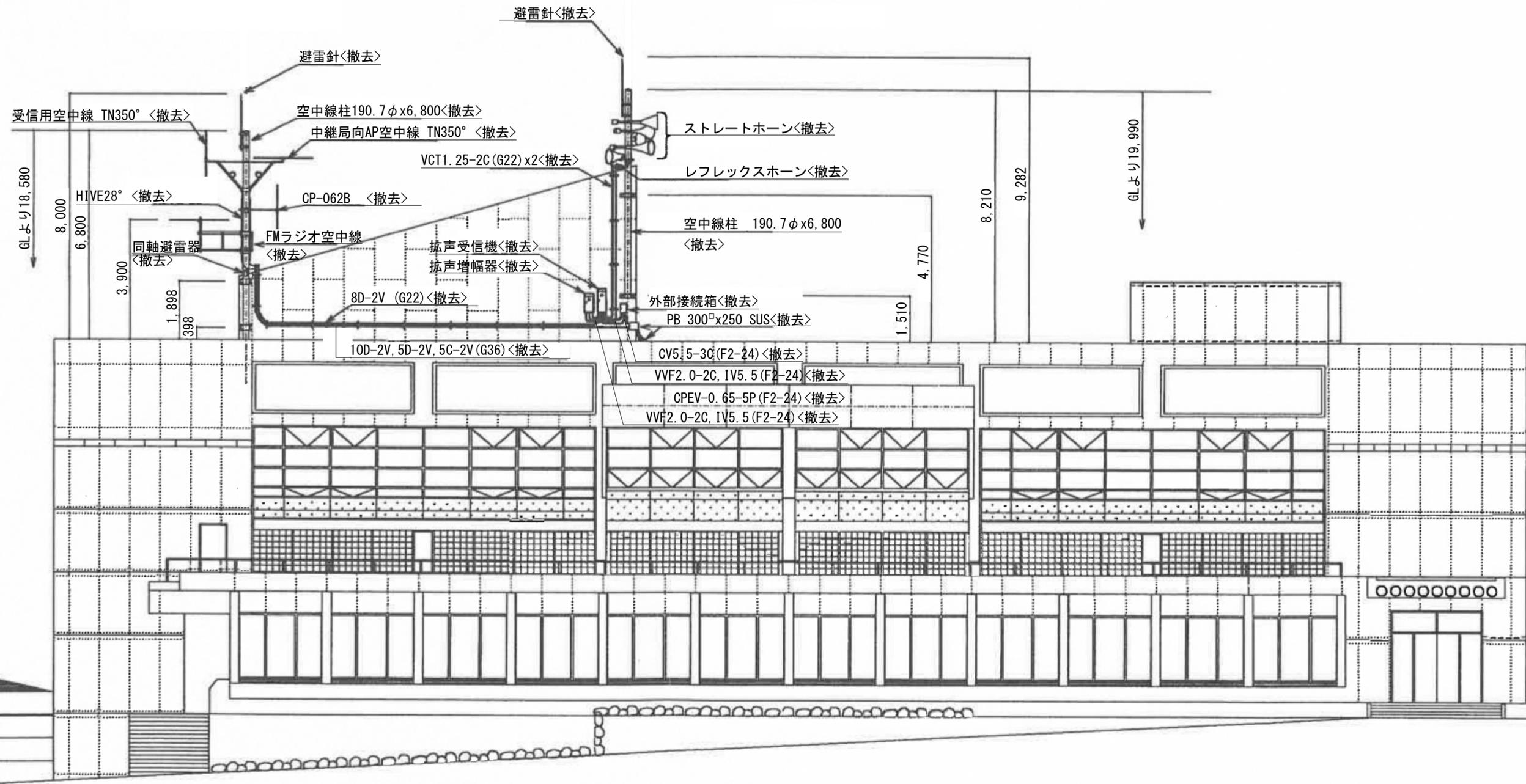


凡例		名称	備考	名称	備考
☐	差動式スポット型感知器 2種		再取付	ブルボックス 300 ² ×300 SS	存置
☐ _S	煙型感知器 埋込型 2種		存置	アウトレットボックス	存置
--- AE	EM-AE1.2-2C	コログシ	再使用	☐ _{OB}	機器収容箱 消火栓組込型 (発信機, 表示灯, ベル) 収容
--- AE	EM-AE1.2-4C	コログシ	新設		
--- AE	EM-AE1.2-4C	コログシ	再使用		

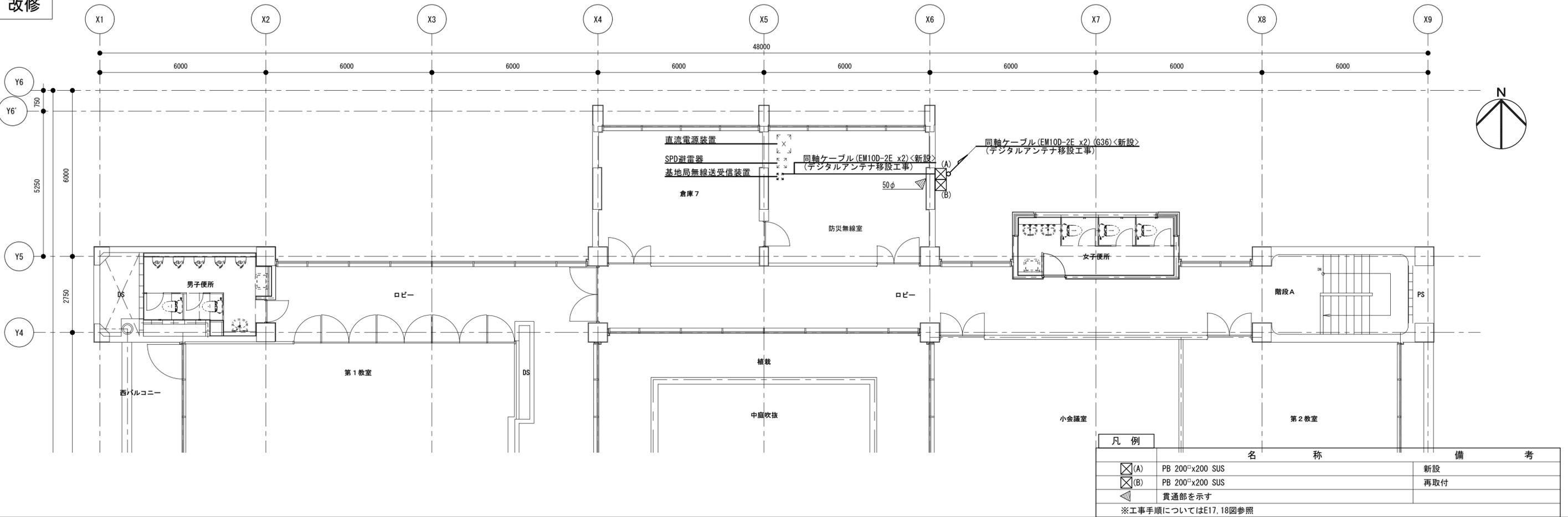


凡例		名称	備考	名称	備考
☐	差動式スポット型感知器 2種		取外し・再使用	ブルボックス 300 ² ×300 SS	存置
☐	煙型感知器 埋込型 2種		存置	アウトレットボックス	存置
AE	EM-AE1.2-2C	コログシ	存置	機器収容箱 消火栓組込型 (発信機, 表示灯, ベル) 収容	存置
AE	EM-AE1.2-4C	コログシ	撤去		
AE	EM-AE1.2-4C	コログシ	存置		

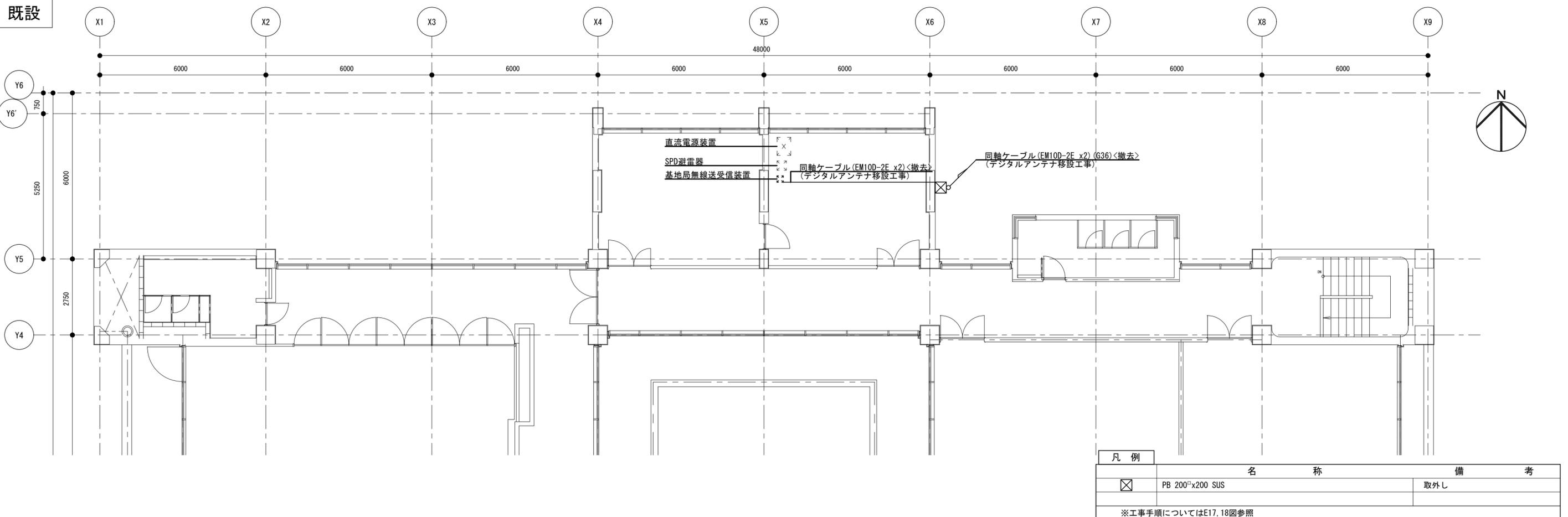




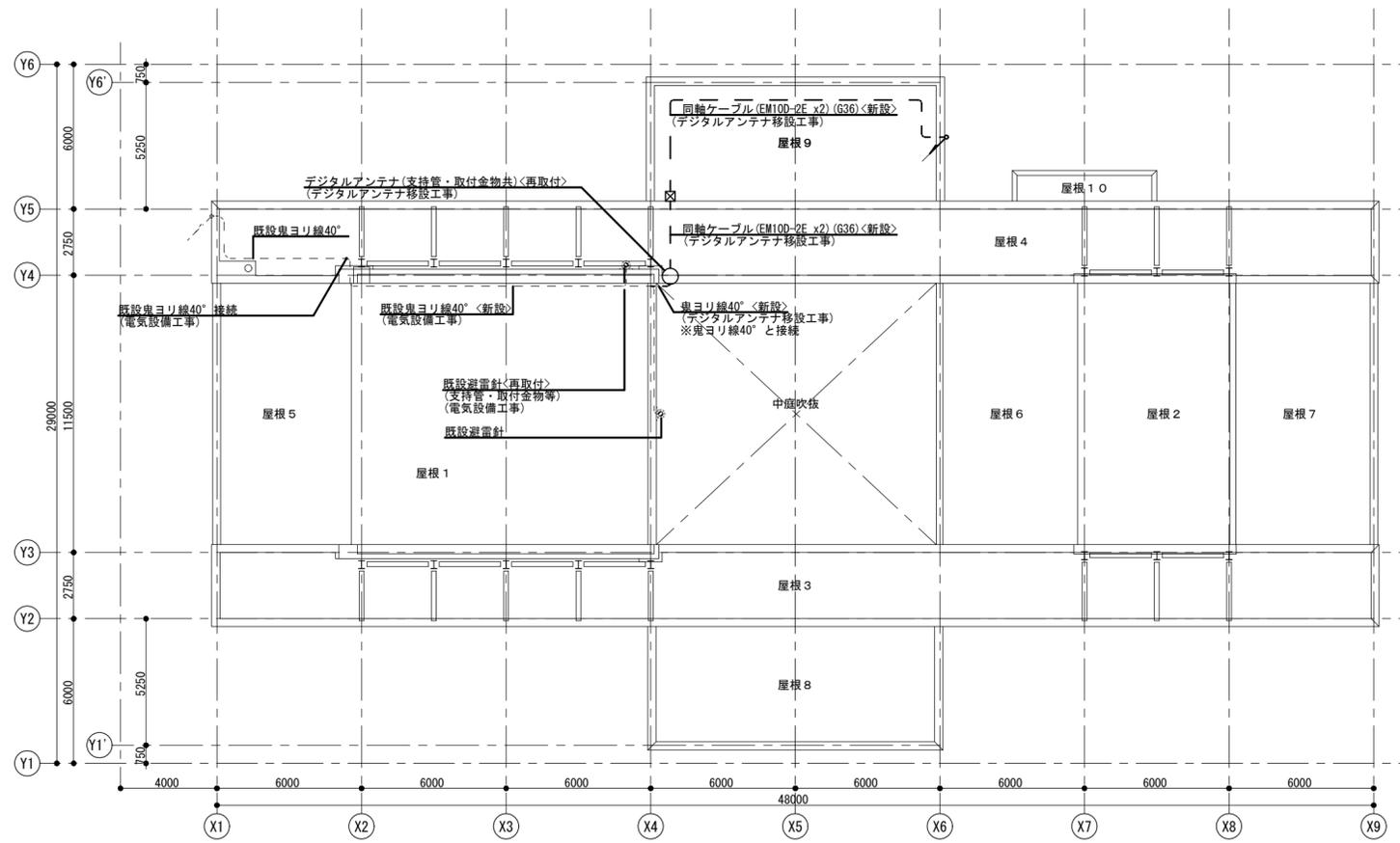
改修



既設

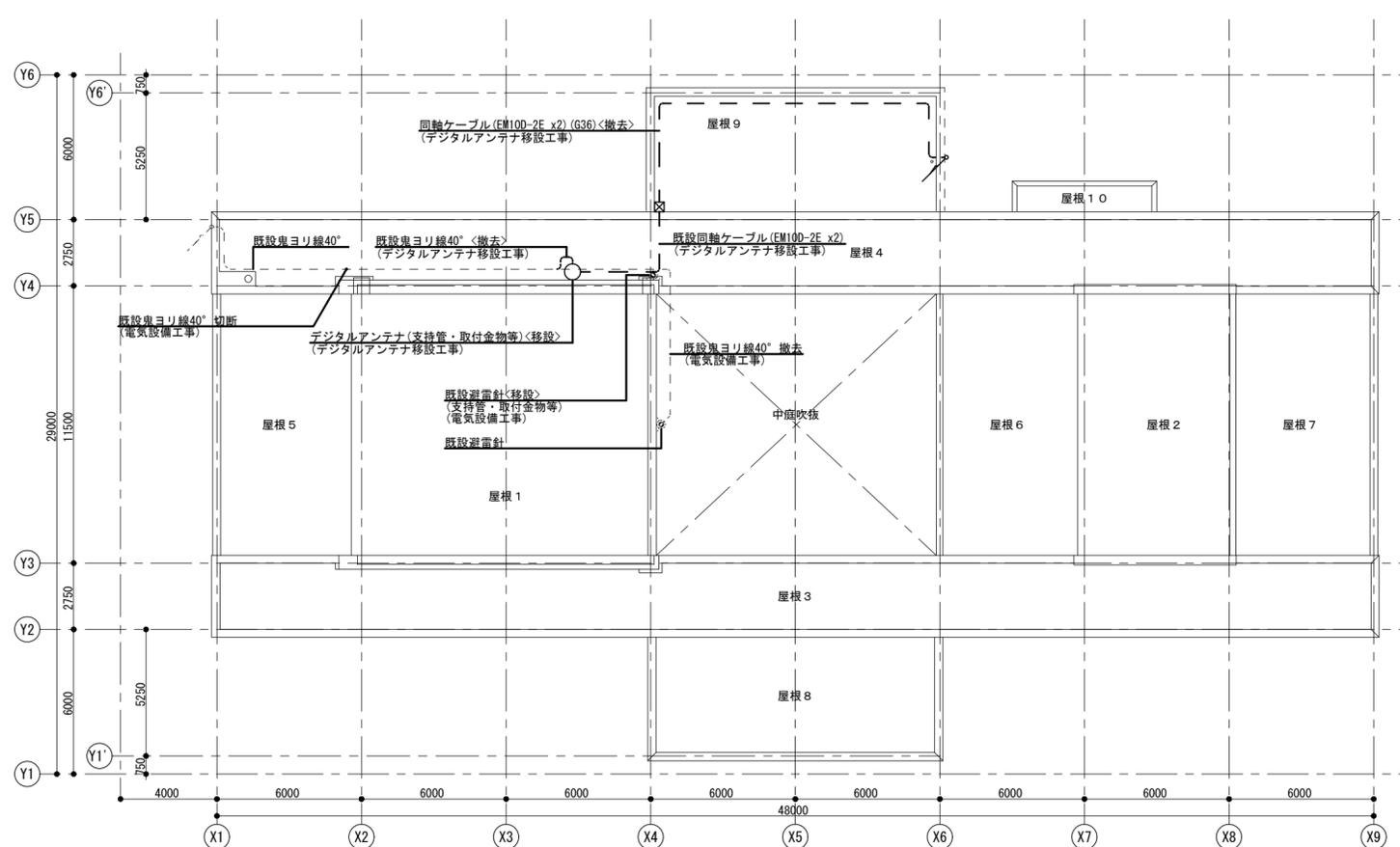


改修



凡例	名称	備考
☒	PB 200 ² x200 SUS	新設
※工事手順・雷保護設備についてはE17, 18図参照		

既設



凡例	名称	備考
☒	PB 200 ² x200 SUS	撤去
※工事手順・雷保護設備についてはE17, 18図参照		

1/100 0 1/200 10 15 20 25 30 35 40 45 50 55 60 65 70 75 80 85 90 95 100

株式会社
みやこ設備設計
一級建築士事務所 (京都府知事登録 (28A) 第02769号)
管理建築士 安井久見 (一級建築士登録 第306115号)
Ver. H30.04

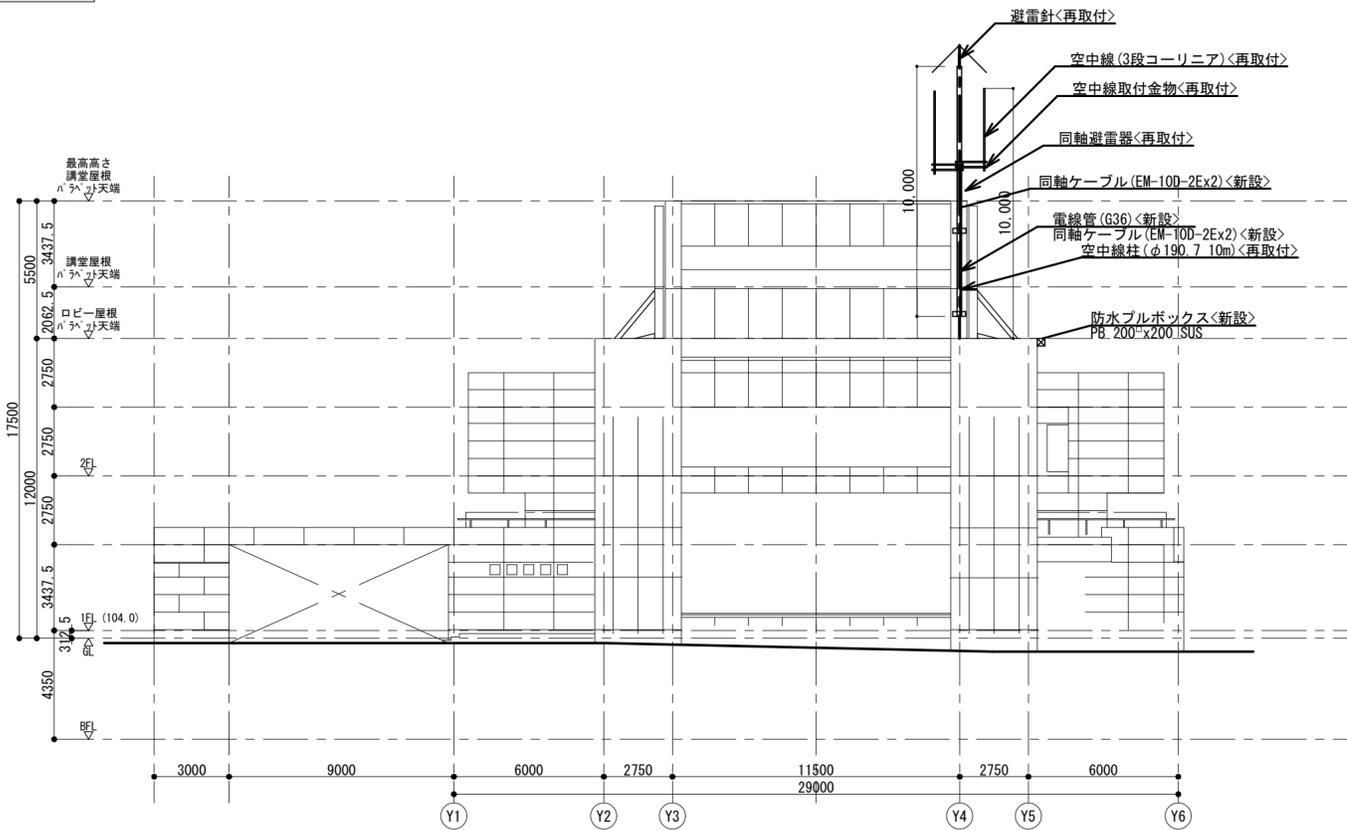
京丹波町

設計番号 設計年度 令和 元年 9月
令和元年

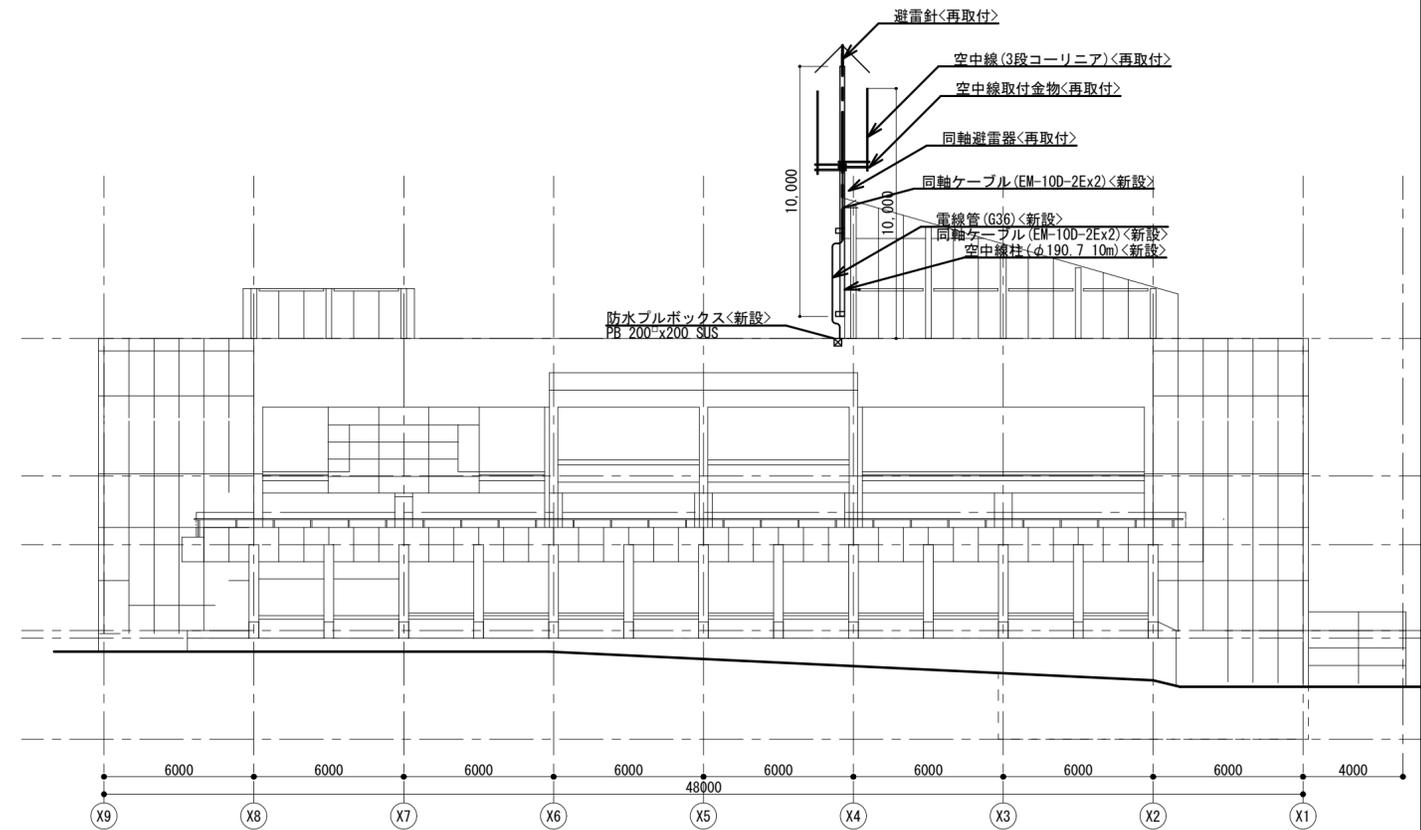
工事名 和知支所耐震改修工事
図名 構内情報通信網設備(デジタル) 屋上階平面図 <改修・撤去>

図番 No.E13
70 枚の内
S=1/200

改修

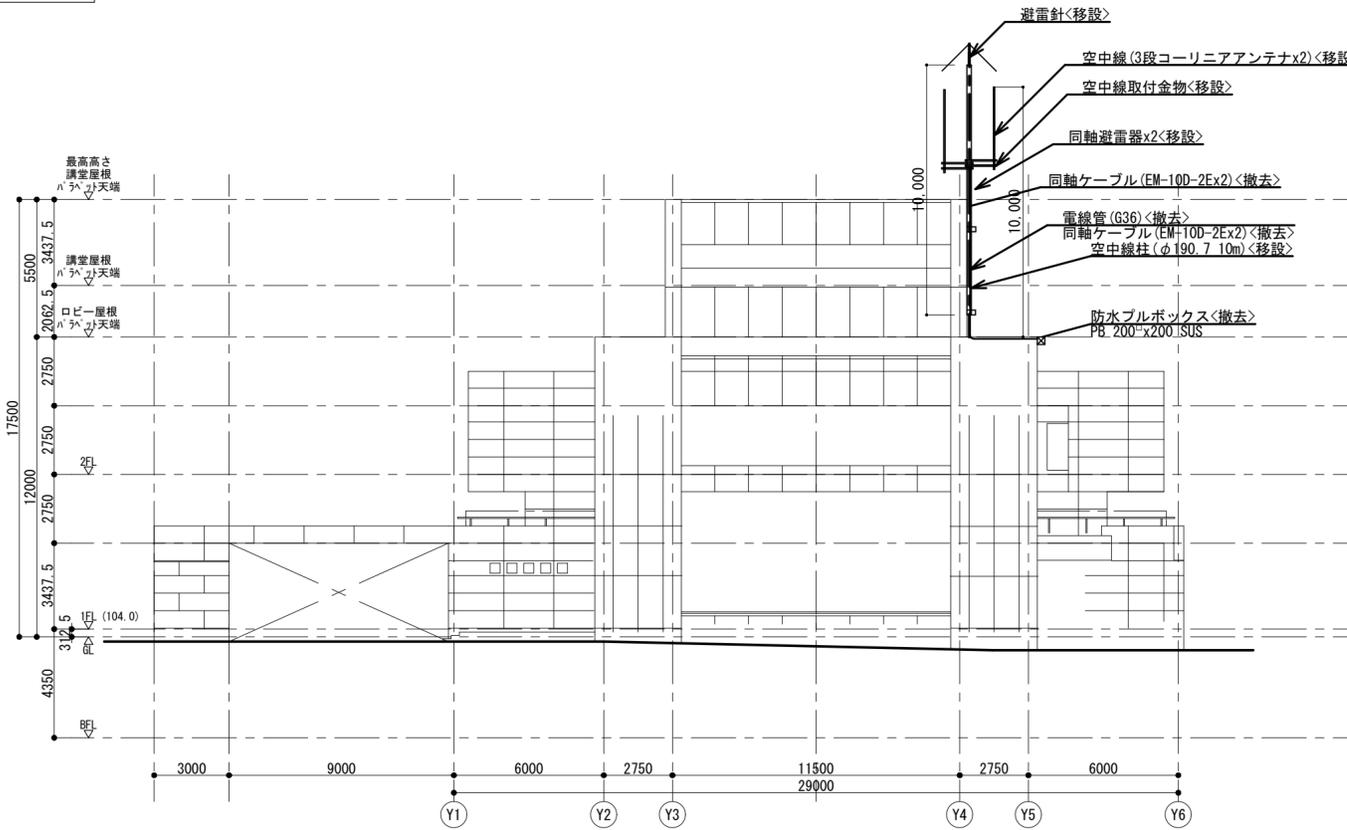


東立面図

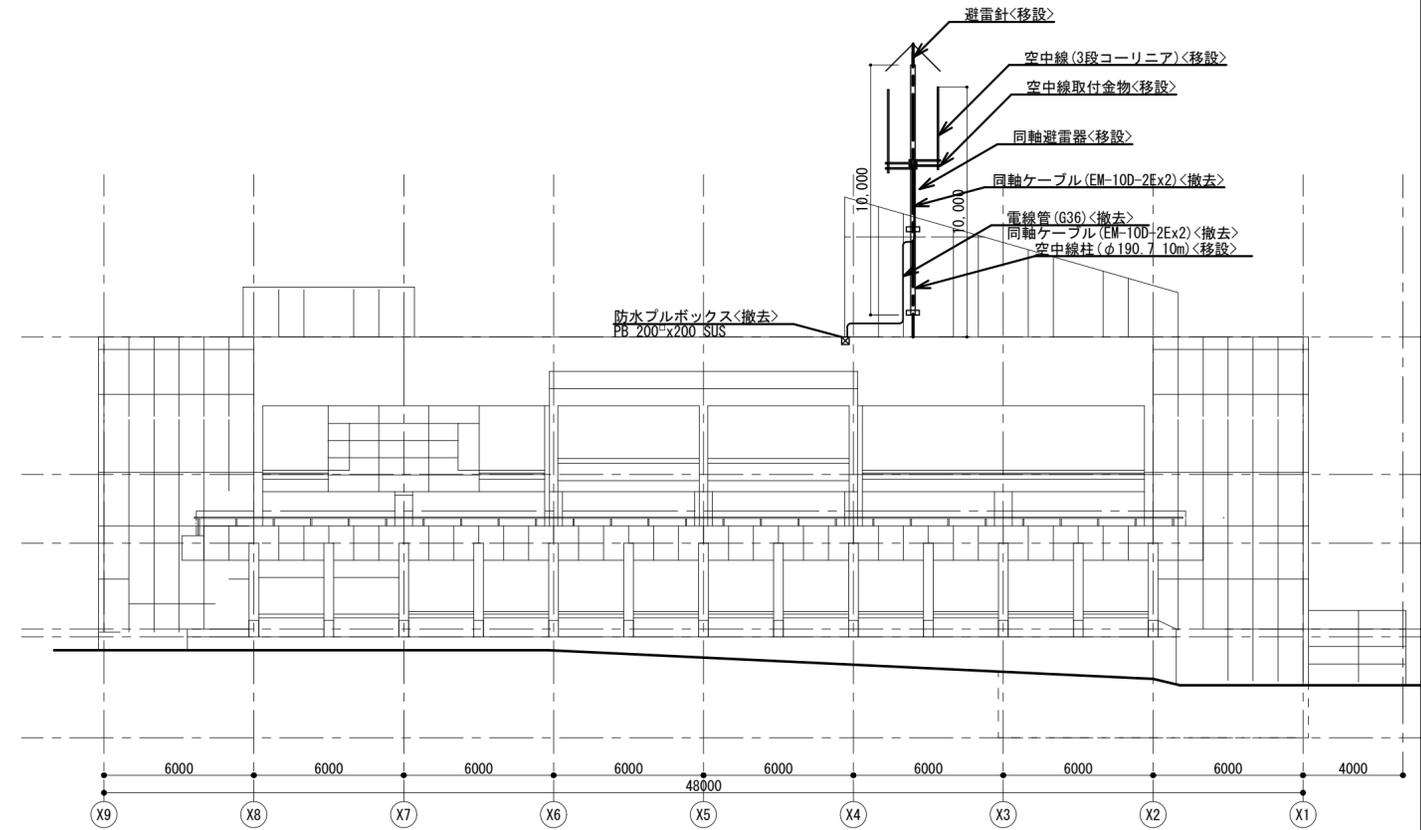


北立面図

既設

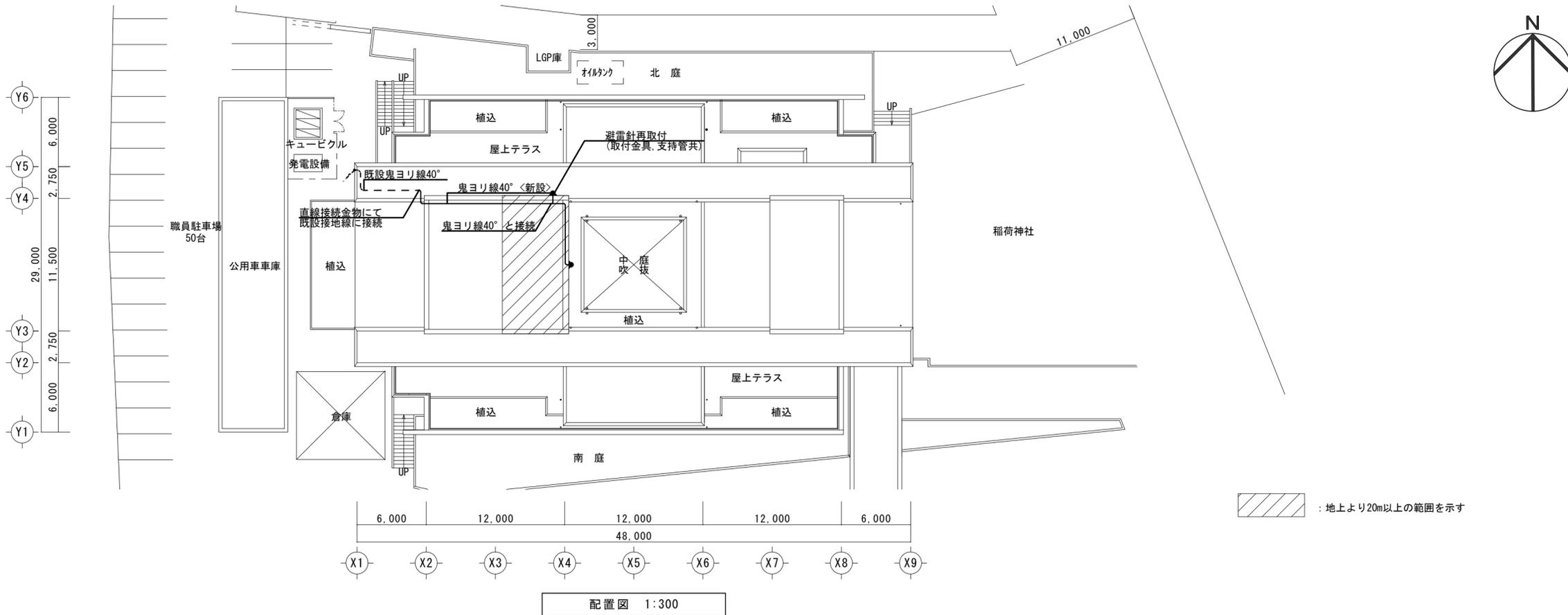


東立面図

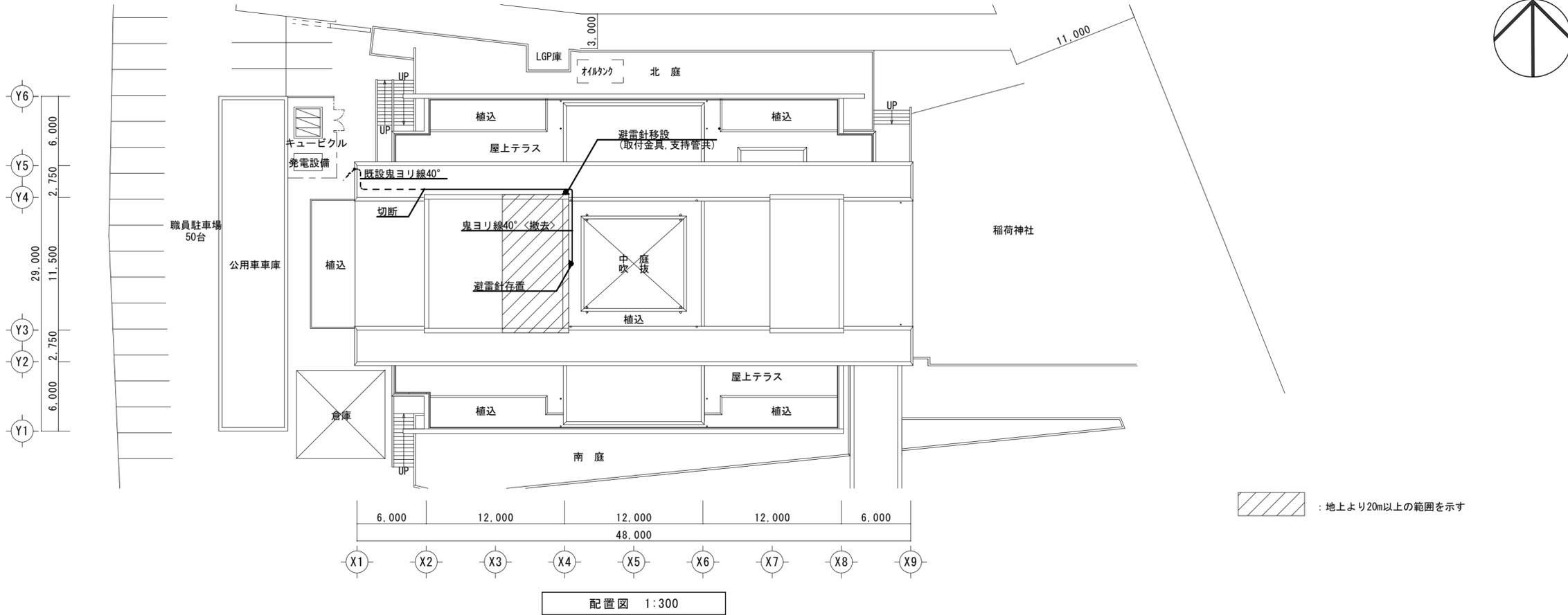


北立面図

改修

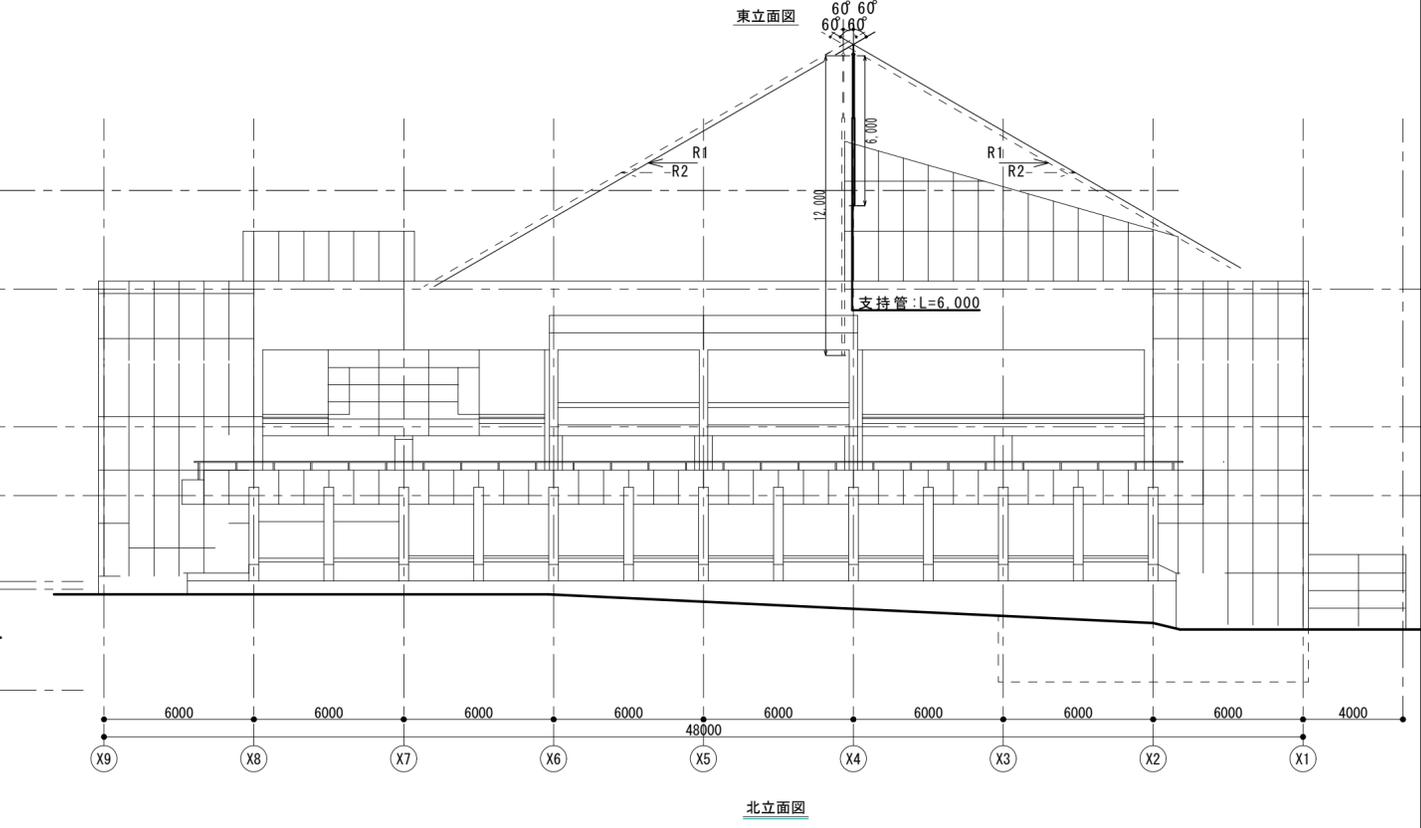
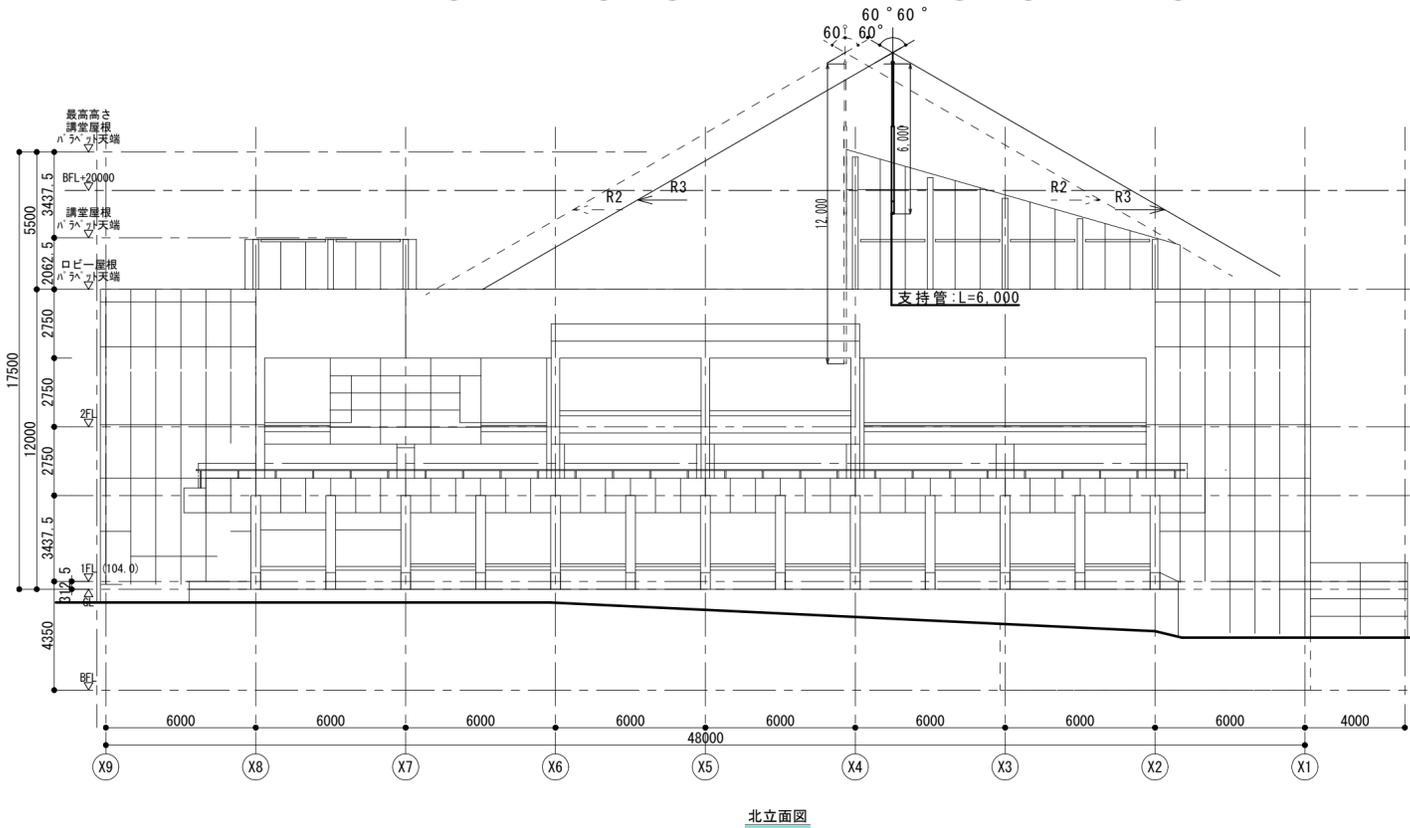
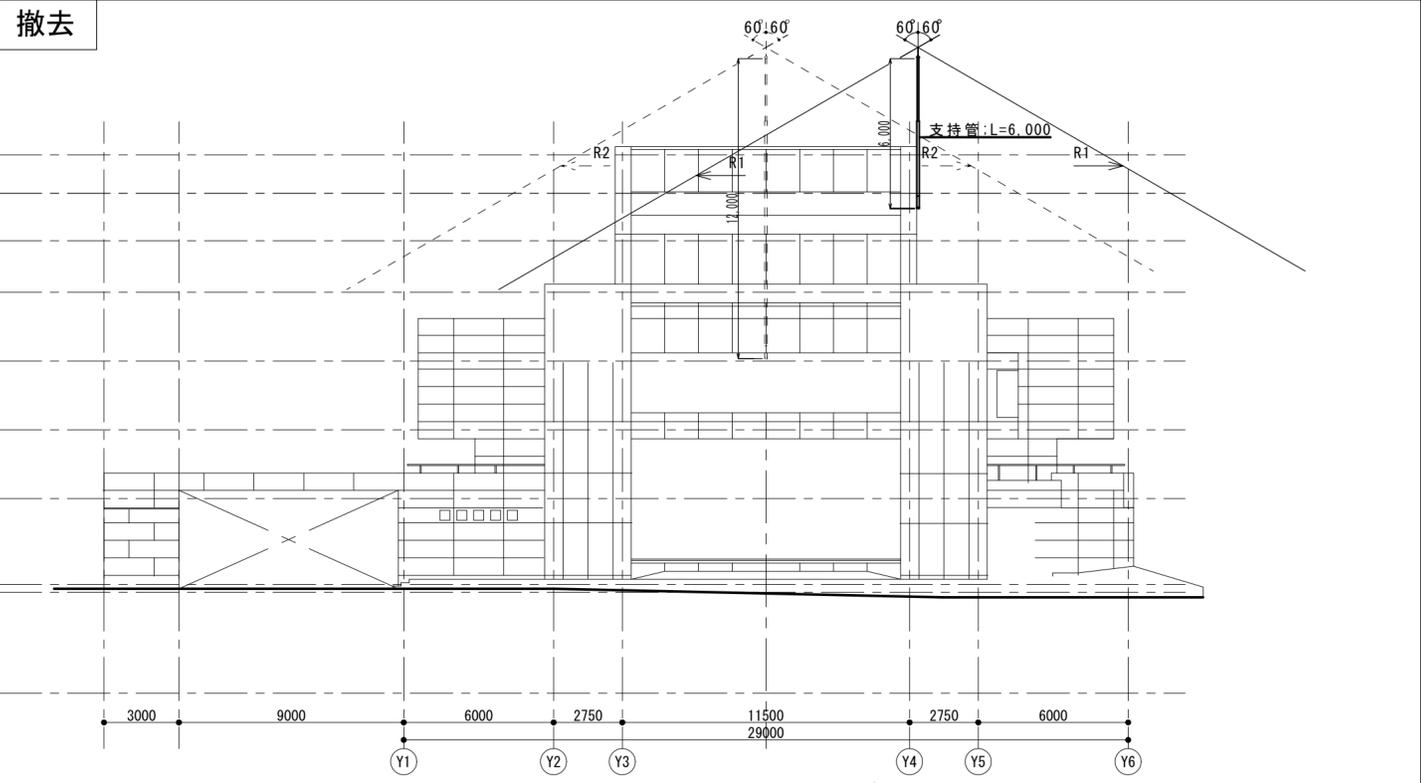
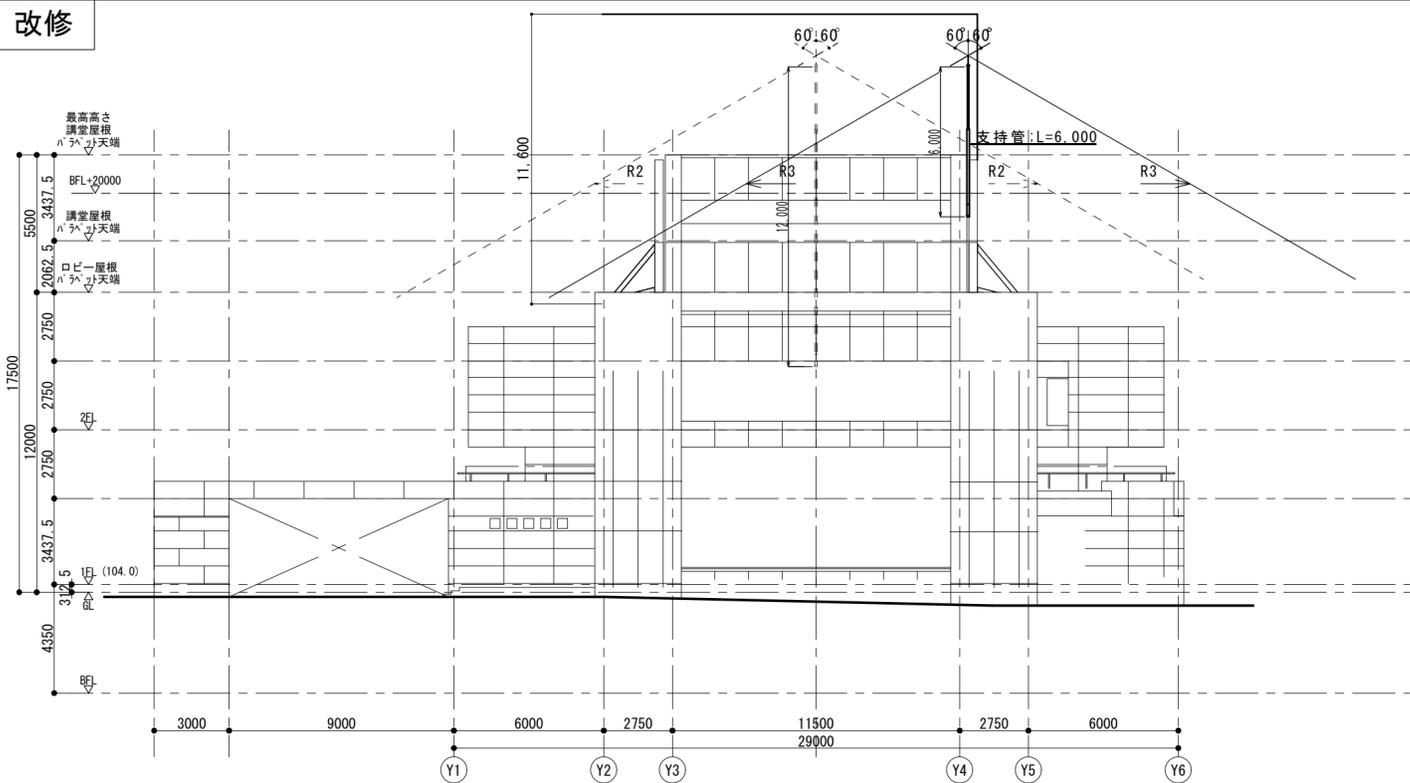


撤去

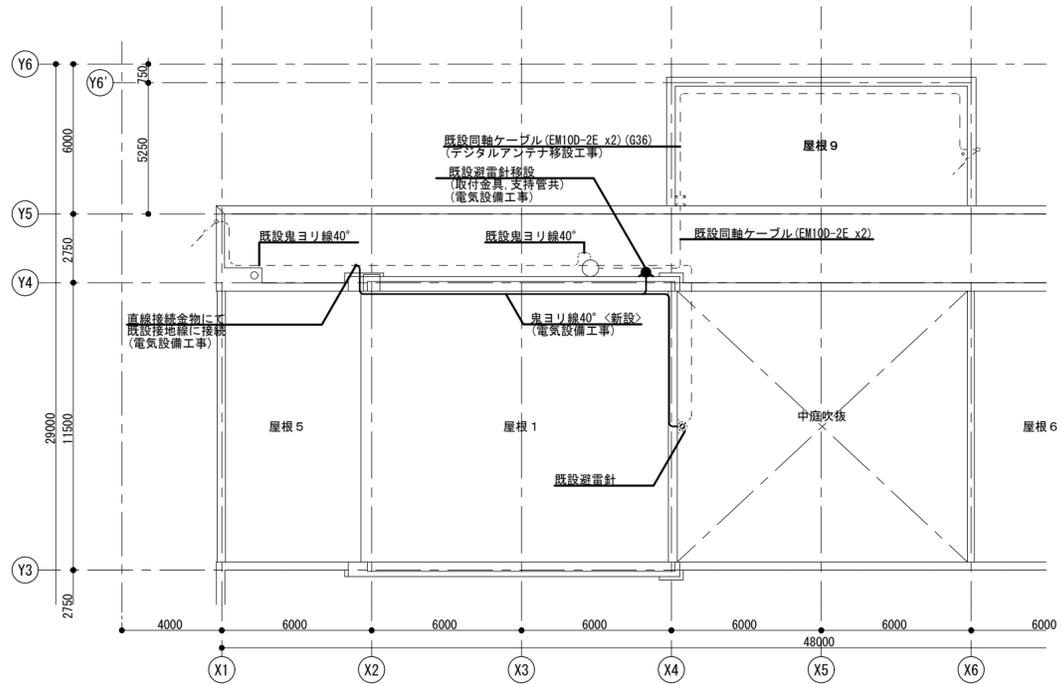


改修

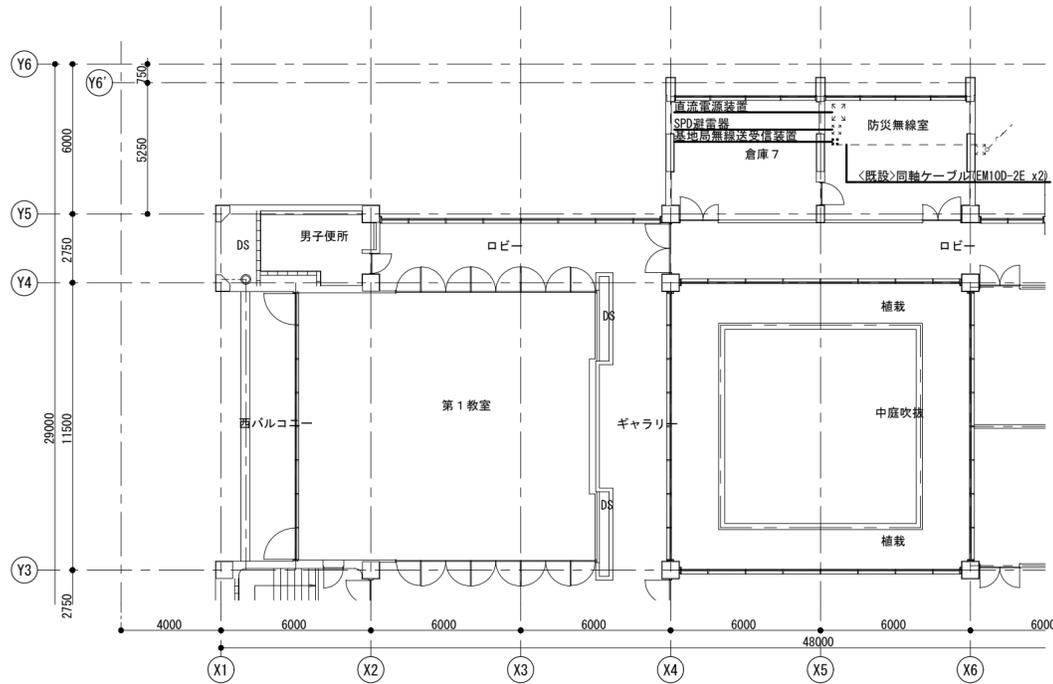
撤去



※デジタルアンテナは既設避雷針移設後に移設を行うこと



屋上階平面図

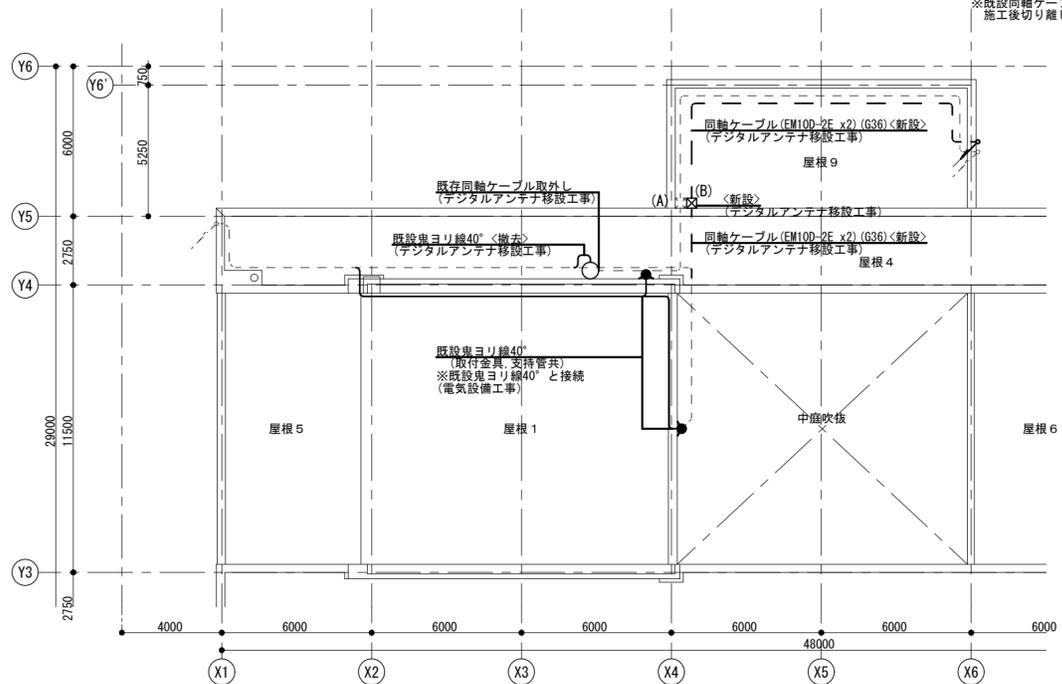


2階平面図

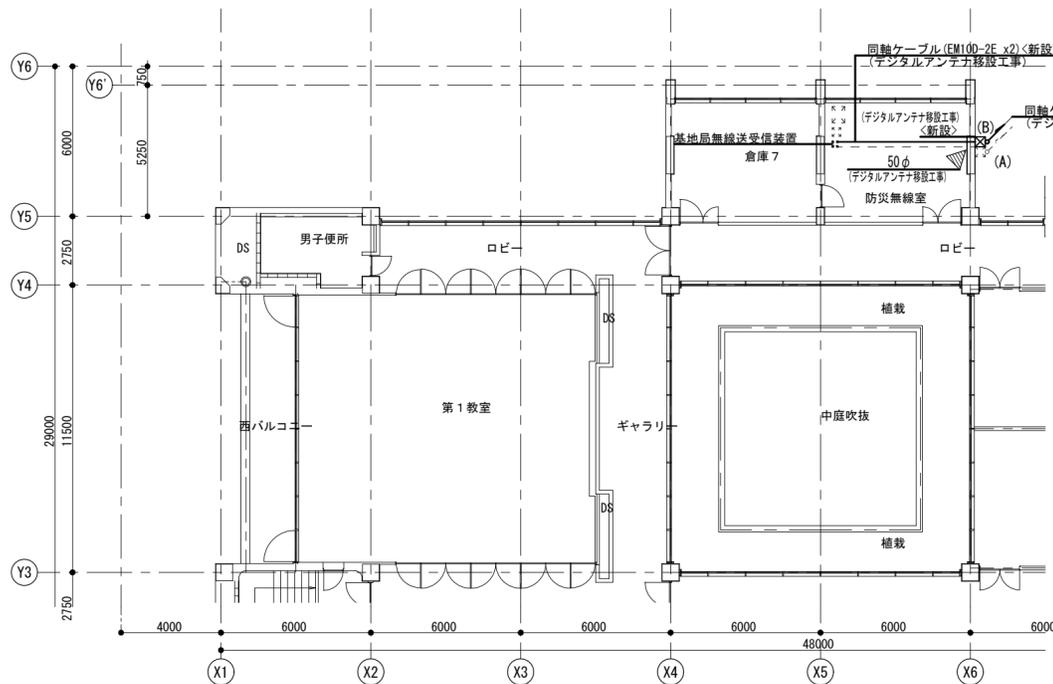
凡例	名称	備考
☒	PB 200 [□] x200 SUS	既設

※クレーン設置位置等仮設計画については建築図A29, A30, A31参照

※既設同軸ケーブル取外しは、新設同軸ケーブル施工後切り離しのこと。



屋上階平面図

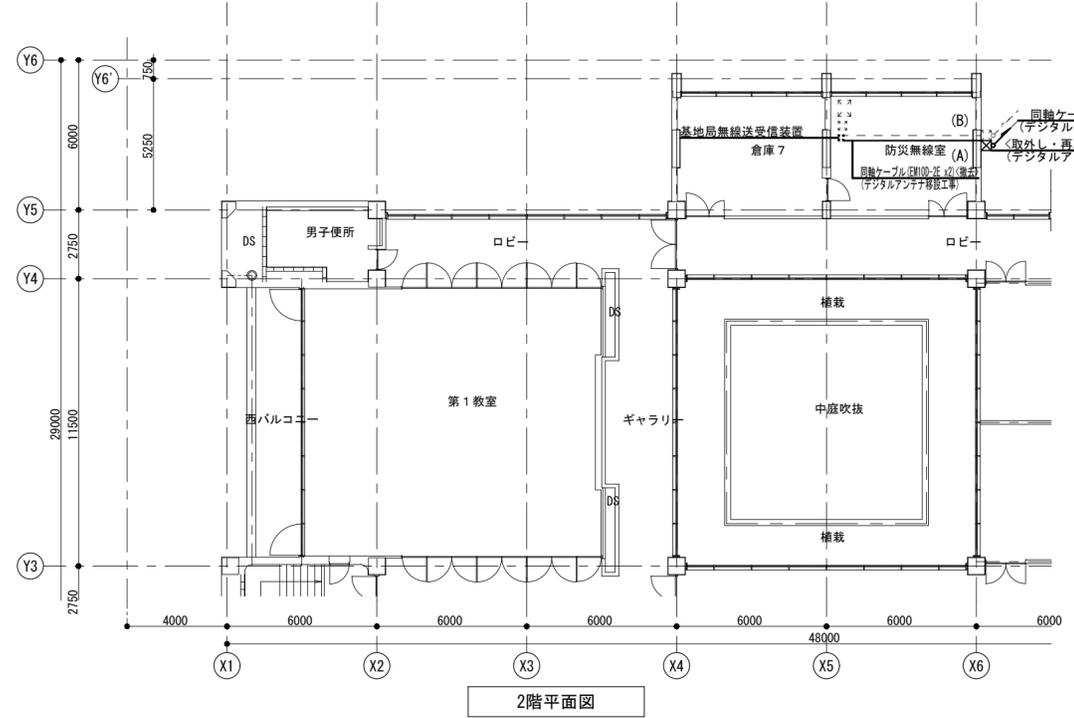
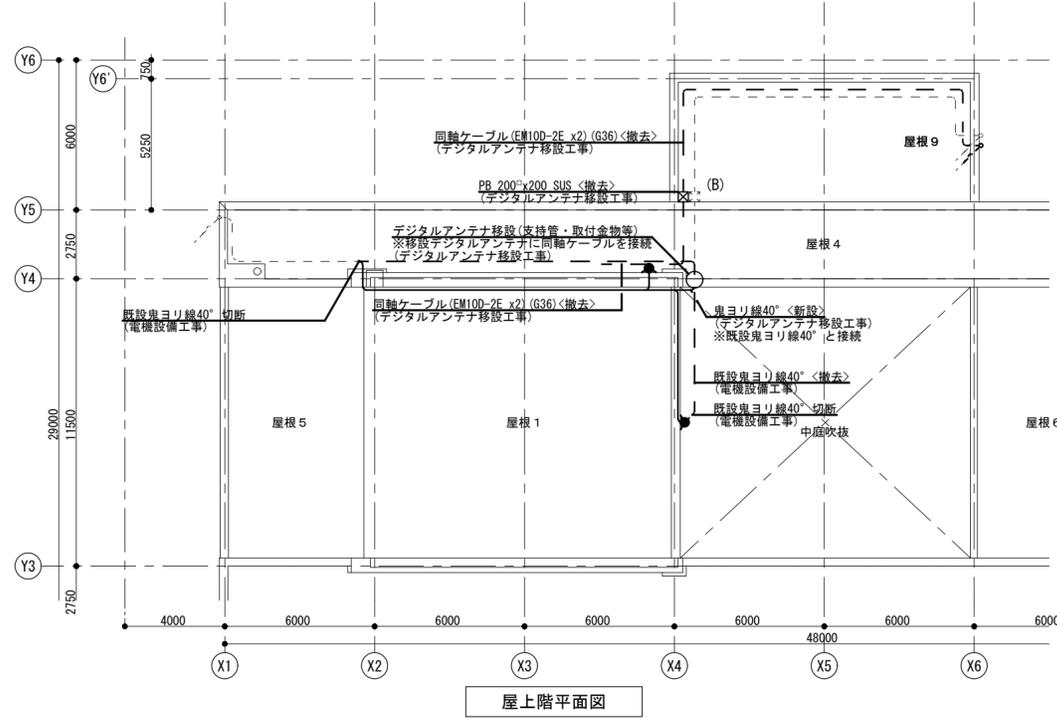


2階平面図

凡例	名称	備考
☒(B)	新設PB 200 [□] x200 SUS	新設
☒(A)	既設PB 200 [□] x200 SUS	既設
△	貫通部を示す	

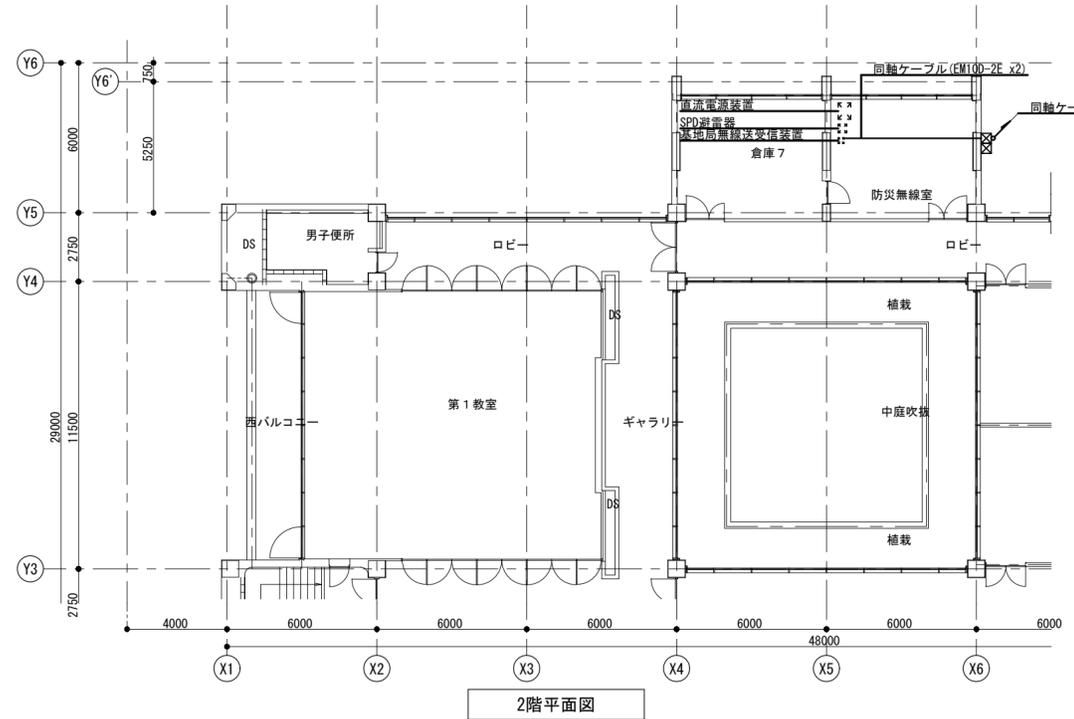
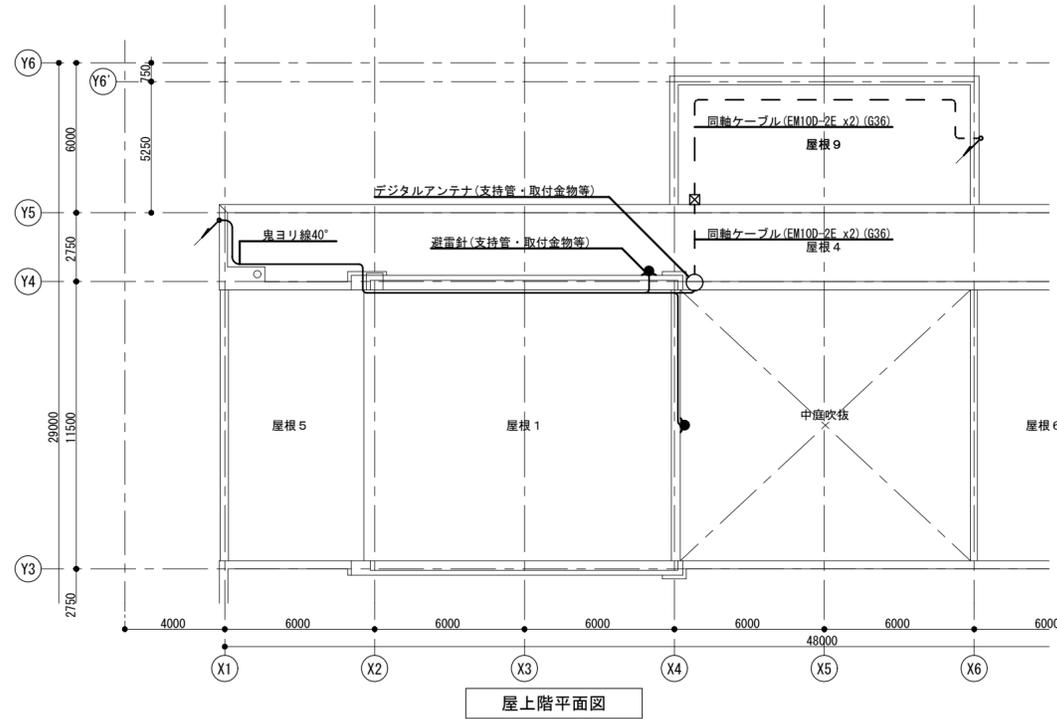
※クレーン設置位置等仮設計画については建築図A29, A30, A31参照

※既設同軸ケーブル撤去は、デジタルアンテナ
移設・つなぎ込後に行うこと。



凡例	名称	備考
⊠ (B)	PB 200 ² x200 SUS	存置
⊠ (A)	PB 200 ² x200 SUS	取外し・再取付

※クレーン設置位置等仮設計画については建築図A29, A30, A31参照



凡例	名称	備考
⊠	PB 200 ² x200 SUS	存置

機械設備工事特記仕様書 No.1

【工事概要】

1 工事場所	京都府船井郡京丹波町本庄地内				
2 建物概要					
建物名	構造	階数	延床面積 (m ²)	消防法令別表第一耐震安全性の分類	備考
京丹波町和知支所	鉄筋コンクリート一部鉄骨造	2階	2,027	15項	○甲 ●乙 ○甲 ○乙 ○甲 ○乙 ○甲 ○乙

3 工事科目 ●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目	建物名称	京丹波町和知支所		
空調設備		●	○	○
換気設備		○		○
排煙設備		○	○	○
自動制御設備		○	○	○
衛生器具設備		●	○	○
給水設備		●	○	○
排水設備		●	○	○
給湯設備		○	○	○
消火設備		○	○	○
ガス設備		○	○	○
厨房機器設備		○	○	○
浄化槽設備		○	○	○
医療ガス設備		○	○	○
撤去工事		●	○	○

- 【特記事項】
- 一般事項
 - 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）平成三十一年版」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）平成三十一年版（以下「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）平成三十一年版」による。
 - 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
 - 特記事項
 - 項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

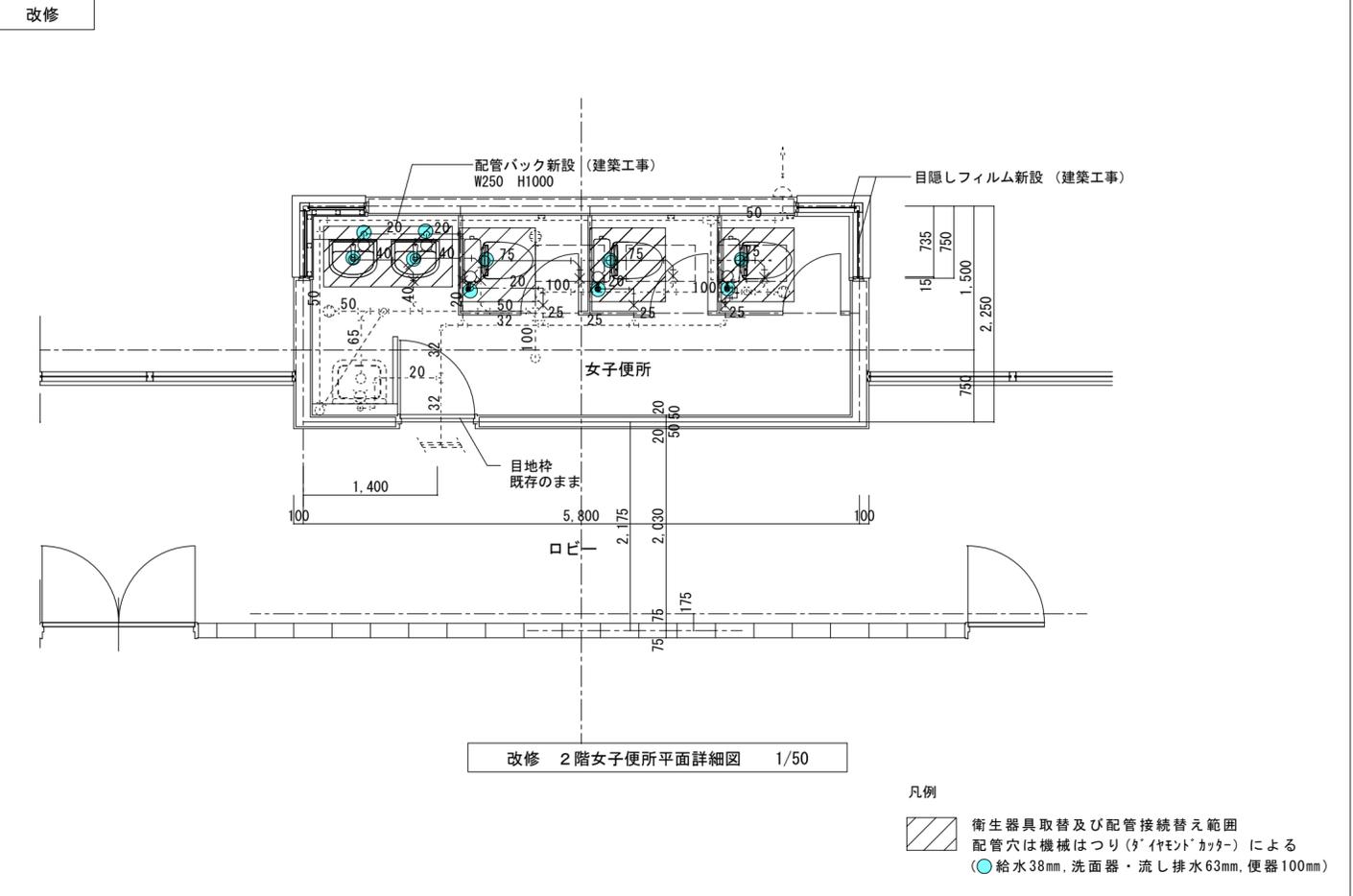
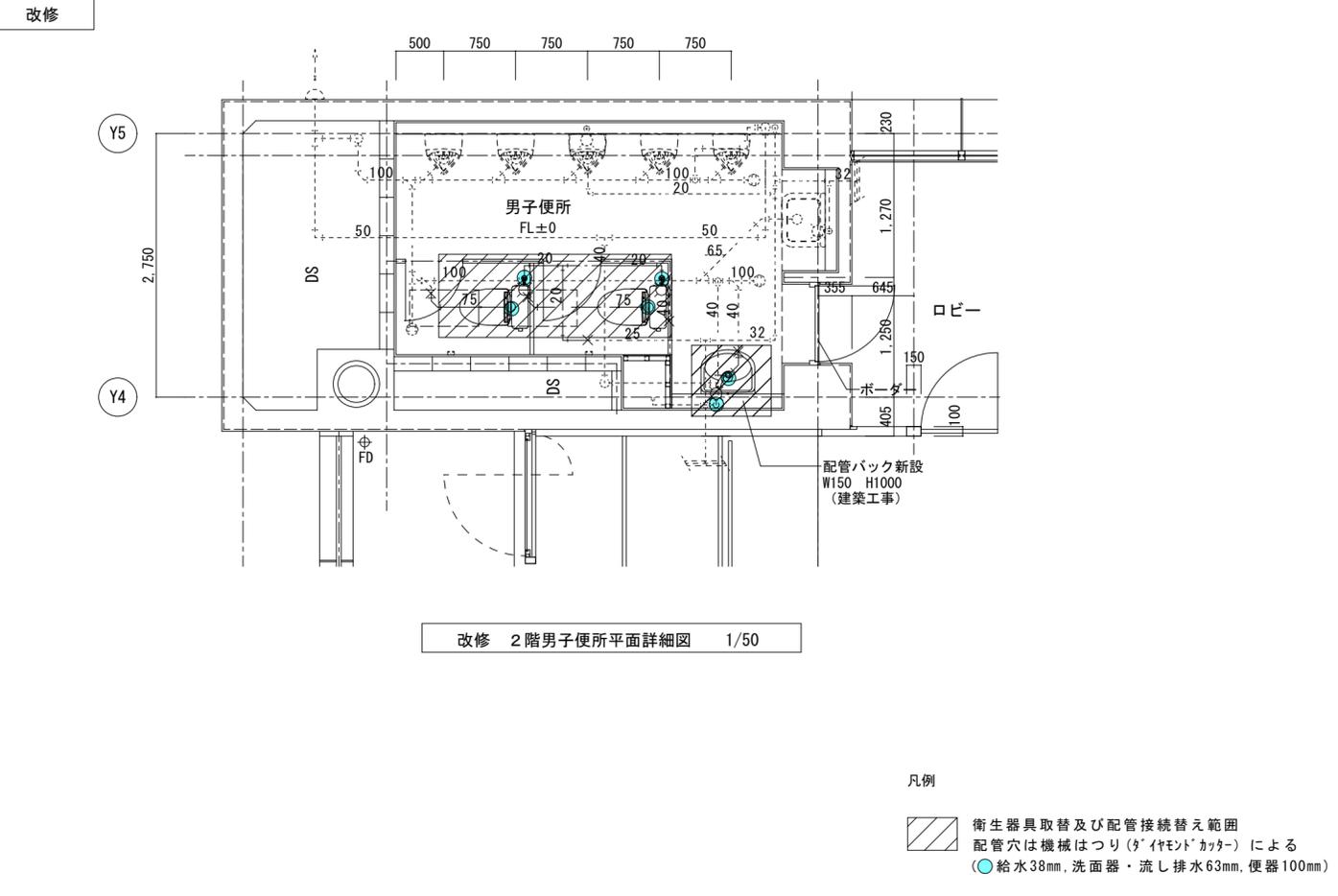
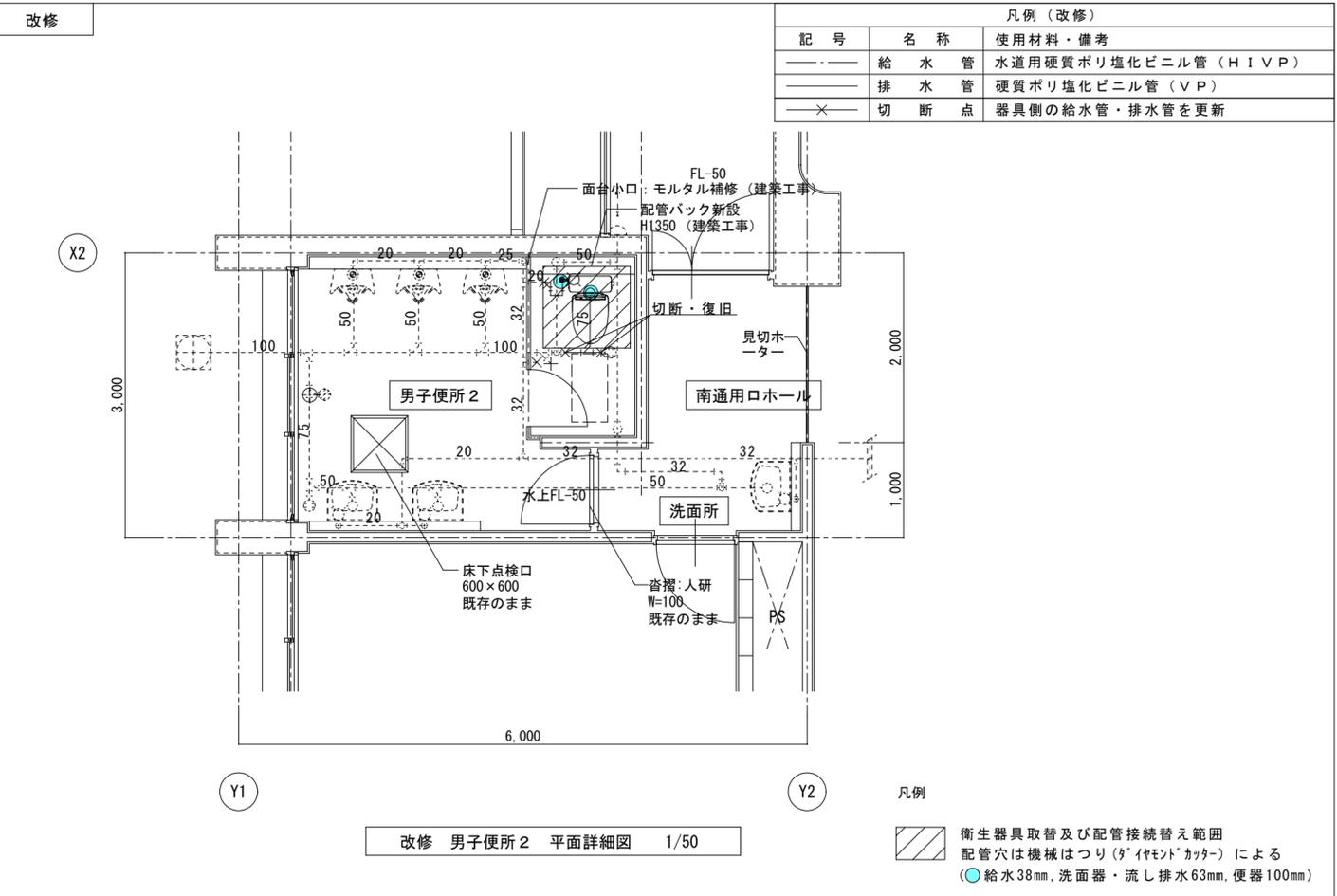
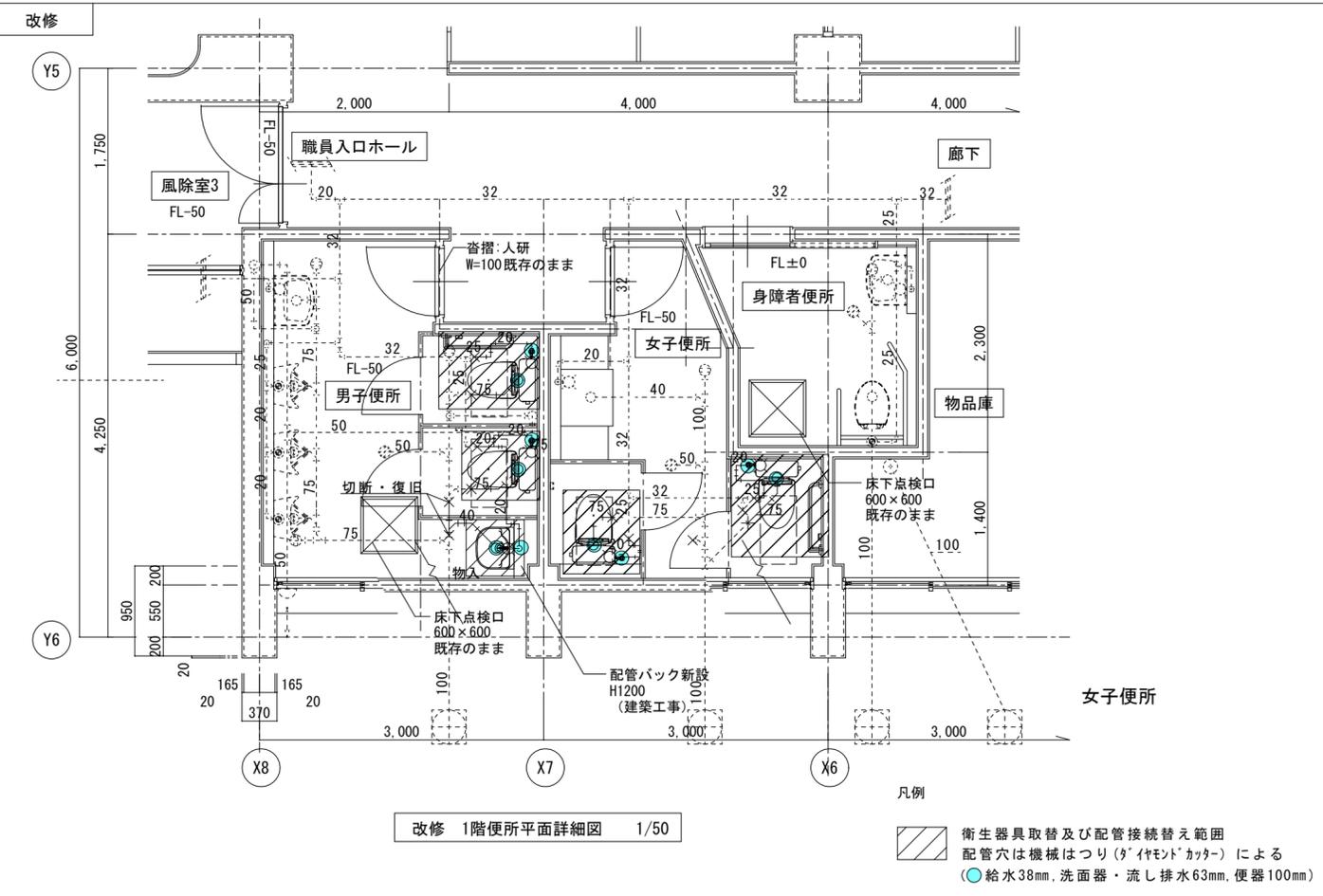
章	項目	特記事項
一	※設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。また、〔グ〕印は「京都府庁グリーン調達方針*」（以下、「グリーン調達」という。）の特定調達品目を示す。 ◆京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/zai san/kankyo. htm l>
	※機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課營繕技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集（最新版）によるものとする。
	※機材の品質 ・性能証明	使用する機材が、（一社）公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新版）」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1. 4. 2 (c) の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	※現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に基づく現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	※電気保安技術者 ○技能士（一般）	※適用する ○適用しない ※配管（配管工事） ○建築板金（ダクト製作及び取付け） ○冷凍空調調和機器施工
	※工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	※官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	※工事用仮設物	構内につくることが ※できない ○できない
	※足場・作業橋台	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。
	※監督職員事務所	※設置しない ○設置する（○本工事 ○別途）
二	※監督職員事務所 に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所に備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編） ・公共建築設備工事標準図（機械設備工事編） ・機械設備工事監理指針 ・機械設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真の撮り方（最新版）-建築設備編- ・公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）
	※建設副産物の処理 及び建設発生土の処理 （建築改修工事 特記仕様書による）	○建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの【 】 ○再生資源利用を図るもの【 】 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○異化リチウム ○ ○構外指定地に搬出処理 ※（一財）城陽山砂利採取地整備公社 ○構内指示場所に敷き均し ○ ○構外搬出適切処理
	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出	再生資源利用（促進）計画・実施書の提出 詳細は現場説明書「Ⅱ特記事項 14 建設副産物の取扱い 2）再生資源利用（促進）計画・実施書について」による。
	1）「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。	
	2）関係法令に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。	
	3）冷媒については関係法令に従い適切に破壊処分を行う（家電リサイクル法対象機器を除く。） （ただし、運搬及び処分費は ※本工事 ○別途 とする。）。	
	○アスベストの処理等	1）次の資機材のアスベスト含有の有無は以下による。 ○アスベスト成形板 ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数： ） ○ダクトパッキン ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数： ） ○配管エルボ部保温材 ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数： ） ○埋道の断熱材 ○含有 ○不含有 ○要調査（分析資料数： ） 2）アスベスト含有調査は以下のとおりとする。 （ただし、調査費用は ※本工事 ○別途 とする。） ※J I S A 1 4 8 1 「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。 ○「建材中の石綿含有率の分析方法」（平成18年8月21日基発第0821002号及び基安化発第0821001号）による。（石綿含有率5質量%超の場合のみ） 3）アスベスト含有資機材は関係法令に従い適切に処理する。 調査の結果アスベスト含有が確認された場合の処理方法は監督員との協議による。
	○吹出口及び吸込口 ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合はJ I S A 4 0 0 9（空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ0. 6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。
	○エポキシ樹脂コーティング及びライニング	エポキシ樹脂コーティング及びライニングの乾燥方法は下記による。 ○加熱乾燥 ○常温乾燥
	○ボックス	P F管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。
○容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。	
○誘導電動機	電動機出力が0. 75 kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、J I S C 4 2 1 3（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランジスタモータ）による。	

章	項目	特記事項																								
一	※工事関係書類	営繕工事契約関係書類提出書類書集*一覧表より提出。 ◆京都府ホームページ参照 <http://www. pref. kyoto. jp/ei zen/i ndex. htm l>																								
	※履行報告	月報 ※2部 ○3部 毎月末に締め、翌月の5日までに提出する。																								
	※工事写真	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方（最新版）建築設備編」による。 2）工事完成時、整理の上、1部提出する。 3）デジタルカメラで撮影可とする。																								
	※完成図書	名称 内容 大きさ 部数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本（版） ○A4ファイル止め 2部 ○機器完成図等 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書（機器取説書を含む） 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書 ○諸官庁提出書類 副本 1式 ○原図 完成図・施工図 1部 ○完成写真 アルバム綴り 2部 電子納品については、現場説明書による。																								
	※著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。																								
二	※付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表1による。 ※総合調整 ○風量調整（測定共） ○水量調整（測定共） ○室内外空気の温湿度測定 （測定結果は報告書にて提出） ○室内気流及びじんあいの測定 ○騒音の測定 ○飲料水の品質の測定 ○雑用水の品質の測定																								
	○耐震施工	1）設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 2）下記の設計用水平震度（KH）により、機器製作固定を行う。 <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th colspan="2">○特定の施設</th> <th colspan="2">○一般の施設</th> </tr> <tr> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>重要機器</th> <th>一般機器</th> </tr> <tr> <td>上層階、屋上及び塔屋</td> <td>2.0(2.0)</td> <td>1.5(2.0)</td> <td>1.5(2.0)</td> <td>1.0(1.5)</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5(1.5)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>1.0(1.5)</td> <td>0.6(1.0)</td> </tr> <tr> <td>1階及び地下階</td> <td>1.0(1.0)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>0.6(1.0)</td> <td>0.4(0.6)</td> </tr> </table>	設置場所	○特定の施設		○一般の施設		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)	中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)	1階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)
	設置場所	○特定の施設		○一般の施設																						
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器																					
	上層階、屋上及び塔屋	2.0(2.0)	1.5(2.0)	1.5(2.0)	1.0(1.5)																					
中間階	1.5(1.5)	1.0(1.5)	1.0(1.5)	0.6(1.0)																						
1階及び地下階	1.0(1.0)	0.6(1.0)	0.6(1.0)	0.4(0.6)																						
○一般用弁	標準仕様書第2編2. 2. 1(1)～(12)によるほか、下記による。 1）水道直結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2）給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。																									
○フレキシブルジョイント	機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、銅板に対してはペロース形、FRPに対しては合成ゴム製とする。																									
○伸縮管継手（鋼管用）	鋼管用伸縮管継手は下記による。 ○ペロース形 ○スリプ形																									
○溶接接合	溶接部の非破壊検査は、 ○適用しない ○適用する（○放射線透過検査 ○浸透深層検査又は磁粉深層検査）																									
○地中埋設標及び埋設表示用テープ	1）給水管 地中埋設標（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 2）消火管 地中埋設標（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 3）ガス管 地中埋設標（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 4）油 管 地中埋設標（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 5）プライン管 地中埋設標（○要 ○不要） 埋設表示用テープ（○要 ○不要） 用途表示のあるテープ（幅は150mm以上）で、2倍長以上重ね合わせて使用する。																									
○防食処理	土中埋設の排水用塩ビライニング鋼管は、防食処置を行う。																									
●保温	1）保温材の使用は、下記による。 <table border="1"> <tr> <th>給水管・排水管</th> <th>●ポリスチレンフォーム保温材</th> <th>○グラスウール保温材</th> </tr> <tr> <td>排煙ダクト・煙道、排気筒</td> <td>○ロックウール保温材</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>○グラスウール保温材</td> <td>○</td> </tr> </table>	給水管・排水管	●ポリスチレンフォーム保温材	○グラスウール保温材	排煙ダクト・煙道、排気筒	○ロックウール保温材	○	その他	○グラスウール保温材	○																
給水管・排水管	●ポリスチレンフォーム保温材	○グラスウール保温材																								
排煙ダクト・煙道、排気筒	○ロックウール保温材	○																								
その他	○グラスウール保温材	○																								
2）膨張管及び膨張水槽からの補給水管の保温は、冷水水管に準ずる。 3）鋼板製タンクの保温 ○必要 ○不要 4）保温を施す膨張水槽等の蓋の保温 ○必要 ○不要 5）エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜弁までとする。 6）露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ○合成樹脂カパー1 ○合成樹脂製カパー2 ○ ・屋外 ○ステンレス鋼板 ○ 7）弁、ストレーナ等の金属製カパー外装種別は、下記による。 ・屋内 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 8）車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 9）合成樹脂製支持受 ○硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの																										
○塗装	標準仕様書による他下記の配管は塗装（指定色塗装）を行う。ただし保温を行う配管ダクトを除く ○屋外（○ダクト ○配管） ○屋内（P S・E P S（○ダクト ○配管） ○屋内機械室・電気室（○ダクト ○配管）																									
○吹出口及び吸込口 ボックス	ボックスの材質について、特記がない場合は亜鉛鉄板製とする。ただし、グラスウール製とする場合はJ I S A 4 0 0 9（空気調和及び換気設備用ダクトの構成部材）によるものとし、厚さ0. 6mm以上の亜鉛鉄板で補強を施したものである。ボックスの吊りは3点支持を標準とし、これによれない場合は監督職員との協議による。																									
○エポキシ樹脂コーティング及びライニング	エポキシ樹脂コーティング及びライニングの乾燥方法は下記による。 ○加熱乾燥 ○常温乾燥																									
○ボックス	P F管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。																									
○容量等の表示	機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。																									
○誘導電動機	電動機出力が0. 75 kW以上の低圧三相かご形誘導電動機の規格は、J I S C 4 2 1 3（低圧三相かご形誘導電動機-低圧トランジスタモータ）による。																									

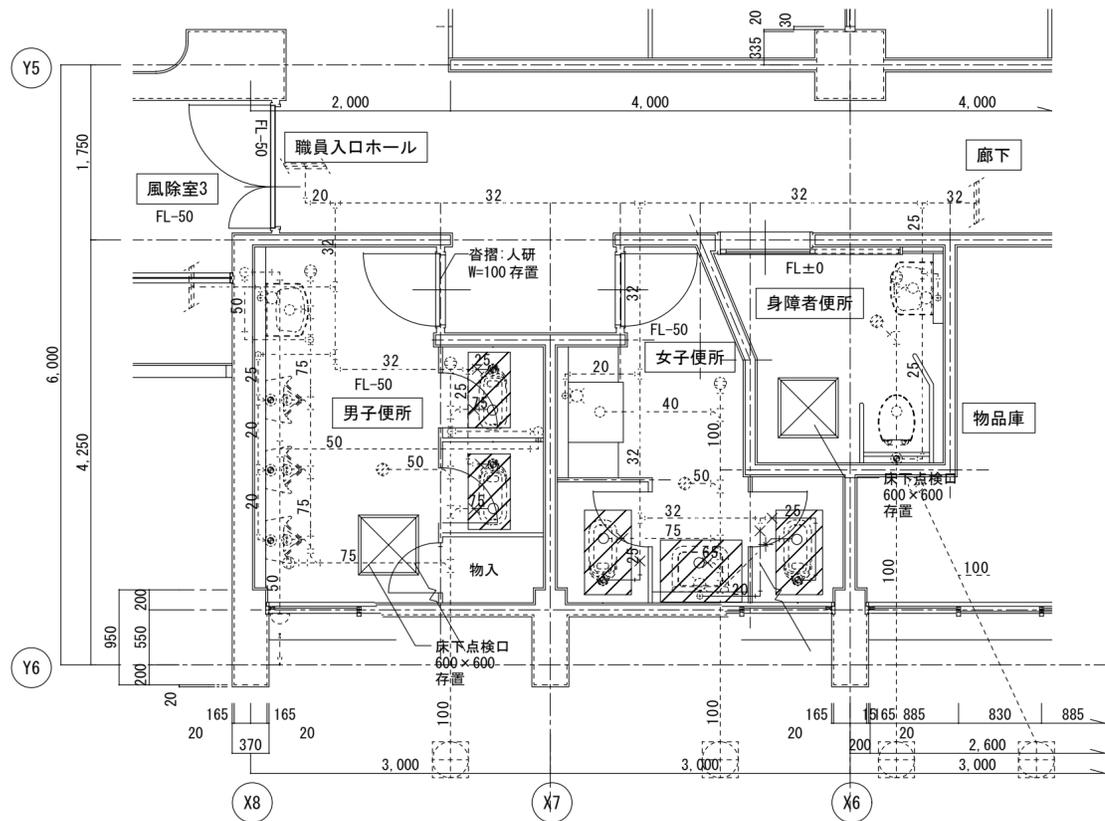
章	項目	特記事項																					
一	●はつり	1）既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2）復旧はモルタル補修までとする。																					
	○インサート及びアンカー	あと施工アンカー等を行う場合は、改修標準仕様書第2編第5章による。 施工後確認試験（行う（国土交通省大臣官房官庁営繕部の公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年度））による。 ○行わない																					
	○防煙ダンパー及び防火防煙ダンパー	復帰方式は ○適方復帰式（電気式（定格入力 DC24V 0. 6A以下） ○手動復帰式																					
	○消音内貼	ダクト及びチャンパー、消音エルボの内貼り（箇所図示）は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ○不要 ○必要 ・チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。 （ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。） ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。																					
	○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー類に必要な応じける。																					
	○取付栓	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付栓を必要とするものは鋼栓を使用する。																					
	○機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等（○溶融亜鉛メッキ ○SUS ） ・その他（○一般品 ○） ○機器側の材質がSUS製の場合は、SUS製とする。																					
	○防火区画	○平面階 ○図示 機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。																					
	○掲示板	（ ）書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。																					
	二	○天井仕上区分																					
○給油設備		地下オイルタンク ○設ける ○設けない 遮隔油量指示計 ○設ける ○設けない 副指示計 ○設ける ○設けない オイルサービスタンク 油面計 ○ゲージ式 ○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御用 ○返油ポンプの起動、停止制御用 ○満油警報 ○過満警報（○減油 ○満減油）																					
○建物導入部配管（排気及び通気を除く）		油管（露出、トラフ内） ○配管用炭素鋼管（黒） ○ 油管（地中） ○ポリエチレン被覆鋼管 ○ ○標準図 施工4(a)（ルチウムイットを使用） ○標準図 施工5(b)（アルミイットを使用） ○標準図 施工5(c)（シリコンを使用）																					
○鋼材		屋外部分 ○溶融亜鉛めっき（○2種35 ○2種50） ○ステンレス鋼製（SUS304）																					
○制御及び操作盤		構成 ○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等 ○運転（赤色）及び停止（緑色）表示 ○保護継電器の動作表示 ○過圧発停用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○給水量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○燃料消費量表示用端子（ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用） ○各階ユニット																					
●主方式		○全空気方式（○中央 ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式 ○																					
●主要熱源機器		○吸収冷凍水機 ○チリングユニット ○空気熱源ヒートポンプユニット ●空冷ヒートポンプ式パッケージ形空調機（●EHP ○GHP ○） ○																					
○設計時の温湿度条件		屋内（調整目標値）																					
○設計時の温湿度条件		場所 屋外 <table border="1"> <tr> <th>時期</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>夏 期</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table>	時期	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	冬 期	℃	%	℃	%	℃	%	夏 期	℃	%	℃	%	℃	%
時期		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																
冬 期	℃	%	℃	%	℃	%																	
夏 期	℃	%	℃	%	℃	%																	
○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法（○共振フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法）																						
○ダクトの分岐方法	○割込み工法 ○直付け工法																						
○配管材料（図面特記部分は除く）	冷温水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 冷却水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○塩ビライニング鋼管（SGP-VA、SGP-FVA） ○ 空調用排水管 ○配管用炭素鋼管（白）（○ねじ接合 OMDジョイントによる接合） ○水配管用亜鉛めっき鋼管 ○ 蒸気配管 給気管 ○配管用炭素鋼管（黒） ○ 選 管 ○圧力配管用炭素鋼管（黒） ○ 補給水管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 膨張管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ エア抜き管 ○配管用炭素鋼管（白） ○ 冷媒管 ○鋼管 ○断熱材被覆鋼管（ガス管：ハイグレード仕様）																						
○温度計	○パッケージ形空調調和機の2次側電気配管配線の仕様は製造者の標準仕様とする。 ○工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計																						
○定風量ユニット 変風量ユニット	○メカニカルタイプ ○風速センサータイプ（○プロペラ形センサー ○熱線センサー）																						
○ファンコイルユニット	風量分配ダクトは ○亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォームなど ※外形参照																						
○バーナー制御方式	○オン・オフ制御 ○ハイ・ロー制御 ○比例制御 ○進相コンデンサー（○要 ○不要） ○電動機盤 直置き吸収冷凍水機に（○要する。 ○不要である。）																						
○排熱投入形再生器	※図面による。																						
○高温再生器の構造	発電方式 熱回収装置 ○原動機、発電機 ○燃料電池 ○温水熱交換機 ○排ガスボイラー ○排ガス熱交換機 ○熱回収ポンプ ○その他 その他装置等 ○補機付属制御装置 ○冷却塔（放熱用） ○																						
○集中リモコン	表示機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 データー管理機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算																						

衛生器具リスト

品名	参考品番・仕様・付属品		1階			2階		合計	備考	
			便所 (女子)	便所 (男子)	男子 便所 2	男子 便所	女子 便所			
	TOTO	LIXIL								
新設ロータンク式洋風便器 (洗浄便座付・床給水)	CS597BMS, SH596BAYR, TCF5533AUS	BC-P20H, DT-PA250HCHTK, CW-PA11MLQC-NE CF-008-1		2	1		2	5		
新設ロータンク式洋風便器 (洗浄便座付・床給水・擬音装置)	CS597BMS, SH596BAYR, TCF5533AUS	BC-P20H, DT-PA250HCHTK, CW-PA11FLQC-NE CF-008-1	2				3	5		
新設手すり (L型)	YHB601LA	KF-M20L	1	1				2		
新設紙巻器 (2連)	YH63B	FKF-60F	2	2	1		2	3	10	
新設洗面器	L250C, TLC11AR, T6PM1, TL4CFU, TL250D	L-176UAP, LF-E02, LF-3V, LF-5PAU, SF-10E, KF-30DN					1	2	3	
新設多目的流し (レバー水栓)	SK500, T200BSQ13C, T6PMR, T220D	S-17, LF-7KRZ-13, SF-25PA, SF-10E, KF-30DN		1					1	
撤去和風便器	C375VF (FV式) 付属品共		2	2	1		2	3	10	便器撤去は建築工事
撤去掃除流し	SK22A付属品共		1		1				2	
撤去洗面器 (はめ込み式)	L330付属品共						2		2	
撤去洗面器	L230D付属品共						2		2	
撤去化粧鏡	450x600						1		1	
化粧鏡 (取外し再取付)	450x600						1	2	3	



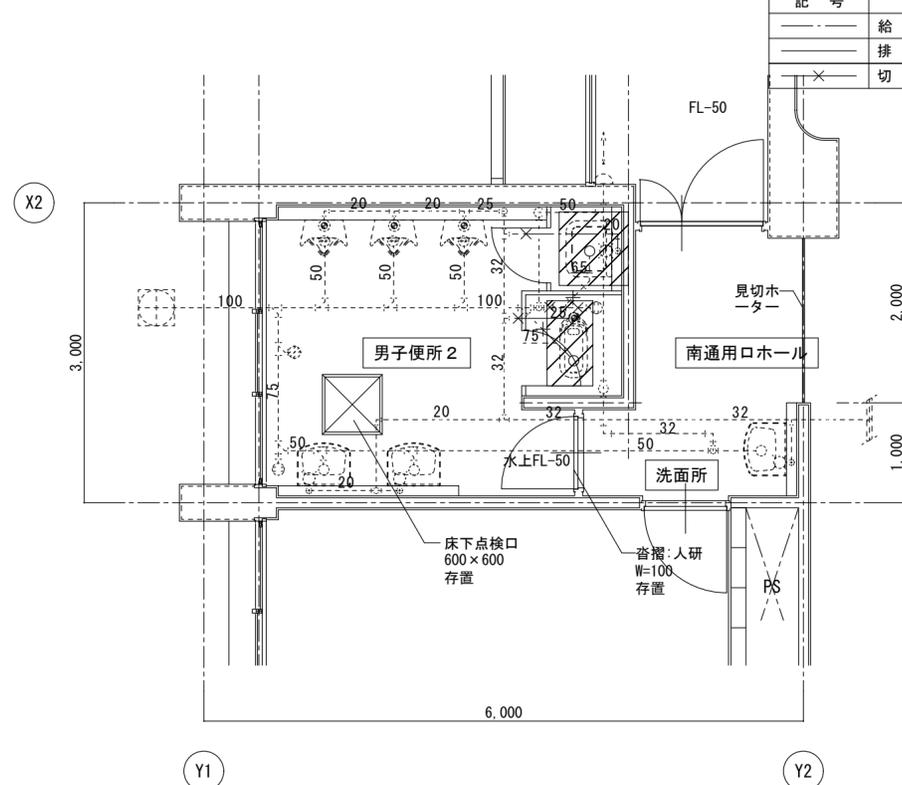
現況・撤去



現況・撤去 1階便所平面詳細図 1/50

凡例
 衛生器具取替及び配管撤去範囲
 (和風便器撤去は建築工事)

現況・撤去

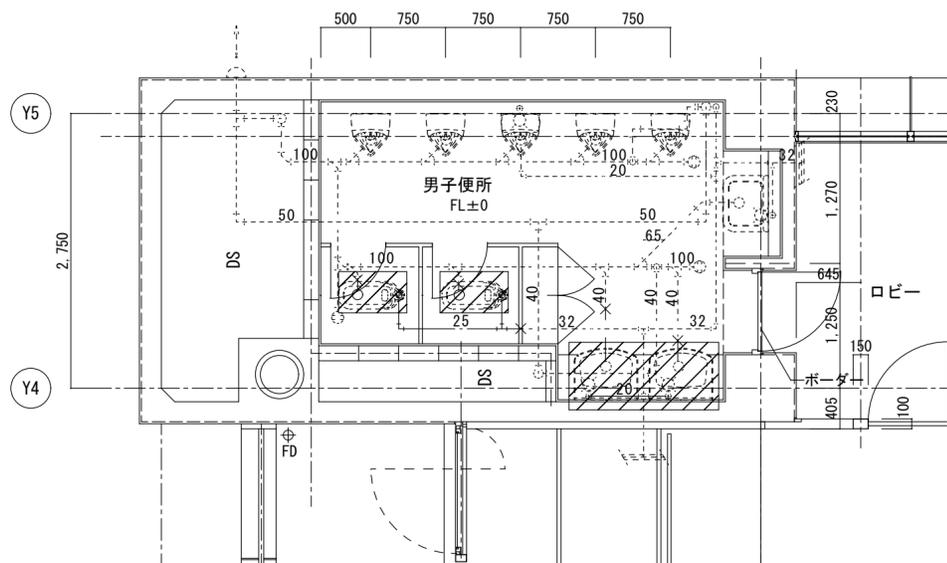


現況・撤去 男子便所 2 平面詳細図 1/50

凡例
 衛生器具取替及び配管撤去範囲
 (和風便器撤去は建築工事)

凡例 (撤去)		
記号	名称	使用材料・備考
---	給水管	水道用塩化ビニルライニング鋼管
---	排水管	硬質ポリ塩化ビニル管 (VP)
×	切断点	器具側の給水管・排水管を撤去

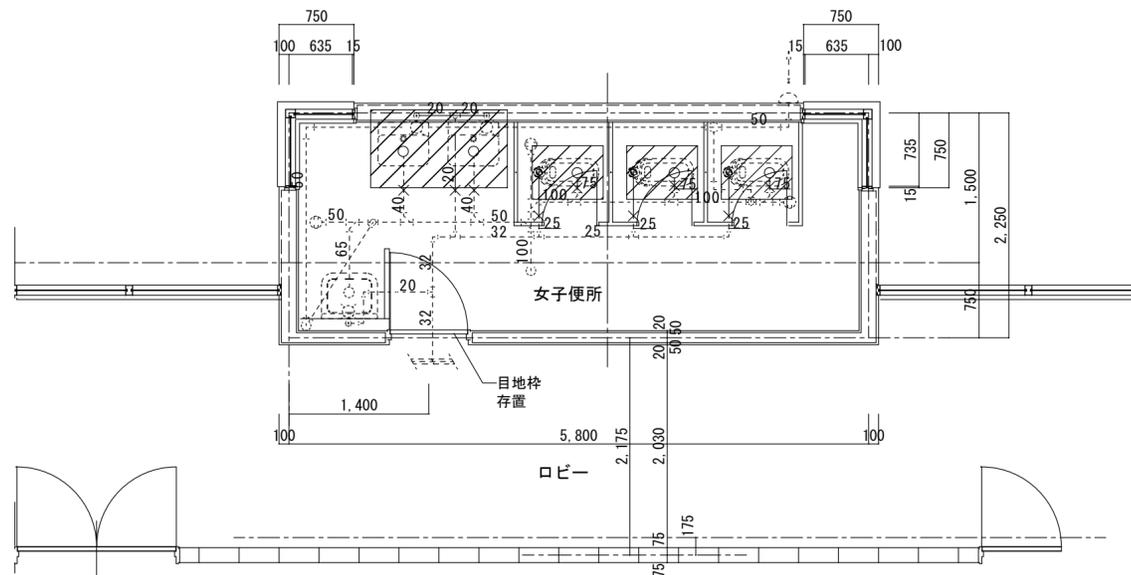
現況・撤去



現況・撤去 2階男子便所平面詳細図 1/50

凡例
 衛生器具取替及び配管撤去範囲
 (和風便器撤去は建築工事)

現況・撤去

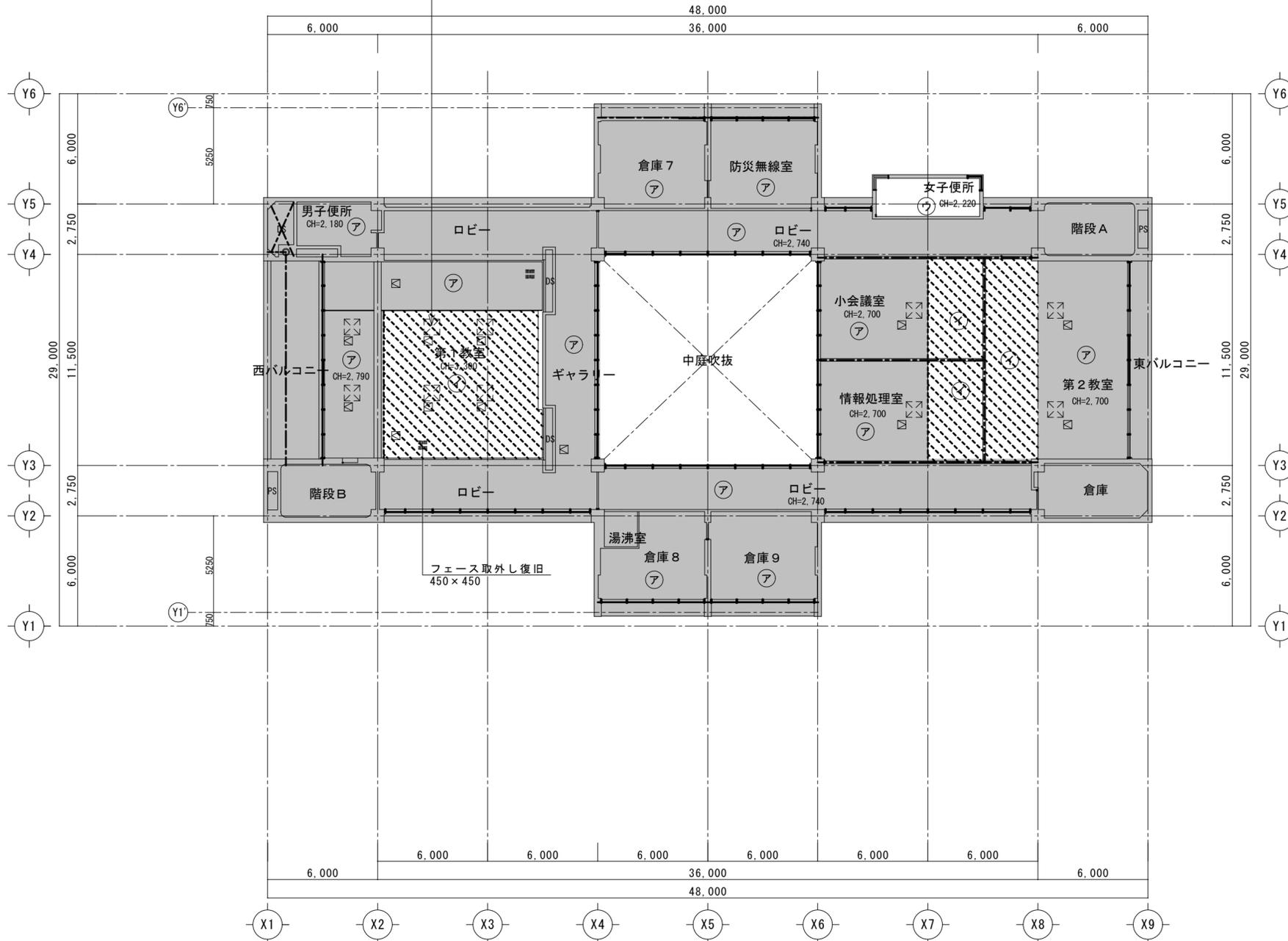


現況・撤去 2階女子便所平面詳細図 1/50

凡例
 衛生器具取替及び配管撤去範囲
 (和風便器撤去は建築工事)



- 空調設備工事概要 ビル用マルチ室内ユニット4台の脱着工事
1. 室内ユニット：天井カセット形（4方向吹出）のうち4台
 2. 1台当りの仕様：冷房能力4.5kW、暖房能力5.0kW（ダイキン工業製：RXYP500BA）
 3. 冷媒は回収・撤去の上、新規充填とする。（R410A：9.6kg×2台）
 4. 室外ユニット仕様：冷房能力40.0kW、暖房能力45.0kW
 5. 室内ユニット吊金具は耐震仕様タイプを使用のこと



改修2階天井伏図 1:200

凡例	
	:天井撤去復旧範囲を示す。
	改修範囲外を示す
天井仕上（改修内容）（改修内容は建築工事）	
ア	既存のまま
イ	PB t 9.5捨貼のうえ岩綿吸音板 t 9撤去及び プラスターボード t 9捨貼の上、ウォールコート吹付け撤去 (LGS下地共、鉄骨下地は存置) PB t 9.5捨貼のうえ岩綿吸音板 t 9新設 (LGS下地共)
ウ	コンクリート打放しの上、セラスキン吹付、撤去 下地調整の上、砂壁状吹付材
器具開口 天井撤去部取外復旧（改修内容は建築工事）	
	天井埋込型空調機を示す 天井開口900×900 開口補強あり
	7#製天井点検口450角を示す
	換気扇を示す 天井開口450×450 開口補強あり